



第57回 日本生態学会 大会プログラム

The 57th Annual Meeting of
the Ecological Society of Japan
(ESJ 57)



2010年 3月 15日(月) ~ 20日(土)

主会場： **東京大学**

教養学部 / 大学院総合文化研究科
安田講堂 (公開講演会会場)

日本生態学会 大会企画委員会
第57回大会実行委員会



第 57 回日本生態学会大会プログラム

目 次

●大会日程概略	3
●大会日程一覧表	4
●諸案内	6
●注意事項	7
●大会規則	10
●会場へのアクセス	12
●会場案内図 駒場キャンパス	13
●学会賞授賞式・受賞記念講演	18
●公開講演会	19
●シンポジウム・フォーラム・企画集会・自由集会一覧	20
●シンポジウム概要	23
●フォーラム概要	37
●企画集会概要	39
●口頭発表一覧	62
●ポスター発表一覧	70
●高校生ポスター発表一覧	99
●自由集会概要	100
●生物多様性関連集会概要	106
●参加登録者一覧	108
●広告	
●プログラムの訂正	
●大会企画委員会・第 57 回大会実行委員会名簿	
●第 58 回日本生態学会大会（2011 年 3 月 札幌）のご案内	

大会日程概略

各種委員会 3月15日(月) 東京大学 駒場キャンパス 1号館

外来種検討作業部会	9:00~11:00	委員会室1 (114教室)
生態系管理専門委員会	9:00~11:00	委員会室2 (115教室)
将来計画専門委員会	9:00~11:00	委員会室3 (118教室)
自然保護専門委員会	11:30~13:30	委員会室1 (114教室)
大規模長期生態学専門委員会	11:30~13:30	委員会室2 (115教室)
保全生態学研究刊行協議会	11:30~13:30	委員会室3 (118教室)
大会企画委員会	11:30~13:30	委員会室5 (105教室)
日本生態学会誌刊行協議会	14:00~16:00	委員会室1 (114教室)
Ecological Research刊行協議会	14:00~16:00	委員会室2 (115教室)
生態学教育専門委員会	14:00~16:00	委員会室3 (118教室)
野外安全管理委員会	14:00~16:00	委員会室4 (119教室)
全国委員会	17:00~20:00	委員会室5 (105教室)

総会・授賞式・受賞講演 3月18日(木) 9:00~13:00

東京大学 駒場キャンパス 900番講堂 中継: 13号館1323教室

総会

生態学会賞/生態学会功労賞/生態学会宮地賞/ER論文賞授賞式
生態学会賞受賞者および功労賞受賞者挨拶
生態学会宮地賞受賞記念講演

公開講演会 3月20日(土) 13:00~17:00 東京大学 本郷キャンパス 安田講堂

第13回日本生態学会公開講演会

「なぜ地球の生き物を守るのか?—生物多様性条約が守る自然の価値—」

一般講演・シンポジウム・フォーラム・企画集会・自由集会

一般講演(口頭発表)	3月16日(火), 17日(水)
一般講演(ポスター発表)	3月16日(火), 17日(水), 18日(木)
高校生ポスター発表	3月17日(水)
シンポジウム	3月16日(火), 17日(水), 19日(金)
フォーラム	3月15日(月), 19日(金)
企画集会	3月16日(火), 18日(木)
自由集会	3月15日(月)

懇親会 3月17日(水) 18:00~20:00 セルリアンタワー東急ホテル

●「エコカップ2010東京大会」のご案内

生態学会大会に合わせて開催されてきた親善フットサル大会(5人制のミニサッカー)を、今年度も開催します。3月20日(土)10:00から、会場は東京大学御殿下記念館ジムナジウムです。詳しくは、エコカップ2010のページ(大会公式ページからのリンクをご利用ください)をご覧ください。

大会日程一覧表

3/15 (MON) 東京大学 駒場キャンパス

		09:00-11:00	11:30-13:30	14:00-16:00	17:00-20:00
1号館114	委員会室1	外来種	自然保護	生態誌	
1号館115	委員会室2	生態系管理	大規模長期	Ecological Research	
1号館118	委員会室3	将来計画	保全誌	生態学教育	
1号館119	委員会室4			野外安全	
1号館105	委員会室5		大会企画		全国委員会
5号館515-518		機器展示・書籍販売			
				15:00-17:00	17:15-19:15
5号館523	A会場			U01次期学習指導要領	W08 フラックスと生理生態
5号館525	B会場			特定外来生物の分布	
7号館721	C会場				
7号館741	D会場			W01 MAFES	
7号館743	E会場				
7号館761	F会場			W02 第1原理	W10 ブラックカーボン集会
11号館1102	G会場			W03 田舎で生物多様性!	W11 モウソウチク林研究
11号館1106	H会場			W04 X 誤差データ解析	W12 シロアリの生態学
11号館1108	I会場			W05 森林の炭素CO2	W13 QGISと生態学研究
13号館1313	J会場			W06 小笠原保全の課題	W14 みずたまり生態学
13号館1331	K会場			W07 化学物質の生態影響	W15 塩生植物の水利用

3/16 (TUE) 東京大学 駒場キャンパス

		09:00-12:00	12:30-14:00	14:15-17:15	17:30-19:30
5号館515-518		機器展示・書籍販売			
5号館523	A会場				T01 集水域の景観生態学
5号館525	B会場				
7号館721	C会場			種多様性 群落	T02 竹林拡大とその影響
7号館741	D会場			数理	T03 生活史と分布パターン
7号館743	E会場	S01 Sex and social insects		保全	T04 生態系メタボリズム
7号館761	F会場	S02 生物多様性総合評価		景観生態 生態系管理	T05 三宅島生態系回復
11号館1102	G会場	S03 迅速な適応性		植物繁殖 種子散布	T06 Evolution in a community context
11号館1106	H会場	S04 土壌生物多様性と機能		進化	T07 生態学における数理
11号館1108	I会場	S05 外来種管理の環境学		行動	T08 微生物多様性と生態系
13号館1313	J会場	S06 生態リスク		動物群集	T09 博物館の生態学
13号館1331	K会場	S07 広域大気汚染		植物個体群 植物生理生態	T10 熱帯林の生物地球化学
第二体育館	ポスター	ポスター	コアタイム	ポスター	

3/17 (WED) 東京大学 駒場キャンパス

		09:00-12:00	12:30-14:00	14:15-17:15	18:00-20:00
5号館515-518		機器展示・書籍販売			
7号館721	C会場			群落 遷移・更新	懇親会 セルリアンタワー 東急ホテル
7号館741	D会場			数理 英語	
7号館743	E会場	S08 General flowering		保全	
7号館761	F会場	S09 サンゴ礁緯度傾斜		生態系管理 生態学教育・普及	
11号館1102	G会場	S10 企業と生物多様性		物質循環	
11号館1106	H会場	S11 CSIAS		外来種	
11号館1108	I会場	S12 環境疾患		動物生活史 社会生態	
13号館1313	J会場	S13 ユネスコMAB計画		動物個体群	
13号館1331	K会場	S14 新世代遺伝手法		植物生理生態	
第二体育館	ポスター	ポスター	コアタイム	ポスター	

大会日程一覧表

3/18 (THU) 東京大学 駒場キャンパス

		09:00-13:00	13:30-15:00	15:15-17:15	17:30-19:30
900番講堂		総会・授賞式・受賞講演			
13号館1323		授賞式・受賞講演の中継			
5号館515-518		機器展示・書籍販売			
5号館523	A会場			T11 伊豆諸島生物地理	T22 アグロエコロジー
5号館525	B会場			T12 カワウの食害と対策	
7号館721	C会場			T13 関わりの保全生態学	T23 群集生態学の新展開
7号館741	D会場			T14 共進化生態学の新天地	T24 DNAバーコーディング
7号館743	E会場			T15 生態系サービス指標化	T25 陸域生態系シミュレーション
7号館761	F会場			T16 気候変動フェノロジー	T26 保全生態学と法整備
11号館1102	G会場			T17 河川粒状有機物の移動	T27 火と植生
11号館1106	H会場			T18 旅する生物	T28 日本国内の遺伝的分化
11号館1108	I会場			T19 東アジア陸域炭素循環	T29 使える景観生態学
13号館1313	J会場			T20 水田地帯の生物多様性	T30 微生物生態学の方法論
13号館1331	K会場			T21 使えるアリー効果	T31 近親交配の進化的意義
第二体育館	ポスター	ポスター	コアタイム	ポスター	

3/19 (FRI) 東京大学 駒場キャンパス

		09:00-12:00	13:00-15:00
5号館523	A会場		U02 若手キャリア支援
5号館525	B会場		U03 南西諸島生物多様性
5号館515-518		機器展示・書籍販売	
7号館743	E会場	S15 開花フェノロジー	
7号館761	F会場	S16 農村生物モニタリング	
11号館1102	G会場	S17 トキの再導入	
11号館1106	H会場	S18 Ants and termites	
11号館1108	I会場	S19 森林の群集形成	
			13:00-16:00
13号館1331	K会場		生物多様性保全政策

3/20 (SAT) 東京大学 本郷キャンパス

		10:00-12:00	13:00-17:00
弥生講堂		保全生態研究会	
安田講堂			公開講演会

諸案内

受付

- 受付の時間と場所は次のとおりです。

事前登録済みで要旨集を購入しない方は受付は不要です。

3月15日 13時から 東京大学駒場キャンパス

当日受付・総合案内：13号館1階

申込済みの要旨集配布：12号館1階

3月16・17日 8時から 同上

3月18・19日 8時30分から 同上

3月20日 12時から 東京大学本郷キャンパス安田講堂

- 会場では必ず名札をつけてください。総会・授賞式・受賞講演会への参加は会員に限られます。
- ウェブでの参加申込（学会が運営する大会登録システムを利用）は、2月18日17時まで受け付けます。
- 大会参加費・懇親会費の事前支払いは、2月19日まで受け付けます。詳細は大会公式ページ（<http://www.esj.ne.jp/meeting/57/>）にリンクされている「諸経費の金額と支払い方法」などを参照してください。早めの手続きをお願いします。
- 名札・領収書・要旨集引換券等は、事前送付されます。発送は、2月中となります。2月末日までに未着の場合、大会実行委員会・事前送付担当（esj57-kaikei@mail.esj.ne.jp）に連絡してください。
- 講演要旨集は別売り（一般会員：3,000円、学生会員：2,000円）となります。購入を希望される方は、参加申込の際にあわせてお申込ください。当日販売も行いますが、数に限りがあり、先着順とさせていただきます。なお講演要旨集は、大会公式ページ上でpdfおよびHTML版を公開いたします。
- 大会に参加できない方で講演要旨集の購入を希望される方は、2月18日までに大会実行委員会・参加費担当（esj57-kaikei@mail.esj.ne.jp）まで申し込んでください。一冊3,000円（送料込み）です。代金は銀行振込で、みずほ銀行本郷支店、普通口座、口座番号：2763119、口座名：ESJ57に振り込んでください。大会終了後に送付します。

駐車場

- 駐車場はございません。公共交通機関をご利用願います。

懇親会

- 懇親会は、セルリアンタワー東急ホテル（電話：03-3476-3000）にて、3月17日（水）18時（開場17時45分）から開催します。懇親会会場は、渋谷駅から歩いて5分のところにあります。
- 懇親会参加申込の受付は、会場の定員に達し次第終了いたしますので、早めの申込をお勧めします。なお、大会開始時点で定員に達していない場合のみ、当日参加が可能です。

託児室

- 大会会場の東京大学駒場キャンパス内に、3月15-19日に託児室を設けます。ただし、利

用は事前に申込をされた方に限ります。

- 開設時間・利用料金等の詳細は、大会公式ページ <http://www.esj.ne.jp/meeting/57/>に掲載しています。
- 利用を希望する方は、3月1日（月）までに大会実行委員会託児所担当（nursery@mail.esj.ne.jp）へ、お子さんの年齢、性別、人数、託児希望日時をご連絡下さい。折り返し、ご利用案内や申込書類等をお送りします。
- ご不明の点がある場合は、お早めに nursery@mail.esj.ne.jpへお問い合わせ下さい。

宿泊の予約

- 宿泊の斡旋・交通手段の手配は一切いたしません。各自でご準備ください。

注 意 事 項

○参加者の皆様へ○

大会規則

- 本大会は、日本生態学会大会規則（p. 10～に掲載）に基づいて実施されます。大会期間中、参加者はこの規則および下記の注意事項を遵守し、大会実行委員、座長、会場系の指示に従ってください。

撮影について

- 会場での講演・ポスターの撮影は、発表者の了承を得た場合に限り認めています。また、発表者に了承を得て撮影する場合でも周囲の方に迷惑がかからないようにしてください。

東京大学駒場キャンパスでの飲食、喫煙等

- 休憩室にはお茶などを用意します。会場内には飲料などの自動販売機があります。
- 大会会期中、生協食堂や学内のレストランが営業をしております。また生協購買部で弁当の購入も可能です。
- 駒場キャンパス近隣には、飲食店やコンビニエンスストアがあります。
- 大学構内は原則として禁煙です。喫煙は決められた場所をお願いします。

東京大学本郷キャンパス（安田講堂）での飲食、喫煙等

- 安田講堂内は、全館、飲食禁止・禁煙・写真撮影禁止です。
- 近隣にコンビニエンスストアがあります。飲食は安田講堂の外でお願いいたします。
- 大学構内は原則として禁煙です。喫煙は決められた場所をお願いします。

○発表者・企画者の皆様へ○

キャリアエクスプローラマーク（CE マーク）の表示

- 発表者である学生・ポスドクは、本人が希望する場合、求職中であることを示すキャリアエクスプローラマークを口頭発表やポスター発表の際に表示することができます。
（社）応用物理学会 HP（<http://www.jsap.or.jp/activities/annualmeetings/CEmark.html>）からダウンロードし、口頭発表のタイトルページやポスターのタイトル付近に表示して

ください。CEマークの使用許可は取得済みです。

一般講演（口頭発表）

- 口頭発表は、会場備え付けのパソコン（OSはWindows XP）と液晶プロジェクターを使用したマイクロソフトパワーポイント（Windows版PowerPoint2003）あるいはアドビリーダー（PDFファイル）による発表に限ります。持ち込んだコンピューターを使用したの発表はできません。
- 発表用ファイルの作成方法：上記の使用機器に充分留意してください。また、「事前にお送りいただいた発表用ファイルを各会場のパソコンのハードディスクにあらかじめコピーしておく」ことをふまえ、発表用ファイルを作成してください。特に以下の点にご注意ください。
 - * パワーポイントファイルは、Windows版PowerPoint2003で動作可能なこと、標準的なフォントを使用し、ムービーなど動画を挿入しないこと、を守ってください。
 - * Mac OSでファイルを作成した場合には、必ずWindowsファイルに変換し、Windows機での動作確認を発表者の責任でおこなってください。
 - * PowerPoint2007などでファイルを作成する場合は、必ず「PowerPoint97-2003プレゼンテーション (*.ppt)」を選択し、*.ppt形式のファイルを準備してください。ファイルの保存時にファイルの種類として「PowerPointプレゼンテーション (*.pptx)」を選択しないでください。
 - * パワーポイントあるいはPDFファイルのファイルサイズは、上限を20MBとします。写真を多用される方は、ご注意ください。
- 発表用ファイルの提出期限：3月13日（土）17時です。大会公式ページにて登録してください。各自のファイル名は自動で作成されます。
 - * 期限までに発表用ファイルが登録されない場合には、プロジェクターを利用した発表はできません。なお、パソコンと液晶プロジェクターを使用しないで発表される場合は、3月13日（土）17時までに大会の問い合わせページ (<http://www.esj.ne.jp/meeting/forms/inquiry/index.cgi>)からその旨をご連絡ください。発表用ファイルの登録がなく、ご連絡をいただけない場合には、発表ができませんので、ご注意ください。
- 講演時間は、発表12分、質疑応答3分の合計15分です。一鈴10分、二鈴12分、三鈴14分30秒です。時間を厳守してください。
- パソコンの操作は、最初のスライドを表示するところまではオペレーター（会場係）が行います。その後の操作（スライドの進行）は、講演者自身で行うことも、会場のオペレーター（会場係）に指示することも可能です。
- 講演の終了した講演者は、次の講演の座長を務めてください。最初の座長は、大会実行委員会が対応します。

一般講演（ポスター発表）

《ポスター会場》

- ポスター発表は3月16日、3月17日、3月18日とも、第2体育館で行います。
- 展示場所は「ポスター発表案内デスク」（第2体育館内ポスター会場入口の横）の両端およびポスター会場内の四隅に設置された「展示案内地図」に指示されていますので確

認してください。わからない場合はスタッフにお問い合わせください。

《展示および発表時間》

- 展示は、16日発表分については発表前日の15時から当日10時まで、17日・18日発表分については発表前日17時30分から当日10時までに完了してください。
- ポスター展示ボードの大きさは90cm x 210cm（縦長）です。ポスター貼り付け用のピンや画鋸は各自でご用意下さい。
- ポスター賞に応募している方は、できるだけ前日もしくは当日の9時までに掲示を完了してください。展示が遅れた場合、またコアタイムに説明できない場合は審査が受けられません。コアタイムは、16日・17日発表分は12時30分から14時、18日発表分は13時30分から15時です。発表者はこの時間帯には必ずポスターの前で説明をしてください。
- ポスターの撤去：16日・17日・18日とも当日17時15分までに撤去してください。

《ポスター賞》

- 日本生態学会では、若手研究者の奨励のために優秀なポスター発表に賞を贈ります。ポスター賞の運営方法や選考基準については日本生態学会のウェブサイト (http://www.esj.ne.jp/meeting/poster_prize/about.html) に記載されていますので、必ず事前に確認の上、審査に備えてください。
- ポスター賞の対象となる発表には、ボードに応募を示す表示が貼り付けてあります。ポスター賞に応募しているにもかかわらず表示がない場合には、すぐに「ポスター発表案内デスク」（第2体育館玄関に設置）にご連絡ください。
- 受賞ポスターには、16時前後に受賞を示すリボンが付けられます。表彰式は16時30分から17時の間に13号館ロビー（大会当日参加受付デスクのそば）で行います。ポスター賞を受賞された方はこの時間帯に表彰式においでください。
- 「最優秀賞」受賞ポスターは特設掲示板（13号館ロビーに設置）に当日夕方（16時30分）から翌日夕方（16時00分）まで特別展示されます。受賞者の方は展示の移動にご協力ください。
- ポスター発表終了時より前にポスターを持ち帰りたい受賞者は、ポスター発表案内デスクのスタッフに申し出た上、お持ち帰り願います。ポスター発表終了後まで残っていたポスターは処分します。

高校生ポスター発表

- 高校生のポスター発表に関する案内は、事前に世話人（生態学教育専門委員長・嶋田正和）から引率教員あてに別途送付します。

各種集会（シンポジウム、フォーラム、企画集会、自由集会）

- 設定された時間内に終了するよう努めてください。時間延長はできません。
- 発表には会場に設置されている液晶プロジェクターが使用できます。ただし、液晶プロジェクターに接続するコンピューターおよび発表用ファイルは、企画者側で準備してください。
- 企画集会と自由集会会場には会場係がつきません。問題がありましたら大会本部までご連絡ください。

日本生態学会大会 規則

(2008年12月10日 制定)

(目的)

第1条 この規則は、日本生態学会（以下、本学会）が開催する学術集会である年次大会（以下、大会）について必要な事項を定める。大会は生態学の振興に寄与するためにその研究成果を発表する場とするとともに生態学研究者の交流の場を広く提供することを目的とする。

(名称)

第2条 大会の名称は「日本生態学会大会」とする。1953年に開催された大会を第1回とし、年次ごとに回数を加える。各大会の名称は回数を冠して、「第##回 日本生態学会大会」とし、略称を「ESJ##」とする。

(周期)

第3条 大会は年1回開催する。

(運営)

第4条 大会は本規則第10条で定める大会企画委員会（以下、企画委員会）と第11条で定める大会実行委員会（以下、実行委員会）によって運営される。

(開催地区)

第5条 大会の開催地区は、全国委員会の議を経て総会で決定する。

2 大会会場は実行委員会が企画委員会との協議のもとに定め、常任委員会の承認を得る。

(日程)

第6条 大会日程は実行委員会が企画委員会との協議のもとに定め、常任委員会の承認を得る。

(参加費)

第7条 大会参加費と懇親会費は実行委員会が企画委員会の協議のもとに定め、常任委員会の承認を得る。

(行事)

第8条 年次大会開催期間中に以下の各号に掲げる行事を実施する。

- 一 本学会会員（以下、会員）による学術論文の一般講演（口頭発表、あるいはポスター発表）
- 二 シンポジウムをはじめとする研究集会
- 三 通常総会（以下、総会）
- 四 全国委員会
- 五 各種専門委員会
- 六 本学会が定める各賞の授与式
- 七 懇親会
- 八 その他、全国委員会が必要と認めたもの

(参加者、発表者)

第9条 大会には本大会の目的を理解し、所定の手続きを経たすべての者が参加できる。会員資格は問わない。

2 一般講演、研究集会（以下、一般講演と研究集会を合わせて学術セッションという）の論文発表者は、会員に限る。ただし、企画委員会、実行委員会が認めた場合、発表者の会員資格は問わない。

(大会企画委員会)

第10条 大会の準備および運営のため、学会は常設専門委員会である大会企画委員会を設ける。大会企画委員会は、主に一般講演、シンポジウム等の学術セッションの準備、運営を担当する。

(大会実行委員会)

第11条 大会開催の準備および運営のため、開催地となる地区会は大会実行委員会を組織する。大会実行委員会は、会場管理、会計事務等大会運営に必要な事項を担当する。

(会計)

第12条 大会の会計は本学会会計の事業関係経費として処理される。

(参加者の義務)

第13条 大会参加者は大会参加費を支払わなければならない。ただし、企画委員会、実行委員会が認めた場合、大会参加費の支払いは免除される。大会参加者は「大会規則」、「注意事項」等大会運営に関わる諸規定を遵守しなければならない。

(退場)

第14条 実行委員会委員長あるいは企画委員会委員長が大会の運営に支障をきたすと判断した場合は、生態学会会長の了解を得て参加者に大会会場からの退去を求めることができる。また、過去に退去を求められた者の大会への参加を拒否することができる。

(プログラム、要旨集)

第15条 企画委員会はプログラムおよび要旨集を編集する。プログラムおよび要旨集の著作権は本学会に帰属する。投稿された原稿に、公序良俗に反する内容が含まれると判断した場合、企画委員会は著者に内容の修正を求めることができる。著者が修正に応じない場合は掲載を差し止めることができる。

(改正)

第16条 この規則は、全国委員会の議決を経て改正することができる。

(別規則)

第17条 この規則の施行に必要な事項については、企画委員会の議決を経て別に定める。

附則

(施行)

第1条 この規則は、制定と同時に施行する。

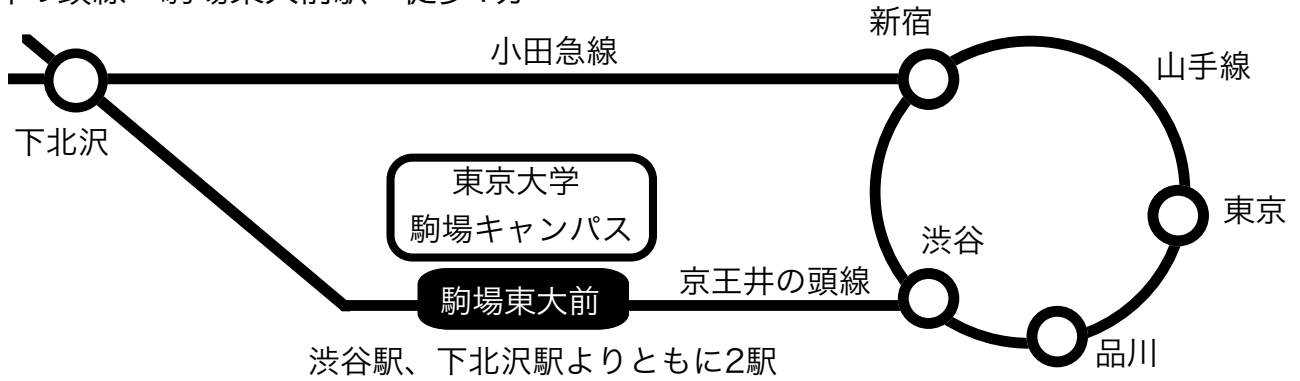
(適用)

第2条 この規則は、第56回(2009年)大会から適用する。

会場へのアクセス

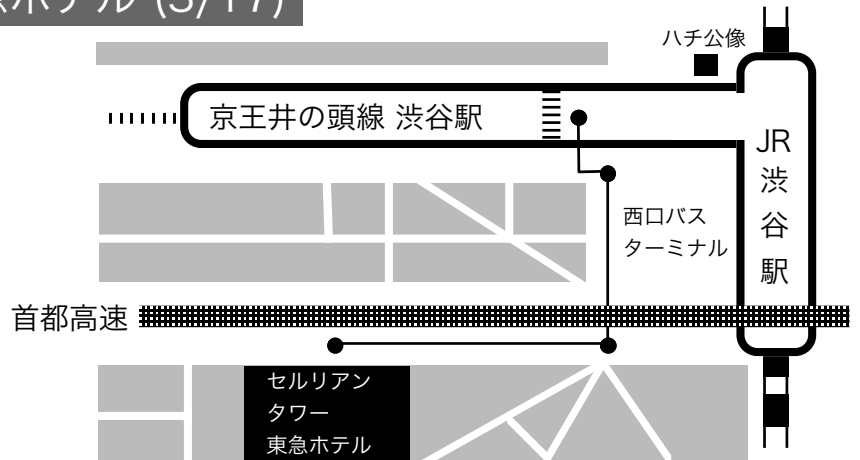
東京大学駒場キャンパス (3/15~19)

- ・京王井の頭線 駒場東大前駅 徒歩1分



懇親会：セルリアンタワー東急ホテル (3/17)

- ・京王井の頭線 渋谷駅 徒歩5分
- ・中央改札を出てすぐ右の階段を下り、大通りへ出て、右折
- ・首都高速下の歩道橋を渡り、右折後100m



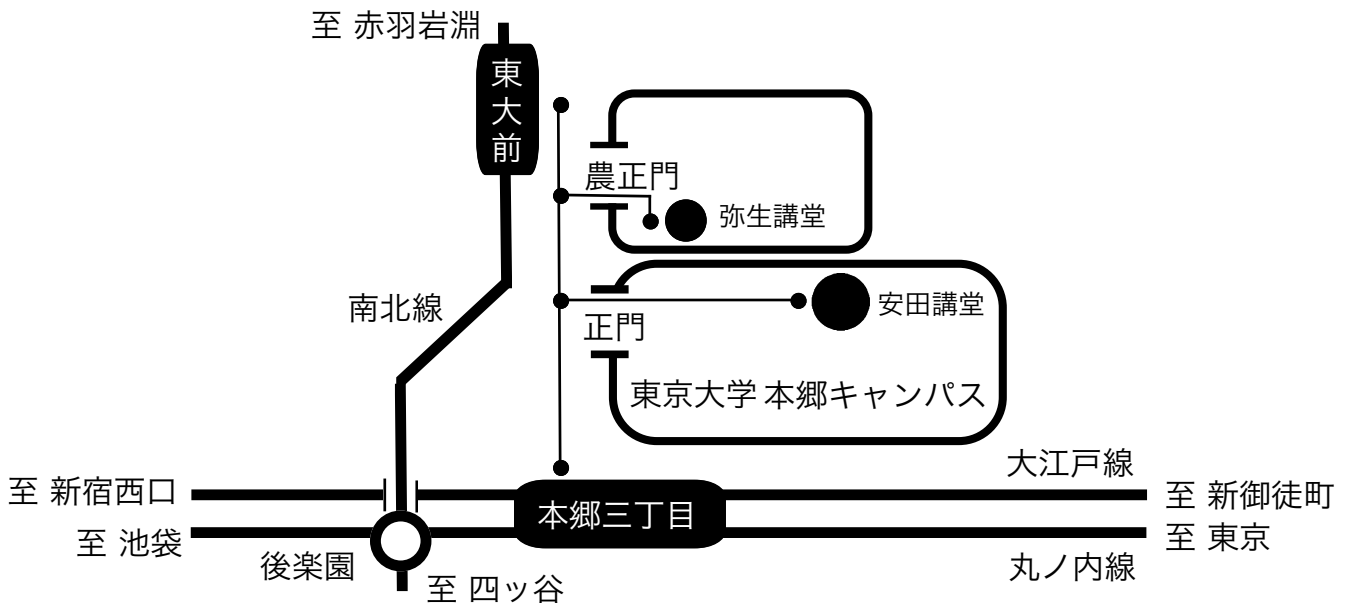
東京大学本郷キャンパス 安田講堂・弥生講堂 (3/20)

安田講堂

- ・東京メトロ南北線 東大前駅 徒歩8分 正門より直進
- ・東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩8分 正門より直進

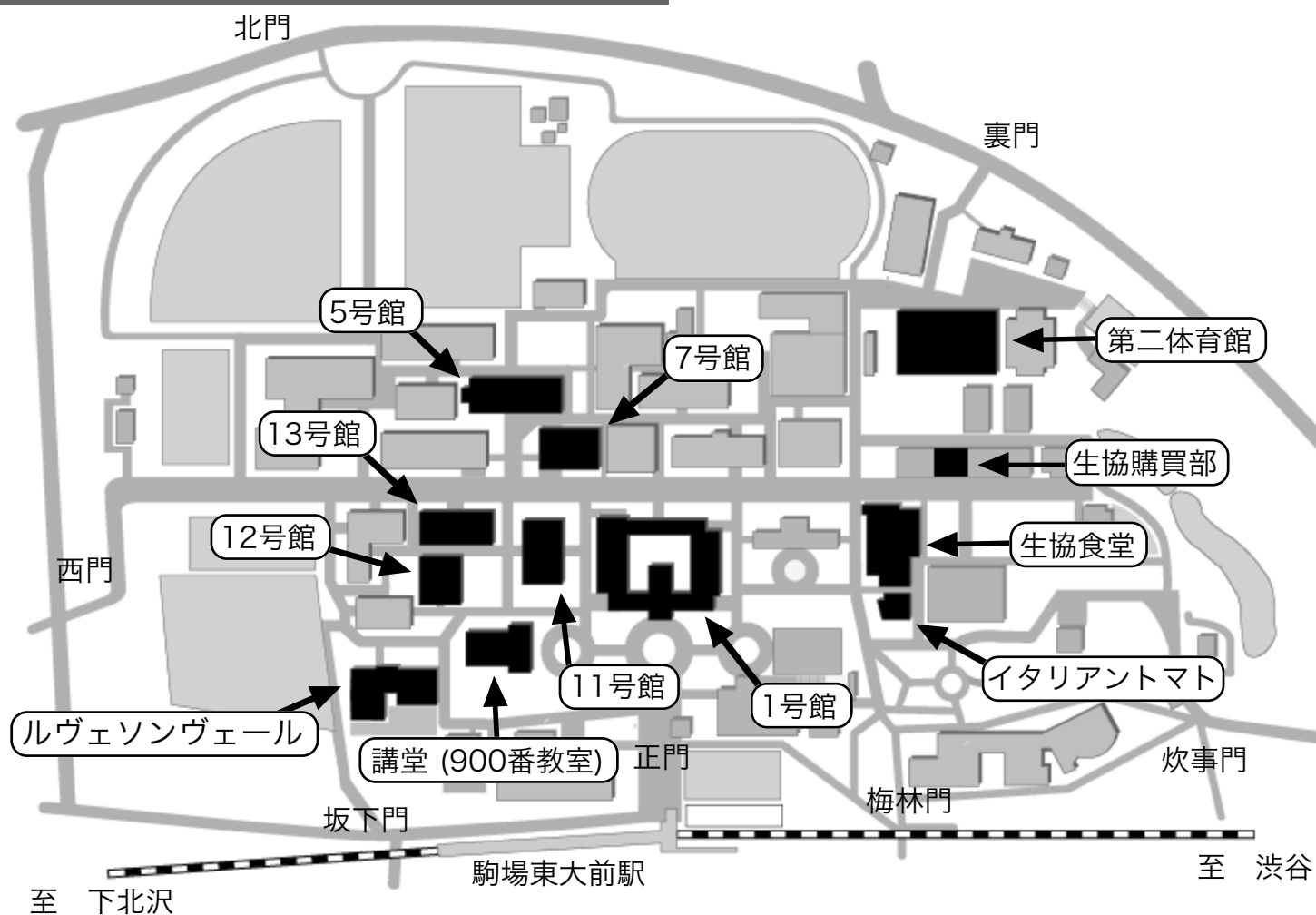
弥生講堂

- ・東京メトロ南北線 東大前駅 徒歩4分 農正門入ってすぐ右



会場案内図

東京大学駒場キャンパス (3/15~19)

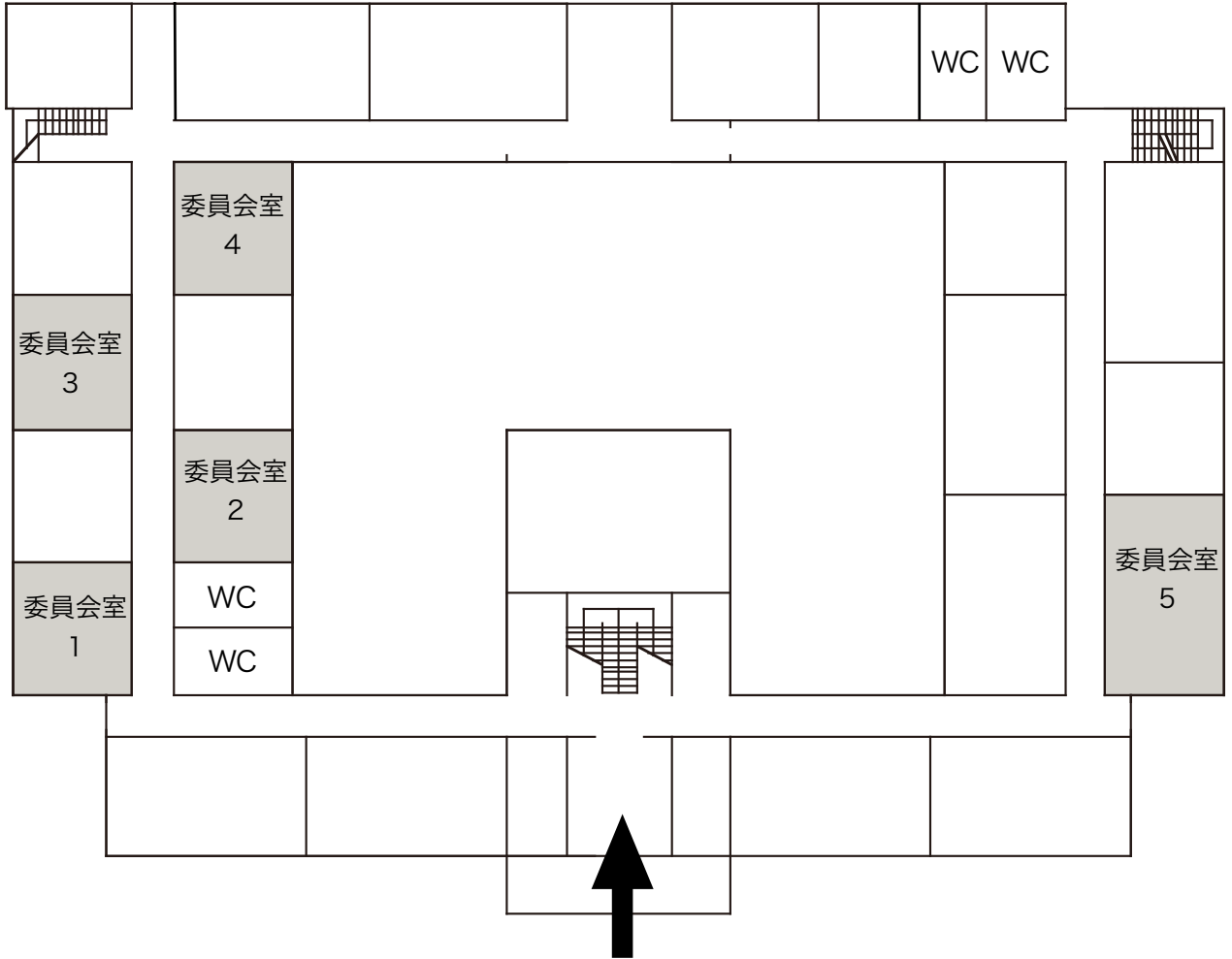


建物名	会場名等
1号館	各種委員会、全国委員会
5号館	A, B会場、休憩室、機器展示、書籍販売
7号館	C, D, E, F会場、休憩室
11号館	G, H, I会場、休憩室、書籍販売
12号館	受付、クローク、学会本部、大会本部
13号館	受付、J, K会場、受賞講演サテライト会場、休憩室
講堂 (900番教室)	総会・受賞講演
第二体育館	ポスター会場、書籍販売
生協購買部	弁当・飲料等
生協食堂	レストラン
イタリアントマト	レストラン
ルヴェソンヴェール	レストラン

会場案内図

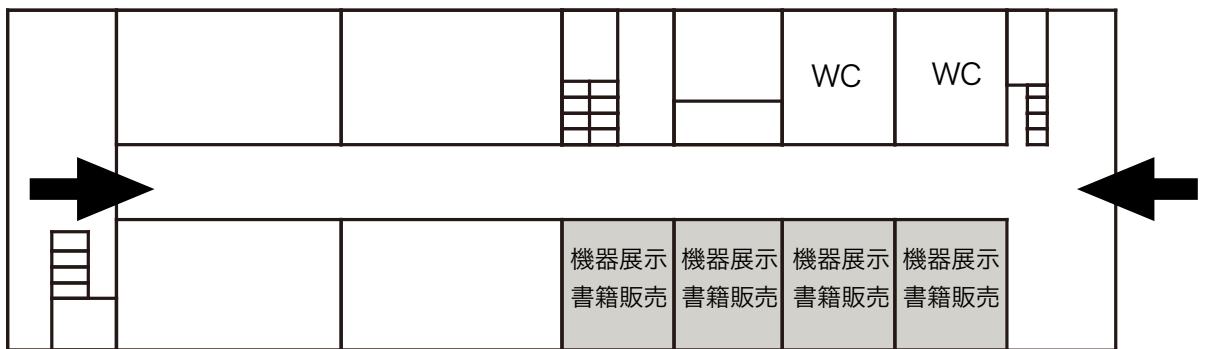
1号館

1階

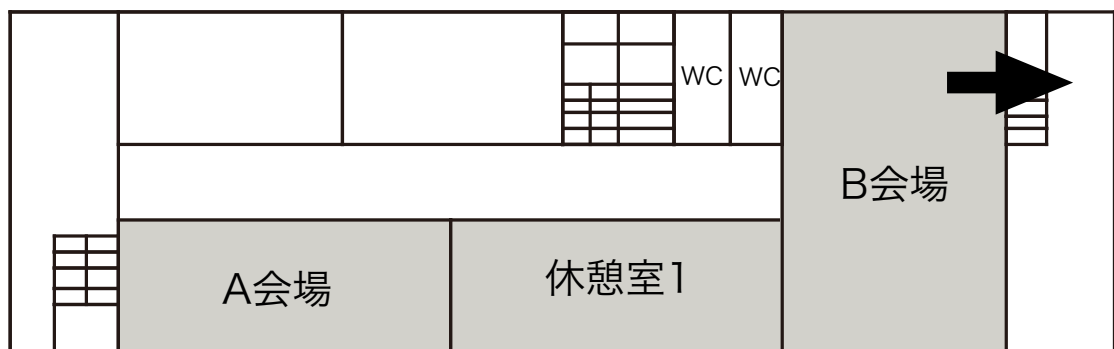


5号館

1階



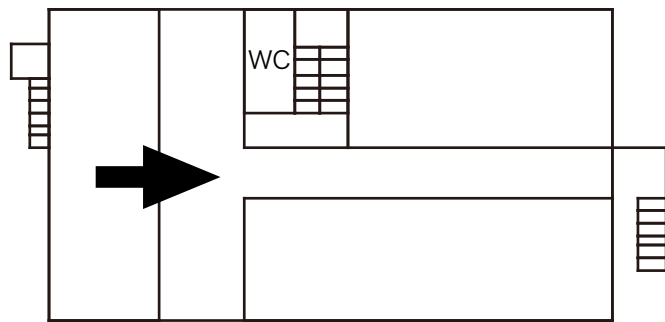
2階



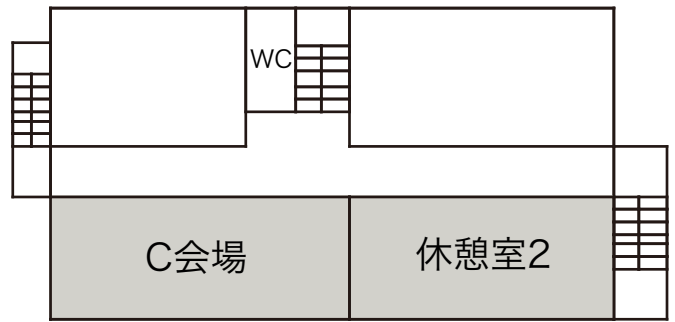
会場案内図

7号館

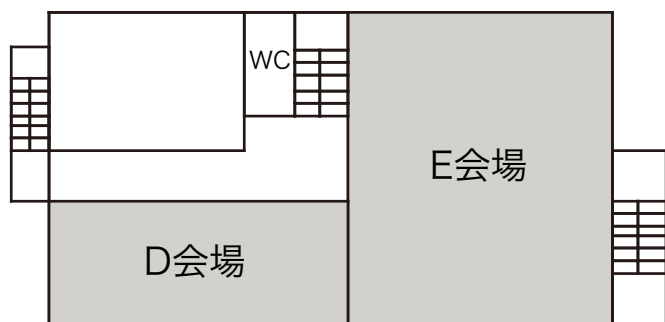
1階



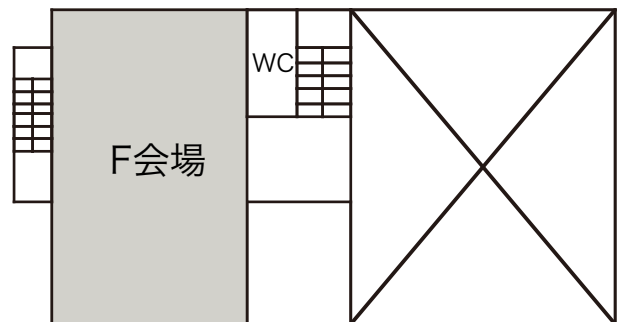
2階



3階

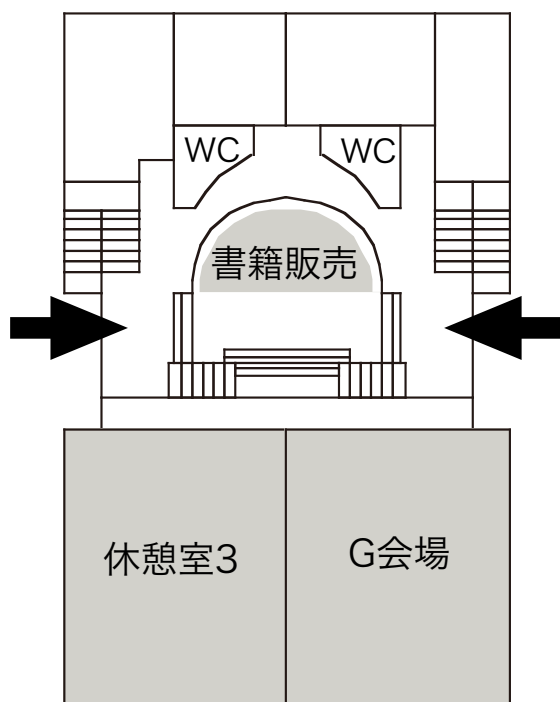


4階

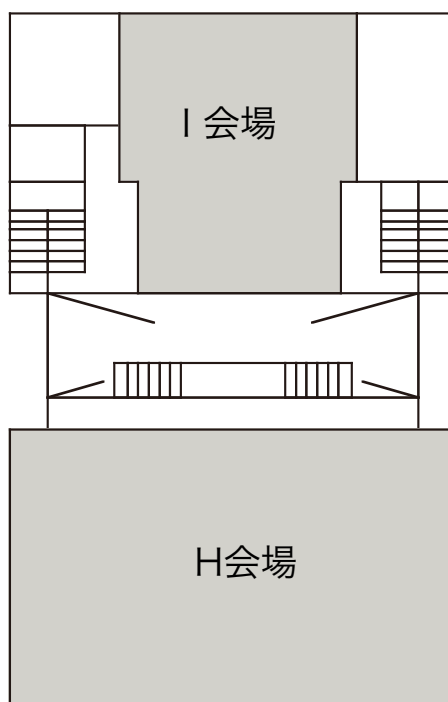


11号館

1階



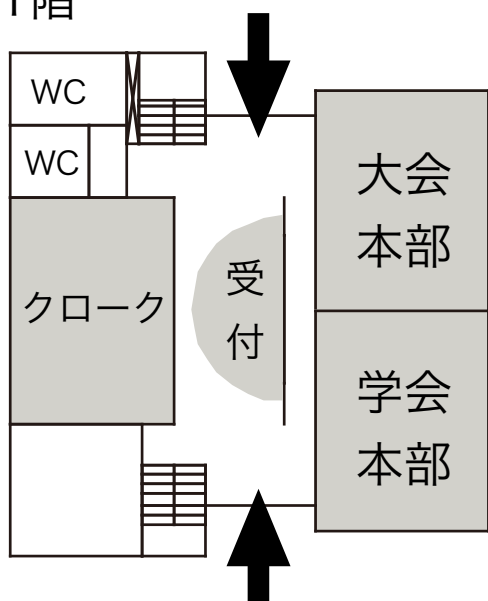
2階



会場案内図

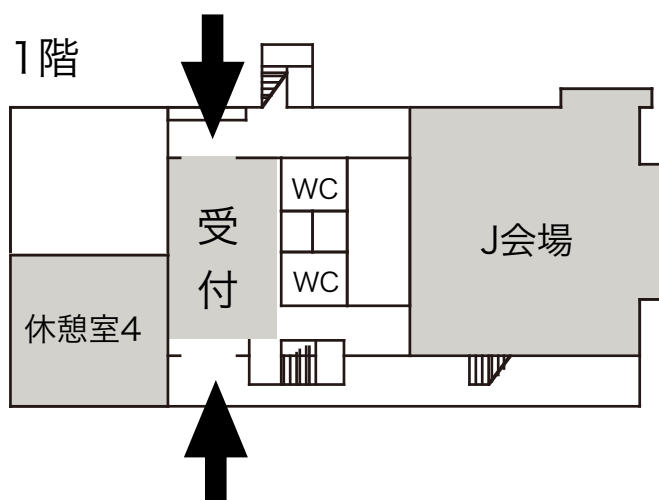
12号館

1階

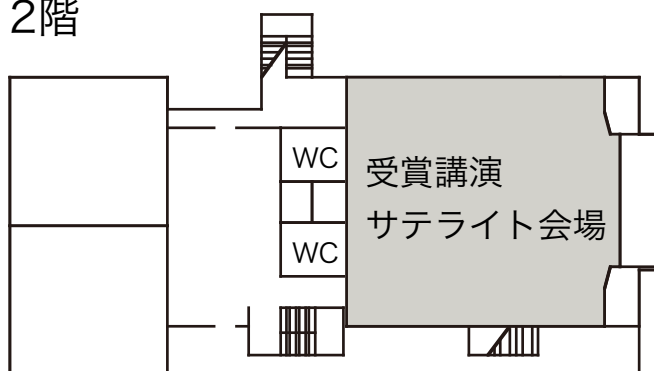


13号館

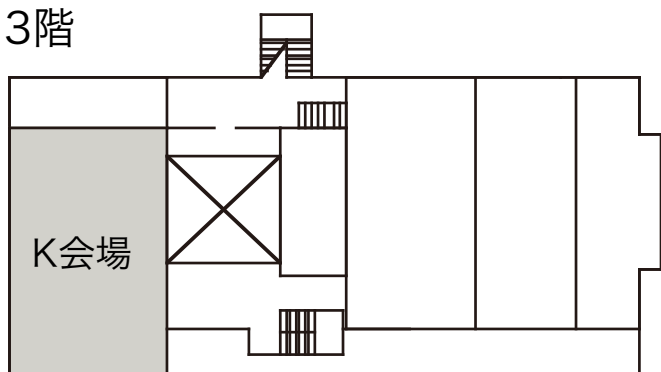
1階



2階

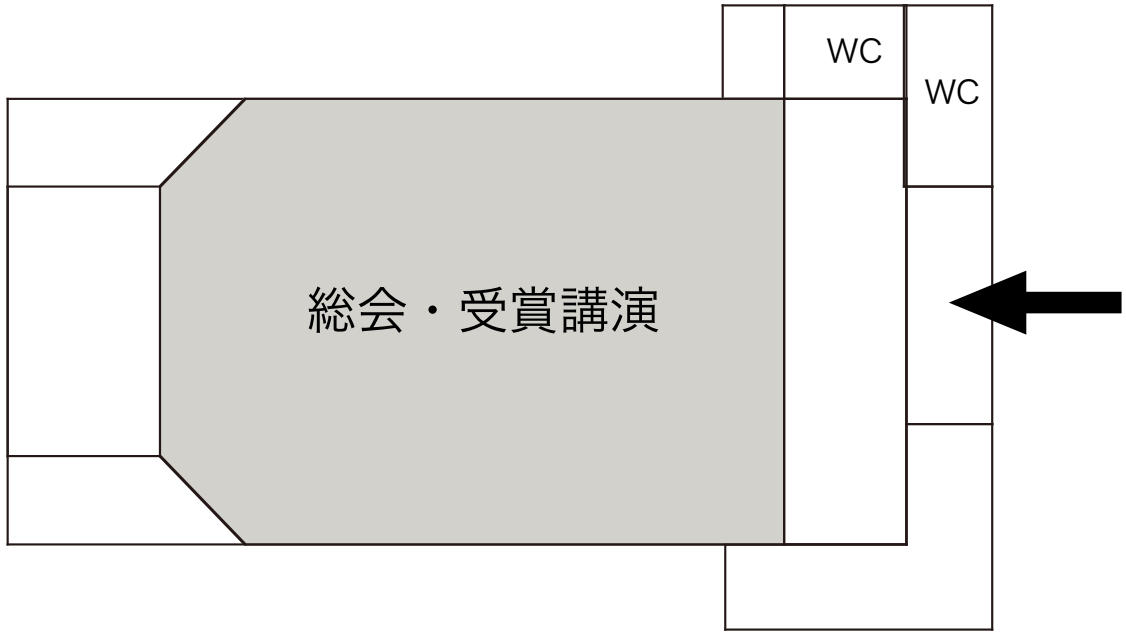


3階

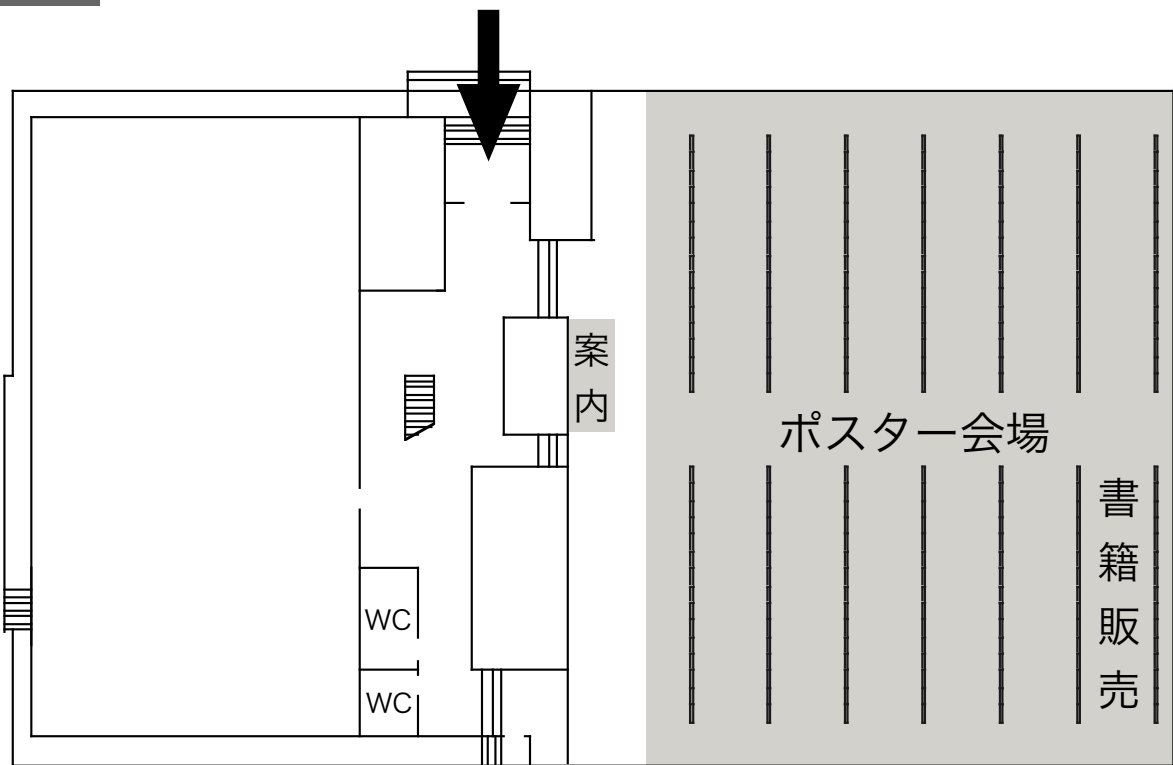


会場案内図

講堂(900番教室)



第二体育館



● 「功労賞」「学会賞」「宮地賞」「論文賞」授賞式・受賞記念講演

3月18日（木）10:15～13:00

東京大学駒場キャンパス 900番講堂 中継：13号館1323教室

第14回日本生態学会宮地賞受賞者・受賞記念講演演題

土居秀幸（Carl-von-Ossietzky University Oldenburg）

「何が食物網構造を決めるのか？：生産性・生態系サイズ・歴史性」

東樹宏和（産業技術総合研究所ゲノムファクトリー研究部門）

「鏡の国のツバキとゾウムシ： 共進化する世界の果てを目指して」

細川貴弘（産業技術総合研究所ゲノムファクトリー研究部門）

「体内共生細菌がカメムシ類の生態・行動・進化に与える影響」

●第13回 日本生態学会 公開講演会

3月20日(土) 13:00 - 17:00 東京大学安田講堂(本郷キャンパス)

「なぜ地球の生き物を守るのか?—生物多様性条約が守る自然の価値—」

2010年10月には生物多様性条約締約国会議(COP10)が名古屋で開催されます。生物多様性—生き物の豊かさ—は、なぜ大切なのでしょう?それを守るために何が必要なのでしょう?森林、里山、湖、海を現場にした第一線の研究者が講演します。地球と日本の生き物の未来に興味のある、市民の方々・生態学会員の方々の多数のご参加をお待ちしております。

○プログラム

開会の辞と趣旨説明……嶋田正和(東大)

講演

1. 矢原徹一(九大)……「なぜ地球の生き物を守るのか?」
2. 梶 光一(農工大)……「エゾシカの順応管理を通してみた生態系管理の原則」
3. 宮下 直(東大)……「里山に見られるモザイク状の生息地と生物多様性」
4. 高村典子(国立環境研)……「なぜ、どのように、湖沼や池の生きものを守るのか?」
5. 仲岡雅裕(北大)……「アマモ場の生物多様性:沿岸生態系におけるその役割」

パネル討論会:

司会……松田裕之(横国大)

パネリスト: 講演者5名

渡辺綱男(環境省)

吉田正人(江戸川大学・IUCN日本委員会)

総合司会……鷺谷いづみ(東大)

○参加費: 無料

講演者が執筆した図書「なぜ地球の生き物を守るのか?生物多様性条約が守る自然の価値」を、非会員を優先して、先着650名様に1冊謹呈します。

○参加申込み方法

専用ウェブサイト <http://www.kuba.co.jp/seitai10/> から手続きをしてください。
生態学会大会参加者の方も、大会参加とは別に申込み手続きが必要です。

主催: 日本生態学会

後援: 環境省、日本学術会議、自然史学会連合、生物科学学会連合、日本分類学会連合、
日本植物学会、日本動物学会、朝日新聞社、読売新聞東京本社、毎日新聞社、
東京大学

※平成21年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)補助事業です。

●シンポジウム・フォーラム・企画集会・自由集会 一覧

Symposium number, title, time and room number

◎3月15日 (Mon)

自由集会 (15:00-17:00)

- | | | |
|-----|--|-----|
| W01 | MAFES 土壌腐植とは何だろうか? | D会場 |
| W02 | 第1原理から理解する個体群動態モデル | F会場 |
| W03 | 生物多様性が「雇用」を「創出」する?
ー田舎の山里海で暮らしを立てる若者大集合 | G会場 |
| W04 | データ解析で出会う統計的問題:「Xの誤差」も統計モデル化 | H会場 |
| W05 | 森林のCO2交換量と森林の炭素蓄積はどのようにつながるのか | I会場 |
| W06 | 保全事業がすすむ小笠原で研究者が直面する予想外の課題 | J会場 |
| W07 | 化学物質の生態影響パート4:さまざまなリスク評価手法を比較する | K会場 |

自由集会 (17:15-19:15)

- | | | |
|-----|---|-----|
| W08 | フラックス研究の中の植物生理生態学
ー他分野との連携の現状と今後の展望ー | A会場 |
| W10 | ブラックカーボンの生態学 ーそのブラックボックスへ迫るー | F会場 |
| W11 | モウソウチク林研究の現状と課題 | G会場 |
| W12 | シロアリの生態学 ーカースト分化と共生システムをめぐってー | H会場 |
| W13 | 生態学におけるFOSS4G利用 ーQGISを使った生態学研究の紹介ー | I会場 |
| W14 | みずたまり生態学 | J会場 |
| W15 | 高塩分環境における植物の水利用 | K会場 |

フォーラム (15:00-17:00)

- | | | |
|-----|--------------------------------|-----|
| U01 | 高校生物の教科書が大きく変わるー次期学習指導要領への取り組み | A会場 |
|-----|--------------------------------|-----|

生物多様性関連集会 (15:00-17:00)

- | | | |
|--|-----------------|-----|
| | 特定外来生物の分布状況2010 | B会場 |
|--|-----------------|-----|

◎3月16日 (Tue)

シンポジウム (9:00-12:00)

- | | | |
|-----|---|-----|
| S01 | Sex and the Evolution of Eusociality | E会場 |
| S02 | 日本の生物多様性の総合評価 ー生物多様性条約COP10に向けてー | F会場 |
| S03 | 迅速な適応性 (第2回) ー学習や表現型可塑性がドライブする進化 | G会場 |
| S04 | Diversity on diversity: aboveground and belowground communities as drivers of ecosystem functioning | H会場 |
| S05 | 外来種の管理をめぐる人々の意識と意志決定 | I会場 |
| S06 | 「生態リスク」にどう向き合うのか? 2: データ解析からリスク解析へ | J会場 |
| S07 | 広域大気汚染の生態系影響 | K会場 |

企画集会 (17:30-19:30)

- | | | |
|-----|---|-----|
| T01 | 流域-流程を結ぶランドスケープエコロジー: 生態系同士のつながりに着目して | A会場 |
| T02 | なぜ里山に竹林が広がっているのか? 竹林が広がると何が起こるのか?
ーその生物学的要因と生態系への影響ー | C会場 |

T03	生活史がもたらす適応進化：生活史戦略と生物の分布パターン	D会場
T04	メタボリズム理論に基づく水界生態系の動的理解：個体から景観スケールまで	E会場
T05	三宅島2000年噴火後の生態系の回復過程－巨大噴火に対する陸上生態系の応答－	F会場
T06	群集と進化： Evolution in a community context	G会場
T07	生態学における数理的手法2010	H会場
T08	微生物群集と生態系をむすぶ：微生物多様性と生態系の多様性の視点から	I会場
T09	博物館の生態学6 ～視覚と体験で伝える生態学の理論～	J会場
T10	熱帯林生態系における生物地球化学的研究の展開	K会場

◎3月17日 (Wed)

シンポジウム (9:00-12:00)

S08	Animal responses to general flowering and mast fruiting in Southeast Asian tropics	E会場
S09	サンゴ礁生物の緯度傾斜に沿った変異：ゲノムから生態系まで	F会場
S10	企業と生物多様性－生態学と企業の協働をめざして－	G会場
S11	侵略的外来種の防除戦略	H会場
S12	環境改変－感染症－人間のつながり	I会場
S13	利用と保全の調和を図る国際制度としてのユネスコMAB（人間と生物圏）計画： 日本の環境保全戦略への活用	J会場
S14	新世代遺伝手法が拓く生態学	K会場

◎3月18日 (Thu)

企画集会 (15:15-17:15)

T11	伊豆諸島の生物地理と生物間相互作用	A会場
T12	カワウの食害と対策	B会場
T13	「関わり」からみる保全生態学 ～水田地帯の魚類をめぐる若手研究者の保全研究・活動の展開～	C会場
T14	共進化生態学の新天地を求めて	D会場
T15	生態系サービスの総合的な指標化	E会場
T16	フェノロジー研究会「気候変動とフェノロジー」	F会場
T17	河川上流・中流・沿岸における粒状有機物の移動と水生生物による利用 －各場の特性と流域スケールでの理解に向けて	G会場
T18	旅する生物－生物分布の歴史とその崩壊－	H会場
T19	JapanFlux/CarboEastAsia: Carbon Balance of East Asian Terrestrial Ecosystems	I会場
T20	普通種がいなくなるとき－水田地帯の生物多様性	J会場
T21	使えるアリー効果：希少種保全、野生復帰、外来種管理への応用にむけて	K会場

企画集会 (17:30-19:30)

T22	アグロエコロジー研究会「農生態学への誘い」	A会場
T23	群集生態学の新しい展開：生物群集とは何か	C会場
T24	生物多様性研究とDNAバーコーディング	D会場
T25	気候変動予測に向けた陸域生態系シミュレーションの現状、今後の課題	E会場
T26	保全生態学の成果を現場に活かす：保護管理ユニット設定の科学と法整備	F会場
T27	火は植生をどのように変えてきたのか？	G会場

- | | | |
|-----|------------------------------------|-----|
| T28 | 日本列島内の隠れた遺伝的分化 | H会場 |
| T29 | もっと使える景観生態学：ランドスケープ× α | I会場 |
| T30 | 微生物生態学者から学ぶ方法論－分子生物学的解析法の適用可能性と限界－ | J会場 |
| T31 | 近親交配：その進化的意義を問い直す | K会場 |

◎3月19日 (Fri)

シンポジウム (9:00-12:00)

- | | | |
|-----|--|-----|
| S15 | 開花フェノロジー研究のスケールリングアプローチ：分子から景観まで | E会場 |
| S16 | 農村における生物多様性モニタリング
－多様な主体の参画による共通基盤の確立に向けて－ | F会場 |
| S17 | トキの野生復帰を実現する自然再生シナリオをつくる | G会場 |
| S18 | Effects of ants and termites in ecosystem process and biodiversity | H会場 |
| S19 | 森林群集の形成メカニズム～プロットベースから景観・地理的スケールまで～ | I会場 |

フォーラム (13:00-15:00)

- | | | |
|-----|---|-----|
| U02 | 若手のための学位取得後のキャリア支援 | A会場 |
| U03 | 南西諸島生物多様性地域戦略の策定を目指して
－生物生態情報データベースの構築・管理－ | B会場 |

生物多様性関連集会 (13:00-16:00)

- | | | |
|--|---|-----|
| | 生物多様性の損失を止める方法はあるのか？
－COP10を契機に考える新たな政策の可能性－ | K会場 |
|--|---|-----|

◎3月20日 (Sat)

生物多様性関連集会 (9:00-12:00)

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| 保全生態学研究会サテライトワークショップ－保全生態学の技法－ | 弥生講堂 (本郷) |
|--------------------------------|-----------|

S01 Sex and the Evolution of Eusociality

Organizer: Kenji Matsuura (Okayama University)

The evolution and maintenance of sexual reproduction is believed to involve important tradeoffs. Queens of social insects are in a dilemma over the costs and benefits of sexual and asexual reproduction. Asexual reproduction by a queen doubles her contribution to the gene pool. However, overuse of asexual reproduction reduces the offspring's genetic diversity and thus the colony's ability to adapt to environmental stress. Recent research on breeding systems using molecular markers revealed that queens of some ants and termites can solve this tradeoff by their conditional use of sexual and asexual reproduction. On the other hand, parthenogenesis can also function as 'social cancer' in the parthenogenetic ant. In this symposium, we show that eusociality with its attendant caste structure and unique life histories can generate novel reproductive and genetic systems with mixed modes of reproduction that can provide important insights into the advantages and disadvantages of sexual reproduction.

S01-1 Diversity of termite breeding systems

Edward L. Vargo (North Carolina State University)

S01-2 Sex and asexual reproduction in termite evolution

Kenji Matsuura (Okayama University)

S01-3 The integrated society and its enemies: a case study of an asexual ant

Shigeto Dobata (University of Tokyo)

S01-4 Clonal reproduction and life history in myrmicine ant *Vollenhovia emeryi* with queen polymorphism

Kyohsuke Ohkawara (Kanazawa University)

S01-5 Sex and non-sex in insect social evolution: an overview

Kazuki Tsuji (University of Ryukyus)

S02 日本の生物多様性の総合評価 - 生物多様性条約 COP10 に向けて -

企画者：中静透（東北大学）、永津雅人（自然環境研究センター）

2010年10月に、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋市で開催される。2010年は国際生物多様性年でもあり、また生物多様性条約が掲げる2010年目標（2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させるという目標）の達成状況を評価する年でもある。地球規模の生物多様性の状況については、2006年3月に世界の生物多様性の状況を指標等を用いてまとめた「地球規模生物多様性概況第2版（Global Biodiversity Outlook 2:GBO2）」が生物多様性条約事務局から発表されている。

我が国では、2007年11月に閣議決定された「第三次生物多様性国家戦略」において、2010年目標の達成に貢献するため、我が国の生物多様性の現況や動向に関する総合評価を実施し、政策上の課題を明らかにするとともに、国民にわかりやすく伝えることにより理解を促進していくこととされている。また、2008年5月制定の「生物多様性基本法」において、国は生物多様性の状況及びその恵沢を総合的に評価するため、適切な指標の開発その他の必要な措置を講ずることとされている。

これらを受け、昨年度から環境省により、専門家を主体とした「生物多様性総合評価」が開始された。この我が国の生物多様性総合評価の進捗状況についての中間報告は、前回大会シンポジウムにて行っている。

今年度は最終報告（2010年5月に公表予定）に向けた検討を進めており、そのとりまとめ内容について紹介するとともに、「2010年目標」、「ポスト2010年目標」など、日本のCOP10に向けた動きや世界の状況、研究者の貢献とネットワーク構築などについての講演を交え、日本の生物多様性の総合評価について全体討論を行う。

S02-1 日本の生物多様性総合評価報告書案について

中静透（東北大学）

S02-2 COP10、2010年目標、ポスト2010目標など生物多様性に関する日本と世界の状況

鳥居敏男（環境省自然環境計画課）

S02-3 生物多様性評価の意義と科学的基盤の重要性

香坂玲（名古屋市立大学）

S02-4 生物多様性観測ネットワークと総合評価の今後の課題

矢原徹一（九州大学）

シンポジウム

3月16日 9:00-12:00

会場 G会場

S03 迅速な適応性（第2回）－学習や表現型可塑性がドライブする進化

企画者：嶋田正和（東大・総合文化・広域）、三浦 徹（北大・地環研）

動物は環境の変化に応じて、学習による行動の変化や表現型可塑性による形態・生理の変化を可能にしている。動物が環境変化の刺激を感覚器で受容すると、受容体からの情報がシグナル伝達経路を経て細胞内代謝を変えたり、二次メッセンジャーを介して核内で遺伝子発現の調整がなされる。これにより、形質発現のON/OFFパターンを変えることで表現型可塑性が迅速に可能となり、可塑性の帰結が生理的变化の背景にある遺伝子のプロモーター領域の遺伝的変異への自然選択となって、表現型可塑性は進化する（West-Eberhardによる遺伝的同化）。同様に、学習行動の場合も、行動の帰結として成功・報酬・失敗などが脳-神経系の記憶ストックにフィードバックされ、記憶の長期化を経て（学習による行動的適応）、間接的に神経細胞の応答に対する遺伝的変異への自然選択により、加速度的に進化を推進する（Baldwin効果）。この過程で、どのような発生機構や生理機構あるいはゲノム構成が、柔軟な表現型改変には必要なのかを探る。

総合討論

コメンテーター1名

S03-1 迅速な適応性：学習によるBaldwin効果がドライブする進化

嶋田正和（東大・総合文化・広域）

S03-2 珪藻における表現型可塑性の人為選抜実験系の構築

○城川祐香・若本祐一・嶋田正和（東大・総合文化・広域）

S03-3 2種大腸菌による栄養共生への迅速な適応とその遺伝子発現変化

○細田一史・四方哲也（阪大・情報科学）

S03-4 柔軟な表現型改変を支える発生・生理機構

三浦 徹（北大・地環研）

S04 Diversity on diversity: aboveground and belowground communities as drivers of ecosystem functioning

企画者：金子信博（横浜国大），日浦勉（北大），加藤憲二（静岡大）

There have been a considerable number of studies performed on the relationship between above ground community composition or biodiversity and ecological functioning. However, the belowground community, which represents the hidden half of the terrestrial biodiversity, has historically been studied largely independently of the aboveground subsystem. We are now at a position where we can better integrate our knowledge of aboveground and belowground communities to better explain how these communities interact to drive terrestrial ecosystems. We will discuss the mechanisms by which linkages between the aboveground and belowground components of terrestrial biodiversity drive ecosystem functioning, covering organisms ranging from microorganisms to trees.

Organizers; KANEKO N., HIURA T. and KATO K.

Commentator; YACHI S. (Kyoto University)

S04-1 Soil biodiversity as related to plant production and sustainability

SUSILO, FX. (Univ. of Lampung)

S04-2 Biodiversity and primary productivity of cropland ecosystems

NISHIZAWA, T. (Ibaraki Univ.)

S04-3 Microbial diversity in forest soil and its beneath: reasons and implication

KATO, K. (Shizuoka Univ.)

S04-4 Structure of microbial community in soil ecosystem: detection of environmental filters

MURAKAMI, M. (Chiba Univ.)

S04-5 Long term drivers of aboveground-belowground linkages

WARDLE, D. (Swedish Univ. of Agricultural Sciences)

S04-6 Use of carbon-14 natural abundances in soil ecology: carbon assimilation and carbon sequestration

TAYASU, I. (Kyoto Univ.)

S04-7 Soil macrofauna modulates ecosystem function of soil microbes: A case study of the train millipede

FUJIMAKI, R. (Yokohama Nat. Univ.)

S05 外来種の管理をめぐる人々の意識と意志決定

企画者：西川潮（新潟大・超域），米倉竜次（岐阜河川研）

コメンテータ：西野麻知子（琵琶湖環境研究セ）

外来種の侵入は、環境汚染や乱獲、気候変動などと並ぶ、生物多様性の減少をもたらす主要なストレス要因である。それを受けて、世界のいたるところで、研究者、地域住民、行政、農業・漁業従事者といった様々

な立場の人々が外来種の管理事業に携わっている。しかしながら、外来種管理に対する問題認識や、それに費やす労力・費用の感覚は、必ずしも関係者間で一致しないことがある。人々が共通の目標に向けて一致団結するためには、関係者間での合意形成が必要となるが、そのために研究者は何ができるであろうか？

本シンポジウムでは、個別の事例を交えながら、自然科学と社会科学の研究アプローチを紹介していただき、外来種の管理をめぐる人間の意識や意思決定プロセスについての理解を深める。次に、関係者間の合意形成を含め、「外来種の管理」という共通目標を達成する上で有用と思われる学際研究・共同研究のあり方について考察を進めたい。

総合討論：効果的な外来種の管理に向けて

S05-1 外来種のリスク評価と管理

米倉竜次（岐阜河川研）

S05-2 外来種と在来種に対する人々の選好：全国スケールの電子アンケート調査

* 西川潮（新潟大・超域）、今井葉子、今田美穂（国環研）、柘植隆宏（甲南大・経済）、高村典子（国環研）

S05-3 水辺の外来種管理に対する支払意志額：環境経済学からのアプローチ

* 柘植隆宏（甲南大・経済）、西川潮（新潟大・超域）、高村典子、今井葉子、今田美穂（国環研）

S05-4 外来種問題をめぐる順応的な協働の可能性 - ポリティカル・エコロジーの視点から -

二宮咲子（東大・院・社会文化環境）

S05-5 よかれと思った対策と実際の効果との間に生じうるギャップ - 生態系のしくみを理解することがいかに重要性か -

* 亘悠哉（森林総研、パリ第11大学）、小林頼太（東大・生物多様性）

S05-6 琵琶湖における特定外来生物指定植物種の防除をめぐって

* 金子有子（琵琶湖環境科学研究セ）、栗林実（(株)生態システム研究所）、藤井伸二（人間環境大）、野間直彦（滋賀県立大）、中井克樹（琵琶湖博物館）

シンポジウム

3月16日 9:00-12:00

会場 J会場

S06 「生態リスク」にどう向き合うのか？ 2：データ解析からリスク解析へ

企画者：林岳彦（国環研）、岩崎雄一（横浜国大・環境情報）

一口に「生態リスク」と言っても、その「リスク」の意味する内容は対象生物や対象のレベル（生態系・種・遺伝子レベルなど）によって大きく異なる。しかしながら、その対象生物や対象のレベルに関わらず、その生態リスクの定量化のための解析手法自体には共有化できるものも多い。一般に、リスクの推定には不可避免的に不確実性が伴い、また意志決定の際にはリスク推定の不確実性の大きさを定量的に考慮した上で対策を考える必要がある。そのため、「生態リスク」を取り扱う際にはしばしば仮説検定やモデル選択などの通常のデータ解析のための手法とは異なるリスク解析のための解析手法が必要とされる。

本シンポジウムでは、生態学者にとって馴染み深い仮説検定やモデル選択などによる「データ解析」から一歩進み、予測と制御を目的とした「リスク解析／不確実性分析」を行っていくために有用なリスク解析手法について、幾つかの異なる分野における実践例を紹介し議論を行う。具体的には、モンテカルロシミュレーション、ベイズ法によるデータ解析と不確実性分析、そして意志決定理論に関する内容が議論される。また、統計数理研究所の上野玄太氏をお迎えして「AIC」以降の近年の統計学的手法の発展の流れを背景に「良いモデルとは何か」について統計学者の観点からのレビューを加えていただき、また近年の発展が著しい「デ

ータ同化」手法についての解説をいただく。

- S06-1 趣旨説明：データ解析で終わってはいけない～アブダクションから意志決定へ
林岳彦（国環研）
- S06-2 モンテカルロシミュレーションを用いた農薬の生態リスク解析
永井孝志（農環研）
- S06-3 最尤推定法の近似としてのベイズ法の活用：エゾシカ個体数の推定の場合
山村光司（農環研）
- S06-4 空間明示型 Harvest based model による外来生物リスク管理の評価 -奄美マングース防除事業への適用を例に-
* 深澤圭太（自然環境研），阿部慎太郎（環境省那覇自然環境事務所）
- S06-5 不確実性がある中でどのように意志決定を行えばいいのか？：外来種管理を例に
横溝裕行（国環研）
- S06-6 『良いモデル』の統計学小史：AIC からデータ同化まで
上野玄太（統数研）

シンポジウム

3月16日 9:00-12:00

会場 K会場

S07 広域大気汚染の生態系影響

企画者：久米 篤（九大・北海道演習林）

化石燃料の燃焼などによって発生した大気汚染物質が、発生源から輸送されていく間に光化学反応によって生じる二次汚染物質（O₃、浮遊粒子状物質 SPM など）による広域大気汚染は地球レベルの環境問題となっている。日本を含む北半球における対流圏 O₃ の濃度は年 1～2% の割合で上昇しており、近年の対流圏 O₃ の濃度は樹木の成長を有意に低下させるレベルにまで上昇している。その一方で、大気 CO₂ 濃度も上昇しており、窒素負荷に代表されるローカルな大気汚染影響も大きい。O₃ ストレスによる森林の炭素吸収能力の減少や、汚染に弱い樹種から強い樹種への置き換わりが促進されている可能性が指摘されており、森林における様々な人為汚染物質の起源と動態、それに対する植物反応を同時に解析し評価していく必要がある。本シンポジウムでは、日本における広域大気汚染の実態と植物側の反応、そして生態系レベルの影響評価について、フィールドでの観測結果から、リスク評価までを含めた総合的な議論を行う。

- S07-1 なぜ、汚染源から離れた地域で O₃ 濃度が上昇しているのか
大原利真（国立環境研究所）
- S07-2 オゾンによる樹木の光合成影響
北尾光俊（森林総合研究所）
- S07-3 屋久島における広域大気汚染の影響
永淵修（滋賀県大）
- S07-4 立山における広域大気汚染とローカルな大気汚染の影響評価
* 渡辺幸一（富山県大），朴木英治（富山市科学博物館）

- S07-5 日本の森林樹種に対するオゾンと窒素負荷の複合影響に関する実験的研究
山口真弘（東京農工大）
- S07-6 日本の森林樹種に対するオゾン・窒素負荷のリスク評価
渡辺誠（北大・農）
- S07-7 大気－現場－実験を結びつけることの重要性
久米篤（九大・農）

シンポジウム 3月17日 9:00-12:00 会場 E会場

S08 Animal responses to general flowering and mast fruiting in Southeast Asian tropics

企画者：半谷吾郎（京都大学）

General flowering (and subsequent mast fruiting) is unique to dipterocarp forests in Southeast Asian tropics, which occurs every few years. It offers an interesting situation for animals, as they need to cope with extreme, unpredictable supra-annual changes in food availability. Studies on animal response during general flowering/mast fruiting have largely been confined to insects; however, recently, several studies began in forests in eastern Sabah, Borneo, where large frugivores still remain. In this symposium, we compare the two phylogenetically distantly-related groups of animals, insects and large mammals, and examine their response to seasonal changes in flower/fruit availability in SE Asian tropics. We discuss the similarities and differences of the animal responses with respect to the animals' ability to cope with seasonality, including migration, life history, and fat deposition.

Commentator: Shoko Sakai (RIHN)

- S08-1 Primate responses to mast fruiting in Danum Valley, Borneo
HANYA, Goro (Kyoto Univ)
- S08-2 Seasonal dynamics of terrestrial mammals in Deramakot and Tangkulap Forest Reserves, Borneo
SAMEJIMA, Hiromitsu (Kyoto Univ)
- S08-3 Responses of flower-visiting chrysomelids to general flowering periods in Bornean dipterocarp rainforests
KISHIMOTO, Keiko (RIHN)
- S08-4 Community structure and seed utilization pattern of insect seed predators on dipterocarps in Pasoh, Peninsular Malaysia
HOSAKA, Tetsuro (Kyoto Univ)
- S08-5 General flowering and figs (title tentative)
HARRISON, Rhett D (Xishuangbanna Tropical Botanical Garden)

S09 サンゴ礁生物の緯度傾斜に沿った変異：ゲノムから生態系まで

企画者：酒井 一彦（琉球大・熱生研）、井口 亮（琉球大・熱生研）

サンゴ礁生物群集はその中核となる造礁サンゴの高温ストレス耐性が低いいため、地球温暖化の影響を最も早く受けることが予想されている。今後の温暖化の進行にともない、サンゴ礁生物の分布がより高緯度にシフトする可能性も指摘されている。我が国の南西部海域では、サンゴ礁の発達する琉球列島からサンゴ礁の発達しない本州沿岸にかけて、高緯度ながら種多様性の高いサンゴ礁生物群集が成立している。本シンポジウムでは琉球列島から日本本州にかけて、サンゴ及び魚類の群集構造、サンゴの系統分類、サンゴ個体群の遺伝的集団構造、サンゴ-褐虫藻共生体の分子レベルでのストレス応答などについての先行研究をレビューし、地球温暖化の進行を念頭に置いた上で、今後のサンゴ礁生物群集の変遷を探る上でどのように研究を展開すべきかを、ゲノムから生態系までの階層にまたがり議論する。

S09-1 南西諸島におけるサンゴ群集構造の地理的変異

酒井一彦（琉球大・熱生研）

S09-2 造礁サンゴにおける環境応答解析と群集の緯度変異

中村崇（九州大・理）

S09-3 九州から本州にかけてのサンゴ群集の緯度変異とサンゴ分布北上の可能性

杉原薫（福岡大）、* 山野博哉（国立環境研）

S09-4 日本南西部におけるタイドプール魚類群集の構造パターンと地理的変異

新垣誠司（琉球大・理）

S09-5 南西諸島におけるミドリイシ属サンゴの遺伝子流動

中島祐一（琉球大・熱生研）

S09-6 ゲノム情報を利用して造礁サンゴの地理的変異を探る

井口亮（琉球大・熱生研）

S09-7 遺伝子解析から見た沖縄から本州沿岸の黒潮流域におけるイシサンゴ類の地域特異性

* 深見裕伸（京都大・フィールド研）、鈴木豪（西海区水研・石垣）

S10 企業と生物多様性—生態学と企業の協働をめざして—

企画者：石川真一（群馬大・社会情報）、可知直毅（首都大院・理工）、足立直樹（(株) レスポンスアビリティ）

今年秋に名古屋で開催される生物多様性条約のCOP10を控え、企業、行政、民間など多様な組織で様々な生物多様性保全活動が計画・実施されるようになってきた。こうした中、生物多様性の保全のためのガイドラインが、行政、NGO、企業などから次々に提案されている。しかしながら、その多くはまだ一般的、定性的である場合が多く、現場からはどうしたらよいかわからないという戸惑いの声も聞こえてくる。本フォーラムでは、学術研究者と企業および行政関係者のラウンドテーブルを設け、生物多様性の保全を科学的かつ効果的に進めるための方向性を、生態学の見地から模索することを目指す。

環境省からは、「生物多様性民間参画ガイドライン」の背景や内容、事業者の参画の意義などについて解説いただく。企業からは、生物多様性の保全に積極的に取り組み企業の集まりである「企業と生物多様性

イニシアティブ（JBIB）」の概要、JBIB 会員企業による事業所の敷地の評価、および原材料で生物資源であるカツオの資源調査について報告していただく。

以上を題材として、総合討論の時間を長く取り、会場からできる限り多くのコメントや提案をいただくことで、今後の企業活動の展開と学界との具体的なコラボレーションを構築することを目指す。

司会：石川真一（群馬大学・社会情報）

コメンテーター：原口 真（株式会社インターリスク総研 環境部）、可知直毅（首都大院・理工）

S10-1 生物多様性民間参画ガイドラインの目指すもの

鈴木 渉（環境省・自然環境局自然環境計画課）

S10-2 企業と生物多様性イニシアティブ（JBIB）の目指すものと課題

足立 直樹（株式会社レスポンスアビリティ）

S10-3 生物多様性保全のために～企業の敷地を評価する

* 伊藤 俊哉（住友林業緑化株式会社・環境緑化事業部）、三輪 隆（株式会社竹中工務店・技術研究所）

S10-4 生物多様性保全のために～カツオ資源の共同調査

杉本 信幸（味の素株式会社・環境経営推進部）

シンポジウム

3月17日 9:00-12:00

会場 H会場

S11 侵略的外来種の防除戦略

企画者：村上興正（京都精華大学）、中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）、岩崎敬二（奈良大学）他外来種検討作業部会

近年、侵略的外来種の管理は、生物多様性の保全にとって必須のこととして、世界各地で認識されるようになってきた。日本でも外来生物法が2004年に策定され2005年に施行される等、外来種管理の必要性が広く認識され始めた結果、各地で多数の外来種の管理事業等が行われつつある。しかし、その成果はまだ十分に上がっているとは言えない現状である。これは外来種による被害が生じてから対症的な対策を講じているケースが多く、長期的系統的な取り組みが少ないことが原因となっている場合が多い。本シンポジウムではこのような現状を打破するための防除戦略について、日本で先進的に取り組まれている事例をもとに論議し、今後の外来種防除の発展に寄与することを目的とする。

総合討論に向けて

コメンテーター 鷺谷いづみ（東大農学生命科学）

論点整理 村上興正（京都精華大学）

S11-1 外来哺乳類の防除戦略

池田透（北海道大学地域システム科学）

S11-2 田辺市におけるアライグマの防除戦略

鈴木和男（ふるさと自然公園センター）

S11-3 ジャワマングースの根絶計画について

山田文雄（森林総研関西支所）・阿部慎太郎（環境省）

- S11-4 和歌山県におけるタイワンザルの根絶計画
白井啓（野生動物保護管理事務所）
- S11-5 防除モデル事業にみるオオクチバス等外来魚の防除戦略
中井克樹（滋賀県琵琶湖博物館）
- S11-6 深泥池における外来魚の管理
安部倉完（京大理学研究科）・竹門康弘（京都大学防災研究所）
- S11-7 小笠原諸島における送紛系攪乱と外来種対策
安部哲人（森林総研九州支所）総合討論に向けて

シンポジウム 3月17日 9:00-12:00 会場 I会場

S12 環境改変－感染症－人間のつながり

企画者：川端 善一郎（総合地球環境学研究所）

新型インフルエンザの例にみるように、感染症の発生と拡大は直接的間接的に人間の生存を脅かす深刻な地球環境問題である。感染症の発生と拡大を「環境改変－感染症－人間のつながり」の視点から理解することは、甚大な被害が起こりにくくする手だてを見いだすことにつながる。このつながりの解析には遺伝子から人間を含む生態系における相互作用を解きほぐす強力な生態学の基礎研究が必要である。本シンポジウムでは人間、家畜、野生生物に感染する細菌やウイルスの感染症の例を取り上げ、「環境疾患予防学」とも言うべき学問の創設に生態学がどのように貢献できるか、またすべきかを明らかにしたい。

コメンテーター：保原達（酪農学園大・環境システム・生命環境）

- S12-1 趣旨説明—環境疾患予防学と生態学
川端 善一郎（地球研）
- S12-2 人間活動が誘引する感染症—新型インフルエンザ、BSE、抗生物質耐性菌を例に
梯 正之（広島大・院・保健学研究科）
- S12-3 鳥インフルエンザの発生拡大に関わる生態学的要因
長 雄一（北海道環境科学研究センター）
- S12-4 陸海連環環境が作り出すノロウイルスと人間の関係
真砂佳史・大村達夫（東北大・院・工）
- S12-5 都市文化に潜むレジオネラ感染症
那須正夫（大阪大・院・薬）・一條知昭（地球研）
- S12-6 コイヘルペスウイルス感染症と人間の相互作用環
源利文・本庄三恵・内井喜美子・山中裕樹・鈴木新・神松幸弘（地球研）・米倉竜次（岐阜県河川研）・大森浩二（愛媛大・沿岸環境研究センター）・板山朋聡・田中伸幸（環境生態工学研究所）・浅野耕太・白江祐介（京都大・院・人間・環境）・奥田昇（京都大・生態学研究センター）・川端善一郎（地球研）

S13 利用と保全の調和を図る国際制度としてのユネスコ MAB（人間と生物圏）計画：日本の環境保全戦略への活用

企画者：酒井暁子（MAB 計画委員会事務局／横国環境情報）、松田裕之（MAB 計画委員長／横国環境情報）

ユネスコは「人間と生物圏（MAB）」計画の柱として「生物圏保存地域（Biosphere Reserve; BR）」の指定を行っている。BR は世界遺産と一見似ているが、主目的は自然の持続的利用を通じた文化的多様性の維持や地域社会の発展である。このコンセプトは「生物多様性の第2の危機」に対処する上で極めて有効である。また屋久島など日本の世界遺産は利用と保全の調和を図る取り組みが評価され、むしろ MAB に相応しい地域である。

日本 MAB 計画委員会は文科省や地域行政等と協議しながら新規登録を目指している。景観レベルでの良好な生態系が対象であること、モニタリングや基礎研究が必要となること、さらに現地での環境教育が重視されることから、生態学者の幅広い関与が必要である。

そこで本企画を通じ、ユネスコ MAB 計画と BR について生態学者に周知を図りたい。また新規登録を目指している地域や東アジア地域の取り組みを紹介し、活用の方向性などの議論を行う。

司会：鈴木邦雄（MAB 国内委員会主査／横浜国大）

S13-1 イントロダクション：MAB と生物圏保存地域

松田裕之、酒井暁子（横浜国大・環境情報）

S13-2 南アルプスの自然と MAB 生物圏保存地域

増沢武弘（静岡大・理）

S13-3 Living harmoniously with man and nature systems in Shinan Dadohae Biosphere Reserve

洪善基（韓国・木浦大学・島嶼文化）

S13-4 Development of the Man and the Biosphere (MAB) Programme in Asia - main achievements and lessons learnt

Qunli HAN (UNESCO Tehran)

S13-5 里山の新たな保全制度としての MAB 生物圏保存地域の可能性

大澤雅彦（日本自然保護協会）

S13-6 コメント：屋久島における MAB 生物圏保存地域と世界自然遺産との関係

羽伊佐幸宏（環境省・自然環境局）

S13-7 コメント：MAB 計画と ESD（持続発展教育）

浅井孝司（文部科学省・国際課）

S14 新世代遺伝手法が拓く生態学

企画者：田中健太（筑波大・菅平セ）、清水健太郎（チューリッヒ大）

次世代 DNA シーケンサーや、マイクロアレイを応用した大量ジェノタイピング法など、遺伝学的手法は近年めざましい発展を遂げている。それと歩みを並べて、これまではモデル生物でしかできなかった遺伝学

的解析が、もっと分類学的に多様な、生態学に「おもしろい」種でも行われるようになってきた。生態学的な相互作用や生態系の挙動を遺伝子のレベルで理解する試みも増えており、生態学・進化生物学の中でも急成長中の研究分野となっている。これらの新手法とその応用例を紹介し、その生態学における可能性を探ることがこのシンポジウムの目的である。

はじめに清水が新世代遺伝手法の歴史的背景と意義を紹介する。次に森長氏が、エコタイプ分化や形態分化に、ゲノム変異と遺伝子発現を対象としたマイクロアレイを役立てた例、北野氏が、種分化に重要な遺伝子や適応に効いている遺伝子の解析に SNP アレイと次世代シーケンサーを活用した例を示す。津田氏は、次世代シーケンサーで微生物群集の変動を調べ、さらに機能遺伝子の変動様式を研究した例を紹介する。西村氏は、手法から目標に向かうトンネルの出口側から、表現型可塑性という生物学的目標へのアプローチがアレイなどの新手法によってどう変わりうるのかを論じる。これらの話題を田中が振り返り、新世代遺伝手法が、生態学の何に、どんな場合に活かせるかの総括らしきものを試みる。最後に十分な時間を取り、新世代遺伝手法の可能性と制約について会場との間で活発な討論を行いたい。

S14-1 新世代遺伝手法の歴史的背景と進化学・生態学へのインパクト

清水健太郎（チューリッヒ大）

S14-2 シロイヌナズナ近縁種の適応的「分化」：遺伝子発現アレイとゲノム多型アレイ

森長真一（東大・総合文化）

S14-3 トゲウオの種分化と適応の遺伝子：SNP アレイから次世代シーケンサーまで

北野潤（東北大・院生命科学）

S14-4 有害化学物質汚染土壌における微生物集団のメタゲノム解析

津田雅孝（東北大・院生命科学）

S14-5 『融合』か『手法の導入』か？表現型可塑性の進化生態学が新しい遺伝的手法に会う。

西村欣也（北大・水産）

S14-6 新世代遺伝手法を生態学にどう活かす？

田中健太（筑波大・菅平セ）

シンポジウム

3月19日 9:00-12:00

会場 E会場

S15 開花フェノロジー研究のスケールアップアプローチ：分子から景観まで

企画者：工藤洋，工藤岳

フェノロジーは、ダイナミックに変動する環境から生物がシグナルを受容し、活動のタイミングを決定するプロセスである。フェノロジーはその生物の生長や繁殖成功を決定する主要因となる一方で、実際の適応度は生物が活動をおこなう状況に応じて変化する。このシンポジウムは、植物の開花フェノロジーに着目し、様々なスケールにおける最近の研究の進展が概観できるよう、以下の2点に重点を置いて企画した。そして、今後のフェノロジー研究の展望となるような総合討論をめざす。

1. 分子レベルからみたフェノロジー：複雑な環境変動の中で、いかにしてフェノロジーの調節がなされているかを理解しようとする研究が進みつつある。温帯、熱帯の自然生態系と農業生態系における、フェノロジー調節の分子基盤とそれに基づくフェノロジーの予測可能性を探る。

2. 景観レベルでの生物相互作用のフェノロジー：生態系の基本骨格を構成する植物群集のフェノロジー構造は、生態系の構造と機能の関係を明らかにする上で大変重要である。気候的な季節性が極めて明瞭な高山生態系と、希薄かつ非予測的な熱帯多雨林生態系での研究から、植物群集の開花フェノロジーが生物間相互作用にもたらす効果を紹介し、フェノロジー研究のスケールアップの方向性を探る。

- S15-1 自然条件下における遺伝子機能解析：複雑に変動する気温と季節調節
工藤洋（京大）
- S15-2 一斉開花現象への遺伝子からのアプローチ
小林正樹（チューリヒ大）
- S15-3 農業生態系におけるフェノロジー調節の遺伝子－環境相互作用モデルによる理解
中川博視（石川県大）
- S15-4 ランドスケープフェノロジーの生態的重要性
工藤岳（北大）
- S15-5 高山生態系のフェノロジー傾度と送粉系を巡る種間競争
川合由加（北大）
- S15-6 一斉開花の森にみる植物－動物相互作用
* 酒井章子（地球研），鮫島弘光（京大）

シンポジウム 3月19日 9:00-12:00 会場 F会場

S16 農村における生物多様性モニタリング ー多様な主体の参画による共通基盤の確立に向けてー

企画者：山本勝利（農環研），日鷹一雅（愛媛大・農・農山漁村），嶺田拓也（農研機構・農工研）

我が国の生物多様性は、永年の人間活動の影響を受けた農村の二次的自然に依拠してきたが、農林水産業や社会環境の変化により急激に変容し、保全への危機感が高まっている。こうした中、農林水産省生物多様性戦略、第3次生物多様性国家戦略、SATOYAMA イニシアティブなど、農林水産業に関わる生物多様性の保全が国民的課題となりつつある。現状では、行政、研究者、生産者、市民、NPOなどの多様な主体が各目的に応じて独自に生物多様性モニタリングを進めており、科学的リテラシーに沿う全国的基盤の確立には至っていない。農村生物多様性とその変容の評価には、多様な主体による手法や成果を的確に統合し、相互に検討することが重要であろう。本集会では、農村の生物多様性モニタリングの現場に携わる者が、様々な主体による生物多様性モニタリングについて自己評価方式で紹介し合う。各事業の目的に則しつつも、それらの成果を相互に活かすために最低限具備すべき共通基盤を具体的に見出すことを目的とする。有識者からのコメントも予定している。

- S16-1 Estimating the distribution of high nature value farmland in Europe – integrating land cover and biodiversity datasets
Ybele Hoogeveen (EEA)
- S16-2 我が国農村における生物多様性情報の現状と課題
山本勝利（農環研）
- S16-3 農水省プロジェクト研究「農業に有用な生物多様性の指標および評価手法の開発」の概要
田中幸一（農環研）
- S16-4 農林水産省・環境省連携 「田んぼの生きもの調査」
* 坂根 勇，守山拓弥（農村環境整備センター）

S16-5 市民で行う全国規模の里やま生物多様性健康診断並～モニタリング 1000 の取り組み
* 高川晋一, 福田真由子, 廣瀬光子 (日本自然保護協会)

S16-6 NPO が主体となった「田んぼの生きもの調査」の現状とその課題
* 嶺田拓也 (農研機構), 原耕造 (BASC)

S16-7 科学的リテラシーと暮らし感覚を兼備した集落生物多様性評価の共通基盤に向けて
* 日鷹一雅 (愛媛大・農), 西田貴明 (三菱 UFJ)

シンポジウム 3月19日 9:00-12:00 会場 G会場

S17 トキの野生復帰を実現する自然再生シナリオをつくる

企画者：関島恒夫 (新潟大・院・自然研), 河口洋一 (徳島大・院・工)

平成 20 年 9 月 25 日、新潟県佐渡島において、わが国で一度野生絶滅したトキが再定着に向けて放鳥され、引き続き平成 21 年 9 月 29 日に 2 次放鳥が実施された。平成 20 年に佐渡島に再導入された 1 次放鳥のトキは、環境省が定着を期待し、生息環境整備が進められてきた小佐渡東部地域にはほとんど居着かず、放鳥後まもなく佐渡島内を広域に分散するようになった。われわれはトキが小佐渡東部地域から将来的には域外に分散することを予め想定し、2007 年に環境省地球環境研究総合推進費の助成による「トキの島再生研究プロジェクト」を発足し、佐渡島全域を視野に入れ、餌生物量およびトキの生態特性に基づく自然再生シナリオを立案する取り組みを進めてきた。さらに、再生シナリオに沿った生息環境整備を速やかに達成するために、トキの生息環境となる農地・河川を対象として、関連機関との連携体制の強化に取り組んできた。本シンポジウムでは、トキの野生復帰を実現するために実施してきた一連の研究成果および体制強化の取り組みを紹介する。

コメンテーター：

藤岡正博 (筑波大・院・生命環境)

S17-1 佐渡のデータベースをつくる
三谷泰浩 (九大・院・工)

S17-2 景観レベルからみた再生候補地の抽出
宮下直 (東大・院・生物多様性)

S17-3 河川と農地の再生技術
河口洋一 (徳島大・院・工)

S17-4 水田生態系の生物多様性はどのように決まる？
武山智博 (新潟大・院・自然科学)

S17-5 佐渡において放鳥されたトキの餌メニューとハビタット選択
永田尚志 (新潟大・超域)

S17-6 自然再生を実現する体制をつくる
関島恒夫 (新潟大・院・自然研)

S18 Effects of ants and termites in ecosystem process and biodiversity

Organizers : Mizue Ohashi (University of Hyogo), Seiki Yamane (Kagoshima University), Takao Itioka (Kyoto University)

Ants and termites have various interactions with biotic and abiotic process in ecosystems because of their eusocial behaviors. Clarification of their ecological impacts could be a key for understanding complicate structure of ecosystems. Here, we aimed to introduce international studies of impacts of ants and termites on animal mutualisms, element dynamics and biodiversity.

S18-1 Effects of interspecific variation in myrmecophytic traits among *Macaranga* plants on the diversity of herbivore

*T. Itioka, T. Okubo, K. Shimizu, M. Nomura (Kyoto University)

S18-2 Wood ants (*Formica* s. str.) and aphids affect tree growth in Eurasian boreal forests
J. Kilpelainen (Finnish Forest Research Institute)

S18-3 Ant-aphid-tree interactions in boreal forests: cascading effects on carbon and nitrogen fluxes and biodiversity

T. Domisch (Finnish Forest Research Institute)

S18-4 Effects of ants and termites on hot spots of soil respiration in Asian tropics
M. Ohashi (University of Hyogo)

S18-5 Termites and carbon cycling
A. Yamada (Kyoto University)

S18-6 The effect of ants on the biodiversity of arthropod communities
P. Niemela (University of Turku)

S18-7 Diversity of ants in Asia
Sk. Yamane (Kagoshima University)

S18-8 Effects of ants on canopy structure of tropical rainforests

*H. O. Tanaka (Kyoto University) , S. Yamane (Kagoshima Univ.) , Y. Inui (Osaka Kyoiku Univ.) , T. Itioka (Kyoto Univ.)

S18-9 The role of *Formica exsecta* (Nyl.) on vegetation and seed bank patterns

*M. Schuetz, A. C. Risch (Swiss Federal Institute for Forest, Snow and Landscape Research)

S19 森林群集の形成メカニズム ～プロットベースから 景観・地理的スケールまで～

企画者：正木隆（森林総研）

日本ではこの20年間、数haのプロットを利用して森林群集の構造や動態の研究がおこなわれてきた。しかし、成熟林が変化するスピードはあまりに遅く、また群集形成のキーとなる自然攪乱もきわめて稀であり、

データはまだ不十分である。それに比べて、研究をとりまく情勢の変化速度は早く、研究のホットトピックや要求されるアウトプットは常に変化し、従来の研究スケールでは対処できなくなりつつある。

空間スケールの観点からは、たとえば生物多様性については今や全球レベルでの保全が関心の対象になっている。時間スケールの観点からは、たとえば気候変動が100年単位のスケールで森林構造・動態におよぼす影響が注目されている。確かにプロットベースでの森林研究は、単体での時空間スケールは小さいが、樹木の基本的な生態を定量的に示すための有効な手法であることには変わりはない。したがって、従来の研究資産をもとに、ネットワーク化や他の手法の援用によってスケールを拡張することが現実的かつ効果的であると考えている。

このシンポジウムでは、数haのプロットから景観、全国スケールまでの空間を対象に、森林群集の動態メカニズムを研究した例を紹介する。そしてプロット研究の拡張性や、より効果的な研究アプローチなどについて議論を深めたい。

S19-1 プロットデータに基づく樹木個体群動態の種間比較 ～散布カーネルの推定とマトリクスモデル～
正木隆（森林総研）、柴田銃江（森林総研）、直江将司（京大・生態セ）

S19-2 景観スケールにおける樹木の絶滅確率予測
* 石田敏（東北大）、中静透（東北大）

S19-3 樹木の肥大成長と気候変動 ～地理的クライン検出の試み～
中川弥智子（名大）

フォーラム 3月15日 15:00-17:00 会場 A会場

U01 高校生物の教科書が大きく変わる一次期学習指導要領への取り組み

主催：生態学教育専門委員会 嶋田正和（東大・総合文化・広域）

高校教科書の次期学習指導要領とその解説が公開になり、さまざまな反響を呼んでいる。「生物基礎」（2単位）と「生物」（4単位）に分かれ、「生物基礎」では冒頭で「生物の特徴－生物の共通性と多様性」を教える。これには「共通性は起源の共有に由来することを扱う」と解説があり、進化系統の視点が導入の基本に据えられている。科学的リテラシーへの対応と現代化のために分子生物学入門（生物の共通性を学ぶ）の内容が大項目1に、健康への理解のために生物の体内環境の維持が大項目2に、また環境への理解のために生物の多様性と生態系が大項目3にそれぞれ位置している。ここでは生態系保全が前面に出ている。このように、高校生の85%が履修する「生物基礎」は大きく変化した。そして、同じ分野のより高度な内容がスパイラル学習として「生物」で取り上げられる。行動ならば神経行動学、生態ならば生物多様性の3要素と絶滅リスク増加要因など、進化ならば分子系統樹が前面に出てくる。

このような大変革への取り組みを探りたい。

- ・ 演者（所属） / 講演タイトル
嶋田正和（東大・総合文化）
「はじめに－企画趣旨の説明」
松浦克美（首都大東京・生命科学）
「生物学の進展を踏まえた再構成と重点の変更」
高校現場で1名（都生研の教員にお願いする予定）
「教育現場からの取り組み」
中井咲織（立命館宇治中学・高等学校）
「変わろう、変わらないために」

総合討論

コメンテーター1名

フォーラム

3月19日 13:00-15:00

会場 A会場

U02 若手のための学位取得後のキャリア支援

主催：将来計画専門委員会 半場祐子（京都工芸繊維大）、可知直毅（首都大学東京）

将来計画専門委員会では、生態学分野の若手研究者支援や男女共同参画に生態学会としていかに貢献できるかについて検討してきました。2009年にはグローバルCOEの中で実施中の、博士課程修了者やポストドクのキャリア支援事業の紹介と、ノンアカデミックなキャリアパスの会員による話題提供をとおして、生態学分野での若手の活躍の場の将来性と可能性について考えました。

今回のフォーラムでは、大学の助教や国立研究所のポストドクなど、学位取得後の多くの若手が希望している就職先をめざすにあたって、採用する側は応募者のどのような点を評価しているのか、より具体的な情報を提供することを予定しています。それと同時に、若手研究者の問題を幅広く扱っているNPO法人サイエンスコミュニケーションの方より、若手支援の立場から就職をめざす若手研究者へのアドバイスをいただきたいと考えています。

将来のキャリア形成について情報を求めている若手会員、若手支援について関心のある会員の参加を期待します。

助教の採用プロセス：何が評価されるのか

可知直毅（首都大東京／将来計画専門委員長）

ポストドクの採用プロセスとポストドク後のキャリアの分かれ道

高村典子（国立環境研・室長）

若手研究者のキャリア問題：危機をチャンスに

榎木英介（NPO法人サイエンス・コミュニケーション 理事）

フォーラム

3月19日 13:00-15:00

会場 B会場

U03 南西諸島生物多様性地域戦略の策定を目指してー生物生態情報データベースの構築・管理ー

主催：自然保護委員会 久保田康裕（琉球大学）

南西諸島生物多様性地域戦略の策定を目指して
～生物生態情報データベースの構築・管理～

企画者：安村茂樹（WWF ジャパン）・久保田康裕（日本生態学会自然保護委員会）

企画者らは、南西諸島の生物多様性保全を目的とした活動の中で、GIS手法を用いて優先保全地域（BPA）を試行的に抽出した。BPA抽出には、環境省による自然環境保全基礎調査等のデータと研究者・地域有識者からの個々の情報をGISのデータベースとして集約した。GISによる抽出は、客観性と再現性があることから、保護区設定における基礎資料としての活用が期待される。一方、今回の取り組みでは、対象とした地理的領域や生物分類群が広範であったために、データソースの制約やデータ間の精度のばらつきなどの問題が明らかとなり、各地域でのモニタリングを効率的・戦略的に展開する必要性も再認識された。本フォーラムでは、プロジェクトの概要やその背景を参加者と共有した後に、ヤンバルを一例にあげ、より詳細な空間スケールで、個々の研究成果をいかに集約し、予測力のあるモデルを作成するのか、研究の手法や方法論について話題を提供する。そして、南西諸島における生物多様性優先保全地域の保全に向けて、生物生態情報データベースを更新・管理の方法や仕組みを包括した「南西諸島生物多様性地域戦略」の必要性について意見交換したい。

【趣旨説明】南西諸島生物多様性優先保全地域抽出のねらい、手法、抽出結果の紹介
安村茂樹（WWF ジャパン）

島嶼をモデルシステムとした生物多様性分布の定量手法について
久保田康裕（琉球大学理学部）

地域戦略策定や保全管理施策充実に向けた研究成果の活用可能性について
奥田直久（環境省那覇自然環境事務所）

企画集会 3月16日 17:30-19:30 会場 A会場

T01 流域－流程を結ぶランドスケープエコロジー：生態系同士のつながりに着目して

企画者：石川 尚人（京大・生態研）、森 照貴（北大・環境科学院）

河川生態系は近接する陸域生態系との境界が明瞭であるため、生態系同士のつながりを明らかにするのに適しており、陸域と海域をつなぐインターフェイスとして捉えることができる。近年、集水域からの資源流入の質的・量的特性が、河川内部の物質動態だけでなく構成する生物群集にも影響することが明らかになってきた。さらに、陸域と水域だけでなく、上流と下流の間でも生物や物質・エネルギーのやり取りが常に存在し、その速度は非常に速い。このように、陸域－水域だけでなく上流－下流を含む集水域全体で生物群集や物質・エネルギーの動態を解明するためには、多角的なアプローチを要する。そこで本企画集会では、流域（陸域－水域）と流程（上流－下流）で見られる生態系同士のつながりに着目した研究を、生物群集と物質循環の観点から紹介する。ここから、単一スケールでは理解し得なかった、集水域生態系のつながりを明らかにすることを目的とする。4人の若手演者による各講演では、最新の生態系解析手法と研究成果を紹介しつつ、河川生態学の現在と将来的な展望を議論する。

趣旨説明、司会：石川 尚人（京大・生態研）、森 照貴（北大・環境科学院）
コメンテーター：土居 秀幸（University Oldenburg）

T01-1 森林と河川とのつながり：有機物、栄養塩の移動と水生生物群集との関係
河内 香織（埼玉大学理工学研究科）

T01-2 植物－土壌と溪流とのつながり：人工林伐採攪乱とその回復過程に着目して
福島 慶太郎（京大フィールド研）

T01-3 上流と下流とのつながり：流下過程における栄養塩動態
*谷尾 陽一（京大農）、大手 信人（東大農）、福島 慶太郎（京大フィールド研）

T01-4 流域と流程とのつながり：集水域景観と食物網構造の流程変化に着目して
石川 尚人（京大・生態研）

T01-5 総括
*森 照貴（北大・環境科学院）、石川 尚人（京大・生態研）

T02 なぜ里山に竹林が広がっているのか？竹林が広がると何が起こるのか？ — その生物学的要因と生態系への影響 —

企画者：鈴木重雄，河合洋人，小林 剛

里山の利用停滞や管理放棄が、景観や生態系の構造の大きな変容を招いていると指摘されるようになり久しい。とくに、西日本を中心とした竹林の激増に対し、その面積の拡大や立地条件との関係などが注目されてきている。企画者らは、生態学を含む多分野の研究者により、竹林景観ネットワークを組織し、様々な視点からこの問題に切り込んでいる。しかし、生態学において、分布の拡大に係る大型タケ類の生物学的特性や生態系の機能、生物間相互作用に対する竹林拡大の影響などは、未だ十分に調べられていない。

本集会では、竹林拡大に関する研究を概観した上で、大型タケ類が1)「大型のササ」とみなせるクローナル植物であり、2) モウソウチクのような「最も巨大な外来生物」を含んでいることに注目する。さらに竹林が、3) 荒廃した植生のバイオマスや機能を補償する一方で、4) 植生遷移、生物多様性や生態系の機能を抑制する可能性があることに視点を向ける。これらの話題から、生態学の視野から近年の竹林拡大の原因と結果について議論を深め、今後の竹林の動向、林分の管理技術や里山の保全活動などについて、幅広い分野からの参加者と意見交換をおこない、研究の方向性を探りたい。

T02-1 竹林拡大研究の現状と竹林景観ネットワークの活動

鈴木重雄（立命館大・文）

T02-2 竹林はどのくらい広がっているのか？

大野朋子（大阪府立大・生命環境）

T02-3 ササとタケ・クローナル植物としての拡大特性

宮崎祐子（北大・創成）

T02-4 炭素循環・水文過程を考慮したモウソウチク林の機能評価

小林 剛（香川大・農）

T02-5 イノシシの生息環境としての竹林

安藤誠也（奈良教育大・自然環境教育セ）

T02-6 竹林の利用・管理の現状

谷崎ゆふ（福岡県森林技セ）

T02-7 今後の竹林拡大研究における課題と方向性

河合洋人（岐阜大・流域圏セ）

T03 生活史がもたらす適応進化：生活史戦略と生物の分布パターン

企画者：別所和博（九大・シス生）

生活史とは、生物が一生の中でいつ、どのような特性を示し、それが環境とどのような関係をもつのかをまとめたもので、生物の多様性や複雑性、適応や進化を考える上での基礎になるものである。

それらの生活史特性を生物の環境への適応と進化の結果としてみなす、生活史戦略の研究はこれまで多く行われてきたが、それが実際の野外生物の分布、また気候変動などに伴う環境変動とどのような関連性を持

つかについての検証の試みはまだ多くなされていない。

本集会では、「生活史戦略と生物の分布パターン」を副題とし、生活史特性とその進化適応の中でも、生活史戦略と生物の分布パターンとの関係に着目して、フィールドや理論のそれぞれの側面から研究を行っている方々から、知見を提供していただく。

また、集会の最後にコメンテーターの方に、それまでの内容の総括などをお願いすることを予定している。

T03-1 大型藻類の最適生活環戦略と分布パターン

* 別所和博 (九大・シス生), 巖佐庸 (九大・理)

T03-2 温度反応基準の進化とその制約について

* 山平寿智 (新潟大・理・自然環境)

T03-3 温度-サイズ則の適応的意義を探る

* 入江貴博 (琉大・熱生研)

企画集会

3月16日 17:30-19:30

会場 E会場

T04 メタボリズム理論に基づく水界生態系の動的理解：個体から景観スケールまで

企画者：奥田 昇 (京大・生態研), 岩田 智也 (山梨大・工)

生物の代謝は、体サイズのべき乗則が成り立つ生物学で最も普遍性の高い生命現象の1つである。生理学分野で発展した「代謝のスケールリング則」を個体の上位システムである生物群集や生態系に敷衍することによって、生態プロセスを階層横断的に俯瞰するアプローチがマクロ生態学の新たな潮流を巻き起こしつつある。ここに、水界生態系における物質代謝を個体から景観レベルまでスケールアップすることによって「生態系メタボリズム」という新たな概念を構築し、生物界の全ての階層に通底する代謝理論の統合を試みる。本集会を通じて、複雑なシステムの構造や機能をシンプルな概念で統一的に理解する新しい「生態学の見方」を提案したい。

企画趣旨説明：奥田 昇 (京大・生態研)

コメンテーター：陀安 一郎 (京大・生態研)、占部 城太郎 (東北大・生命)

T04-1 海洋動物プランクトンの代謝活性：グローバルモデルの確立に向けて

西部 裕一郎 (東大・海洋研)

T04-2 湖沼メソコスムにおける生物群集の体サイズ構造とメタボリズム

* 福森 香代子, 酒井 陽一郎, 西松 聖乃, 陀安 一郎, 奥田 昇 (京大・生態研)

T04-3 水系ネットワークと流域代謝速度のアロメトリー

* 岩田 智也, 廣瀬 正也, 伊在 丸洵 (山梨大・工), 芳賀 弘和 (鳥取 大・農), 高津 文人 (国環研)

T04-4 メタボリズム理論を個体群・群集・生態系の理解に活かす

近藤 倫生 (龍谷大・理工, JST さきがけ)

T05 三宅島 2000 年噴火後の生態系の回復過程—巨大噴火に対する陸上生態系の応答—

企画者：上條隆志（筑波大・生命環境）、樋口広芳（東大・農学生命）

火山活動は陸上生態系に最も強いインパクトを与える自然攪乱の一つである。巨大噴火は生物をとりまく環境を激変させ、動植物の局所的な激滅や絶滅を引き起こす。噴火後に、生物の再侵入・再定着を通じて生態系は回復してゆくが、その回復過程には生物間の相互作用や、生物と無機的環境との相互作用が関わってくる。このような噴火後の生態系の回復過程を追跡することは、巨大攪乱に対する陸上生態系の応答を総合的に理解する貴重な機会を与える。伊豆諸島三宅島は2000年に大噴火した。その規模は、数千年に一度といわれるほどのものである。噴火による陥没、火山灰の降下、火山ガスの噴出などの一連の噴火活動により島の陸上生態系は多大な影響を受け、山頂部から中腹部にかけては広大な無植生地も形成された。本企画集会では、噴火後の三宅島の生態系の回復過程、すなわち、噴火という巨大攪乱に対する生態系の長期的な応答を理解することを目指す。そのために、噴火後におこなわれてきた多様な生物群の種構成や豊富さの時間変化に関する研究事例を紹介するとともに、その変化のメカニズムについて議論したい。予定されている6題の講演後、総合討論（司会進行：樋口広芳（東大）、上條隆志（筑波大））とまとめ（上條）を行う。コメントーターは可知直毅（首都大学東京）ほかを予定している。

T05-1 三宅島 2000 年噴火の概要について

樋口広芳（東大・農学生命）

T05-2 空から見た噴火影響と陸上生態系の回復

高橋俊守（宇都宮大・里山科学センター）

T05-3 三宅島火山噴火と土壤微生物生態系の応答

太田寛行（茨城大・農）

T05-4 植生遷移と火山灰堆積地における土壌の初期生成

* 川越みなみ（朝日航洋）、上條隆志、田村憲司（筑波大・生命環境）

T05-5 三宅島噴火による枯死木、腐朽木の増加と、それに伴う穿孔性甲虫、特にカミキリムシ相の変遷

横原寛（森林総合研究所）

T05-6 三宅島 2000 年噴火後の鳥類の生息状況と保全上の問題点

* 加藤和弘、樋口広芳（東大・農学生命）

T06 群集と進化：Evolution in a community context

企画者：内海俊介（ヨエンスー大学）、片山昇（京大・生態研）

群集の中での進化を考えることは、進化についての見方をどのように発展させるだろうか？多種に反応して、または、ある種からの間接効果に反応して生物はどのように進化するのだろうか？

近年、群集研究と進化研究の融合を強く主張する潮流が生まれつつある中で、群集構造に依存した進化（evolution in a community context）に対する関心が高まっている。実際には、群集と進化を結び付ける発想は新しいものではない。たとえば、群集のパターンは種の進化の歴史に強く影響を受けるため、形質置換やニッチ分化など群集と生物進化を結び付ける概念が古くから発展してきた。しかし、2種間の相互作用における進化研究がさかんに行われる一方で、3種以上からなる群集の中での進化の実態に関してはほとんど明らか

にされてこなかった。このことは、群集生態学と進化生物学が乖離して展開されてきたことと無縁ではない。現在、それぞれの理論や研究アプローチの発展によって、改めて群集と進化を結び付けるチャンスが到来し、新たな展開を迎えようとしている。

本集会では、拡散的進化や群集と進化の動態の関わりについて系統学的研究から実験・理論的研究まで幅広い話題を提供する。この研究領域における最新の知見についての議論を通じて、問題点や論点を整理し、今後の展望を探りたい。

T06-1 複数種の加害による選択圧とその応答：量的遺伝学からみた群集と進化
巖圭介（桃山学院大）

T06-2 植食者に働く拡散的な自然選択：インターフェースとしての植物の食害応答
内海俊介（ヨエンスー大学）

T06-3 アリ植物をめぐる生物間相互作用の起源と多様化
* 上田昇平（信大・理），Swee-Peck Quek（ハーバード大・FAS センター），大久保忠浩（京大院・人環），市岡孝朗（京大院・人環），市野隆雄（信大・理）

T06-4 局所的な天敵群集とアリーアブラムシ共生の相互作用
* 片山昇（京大・生態研），仲澤剛史（京大・生態研，台湾大・海洋研）

T06-5 捕食者特異的な防衛適応がギルド内捕食系に与える影響
* 仲澤剛史（京大・生態研，台湾大・海洋研），三木健（台湾大・海洋研），難波利幸（大阪府大・理）

企画集会 3月16日 17:30-19:30 会場 H会場

T07 生態学における数理的手法 2010

企画者：立木 佑弥（九大・シス生）

生態学研究において、数理的手法はこれまでに、大きな貢献をしてきた。

古典的な個体群動態の記述から発展した進化ダイナミクスの研究は、様々な拡張を経て、現在進化生態学の基本的な理論体系を作り上げている。また、空間情報を取り入れた数理モデルの開発は情報科学の発展と相まって、野外で観察される森林動態の把握や、地理情報を用いた生物の分布の把握まで様々な応用されている。遺伝子ネットワークの研究に関しては近年の分子生物学の隆盛を反映し、遺伝子発現のみならず形態や行動を考察できるまでに達している。これらの数理的手法は今後も、生態学研究に貢献していく事が期待できる。

本企画集会では、数理的手法の今後の発展について議論する事を目的とする。具体的には、3名の講演者にそれぞれの研究について発表していただき、講演者が用いている数理的手法の生態学研究への貢献を述べていただく。その後、総括として、講演者と参加者で総合討論を行う。

コメンテータ：巖佐 庸（九大・理）

T07-1 環境の非一様性と時空間分布
重定 南奈子（同志社大・文化情報）

T07-2 ワーカーポリシングの新たな説明：最適資源配分戦略の観点から
* 大槻 久（JST，東工大・社会理工），辻 和希（琉球大・農）

T07-3 花成制御の数理モデル：遺伝子発現制御と貯蔵資源動態
佐竹 暁子（北大，JST さきがけ）

T08 微生物群集と生態系をむすぶ：微生物多様性と生態系の多様性の視点から

企画者：三木健（台湾大・海洋研），中野伸一（京都大・生態研セ），松井一彰（近畿大・理工）

生態系の機能の理解をめざす生態学者と微生物生態学者の間の協力関係は十分ではない。従来、多くの生態学的研究では、微生物群集を一定の機能が保証されたブラックボックスとして扱い、主に植物や動物の担う機能に注目してきた。一方微生物生態学では、微生物種レベルでの機能の多様性についての知見を蓄積しながらも、微生物と生態系の他の部分との関わりについては理解を進めてこなかった。このため、生態系維持にとって不可欠な機能を担う微生物群集における遺伝子や種の多様性が、生態系の多様性にどのように寄与しているかについての理解が進んでいない。

そこで本企画集会では、生態学者と微生物生態学者の協力関係促進のため、微生物の多様性情報の共有化に向けた微生物生態学会の取り組みについて紹介する（講演1・2）。次に、微生物の多様性及び微生物群集と生態系の多様性の関係の理解を進めるため、大きく様相の異なる二つの生態系（海洋・森林土壌）それぞれにおける微生物の役割について紹介する（講演3・4）。最後に、企画集会「微生物学生態学者から学ぶ方法論」との連携のもと、総合討論を行う。微生物の多様性情報を生態系の多様性の理解に活用していくための方法について、生態学・微生物生態学それぞれに特有な概念を整理し、今後の共通課題をさぐる。以上により、生態学者と微生物生態学者の交流を促進し、我が国における「生態系・生物多様性研究のネットワーク化」への寄与をめざしたい。

T08-1 ICoMM および COP10 での微生物生態学者の取り組みの紹介

木暮一啓（東京大・海洋研）

T08-2 微生物生態系の研究におけるデータベースの役割

山本啓之（JAMSTEC）

T08-3 海洋生態系における微生物の役割：微生物海洋学への展望

浜崎恒二（東京大・海洋研）

T08-4 土壌微生物群集と樹木群集の相互作用：レビューと実証

* 潮雅之（京都大・生態研セ），北山兼弘（京都大・農）

T09 博物館の生態学6 ～視覚と体験で伝える生態学の理論～

企画者：鈴木まほろ（岩手県立博物館），三橋弘宗（兵庫県立人と自然博），畑田彩（京都外大）

生態学は、私達の日常の感覚ではとらえきれない事象を多く扱っています。長い時間のかかる変化、広い空間変異、複雑な種間関係、偶然に支配された確率的事象など、いずれも直感的には理解しにくいものです。

こうした現象を扱う生態学の理論や研究成果を、子どもや一般の大人、学生たちに説明し、理解してもらうこと。それが難しい作業であると感じたことのない生態学者は、ほとんどいないでしょう。博物館・科学館などの社会教育施設に限らず、多くの専門家が、授業や研究成果の公開などで日常的にこの課題に直面しています。今後、環境保全に関わる行政計画や事業の実施にあたって、生態学者が一般の人に対して「分かりやすく」生態系のしくみを説明する機会もますます増えてくるでしょう。

目に見えない現象や論理を分かりやすく伝えるには、図やアニメーションを使った「ロジックの視覚化」が効果的であることを、私達は経験的によく知っています。海外の博物館では、演劇的な手法や演示（実験ショーなど）を通じて生態学の理論を説明する手法の開発が進められており、研究領域の一つともなっています。

本集会では、話題提供として下記の2つの具体的な実践例を紹介していただきます。また、博物館における生態学理論の解説演示例を、動画でご覧いただけます。これらの実践例をもとに、会場の皆様からコメントをいただき、生態学理論の視覚化について、議論と理解を深めたいと思います。

コメンテータ：中田兼介氏（東京経済大学）

T09-1 生態学をテーマとした新しい展示室 —遊べばわかる個体群から競争、進化、群集、保全まで
* 石田惣，佐久間大輔，和田岳（大阪市立自然史博）

T09-2 河川生態のフィールド体験とメディア体験
吉富友恭（東京学芸大）

企画集会 3月16日 17:30-19:30 会場 K会場

T10 熱帯林生態系における生物地球化学的研究の展開

企画者：北山兼弘（京大・農・森林生態），和穎朗太（農環研・物質循環）

生物地球化学という比較的新しい研究分野では、陸域生態系は、独立栄養生物（植物）・土壌・従属栄養生物（微生物・動物）の間の生元素（炭素、窒素、リン等）循環系として捉えられ、系を特徴づけるプロセス研究が重要視される。この学問の進展により、従来の植生と立地条件といった静的、記載的な対応関係の把握から、土壌風化、貧栄養化、生物の適応といったプロセスを考慮した動的な生態系理解へと、発展しつつある。

熱帯降雨林生態系を対象とした多くの研究は、生物学的側面のものが多く、その著しい生物多様性や高い生産性を支配する地球化学的な要因や、土壌を含めた生態系動態の研究は非常に少ないのが現状である。我々は、生物地球化学の理論や研究手法を取り入れることで、熱帯林生態系の理解は大きく深化する可能性があると考えます。また、温暖化や土地利用問題に起因する環境変動に対する熱帯林生態系の応答を予測し、管理・保全に役立てるためにも、生物地球化学的アプローチは必須であろう。

この企画集会では、ボルネオ島の多様な熱帯林生態系を例に、近年の研究展開を紹介し、熱帯林生態系の今後の研究展開について参加者と議論することを目的とする。

T10-1 趣旨説明
北山兼弘（京大・農）

T10-2 生物に適応を迫る土壌プロセス
和穎朗太（農環研）

T10-3 生態系の地上-地下プロファイルに沿った CNP 分布の非対称性からみた低地熱帯降雨林
* 今井伸夫（京大・農），Titin J（Forest Research Center, Sabah），北山兼弘（京大・農）

T10-4 熱帯降雨林土壌における微生物活性のリン律速
喜多智（京大・農）

T10-5 リン利用効率からみた熱帯降雨林の空間変異
* 日高周（京大・農）・北山兼弘（京大・農）

T10-6 ボルネオ熱帯林における土壌の栄養塩利用環境の違いと植物の適応
宮本和樹（森林総研四国）

T11 伊豆諸島の生物地理と生物間相互作用

企画者：水澤玲子，阿部晴恵，長谷川雅美

地球上には無数の島があり、それぞれ形、大きさ、隔離の程度や生態系など多種多様である。そのため島は進化仮説の検証研究において、十分な繰り返しを得ることのできる天然の実験場として古くから重宝されてきた。しかし、大陸地殻そのものがプレート運動による海洋島・海底堆積物の付加作用によって形成されたことを考えれば、島における生物進化は単なる局所的ケーススタディ以上の意味を持つと考えられる。さらに近年の分子系統学的アプローチから、島から大陸へのリバースコロナイゼーションが思いのほか頻繁に生じていることが明らかになり始めたことで、「島における生物進化は大陸の生物相に影響しうる重要な現象である」という認識が広がりつつある。

伊豆諸島は太平洋プレートの沈み込み帯に沿って、フィリピン海プレート上に形成された海洋島であり、現在本州の一部となっている伊豆半島は50-70万年前にフィリピン海プレートの北上によって古伊豆諸島の一部が本州に衝突して形成されたものである。伊豆諸島で分化したあと本土に渡り戻したと考えられる動植物も報告されており、島と本土の生物群集の接触およびその後の群集動態を追及する上で貴重な観察の機会を与えてくれる。

本企画集会では伊豆諸島におけるフロラ研究からの知見、および近年の分子遺伝学的研究からの知見を紹介し、伊豆諸島をモデル系とした島嶼生態学研究の展望について議論を深めたい。

T11-1 オカダトカゲはどこから来たのか？－Plestiodon 属の系統関係から分かったこと－
Matthew C. Brandley (Yale univ.)・栗山武夫 (東邦大)

T11-2 伊豆諸島の植生とフロラ
上條隆志 (筑波大)

T11-3 伊豆諸島産アカネズミにおけるクルミ食の島嶼間変異
武智怜奈 (首都大)

T11-4 伊豆諸島に分布するオオシマザクラの分子系統地理
加藤珠理 (森林総研)・岩田洋佳 (中央農研)・津村義彦 (森林総研)・向井讓 (岐阜大)

T11-5 伊豆諸島の植物の遺伝構造
津村義彦 (森林総研)

T12 カワウの食害と対策

企画者：新妻靖章 (名城大)，箱山 洋 (中央水研)

カワウ *Phalacrocorax carbo* は、南アメリカを除く北緯72度から南緯47度の範囲で世界に広く分布する魚食性の鳥である。ヨーロッパでは、1980年代よりその個体数が増加しはじめ、各地で内水面漁業への被害が問題となりはじめた。国内では、1990年代以降、各地でカワウの個体数と分布域が激増し、ヨーロッパと同様に内水面漁業への食害が多く現れはじめたとされている。

これまでに、内水面漁業へのカワウ食害に関連して、カワウの食性について研究があり、餌生物の獲得に関する運動能力が高いとされている。また、カワウ被害を防除するため、漁場保護・追い払い・繁殖抑制・駆除などの対策がとられたが、いまだに解決していない。カワウは外来種ではないため、食害があるからといって根絶やしにすることは許されないため、個体数の持続性について十分に考慮したカワウ管理手法が必

要とされている。上述したように、様々なカワウ被害防除が行われてきたが、国内では科学的な根拠に基づいて行われた例は少ない。

本企画では、これまでのカワウ被害防除において欠けていた、科学的な知見について、カワウの食害対策を行う上で必要なカワウの採食行動の特性、個体群管理を行う上で必要なカワウの繁殖の特性、個体群管理に関するモデルについて、最新の研究を紹介し、カワウの漁業被害の防除について検討したい。

コメンテーター 綿貫豊（北海道大学）、高木憲太郎（バード・リサーチ）

T12-1 異なる環境を利用するカワウの繁殖成功

* 新妻靖章（名城大）、井上裕紀子（北大院水産）、藤井英紀（名大院環境）

T12-2 カワウのねぐらと餌場の季節移動

日野輝明（森林総研）

T12-3 データロガーによって調べたカワウの採餌生態

佐藤克文（東大海洋研）

T12-4 放流アユはカワウにとって重要か

藤岡正博（筑波大）

T12-5 カワウ食害対策と個体群維持：ハザードマップと個体群モデル

箱山 洋（中央水研）

企画集会 3月18日 15:15-17:15 会場 C会場

T13 「関わり」からみる保全生態学 ～水田地帯の魚類をめぐる若手研究者の保全研究・活動の展開～

企画者：金尾滋史（多賀町博 / 滋賀県大院）、田代優秋（徳島大・院・工）、富田涼都（東大・院・農学生命）

近年、全国各地で自然再生・保全の活動が実施され、生態学会でも盛んに議論がなされている。とりわけ、水田地帯における生物群集の保全・再生は第3次生物多様性国家戦略でも中核をなし、今や国家レベルから集落、個人レベルまで様々なスケールで事業が実施・展開されている。ところが、保全側と地域住民の対立や希少種の無配慮な放流、活動が長続きしないなど、課題も多い。

保全をより本質的かつ効果的に進めるには、調査研究を通じて生物間や周辺環境との「関わり」を知るだけでなく、実践に向けて行政や地域住民と生物との望ましい「関わり」方を模索するための取り組みや手法、さらには、実際に保全を効果的に行うための専門家や行政、NPO、地域住民といった異なる主体の「協同・連携」といった「関わり」のあり方を理解することも必要だろう。

そこで、本企画集会では水田地帯に生息する魚類の保全を対象として、現場に基づいた「ヒト・モノ・ココロ」の視点で地域に還元できる研究と地域での保全活動の関わりに向けた議論を展開したい。本集会の演者はそれぞれ専門分野・学会での研究活動のみならず、実際に各地域での保全活動に中心的に関わっている先鋭の若手研究者である。現場に立ち、地域住民・行政とともに保全活動に歩む中での成果や悩みなど、研究と保全活動との関係にも焦点を当てた多面的な実践報告を通じて、今後の保全へのシナリオを築いていきたい。

T13-1 生理・生態学的研究からみる魚類の水田への適応と成果の実践的応用 ～アユモドキを事例に～
阿部司（岡山大・院・理）

T13-2 遺伝的多様性からみるホトケドジョウの生息状況と個体群保全
相木寛史（日大・院・生物資源）

T13-3 GISを用いた水田域魚類の現実的な“保全工学”：絶滅危惧種カワバタモロコを例として
田代優秋（徳島大・院・工）

T13-4 水田生態工学の成果を行政に活かす方法とは？
守山拓弥（農環センター）

T13-5 地域における水田利用魚類の価値を伝えるツール ～ご当地田んぼの生き物図鑑作成のねらい～
金尾滋史（多賀町博 / 滋賀県大院）

T13-6 研究者は「なぜ」・「どうやって」地域に入るのか？ ～「関わり」からみる保全研究・活動～
富田涼都（東大・院・農学生命）

企画集会 3月18日 15:15-17:15 会場 D会場

T14 共進化生態学の新天地を求めて

企画者：東樹宏和（産総研）

せめぎ合い、たすけ合い、進化する。生物にとって、他の種、他の個体とは、最も劇的に変動する環境の一つであり、それに対応するための自然選択が常に働いている。その意味で、生物群集は「共進化のネットワーク」としての側面を持っており、共進化の過程を生物群集の動態と結びつけることこそが、今後の生態学における大きな課題となるであろう。

日本という国は、高い生物多様性とその豊富な博物学的知見を誇り、多様な環境に置かれた生物の局所群集が、島嶼という形で互いにある程度隔離されて存在している。こうした特色は、メタ群集における生物間相互作用を解き明かす上で理想的なものであり、この地の利を活かせば、共進化の進化生態学において重要な議論を世界に向けて発信していくことができるであろう。

本集会では、共進化を題材に、概念的な面と実証面で活躍している国内研究者のこれまでの発見を深く理解するとともに、「こんな課題を今後つきつめていけばおもしろいのでは」という討論を通じて、研究者コミュニティを鼓舞することを目論んでいる。講演を行う3名の実証研究者は、軍拡競走（東樹）、相利共生（川北）、種間競争（千葉）が関連する共進化研究で、日本発のモデル系を対象に独創的なアプローチで仮説検証を行ってきた経緯を紹介する。また、（共）進化過程を考慮したメタ群集の動態を精力的に考察している若手の理論研究者（山口）を巻き込んだ議論を展開し、「日本を共進化研究のホットスポット」にするための戦略を練りたい。

T14-1 趣旨説明
東樹宏和（産総研）

T14-2 「軍拡競走の曙、そして、落日： 共進化のモデル系としてのゾウムシツバキ相互作用」
東樹宏和（産総研）

T14-3 「絶対送粉共生系は種多様化を促すのか？： コミカンソウ科一ハナホソガ属共生系の起源と進化」
川北篤（京大）

T14-4 「メタ群集における共進化と食物網構造： 多種の捕食一被食群集モデル」
* 山口和香子（東北大）、大野ゆかり（東北大）、近藤倫生（龍谷大）、河田雅圭（東北大）

T14-5 「競争種間の共進化と生物群集： 小笠原の陸産貝類をモデル系として」
千葉聡（東北大）

企画集会

3月18日 15:15-17:15

会場 E会場

T15 生態系サービスの総合的な指標化

企画者：山形 与志樹（国環研）、伊藤 昭彦（国環研）、安立 美奈子（国環研）

生態系が人間社会にもたらす様々な便益、すなわち「生態系サービス」の概念は広く定着しているが、それを客観的かつ定量的な指標で表す方法は確立していない。生態系サービスには数多くの種類があり、ステークホルダーも異なるため、一般には総合的な指標化は難しい。しかし、気候変動や森林破壊によって、グローバルスケールで生物多様性が失われ、炭素ストックが低下しようとしている現在、生態系の保全と管理の指針を定める上で、生態系サービスの指標を確立すべき時期に来たと言える。本企画集会では、ポスト京都にむけた森林炭素モニタリングに関する GEO（地球観測に関する政府間会合）の最新の取組みや、生物多様性の 2010 年目標の改定などの陸域生態系に関する国際環境条約における最新の目標設定やモニタリングに関する動向も踏まえつつ、生態系サービスの総合的な指標化に関する議論を深めることを目的としている。

T15-1 温暖化と生物多様性の共通指標は可能か

山形 与志樹（国環研）

T15-2 バイオマス・生産力と多様性指標

甲山 隆司（北大）

T15-3 PlotNet を用いた森林の質を図る指標の試み

清野 達之（筑波大）

T15-4 モデルによる生態系指標のマッピング

伊藤 昭彦（国環研）

企画集会

3月18日 15:15-17:15

会場 F会場

T16 フェノロジー研究会「気候変動とフェノロジー」

企画者：大野啓一（千葉県立中央博物館）、久米 篤（九大・農院・北海道演習林）

温暖化などの気候変動に対する生物の反応の中で、フェノロジーの変化は最も顕在化しやすく観測しやすい現象である。日本は世界的にみてもフェノロジーが古くから正確に記録されてきた国であり、一般社会の関心も高い。しかし、生態学におけるフェノロジーと気候変動との関連づけには、研究目的と方法の両面で課題も多い。気候変化とフェノロジー変化をより高次で広域な生態的現象（ex. 植生帯の移動・変容など）とどのように関連づけていくかを構想していくことが必要とされている。また、有効な既存資料・機器・技術の利用、記録の継承、さらには人や組織間の連携なども必要である。今回は、主として樹木フェノロジーを対象に、地上での観察やリモセンの応用、気象庁の観測資料の活用などのさまざまな手法を用いた研究事例を御紹介いただく。その中で、各観測・推定手法の得失と連携を論じつつ、近年の気候変動を背景として、樹木がフェノロジーの変化としてどのように反応し、それがどういった波及をもたらすのかについても議論する。以下の4題の講演のあとに、藤本征司氏（静岡大・農）によるコメントと総合討論を予定している。

T16-1 定点写真撮影による長期（1986 - 2009）の樹木フェノロジー調査

渡辺隆一（信州大・教育）

T16-2 衛星リモートセンシングによる展葉・紅葉フェノロジー観測

本岡 毅（筑波大・生命環境）

T16-3 温暖化の植物フェノロジーへの影響：マクロ生態学的アプローチ
土居秀幸（Carl-von-Ossietzky University Oldenburg）

T16-4 フェノロジーの長期変動と植生の環境調節機能への影響
松本一穂（九州大院・農）

企画集会 3月18日 15:15-17:15 会場 G会場

T17 河川上流・中流・沿岸における粒状有機物の移動と水生生物による利用－各場の特性と流域スケールでの理解に向けて

企画者：河内 香織（埼玉大学）

河川には在来性有機物と外来性有機物が混在し、これらは食物資源や生息場所として生物に利用されている。人の影響が少ない河川上流域では、河畔林から河川に多くの粗粒状有機物が供給される。粗粒状有機物は流入場所と異なる場所で生物に利用されることも多く、このうち落葉は全落下有機物の中で70%以上を占めており、上流域では落葉を起点とした食物連鎖が成り立つ。水中での落葉の移動や滞留場所は、河川の物理条件や葉の持つ特徴によって異なるため、河川の生物による落葉の利用を考える上で落葉の移動・滞留様式を知ることは重要である。

河川中流域や下流域では細粒状となった有機物が生物に利用されることが多い。中下流域での有機物の移動や滞留は、河川の規模や河畔、土地利用の状態などに影響され、上流域と異なった特徴を持つ。今回の集会では、上流域での落葉の移動と底生動物の利用に関して、落葉の流下実験結果とモニタリング手法について講演していただく。また、中流域と沿岸における有機物の移動・滞留や生物による利用についての事例をお話いただき、河川上流、中下流、沿岸における有機物の流入・移動についての空間的な枠組みを構築するとともに、生物による利用についてそれぞれの場所での特徴や共通点を整理することを目的とする。

趣旨説明

河内香織：河川における粒状有機物の移動・滞留と生物による利用－北海道の小河川の事例をもとに－

コメンテータ

加賀谷隆（東京大学）

中坪孝之（広島大学）

浅枝隆（埼玉大学）

総合討論

T17-1 上流域において樹種ごとの落葉の滞留場所の違いと底生動物の定着について
小林 草平（土木研究所）

T17-2 落葉移動のモニタリング手法について
石平 博（山梨大学）

T17-3 中下流部における粒状有機物の流下特性と水生生物との相互作用
吉村 千洋（東京工業大学）

T17-4 河口域における河川由来有機物の流入と底生動物による利用
坂巻 隆史（琉球大学）

T17-5 河口干潟における有機物の動態
佐々木 晶子（広島大学）

T18 旅する生物 —生物分布の歴史とその崩壊—

企画者：井上真紀（環境研）、富永篤（環境研）、岡本卓（環境研）

生物は太古の時代より移動分散と絶滅を繰り返し、分布を変化させてきた。みずからの脚や翅によって、または漂流物や移動する別の生物に偶然乗りあうことで地球上のさまざまな場所へと移動してきた。それは、実に長い時間をかけゆっくりと、そして海や川、山などの地理的障壁に阻まれることで比較的狭い範囲で行われ、その結果として、その時々で各地域に合った固有の生物相を育んできた。しかし、人間の出現以降、生物の移動は大きく変化した。人間は、産業や観賞を目的に、あるいは自身やモノの移動と共に、さまざまな生物を持ち運ぶようになった。特に、近代の運河や道路、鉄道に加え船舶や飛行機といった移送ネットワークの発達によって、人間の移動能力と物資の運搬規模は飛躍的に拡大し、生物もまた、かつてないスピードで、しかも大陸や大海原を越える大移動を始めた。こうした生物の移動はさまざまな外来生物を生み出し、世界中で地域固有の生物相の破壊という大きな問題を引き起こしている。この企画集会では、種内変異と系統分化という長い時間をかけた進化プロセスに関する生物地理学的研究から、近年の外来生物が引き起こす生態リスクやその侵入・分布拡大プロセスに関する研究を紹介し、外来生物問題について議論したい。

T18-1 アジアにおけるヒラタクワガタの多様性：DNA および形態からのアプローチ

所論史（茨城大院・教育）・五箇公一（環境研）・立田晴記（琉球大・農）・山根爽一（茨城大・教育）

T18-2 日本列島とその周辺のトカゲにおける地域固有性の形成と破壊

岡本卓（環境研）・栗山武夫（東邦大・理）・疋田努（京大・院理・動物）

T18-3 あなたの知らない付着性淡水二枚貝の脅威

富永篤（環境研）・伊藤健二（農環研）・木村妙子（三重大院・生物資源）

T18-4 アルゼンチンアリ大航海：DNA 解析による遺伝構造の解明と侵入経路の推定

井上真紀（環境研）・伊藤文紀（香川大・農）

T18-5 両生類の感染症カエルツボカビは日本から運ばれてしまった！

五箇公一・鈴木一隆（環境研）

T19 JapanFlux/CarboEastAsia: Carbon Balance of East Asian Terrestrial Ecosystems

Organizers: Naishen LIANG (National Institute for Environmental Studies), Takashi HIRANO (Hokkaido University)

East Asian terrestrial ecosystems - the richest in the world - are distributed continuously from tundra and boreal forests through temperate to subtropical and tropical forests latitudinally, as well as from monsoonal rainforests through semi-arid grassland to desert longitudinally. Therefore, they play a key role in the global carbon cycle. Moreover, the temporal and spatial variations of their carbon sequestration caused by the monsoon climate impose an additional scientific challenge. CarboEastAsia - capacity building among JapanFlux, ChinaFLUX and KoFlux to cope with climate change protocols by synthesizing measurement, theory and modeling in quantifying and understanding of carbon fluxes and storages in East Asia - is the first international attempt that brings together scientists from Japan, China and Korea to (1) measure carbon and water fluxes in individual ecosystems; (2) scale up site-specific results to regional and national values; (3) evaluate the dynamics and feedback of East Asian terrestrial ecosystems to global warming. This symposium will present the great results from KoFlux, ChinaFLUX and JapanFlux.

Commentator: Kaneyuki NAKANE (Hiroshima University)

T19-1 CarboEastAsia

Naishen Liang (National Institute for Environmental Studies)

T19-2 AsiaFlux and Carbon balance of Korean terrestrial ecosystems

Joon Kim (Chairs of AsiaFlux and KoFlux, Yonsei University)

T19-3 Carbon balance of Japanese terrestrial ecosystems

Takashi Hirano (Chair of JapanFlux, Hokkaido University)

T19-4 Carbon balance of Chinese terrestrial ecosystems

Guirui Yu (Chair of ChinaFLUX, Chinese Academy of Sciences)

企画集会

3月18日 15:15-17:15

会場 J会場

T20 普通種がいなくなるときの水田地帯の生物多様性

企画者：夏原由博（京都大学），大塚泰介（琵琶湖博）

水田は我が国の低地面積の45%を占め、モンスーンアジアを特徴づける氾濫原や湿地の代償として生態学的に重要である。水田地帯にはタガメなど多くの絶滅危惧種が生息する一方で、自然保護区として守られることはない。しかし、現在直面している問題は、アキアカネやトノサマガエルなどこれまで普通種と考えられていた生物の減少である。

生活や生産の場である水田地帯で生物多様性を保全するためには、農家や市民が水田の生物多様性の価値を認識して、利用しつつ保全しなければならない。トキのような有名な生物がいなくとも、地域が育ててきた重要な生態系が存在し、安全で生物多様性に配慮した農業によって生き物ブランド、魚など副産物、天敵増加といった生態系サービスが得られる。そうした生態系サービスを効果的に得られる仕組み作りが生物多様性保全の取り組みが今後重要になるであろう。本研究では、生物分布や環境、社会のデータを集め、地理情報システムを用いて分析し、地域ごとの特色を見いだすための手法を開発する。そして、それぞれの水田で、どのような生態系が成り立っているか比較し、生物多様性を高める方策を実験操作を交えながら模索することを目的としている。

今回は、鳥、両生類、魚類、昆虫、プランクトンについて、現況の報告を中心に行う。

司会：大塚泰介

T20-1 主旨説明：水田の文化と生物の多様性

夏原由博（京都大学）

T20-2 琵琶湖周辺のランドスケープの違いによる鳥・両生類の特徴

天野一葉・夏原由博（京都大学）

T20-3 琵琶湖周辺の農業用水路網が魚類群集の保全に果たす役割

前畑政善（琵琶湖博）・金尾滋史（多賀町博）・水野敏明（琵琶湖博）・大塚泰介（琵琶湖博）

T20-4 滋賀県における水田水生昆虫普通種の分布状況とその成因

日鷹一雅（愛媛大・農）・向井 宏（京大）・中西康介（滋賀県立大）・本林 隆（農工大）・横山（大阪府大）

T20-5 水生・湿生 RDB 植物を指標にした日本の水辺類型

鎌田磨人・熱田尚子・田代優秋（徳島大学）

企画集会

3月18日 15:15-17:15

会場 K会場

T21 使えるアリー効果：希少種保全、野生復帰、外来種管理への応用にむけて

企画者：瀧本 岳（東邦大・理），宮下 直（東大・農）

アリー効果に注目が集まっている。今アリー効果が注目されるのは、希少種の保全や絶滅種の野生復帰、外来種の根絶や囲い込み、生物防除に使われる天敵の導入などの様々な応用課題においてアリー効果の重要性が指摘されているからである。しかし、その指摘の多くは理論的なもので、実際の課題への応用はこれからである。本集会の目的は、アリー効果に注目した野外研究と理論研究を幅広く紹介しながら、応用課題のなかでのアリー効果の重要性について考える場を提供することである。集会では、まずアリー効果の定義やそれが現れるメカニズムについて解説し（瀧本）、個体群の空間構造によってアリー効果の現れ方が変わることを示した新しい理論研究を紹介する（佐藤）。つぎに、植物個体群を題材に、アリー効果と希少種保全について考える（富松）。また生態系エンジニアリングが生むアリー効果を紹介し、その生態系管理への利用可能性を指摘する（西嶋）。さらに、日本でも盛んになりつつある希少・絶滅生物の野生復帰について、アリー効果の重要性をふまえて今後の方向性を探る（Armstrong [英語講演、スライドに日本語サポートあり]）。最後に、基礎研究と応用研究の知見が交流できるような総合討論の場を設けたい。

T21-1 アリー効果とは何か？どのように生じるのか？

瀧本 岳（東邦大・理）

T21-2 集団の空間構造の違いにより変化するアリー効果の現れ方

佐藤一憲（静岡大・工）

T21-3 植物におけるアリー効果と希少種保全

富松裕（東北大・生命科学）

T21-4 系外資源が決めるアメリカザリガニのアリー効果の強さとその管理への応用

* 西嶋翔太（東大・農），瀧本岳（東邦大・理），宮下直（東大・農）

T21-5 Allee effects and directions in reintroduction biology

Doug Armstrong (Massey University)

企画集会

3月18日 17:30-19:30

会場 A会場

T22 アグロエコロジー研究会 「農生態学への誘い」

企画者：嶺田拓也（農研機構・農工研），日鷹一雅（愛媛大・農）

アグロエコロジー研究会は、1998年当初、自然環境保全と農業の持続性とが対立志向に陥らないように両者の関係性を探求する目的で始った。そして生態学と農学との総合アプローチから、環境保全農業、有機農法等の農法論、農業と生物多様性との関係、持続的農業の生態学の基礎原理と実際などについて、論議を重ねてきた。また、今まで取り上げてきた話題は、タイムリーな話題に沿って、水田生物群集の動態、生物多様性、絶滅危惧動植物、ホットスポット保全、農村生態系の再生、持続的農業、有機農業技術、生物的防除技術、インタプリターの必要性など多岐にわたる。本学会でも、COP10に向け農山漁村生態系への関心は高まっており、本分野は無関係ではないであろう。Agroecologyは応用生態学の一具現であり、基礎生態学

と農学者の両方の素養を必要とするため、わが国の教育システムでは基盤作りが困難な状況にある。このたび、「AGROECOLOGY」(S.R.Gliessman)の日本語訳本も出版準備が進み、その上梓にあわせて、特にわが国における今後のアグロエコロジーの体系的な方向性を探る集会を意図した。我が国では、希少な研究者の先達から話題提供をいただきながら議論を進める。

また、この分野を高所から見ていただける有識者のコメンテータを予定している。

T22-1 我が国のアグロエコロジーとアグロエコロジー研究会の歩み

嶺田拓也（農研機構・農工研）

T22-2 農法とアグロエコロジー～モンsoonアジアを事例として～

宮浦理恵（東京農業大学・国際食料情報学部）

T22-3 農業生態系における物質循環～窒素とリンを中心として～

三島慎一郎（農環研）

T22-4 大学農場での地域連携とアグロエコロジーの展開

小松崎将一（茨城大・農）

T22-5 生活者教育としての有機園芸とアグロエコロジー

澤登早苗（恵泉女学園大・人間社会部）

T22-6 AGROECOLOGY から「農山漁村の生態学」へ：在地に潜む技能を研究し持続的暮らしに活かす

日鷹一雅（愛媛大・農・農山漁村）

企画集会 3月18日 17:30-19:30 会場 C会場

T23 群集生態学の新しい展開：生物群集とは何か

企画者：近藤倫生（龍谷大・理工，JST・さきがけ），大串隆之（京都大・生態研）

群集生態学は、生物群集の構造・動態におけるパターンとメカニズムの理解を目標としている。この目標を達成するためには、生物群集とは何であるかという「生物群集観」が不可欠である。現在の群集生態学において指針となる、主要な生物群集観のひとつは、「生物種間の相互作用が個体群動態を駆動し、その結果、特定の群集構造が成立する」というものである。たとえば、多種共存の問題は「資源競争のもとではいずれ競争排除されることが予測される競争劣位種の個体群を維持する機構はなにか」という問題に帰結する。この生物群集観は、最新の知見のもとではどのように様相を変えるだろうか？あるいは、この群集観は根本的には変わることはないのだろうか？

本企画集会では、進化・適応、種間相互作用ネットワーク、生態系過程、空間構造・スケールといった群集生態学に新しい進展をもたらしたさまざまな切り口から、この問題に迫りたい。「趣旨説明」において種間相互作用と個体群動態から生物群集を理解するという、具体的な「群集理解の方法論の雛形」を提示する。各話題提供者は、それぞれの異なる切り口から、この方法の限界と問題点について研究例をレビューしつつ解説し、今後の生物群集観の方向性を論じる。

T23-1 趣旨説明：生物群集理解の基本的枠組みと問いかけ

近藤倫生（龍谷大・理工，JST・さきがけ）

T23-2 進化する世界でつながる生物：赤の女王と群集生態学

東樹宏和（産総研）

T23-3 表現型可塑性が生み出す生物群集ネットワーク

大串隆之（京都大・生態研）

T23-4 見過ごされた消費者の役割：生物多様性－生態系機能の関係

加賀田秀樹（京都大・生態研）

T23-5 食物連鎖の長さや支配パラメーターとしての生態系サイズ

瀧本岳（東邦大・理）

企画集会

3月18日 17:30-19:30

会場 D会場

T24 生物多様性研究と DNA バーコーディング

企画者：伊藤元己

生物の同定技術である DNA バーコーディングを取り巻く世界の状況は大きく変化しており、情報の蓄積だけでなく同定作業への活用も急速に進んでいる。本集会では、この手法に関する世界の現状および国内での研究活動例を紹介し、生態学における今後の活動展開について議論したい。

T24-1 DNA バーコーディングをめぐる世界の情勢

* 伊藤元己, 神保宇嗣（東大院・総合文化）

T24-2 日本産昆虫類の DNA バーコーディング：寄生蜂への応用を中心に

* 三浦一芸（近中四農研・広島大），前藤 薫（神戸大）

T24-3 日本産鳥類の DNA バーコーディングによって示される近縁種間・亜種間の多様な遺伝

* 西海 功, 染谷さやか, 岩見恭子（国立科学博物館）齋藤武馬, 小林さやか, 浅井芝樹（山階鳥研）

T24-4 日本産樹木 DNA バーコーディングの現状－収集と解析－

吉丸博志（森林総研）

T24-5 日本産シダの DNA バーコーディング：配偶体フロア解析への応用

* 海老原淳（科博・植物）櫻井裕布美, 山岡麻美, 水上直子（日本女子大・理）

企画集会

3月18日 17:30-19:30

会場 E会場

T25 気候変動予測に向けた陸域生態系シミュレーションの現状、今後の課題

企画者：佐藤永（名古屋大・環境学）

気候環境は植生の分布や機能を大きく規定するが、植生もまた炭素・水・放射収支の変動を通じて気候環境に影響を与える。そのため、近年の気候変動予測においては、そのような気候-植生間の相互作用をシミュレーションモデルに取り込む事が一般的となりつつある。実際に、2007年に発表された IPCC 第4次レポートにおける各国の気候シミュレーターには、そのような相互作用を取り扱う植生モデルが組み込まれ、そして2011年に公開予定の IPCC 第5次レポートでは、さらに動的植生（気候に伴った植生分布の変動）と土地利用変化を組み込む事が半ば義務化された。

このように、気候変動予測研究において生態学者が果たすべき役割は増えつつあるが、実際にはどの研究チームも極めて限定されたマンパワーと情報の下での対応を強いられており、ともすれば、やっつけ計算的な扱いをしまっているプロセスも多いのが現状である。本集会の目的は、このような現状を率直に報告

し、その問題点を抽出し、その解決に向けた提言を取りまとめる事である。

コメンテーター：原登志彦（北大・低温研）

- T25-1 気候モデルで用いられる植生モデルの概要、トレンド、問題点
佐藤永（名古屋大・環境学）
- T25-2 地球システム統合モデルにおける植生モデル、短期予測
伊藤昭彦（国立環境研究所）
- T25-3 地球システム統合モデルにおける植生モデル、長期予測
羽島知洋（海洋研究開発機構）
- T25-4 陸域生態系モデルの今後の発展の方向性と応用の可能性
伊勢武史（海洋研究開発機構）
- T25-5 予測モデルで利用される、土地利用シナリオ、土地利用変化排出推定プロトコルについて
加藤悦史（海洋研究開発機構）
- T25-6 作物モデルによる気候変動下の農業影響評価と問題点
飯泉仁之直（農業環境技術研究所）

企画集会

3月18日 17:30-19:30

会場 F会場

T26 保全生態学の成果を現場に活かす：保護管理ユニット設定の科学と法整備

企画者：小泉逸郎（北大・創成）、今木洋大（NOAA）

近年、日本においても保全生態学の研究が飛躍的に増加してきた。しかし、研究成果が実際の保護管理に十分活かされているとは言いがたい。生物の保全を実現するためには、研究課題が実践的であるだけでなく、その成果が生かされる基盤が必要である。本集会では“本気の”保全生態学を目指すために、生態学者、法律学者、地元関係者を交えて研究成果を実際の保全に結びつける方法について考える。一例として絶滅危惧種保護に取り組むアメリカの経験を紹介し、日本において必要な保全の科学とそれを生かすための社会基盤について議論を深める。

本集会では、野外個体群における保護管理ユニット設定をテーマとして取りあげ、科学と法律の点から検証する。実際のプロジェクトにおける保護管理ユニットの設定を分析することにより、現在の研究と保全の実践の関係を概観する。保護管理ユニットの設定には、学術研究、法律、行政、地元経済などさまざまな要素が影響する。そのため、実効性のある単位設定には各分野の専門家の連携が不可欠となる。近年の保全遺伝学の成果により、ESU、DPSなど、種レベル以下で保全単位を設定することが可能になってきた。しかし、日本では地域個体群単位で管理できる法律は非常に限られており、研究成果が一人歩きしているのが現状である。一方、アメリカの保全法には地域個体群の概念が盛り込まれており、サケ科魚類などで具体的な保全成果を挙げている。この背後では、地元NPOなどによる訴訟を通じた保護活動が重要な役割を担っている。本集会では、保護管理ユニットを例にとり、日本において、科学、法律、保全の3者をどのように結びつけるか、今何ができて、今後何をしなければならないのかを整理する。

- T26-1 絶滅危惧種法施行30年、アメリカはどのように科学を保全に取り込んできたのか
今木洋大（NOAA）
- T26-2 保全遺伝学と保護管理ユニットの設定

小泉逸郎（北大・創成）

T26-3 保全生物学的研究成果と法律：法律はどこまで科学を必要としているのか
畠山武道（上智大・地球環境）

T26-4 学術研究と保護管理の実際：絶滅危惧種イトウの保護管理単位に基づく保全を例に
江戸謙顕（文化庁・記念物課）

企画集会 3月18日 17:30-19:30 会場 G会場

T27 火は植生をどのように変えてきたのか？

企画者：高原 光（京都府大・生命環境）、津田 智（岐阜大流域圏センター）、湯本貴和（地球研）

近年、火の歴史を解明しようとする研究によって、この約1万年間に火事が多発していたことが明らかになってきた。琵琶湖集水域や周辺の山地では、1万年前から7千年前にかけて火事が頻発していた。さらに、人口の増加する弥生時代以降には、火事が多発し、二次林化が起こっていた。また、九州の阿蘇・くじゅう地域では、少なくとも1万年前から火事が頻発し、長期間にわたって草原が維持されてきた。このように、多くの場合、現在の里山の景観成立には火が関わっている。また、このような火が植生に与える影響のメカニズムが、森林や草原の火に対する生態学的研究によって明らかにされている。古生態学と火と植生の生態学から話題提供をいただき、火と植生の関係について議論を深めたい。

T27-1 近畿地方における過去1万年間の火と植生史
*高原 光（京都府大・生命環境）、井上 淳（大阪市大・理）

T27-2 阿蘇・くじゅう地域における火と草原の歴史
*河野樹一郎（産総研）、佐々木尚子（地球研）

T27-3 火が作り出す環境と植物群落
津田 智（岐阜大・流域圏センター）

T27-4 火とブナ科樹木の生態
佐野淳之（鳥取大・FSC 森林）

T27-5 火と二次的な植生景観
大住克博（森林総研関西）

企画集会 3月18日 17:30-19:30 会場 H会場

T28 日本列島内の隠れた遺伝的分化

企画者：長太伸章（京都大・理）

近年の分子系統地理学の発展によって様々な分類群で遺伝的構造が解明され、分布の変遷や地形・地史の影響も明らかにされてきた。さらに分子系統地理によって近縁種間や種内の集団間といった近縁な系統関係の推定が可能のため、保全生態学や進化生態学などにおいても有用なツールとして応用されつつある。一方でサンプリングの困難さや労力の問題もあり、国内における普通種などの広域分布種では精度の高い系統地理研究はあまり行われてこなかった。

日本列島は南北に長い上に複雑な地史を経験しており、過去の環境変動は多くの生物の分布域だけでなく

生物相も影響されてきたはずである。これらの地史的要因の影響を推定するためには複数の種で共通なパターンを探る比較系統地理が非常に重要であり、広域分布種は有効な比較対象となる。そこで本集会では日本国内に広く分布する様々な分類群の分子系統地理研究を通して、国内における隠れた遺伝的分化を紹介する。

コメンテーター：奥山雄大（科博）「どうすれば面白くなる？外から見た生物系統学」

T28-1 コイ科の淡水魚カマツカにおける大きく分化した系統とその二次的接触

* 富永浩史（京都大・理），中島 淳（九州大・工），渡辺勝敏（京都大・理）

T28-2 第四紀の気候変動がツキノワグマの遺伝構造に与えた影響

* 大西尚樹（森林総研・東北），鵜野レイナ（慶大・先端生命），石橋靖幸（森林総研・北海道），玉手英利（山形大・理），大井徹（森林総研）

T28-3 温帯林構成樹種ツリバナでみられる遺伝的分化のパターンとその歴史的成立過程

岩崎貴也（首都大・牧野標本館）

T28-4 複数の塩基配列データに基づくマイマイカブリの系統地理

* 長太伸章（京都大・理），曾田貞滋（京都大・理）

T28-5 日本産樹木の系統地理学再考

津田吉晃（ウプサラ大・進化生物学センター）

企画集会

3月18日 17:30-19:30

会場 I会場

T29 もっと使える景観生態学：ランドスケープ× α

企画者：赤坂宗光（国環研），大澤剛士

近年、地理情報システム（GIS）や広域を対象とした空間データセットの普及が進み、また、その有用性から、景観スケールを対象とした研究が積極的に行われるようになってきた。それに伴い旧来の生態学の枠を拡張するような、新たな研究トピックもみられるようになってきた。例えば、メタ個体群やメタ群集研究などは、景観生態学と個体群生態学、もしくは群集生態学がその垣根を越えて融合することによって発展を遂げた好例であろう。

しかし、その一方で、景観スケールを対象とした研究は、GIS および既存データベースの活用に関心が集まっているようにも考えられて、そのアプローチはステレオタイプ化しているという見方もできる。

本集会では、様々な観点から景観生態学と他の生態学のトピックを統合し展開している研究の紹介を通じて、今後、さらに発展していく景観生態学の可能性について議論を深めたい。

*コメンテーター：

三橋弘宗（兵庫県博）、角谷拓（国環研）

T29-1 アマモ場の景観変動を引き起こすローカルプロセスの解明

* 山北剛久（千葉大・理），仲岡雅裕（北大・FSC）

T29-2 近縁オサムシ2種による モザイク交雑帯仮説の検証

* 大澤剛士（神戸大・院），高見泰興（神戸大），丑丸敦史（神戸大）

T29-3 安定同位体から生物の環境選択を考える：景観構造に着目して

* 赤坂卓美（北大院・農），赤坂宗光（国環研），高津文人（国環研），中村太士（北大院・農）

T29-4 ため池の水生植物の消失と市街化・護岸率の関係：形質に注目して
* 赤坂宗光（国環研），樋口伸介（神戸大院・理），三橋弘宗（兵庫県博）

T29-5 世の中に生かすランドスケープの視点
* 伊勢 紀，増澤 直（株式会社地域環境計画）

企画集会 3月18日 17:30-19:30 会場 J会場

T30 微生物生態学者から学ぶ方法論—分子生物学的解析法の適用可能性と限界—

企画者：鏡味麻衣子（東邦大学理学部），広瀬大（日本大学薬学部）

近年、生態学研究のなかにも分子生物学的手法が浸透し、微生物（ウイルス、細菌、原生生物、菌類）を考慮に入れて物質循環や生物間相互作用を解析するケースが増えている。また、微生物は世代時間が短いことから、進化や競争など生態学の一般理論を構築する際のモデル生物としても活用されている。このように微生物の解析事例が増加している一方、生態学者が微生物の持つ特性を踏まえ分子生物学的手法の適用可能性と限界を十分に理解しているとは言えない。

微生物に熟知した微生物生態学者は長年、地球上の生物多様性や機能の評価に尽力してきた。培養に代表される古典的手法に加え、分子生物学を基礎とした新しい技術を開発・応用することで、微生物生態学は近年目覚ましい進歩を遂げている。本企画では、微生物生態学者からクローニングや DGGE など一般的な手法から Stable Isotope Probing（安定同位体プロービング）法や網羅的遺伝子解析など最新の方法まで、様々な解析方法について情報提供していただく。同時に、培養や観察など、分子生物学的手法と併用して用いられるべき古典的手法の重要性についても言及していただく。総合討論では、企画集会「微生物群集と生態系をむすぶ」と連携し、微生物生態学的手法を生態系の理解に活用する可能性について、生態学／微生物生態学の両面から議論する。

コメンテーター

三木健（国立台湾大学）「数理モデルに欲しい微生物パラメータ」
内井喜美子（Universite Blaise Pascal）「感染症研究に必須の手法」

総合討論

企画集会「微生物群集と生態系をむすぶ」の企画者、演者と連携

T30-1 微生物解析へのニーズ：趣旨説明
鏡味麻衣子（東邦大学理学部）・広瀬大（日本大学薬学部）

T30-2 微生物生態学における分子生物学的手法の有効性と限界
小島久弥（北海道大学低温科学研究所）

T30-3 微生物食物連鎖の分子生物学的解析：メタン酸化を例として
村瀬潤（名古屋大学大学院生命農学研究科）

T30-4 RNA から探る生命現象：網羅的遺伝子解析
石井伸昌・府馬正一（放射線医学総合研究所）

T31 近親交配：その進化的意義を問い直す

企画者：土松隆志（東大・広域システム）、中山新一朗（東大・院・理）

ダーウィン以来、近親交配は進化生態学の中心課題のひとつである。近親交配研究の目的は、つまるところ「外」のゲノムを取り入れずに繁殖することの短期的・長期的な有利・不利、そしてその進化のもたらす帰結を明らかにすることにある。近親交配は系統群によらない極めて普遍的な現象であるものの、動物ではその回避行動に、社会性昆虫ではコロニーの機能との関係に、植物ではポリネーターとの相互作用になど、これまでそれぞれの材料に特化した議論が多かった。本集会では、動物・植物といった材料の垣根を越えて、近親交配の適応的意義やその進化的起源と帰結を問い直す。近交弱勢、遺伝子の伝達効率、確実な繁殖の保証といった近親交配の適応度効果や、集団の絶滅リスク、性配分の進化などの近親交配のもたらす進化的帰結を、フィールドワーク・室内実験・数理モデル・分子系統学・ゲノミクスなどの多様な手法から迫った若手研究者による研究例を紹介し、近親交配研究の今後の展望を議論したい。

コメンテーター：土畑重人（東大・広域システム）

- T31-1 近親交配回避とメスの多回交尾：配偶相手の血縁に応じたアズキゾウムシの交尾行動
原野智広（九大院・理・生態科学）
- T31-2 生殖システムからみた性配分問題：単為生殖の存在が性配分戦略に与える影響
川津一隆（京大院・農・昆虫生態）
- T31-3 オオバナノエンレイソウにおける繁殖様式の集団分化—自家和合・不和合・雄性不稔
久保田渉誠（北大・院・環境科学）
- T31-4 自殖の進化と絶滅リスク～有害突然変異が運命を左右する？～
中山新一朗（東大・院・理）
- T31-5 シロイヌナズナ属における自家不和合性崩壊の突然変異のパターンとその適応的意義
土松隆志（東大・広域システム）

口頭発表 3月16日(火)(Oral Presentation, 16 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room C 種多様性	Room D 数理	Room E 保全	Room F 景観生態	Room G 植物繁殖
14:15	C1-01 小笠原諸島の甲虫相-生物地理学的特性と危機-岸本年郎(自然研)	D1-01 資源を介したカップリングが捕食者-被食者系を不安定化する:実験微生物系の数理モデルから *鈴木健大(東大・総合文化), 吉田丈人(東大・総合文化, 科学技術振興機構さきがけ)	E1-01 ヤクシカの個体群管理計画とモデル事業の意義と評価 *立澤史郎(北大・文・地域), 手塚賢至(YOCA), 川崎勝也(屋久島町)	F1-01 地域景観に対応した林内植生の存在:扇状地から丘陵地に至る里山林の比較 *平吹喜彦(東北学院大・教養), 福岡公平(国立青少年教育振興機構), 佐藤麻衣子(宮城教育大・教育), 荒木祐二(東大・アジア生物資源センター)	G1-01 コバノガズミにおける自家不和合性の崩壊 *吉本敦子(石川県白山自然保護センター, 金沢大学・院), 木村一也, 木下栄一郎(金沢大学環日本海域環境研究センター)
14:30	C1-02 Diversity of beetle assessed by flying traps in different types of forests in Noto Peninsula *Barsulo, C.Y., Nakamura, K. (Kanazawa University)	D1-02 捕食被食関係の進化によって構成される食物網構造 *高橋大輔(京大・生態研セ), Rupert Mazzucco (II-ASA), Åke Brännström (Umeå University), Ulf Dieckmann (IIASA)	E1-02 ヒグマとヒトの軋轢多発地の広域的空間特性-知床半島の例- *森本淳子, 三島啓雄(北大院農), 間野勉(道環境研), 中村太士(北大院農)	F1-02 潜在植生を異にする小学校に成立した植生景観の比較 *服部千代子(横国大院・環情学府), 大野啓一(横国大院・環情研院)	G1-02 北海道函館地方における個体レベルでのフナ開花量10年間の動態 *阿部友幸(北海道立林業試験場), 佐竹暁子(北海道大学), 今博計, 長坂晶子(北海道立林業試験場)
14:45	C1-03 ショウジョウバエ属のゲノム構成と環境適応の関係 *牧野能士(東北大・理), 河田雅圭(東北大・理)	D1-03 生態ネットワークにおけるキーストーン種の特定 佐藤一憲(静岡大・工)	E1-03 里山林伐採によるニホンザル群の行動圏変化と農作物被害減少 *野間直彦, 仲森理沙(滋賀県立大), 小泉和也, 濱中亮成(東近江市), 近雅博(滋賀県立大)	F1-03 里山景観の構成種となるために必要だった種特性とは何か? *小林慶子(横国大・院・環境情報/山梨森林研), 小池丈人(横国大・環境情報研究院)	G1-03 花成制御の数理モデル:花成抑制遺伝子FLOWERING LOCUS Cのエピジェネティックな制御 *佐竹暁子(北大・創成), 巖佐庸(九大・理)
15:00	C1-04 内モンゴル草原における植物種多様性と地上部バイオマスの24年間の変動 *唐艶鴻(国環研), 劉忠齡(内モンゴル大)	D1-04 生物群集における機能形質の動態と生態系機能 田中嘉成(国立環境研)	E1-04 樹上性哺乳類のための生態系ネットワークの環境共生技術「アニマルパスウェイ」の開発 *湊秋作(やまねミュ), 響場葉留果(同左), 岩瀬真奈美(同左), 大竹公一(大成建設), 岩本和明(清水建設), 小田信治(同左), 小松裕幸(同左), 佐藤良晴(エンウィット), 世知原順子(同左), 渡辺裕信(NTT東日本), 鈴木竜自(同左), 奥田淳二, 小林義人	F1-04 レーザーリモートセンシングによる緑地構造把握 *加藤顕(千葉大・園芸), 小林達明(千葉大・園芸), 根本光(千葉大・園芸)	G1-04 無胚乳種子の進化:雄親の逆襲 酒井聡樹(東北大・生命科学)
15:15	C1-05 人間活動と関係した資源の異質性が半自然草地の種多様性を生み出す 植松裕太, *丑丸敦史(神戸大・人間発達環境)	D1-05 マスティング進化に与えるモードの異なる種子捕食者の影響 *立木佑弥(九大・システム生命), 巖佐庸(九大・理・生物)	E1-05 自然再生事業による浅瀬創出とコウノトリの利用 三橋弘宗(兵庫県立大/人と自然の博物館)	F1-05 湿原河川生態系の生物多様性推定におけるリモートセンシングの有用性について *福島路生, 島崎彦人, 加藤秀男(国立環境研)	G1-05 暗い林床を生き抜く術:光環境の季節性に応じた夏緑性植物ミミコモリの資源利用戦略 *井田崇, 工藤岳(北大・地球環境)
群落					
15:30	C1-06 北関東における低地ブナの集団構造と種子生産 *鈴木和次郎(森林総研), 竹澤和亮(関東森林管理局森技セ), 池田伸(関東森林管理局森技セ)	D1-06 森林群集における二層構造システムへの進化条件 *高田壯則, 甲山隆司(北大・地球環境), 中島久男(立命館大・理工)	E1-06 市民参加調査による多摩川水系の礫河原鳥類の生息状況の把握と洪水攪乱との関係性 *内田哲夫(埼玉大院・理工), 浅枝隆(埼玉大院・理工), 野村亮(自然環境アカデミー), 島田高廣(自然環境アカデミー)	F1-06 沖縄本島におけるマングローブ林の構造と河口形状の変化履歴との関係 *竹村紫苑(徳島大・院・建設), 鎌田磨人(徳島大・工), 赤松良久(東京理科大・理工)	G1-06 可変性二年草ハマサジの開花齢と稀にみられる多回繁殖 *荒木悟, 國井秀伸(島根大・汽水域研セ)
15:45	C1-07 山梨県御正体山のブナ林における林床植生の22年間の動態 *小原由起(東京農大・地域環境), 武生雅明(東京農大・地域環境), 中村幸人(東京農大・地域環境)	D1-07 確率変動を含む最適成長戦略 *大泉嶺(北大・環境), 高田壯則(北大・環境)	E1-07 流水水生昆虫の移入と河川物理環境との関係 *望月成(東海大・院・理工), 谷野賢二, 斎藤裕美(東海大・生物理工)	F1-07 カバキコマチグモにおける営巣に関する環境選好性 弘中豊, 安倍弘(日大院・生物資源科学)	G1-07 クワズイモ(サトイモ科)の中性花は送粉者への報酬器官であった:開花時には花蜜を分泌し開花後には腐って幼虫の餌となる *高野(竹中)宏平(長崎大・熱研), 片桐千帆(北大・低温研), 屋富祖昌子(元・琉大・農), 戸田正憲(北大・低温研)

口頭発表 3月16日(火)(Oral Presentation, 16 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room H 進化	Room I 行動	Room J 動物群集	Room K 植物個体群
14:15	H1-01 パナマの毒ガエルの体色分化を説明する量的遺伝モデル:配偶者選択はランダムドリフトを強化するか? *巖佐庸(九大・理), Tazzyman, S. (UCL, UK)	I1-01 外来種ニューギニアヤリガタリクズムシのカタツムリ追跡行動 *岩井紀子, 杉浦真治(森林総研), 千葉聡(東北大学)	J1-01 資源競争説の誤り:近縁種間の競争実験は何を測っていたのか? *西田隆義, 岸茂樹, 京極大介(京大農昆虫生)	K1-01 シイ林における種子島と屋久島および大隅半島南端の関係 小林悟志(新領域融合研究セ)
14:30	H1-02 必須資源をめぐる競争によってプランクトンの多様性のパラドクスは進化的に解けるのか? *水野晃子(総研大・葉山), 佐々木顕(総研大・葉山)	I1-02 加速度データロガーをもちいたカブトガニの行動学的研究 渡辺伸一, 東川洗二郎(福山大・生命工), 田上英明, 宮崎信之(東大・海洋研)	J1-02 ヤツメウナギ類2種幼生はお互いを区別しない?:カワヤツメ属2種幼生の生態的特徴の類似性とエンジニア効果 *白川北斗(北水院), 柳井清治(HIT), 後藤晃(FSC)	K1-02 ボルネオ島におけるフネミノキの個体群動態と一斉開花 *山田俊弘(広大総科), 鈴木英治(鹿児島大理), ズイデマ・ピーター(ユトレヒト大理)
14:45	H1-03 コイヘルペスにおけるパンデミックへの対策 *大森亮介(九大シス生)	I1-03 チゴガニにおける社会行動の地理的変異とその要因 *和田恵次, 山田有紗, 大島麻里, 古川文美子, 座安佑奈(奈良女子大)	J1-03 岩礁潮間帯固着生物群集の相互作用網の複雑さと安定性の関係 *辻野昌広(北大環境), 仲岡雅裕(北大FSC), 堀正和(瀬戸内水研), 山本智子(鹿大水産), 奥田武弘(東北水研), 野田隆史(北大地球環境)	K1-03 Differences in beach and mountain Pandanus species Susanti, R. (Kagoshima Univ.), Suzuki, E. (Kagoshima Univ.), Miyamoto, J. (Kagoshima Univ.)
15:00	H1-04 安定か振動か? 捕食-被食の適応動態の運命 舞木昭彦(九大理), 巖佐庸(九大理)	I1-04 日本産シロアリ類とアリ類の敵対関係 *三田岳, 岩田隆太郎(日大・生物資源)	J1-04 個体発生ニッチシフトと食物網結合と代替安定状態 仲澤剛史(京都大・生態研セ, 台湾大・海洋研)	K1-04 カンサイタンポポ個体群の衰退要因と復元可能性:シミュレーションによる検討 *高倉耕一(大阪市環科研), 西田隆義(京大・農), 松本崇(京大・生態研セ), 西田佐知子(名大・博)
15:15	H1-05 強い者は生き残れない:環境変動説 吉村仁(静岡大学・創造院)	I1-05 重金属汚染リスクの指標としてのアブラハヤの基礎生態 *三浦彩, 三浦剛, 攝待尚子, 宍戸聖美, 棟方有宗(宮城教育大)	J1-05 捕食者と被食者の脳サイズ:277種の魚における623ペアの捕食-被食関係の解析 近藤倫生(龍谷大・理工, JST・さきがけ)	植物生理生態
15:30	H1-06 アブラムシの翅型運命を決定する密度シグナルの解析 *石川麻乃, 三浦徹(北大・環境科学)	I1-06 ここまで分かったミゾゴイの生態 ~なぜ、夜行性の鳥と言われてきたか~ 川名国男(バードライフ・アジア)	J1-06 20 years change in forest under growth bird community with the alien <i>Leiothrix lutea</i> - mist netting at 1650m Tsundashi path - Ken Ishida (U. Tokyo)	K1-05 Change in leaf traits by experimental warming of adult oak trees *Muller O. (Hokkaido Univ.), Nakamura M.(Hokkaido Univ.), Hikosaka K.(Tohoku Univ.), Hiura T. (Hokkaido Univ.)
15:45	H1-07 アリ共生型アブラムシの分集団はメタ個体群になっている *八尾泉(北大・農)	I1-07 生息場所が親の行動を変える:オオミズナギドリ3繁殖集団の比較 *岡奈理子(山階鳥研), 越智大介, 松本経, 綿貫豊(北大), 佐藤克文(東大), 出口智広(山階鳥研), 白井正樹, 山本麻希(長岡技大)	J1-07 高次捕食者の窒素安定同位体比-長期時系列からみられる餌環境の変動 *米崎史郎, 清田雅史, 南浩史, 岡村寛(水研セ遠洋水研)	K1-06 Photosynthesis, respiration and Carbon metabolism of <i>Chara fibrosa</i> at different turbulent conditions *Champika Ellawala (Saitama Uni.), Asaeda, T. (Saitama Uni.)
				K1-07 Seasonal dynamics of soil phenolics in kudzu stands and its role in allelopathy *Md. H. Rashid, Takashi Asaeda

口頭発表 3月16日(火)(Oral Presentation, 16 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room C 群落	Room D 数理	Room E 保全	Room F 生態系管理	Room G 植物繁殖
16:00	C1-08 春日山照葉樹林防鹿柵実験区における木本実生群集の動態 *前迫ゆり(大阪産大・院・人間環境), 名波哲(大阪市大・院・理), 神崎護(京大・院・熱帯)	D1-08 環境変動下でのメタ生態系の視点からの生態系機能の維持 谷内茂雄(京大・生態研)	E1-08 絶滅危惧種マルコガタノゲンゴロウの生息現状と絶滅原因—とくに水質から見た環境条件— *荻部治紀(神奈川県立博物館)・北野忠(東海大学)・田島文忠(千葉シャープゲンゴロウモドキ保全研究会)・永幡嘉之(山形大学)・西原昇吾(東京大学)	F1-08 河川高水敷の火入れ管理が春植物の生育環境に及ぼす影響 *泉団, 吉川正人(東京農工大・農)	G1-08 Sagebrush (<i>Artemisia tridentata</i>)の生長と繁殖に及ぼす食害および防衛反応誘導時期の影響 *石崎智美, 大原雅(北大・院・環境科学), 塩尻かおり(京大・生態研センター), Richard Karban (UC. Davis, Department of Entomology)
16:15	C1-09 落葉広葉樹二次林の林冠構造と林内光環境の空間分布 *右田千春(森林総研), 千葉幸弘(森林総研)	D1-09 ため池管理のための数理モデル:水生植物がアオコの発生に及ぼす影響 *瀬戸蘭美(国立環境研環境リスクセ), 高村典子(国立環境研環境リスクセ), 巖佐庸(九大理)	E1-09 キンノウエトタゲモの個体群存続可能性分析 *中西亜耶, 長谷川雅美(東邦大院・理・地理生態)	F1-09 慣習・制度下でのコモンズの維持システムの進化ゲーム解析 *中丸麻由子(東工大・社理工), 小池心平(東工大・社理工), 辻本昌弘(東北大・文)	G1-09 果実食鳥類のFruit tracking? -地域スケールでみた果実生産と鳥飛来数の対応関係 - *木村一也(金沢大・環日本海セ), 田辺慎一(国際自然環境アウトドア専門学校), 中村浩二(金沢大・環日本海セ)
16:30	C1-10 ダム河川矢作川における河畔林の成立要因 洲崎燈子(豊田市矢作川研究所)	D1-10 フィードバックコントロールによる漁業生態系管理の数理的解析 *高科直(立正大・地球), 山下倫範(立正大・地球), 松田裕之(横浜国大・環境情報)	E1-10 メタ群集の観点に立った干潟ベントス群集保全戦略の提示 玉置昭夫(長崎大・水産)	F1-10 The Dynamics of Insect (As a Biological Indicator) from the Pristine to the Disturb Landscape in Central Java Indonesia *Karuniawan Puji Wicaksono, Efsa Caesariantika, Nobukazu NAKAGOSHI (Hiroshima University)	G1-10 優占樹種の結実豊凶が散布者を共有する低密度樹種の種子散布に及ぼす影響 *直江将司(京大・生態研), 酒井章子(地球研), 正木隆(森林総研)
16:45	C1-11 河川敷の掘削工事が植生に及ぼす影響 *松原豊, 島野光司(信州大・理・物質循環)	D1-11 洞爺湖中島におけるエゾシカ個体群の食性変化に伴う爆発的増加と崩壊の要因解析 *今野建志郎(横国大・環境), 梶光一(農工大・農), 松田裕之(横国大・環境)	E1-11 市民参加による干潟底生動物の調査 3. モニタリング手法としての有効性 *鈴木孝男(東北大院・生命科学), 佐々木美貴(WIJ)	F1-11 二次林の植生攪乱に対する植物と地表徘徊性甲虫群集の反応の違い *渋谷園実(東大院・新領域), 久保田耕平(東大院・農), 大澤雅彦(東大院・新領域)	G1-11 河畔林におけるアキグミの種子分散の時空間的パターン *郡麻里(首都大・理工・生命(客員研究員)), 中越信和(広島大院・農), 大澤雅彦(東大院・国際協力), 可知直毅(首都大・理工・生命)
17:00		D1-12 一般化線形モデル(GLM)によるデータ解析と説明変数の分布の影響 粕谷英一(九大・理・生物)		F1-12 里山林管理施行によるオサムシ科甲虫の種多様性の増加 *近藤慶一(名城大・院・農学), 松本和馬(森林総研多摩), 日野輝明(森林総研関西), 新妻靖章(名城大)	

種子散布

口頭発表 3月16日(火)(Oral Presentation, 16 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room H 進化	Room I 行動	Room J 動物群集	Room K 植物生理生態
16:00	H1-08 ミヤマキンバイにおける平行進化的なエコタイプ分化 *平尾章(信州大・山岳研), 下野嘉子(農環研), 和田直也(富山大・極東地域研), 成田憲二(秋田大・教育文化), 工藤岳(北大・地球環境)	I1-08 DLW法を用いたオオミズナギドリの野外活動時エネルギー消費量計測 *白井正樹, 山本麻希(長岡技大・生物), 牛島明美, 小田英美子, 新妻靖章(名城大・農), 山本誉士(総研大・極域科学), 海老根直之(同志社大・スポーツ健康科学), 岡奈理子(山階鳥研)	J1-08 カラフトマス生物量の隔年変化とハシボソミズナギドリの栄養状態:魚と鳥の競争の証拠 峠佳奈子(北大水産), 山下麗(農工大), 福若雅章, 山村織生(北水研), *綿貫豊(北大水産)	K1-08 異なる光環境で生育した植物のアーキテクチャと成長・資源利用 西村依里子, 須崎絵美, 入江満美, 長嶋寿江, *廣瀬忠樹(東京農大)
16:15	H1-09 マイマイカブリにみられる形態的多様化 *小沼順二, 長太伸章, 曾田貞滋(京大・理)	I1-09 衛星追跡によるチュウヒの行動圏内部構造と渡り経路の解明 *中山文仁(自然環境研究センター), 浦達也(日本野鳥の会)	J1-09 千曲川中流域における繁殖鳥類の11年間の変化 *笠原里恵(東大・緑実), 加藤和弘(東大・緑実), 中村浩志(信州大・教育)	K1-09 ミズキとサワグルミにおける樹形の違い一枝についての力学的考察 *弓山大輔(京都大学農学部), 岡田直紀(京都大学農学研究科)
16:30	H1-10 新世界ザル野生集団に対する行動観察と遺伝子調査による色覚多型の適応的意義の考察 *河村正二, 樋渡智秀, 平松千尋(東京大・新領域), 印南秀樹(総研大・先端科学), Melin, A.D., Fedigan, L.M. (Univ. Calgary), Schaffner, C.M. (Chester Univ.), Aureli F. (Liverpool J.M. Univ.)	I1-10 ブッポウソウの給餌活動 *水野聖子(岡大・MP), 飯田知彦(広島県教育委員会), 峯光一(南西環境研究所), 三枝誠行(岡大・理)	J1-10 非発見個体・種がいるときの個体群・群集動態のモデリング *山浦悠一(森林総研・昆虫), J. Andrew Royle (USGS), 久保井孝治, 多田恒雄(助川山保全くらぶ), 池野進(野鳥の会・茨城), 牧野俊一(森林総研・昆虫)	K1-10 散孔材樹種と環孔材樹種における枝-葉間の資源配分および材の水分通導の違い *東郷真波(京大院・農), 岡田直紀(京大院・農)
16:45	H1-11 オオオサムシ亜属雌雄交尾器形態のQTL *曾田貞滋, 雀部正毅(京大・理), 高見泰興(神戸大・人間発達環境)	I1-11 北海道知床半島でサケ科魚類を捕食するヒグマの生態:ヒグマの食事マナー 小宮山英重(野生鮭研)	J1-11 熱帯低地林の伐採が腐食由来の昆虫類に与える影響 *末吉昌宏(森林総研・九州), 長谷川元洋(森林総研・木曾), A.Y.C.Chung (サバ森林研究所)	K1-11 異なる土壌水分条件下におけるダケカンバの形態, フェロロジーと光合成機能の応答 *田畑あずさ, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦(北大・低温研)
17:00	H1-12 発生過程安定化遺伝子のゲノムワイドスクリーニング *高橋一男(岡大・RCIS), 岡田泰和(岡大・RCIS), 寺村皓平(岡大・進化生態)	I1-12 海中雑音がイルカの音声と群れに与える影響 *森阪匡通(京大・野生動物研究セ), 酒井麻衣(東大・生命科学NW), 白木原美紀(東邦大), 森恭一(帝科大), 小木万布(御蔵島観光協会)	J1-12 水抜き後の水田の地表性昆虫群集 ~有機農業と慣行農業の比較~ 大脇淳(森の学校キョロロ)	K1-12 散孔材樹種における道管径の季節変化 *大橋伸太, 岡田直紀(京大院・農)

口頭発表 3月17日(水) (Oral Presentation, 17 March, Wednesday Afternoon)

Time	Room C 群落	Room D 数理	Room E 保全	Room F 生態系管理
14:15	C2-01 サロベツ湿原におけるミズゴケ優占植生の復元実験 *富士田裕子(北大・FSC・植物園), 井上京(北大・農), 藤村善安(北大・FSC・植物園)	D2-01 コウモリのねぐら選択の数理モデル: fission-fusion 社会の進化的意義 *鹿嶋一孝(北大・院・環境科学), 大槻久(東工大・社会理工), 佐竹暁子(北大・創成)	E2-01 イギリス全土における250年の記録から推定された植物の開花時期指数 *天野達也(農環研), Smithers, R.J. (The Woodland Trust), Sparks, T.H. (Poznan Univ. Life Sci.), Sutherland, W.J. (Univ. Cambridge)	F2-01 カワウ営巣林における森林衰退-回復過程解明の試み- 空中写真判読と人文・社会科学的手法を用いた調査方法の検討 *亀田佳代子(琵琶湖博), 藤井弘章(近畿大・文芸), 前迫ゆり(大阪産業大・人間環境), 石田朗(愛知カワウ調査研), 牧野厚史(琵琶湖博)
14:30	C2-02 極限環境下のオアシス-南極湖沼 伊村智(極地研)	D2-02 細胞質性決定機構と染色体性決定機構の空間的共存およびその遺伝子流動への影響 小林豊(京大・生態研)	E2-02 九州・阿蘇の草原における植物分布に及ぼす土壌特性 (独)農研機構・九沖農研(現在:北農研)	F2-02 熊本県菊池市におけるクヌギ林への豚放牧による植生・土壌への影響 *小此木宏明(東大院・新領域), 福田健二(東大院・新領域)
14:45	C2-03 北極圏・南極圏の極地植物群落における種分布微地形の定量評価 *奥田将己(融合研), 伊村智, 神田啓史(極地研), 種村正美(統数研)	D2-03 化学量論から見たミジンコの最適摂食率 *大野(鈴木)ゆかり, 河田雅圭, 古部城太郎(東北大・生命科学)	E2-03 ダムの運用が河畔林の更新動態に与える影響 *高橋まゆみ, 中村太士(北大・農)	F2-03 シカの嗜好性解析と植生管理による被害軽減の可能性 *小池文人(横浜国大・環境情報)
15:00	C2-04 種構成における空間的不均一性レベルの判定 *塩見正衛(茨城大), 陳俊(西北農林科技大), 安田泰輔(山梨環境研), 佐々木彩(茨城大理工)	D2-04 陸産貝類の殻形態: 重力モーメントが及ぼす影響 岡罵亮子(東北・生命)	E2-04 氾濫原湿地に造成された水田地帯における植物分布を規定する要因-慣行田と休耕田の植物種組成の違い- *石田真也(新潟大院・自然科学), 高野瀬洋一郎(新潟大・超域研究機構), 紙谷智彦(新潟大院・自然科学)	F2-04 水生ミズに対する水田農業の生態影響評価 *谷地俊二, 中森泰三(横浜国大院・環境情報), 伊藤豊彰(東北大院・農), 金子信博(横浜国大院・環境情報)
15:15	C2-05 葉形質の全球的变化傾向とその適応的意義 *菊沢喜八郎(石川県大), 小野田雄介(マコーリー大), Wright, I.J. (Macquarie Univ.)	英語(分野は不問)		F2-05 堆積物におけるコイヘルベスウイルスの検出・定量 *本庄三恵, 源利文, 川端善一郎(地球研)
15:30	C2-06 樹木の肥大成長量と動態パラメータの地理パターン 石原正恵(自然研)	D2-06 From high resolution optical satellite data to above-ground biomass estimates in tropical rainforests - a landscape level case study in a production forest in Deramakot, Sabah, Malaysian Borneo *Andreas Langner, Kanehiro Kitayama	E2-06 Vulnerability Assessment of Urban Green Space Ecosystem to Climate Change *Choi, H.A. (Korea Univ.), Lee, W.K. (Korea Univ.), Choi, S. (Korea Univ.), Kwak, H. (Korea Univ.)	F2-06 貧酸素水域の拡大過程で生じた中海の突発的な汚濁化 *宮本康(鳥取衛環研), 香月興太(高知大・海洋コア総研セ), 山田和芳(University of Turku), 坂井三郎(JAMSTEC), 山口啓子(島根大・生物資源), 高田裕行(島根大・汽水研セ), 中山大介(同左), Hugo Coops (WL/Delft), 國井秀伸(島根大・汽水研セ)

口頭発表 3月17日(水) (Oral Presentation, 17 March, Wednesday Afternoon)

Time	Room G 物質循環	Room H 外来種	Room I 動物生活史	Room J 動物個体群	Room K 植物生理生態
14:15	G2-01 日中と夜間の生態系呼吸の違い:チベット草原における夏季と冬季の観測から分かったこと*廣田充(筑波大・生命環境),古松(中国科学院・西北高原),沈海花(国環研・生物),唐艶鴻(国環研・生物)	H2-01 外来種スイセンハナアブの餌資源一原産地と侵入地の比較*須島充昭,伊藤元己(東大・総合文化)	I2-01 ハマダラカ的生活史に基づく地理的分布の評価*柏田百代,太田俊二	J2-01 漁獲量は「観測データ」として使えるのか:サメグレイ個体群の階層ベイズモデリング*奥田武弘,服部努(東北水研・八戸)	K2-01 施肥がクロマツ苗の菌根共生と水分生理に及ぼす影響*大原一晃(京都大・農),岡田直紀(京都大・農)
14:30	G2-02 日本列島における土壌呼吸の時空間分布に関するモデル推定 伊藤昭彦(国環研),市井和仁(福島大),加藤知道(JAMSTEC),後藤誠二郎(国環研),梁乃申(国環研)	H2-02 特定外来生物カワヒバリガイの貯水池における成長と移動*中野大助,小林卓也,坂口勇(電力中央研究所),松本寛(鎭川土地改良区)	I2-02 カタツムリ同種的生活史変異-越冬生態*入村信博(千葉県立磯辺高校),浅見崇比呂(信州大・理・生物)	J2-02 What the results of beam light census of sika deer tell and how to explain? - a case study in northern Mount Fuji *姜兆文(野生動物保護管理事務所),上田弘則(近中四国農研センター),今木洋大(山梨環境研),北原正彦(同左)	K2-02 葉の形態変異と生態型:可塑性が違えば、馴化能力も変わる 野村尚史(科博・植物園)
14:45	G2-03 最終氷期以降の急激な気候変動と八甲田代湿原泥炭形成量変動の関連性解明:泥炭堆積物中セルロースの $\delta^{13}C$ 分析による考察*篠崎鉄哉(東北大・理・国環研・化),箕浦幸治(東北大・理),近藤美由紀(国環研・化),柴田康行(同左),吉田明弘(東北大・植),小池慧子(東北大・理),内田昌男(国環研・化)	H2-03 外来蝶アカボシゴマダラの分布拡大予測*小林弘幸,小池文人(横浜国大・院・環境情報)	I2-03 湖番種における浸透性交雑と雑種個体の生活史パターン*小北智之,熊田裕喜(福井県立大・海洋),奥田昇(京大生態研)	J2-03 繁殖場の破壊-個体群動態-コイヘルペスの大流行*山村則男(地球研),テルシヨウ・アーン(ミユンスター大),内井喜美子(地球研),川端善一郎(地球研)	K2-03 北海道におけるコナラ属の開葉の産地間変異*生方正俊,那須仁弥,福田陽子
15:00	G2-04 生態系の退行遷移が寒帯林の島の安定同位体に及ぼす影響*兵藤不二夫(岡山大・RCIS),David Wardle (SLU)	H2-04 宿主繁殖生態を利用した病原ウイルスの伝播メカニズム*内井喜美子(Univ Blaise Pascal),Arndt Telschow (Westfalian Wilhelms Univ),川端善一郎(地球研)	I2-04 戻し交配しても遺伝子が浸透しない:アイナメ属3種で発見された半クローン生殖*木村幹子(北大・FSC),河田雅圭(東北大・院・生命化学),阿部周一(北大・院・水産),荒井克俊(同左),宗原弘幸(北大・FSC)	J2-04 被食者の遺伝的多様性が被食者-捕食者系の持続性に与える影響*津田みどり,和田志乃,Ah Nge Htwe (九大院・農)	K2-04 生育光条件の変化に対するダケカンパの葉の窒素量・色素量や展葉数の変化*小野清美(北大・低温研)
15:15	G2-05 食物連鎖に沿ったCN安定同位体分別係数はどのように決まっているか:アミノ酸代謝モデルからの考察*石井励一郎(JAMSTEC),相田真希(JAMSTEC),小川奈々子(JAMSTEC),高津文人(国環研),山田佳裕(香川大・農),兵藤不二夫(岡山大・RCIS),和田英太郎(JAMSTEC)	H2-05 外来種問題に見るHost-Parasite共進化系崩壊リスク 五箇公一(国立環境研)	I2-05 メスヒグマ行動圏を再考する 小平真佐夫(知床財団)	J2-05 Population dynamics of intertidal barnacle: effects of seasonal processes operating at different spatial scales *K. Fukaya (Hokkaido Univ.), T.Okuda (Fish. Res. Agency), M.Nakaoka (Hokkaido Univ.), M.Hori (Fish. Res. Agency), T.Noda (Hokkaido Univ.)	K2-05 クワ科植物の乳液に含まれる多様なアルカロイド類や耐虫性タンパク質類が担う被食防衛機構とスペシャリスト昆虫の適応メカニズム*今野浩太郎,平山力,和佐野直也,中村匡利,立石剣(農業生物資源研),竹中真紀子(食総研),小野裕嗣(農水省),大藤康雄(国研センター熱帯島嶼拠点)
15:30	G2-06 瀬戸内海における低次栄養段階生物の安定同位体比分布と栄養構造*柴田淳也,國弘忠生,磯中竜一,濱岡秀樹,松元一将,南口哲也(愛大・沿岸研七),曾我部篤(広大・生物圏科学),大西秀次郎,大森浩二(愛大・沿岸研七)	H2-06 河川規模によって異なる在来種クラマスと外来種ブラウントラウトの種間関係*長谷川功(さけますセンター),山崎千七,曾我部篤(広大・生物圏科学),太田民久(北大・苫小牧研究林)	I2-06 知床国立公園における交通量のシュミレーション*峰谷菜保子(北海道大学環境科学院),庄子康(北海道大学 農学研究院),愛甲哲也(同左),西成活裕(東京大学 先端科学技術研究センター),佐竹暁子(北海道大学 創成科学共同研究機構)	J2-06 北海道で大発生したマイマイガ地域個体群の特徴*東浦康友,山口博史,倉沢美穂,時下進一	K2-06 中国毛烏素沙地に生育する植物の浸透調節能と乾燥適応戦略*岡田憲和(鳥取大・農),毛惠平(鳥取大・農),道又静香(鳥取大・農),山本牧子(鳥取大・乾地研),山中典和(鳥取大・乾地研),山本福壽(鳥取大・農)

社会生態

口頭発表 3月17日(水) (Oral Presentation, 17 March, Wednesday Afternoon)

Time	Room C 群落	Room D 英語(分野は不問)	Room E 保全	Room F 生態系管理
15:45	C2-07 日本海側山地の亜高山・高山域における最終氷期以降の植物群・環境変遷: 研究課題と展望 沖津進(千葉大・院・園芸)	D2-07 Phylogeography of <i>Camassia quamash</i> in western North America: postglacial colonization and transport by indigenous peoples *Hiroshi Tomimatsu (Tohoku University), Susan Kephart (Willamette University), Mark Velend (University of British Columbia)	E2-07 陸水環境保全のための指標種としてのイシガイ類の有用性 *根岸淳二郎(北大 院 地球環境), 大森徹治(国交省 木曾川上流), 萱場祐一(土木研 自然共生セ), 久米学(同左), 佐川志朗(同左), 真田誠至(同左), 永山滋也(同左), 宮下哲也(同左)	F2-07 摩周湖生態系に顕在する水銀 *武内章記(国環研), 田中敦, 五十嵐聖貴(道環研)
16:00	C2-08 年変動の大きい森林リターの推定法 千葉幸弘(森林総研)	D2-08 Restoration of the abandoned coal mines by applying tolerant plants and soil ameliorators Lee, C.S. and W.S. Oh (Seoul Women's Univ.)	E2-08 外来マスの宿主となるか *北野聡(長野県環境研), 小林収(長野西高), 山本祥一郎(中央水研)	F2-08 放射性炭素同位体を利用した土壌炭素有機物の滞留時間の推定 *近藤美由紀, 内田昌男(国環研), 村山昌平(産総研), 岸本文紅(農環研), 柴田康行
遷移・更新				
16:15	C2-09 北海道アポイ岳における草本植物群落の変動 *富田美紀(静岡大学・理・院), 田中正人(北海道様似町教育委員会), 渡邊定元(森林環境研究所), 増沢武弘(静岡大学・理)	D2-09 Variation in stable isotope ratio and concentration of anion regarding in-flight water *KATSURA Hidemitsu, KOBAYASHI Keisuke, SAITO Wataru, SASAKI Yuji, TAKEBAYASHI Yu, WAKABAYASHI Kenji, YOH Muneoki (Tokyo University of Agriculture and Technology), FANG Yunting (SOUTH CHINA BOTANICAL GARDEN)	E2-09 フナ・コイの産卵場所・仔稚魚成育場所の空間分布: 湖-川-水路の連続性と侵略的外来種の影響 *松崎慎一郎(東大・地球観測データ統融合), 照井慧(東大・農), 児玉晃治(福井県海浜セ), 多田雅充(福井県海浜セ), 吉田丈人(東大・総合文化), 鷲谷いづみ(東大・農)	F2-09 生態系モデルVISITによる土地利用変化が炭素動態に与える影響評価 *安立美奈子, 伊藤昭彦(国環研), Wan Rasidah (FRIM), 山形与志樹(国環研)
16:30	C2-10 谷地坊主によるストレス緩衝作用を介した実生定着過程 *小山明日香, 露崎史朗(北大・環境科学院)		E2-10 コイの行動性体温調節と環境水温の時空間的不均一性がコイヘルペスウイルス症の蔓延に与える影響について *山中裕樹(龍谷大), 曾我部篤(広大), 大森浩二(愛媛大), 源利文(地球研), 三木健(台湾大), 齋藤保久(釜山大), 内井喜美子(Univ. Blaise Pascal), 本庄三恵(地球研), 鈴木新(同左), 神松幸弘(同左), 川端善一郎(同左)	生態学教育・普及
16:45	C2-11 ササ型ブナ林のブナ実生の生残条件 西本孝(岡山県自然保護センター)			F2-10 大学博物館における植物パラタクソミスト養成講座の現状と課題 *持田誠(北大・総合博), 加藤ゆき恵(北大院・農・植物生態体系学)
17:00	C2-12 雪解け時期の違いが稚樹の開葉フェノロジーにおよぼす影響 *伊藤公一(鳥取大院・農), 佐野淳之(鳥取大・農・FSC)			F2-11 里山地域における住民協働モニタリング調査の継続的運営について *山岸洋貴(里山科学館キョロロ), 三上光一(長野大学), 永野昌弘(里山科学館キョロロ)
				F2-12 Educating for sustainability. Will the knowledge of the ecological impact of meat production affect students consumption pattern of the school lunch? *Paul Ofei-Manu

口頭発表 3月17日(水) (Oral Presentation, 17 March, Wednesday Afternoon)

Time	Room G 物質循環	Room H 外来種	Room I 社会生態	Room J 動物個体群	Room K 植物生理生態
15:45	G2-07 熱帯山地林河川の食物網構造と栄養起源の空間異質性 *宇野裕美(京大生態研), 竹門康弘(京大防災研), 北山兼弘(京大・農・森林生態), 奥田昇(京大生態研)	H2-07 支笏湖沿岸の非意図的外来魚(ヌマチチブ)が底生生物群集に与える影響 東海大 生物理工	I2-07 日本産トゲオオハリアリにおいて卵はワーカー間順位行動を抑制するか? *下地博之(琉球大), 藤木悠里(京都工繊大), 辻和希(琉球大), 山岡亮平(京都工繊大)	J2-07 コルリクワガタ種群の種の分布境界域の形態 *久保田耕平(東大・農), 久保田典子(横浜市)	K2-07 ハリケーン・カトリーナの生態的後遺症に関する研究——ヌマスギと侵入樹種ナンキンハゼ、センダンの塩水冠水耐性比較—— *竹内貴裕, 坪井騰久, 岩永史子, 山本福寿(鳥取大院・農)
16:00	G2-08 溪流に供給される落葉の飛散における距離と量との関係 *金指努(名大・生命農学), 服部重昭(名大・生命農学)	H2-08 侵入直後のオオクチバスが 短期間のうちに溜め池の生物群集に及ぼした影響 *藤本泰文, 進東健太郎(伊豆沼財団), 星美幸, 神宮宇寛(宮城大・食)	I2-08 熱帯雨林におけるコウゲンシロアリの空間的棲み分け *竹松葉子, 三巻和晃, 山口貴史(山大・農)	J2-08 伊豆諸島のヤマガラノ集団構造 *藤田薫(東邦大・地理生態), 西海功(国立科学博物館), 山口典之(東大・農・生物多様性), 樋口広芳(東大・農・生物多様性)	K2-08 流程の違いによる付着藻類の炭素安定同位体比の変化とその要因 *赤松史一(土木研), 小林草平(同左), 矢島良紀(同左), 中西哲(同左), 天野邦彦(国総研), 三輪準二(土木研)
16:15	G2-09 縮合タンニンの添加による土壌微生物群集の組成と機能の変化 *潮雅之(京大・生態研センター), 北山兼弘(京大・農)	H2-09 砂礫質河原のバツタ群集へのシナダレスズメガヤの影響: ハビタツトスペシャリスト植食者は外来植物の侵入に敏感か? *吉岡明良(東大・農), 角谷拓(国環研), 須田真一(東大・農), 鷲谷いづみ(東大・農)	I2-09 シロアリにおける攻撃性とは何か?—防衛行動の定量化の試み— *石川由希・三浦徹(北大・環境科学)	J2-09 瀬戸内海におけるカンムリウミスズメの繁殖に関して 飯田知彦	K2-09 西オーストラリアの塩害地におけるユーカリ植林木の成長低下 *齋藤隆実(東大院理,UWA), 曾根恒星(ブリヂストン中央研), 林和典(日本製紙森林科学研), 上田眞吾, 片瀬隆雄(日大生物資源), 野口航, 寺島一郎(東大院理)
16:30	G2-10 半乾燥地の耕作放棄後の土壌水分移動特性に多年生草本の侵入が及ぼす影響 星野亜季(東大・農), 藤巻晴行(筑波大・生命環境), 大黒俊哉(東大・農), ジャムスラン・ウンダルマ(モンゴル農大), 武内和彦(東大・農)	H2-10 外来樹種人工林の生物多様性保全機能 *尾崎研一, 佐山勝彦, 上田明良(森林総研北海道支所)	I2-10 ヤエヤマシロアリ野外コロニーの生殖虫とカストと性の構成 *星真大, 北出理(茨城大・理工・生物)	J2-10 無性型の多型維持のメカニズム: フナ類の有性・無性の共存研究 I *箱山洋(中央水研), 岡本千晶(中央水研), 児玉紗希江(中央水研), 小関右介(長野水試), 川之辺素一(長野水試), 松本光正(中央水研), 藤森宏佳(中央水研)	K2-10 インドネシア泥炭湿地林における水位調節が樹木の葉の性質に与える影響 *市栄智明(高知大・農), 田中(小田)あゆみ(東大・新領域), 田中憲蔵(森林総研)
16:45		H2-11 ニートリア対策の経緯と課題-捕獲およびモニタリングの結果から 森生枝(岡山県自然保護センター)	I2-11 テナガツノヤドカリにおける繁殖個体群の構造とオスに見られるハサミサイズの二型の季節変化 *古賀庸憲・福田有里(和歌山大・教育), 吉野健児(佐賀大・有明プロジェクト)	J2-11 有性, 無性の成長率の比較: フナ類の有性, 無性の共存研究 II 箱山洋(中央水研), *岡本千晶(中央水研), 児玉紗希江(中央水研), 小関右介(長野水試), 松本光正(中央水研)	
17:00		H2-12 小笠原諸島における外来生物ウシガエルの根絶達成 *戸田光彦(自然研), 茹部治紀(神奈川県)		J2-12 ウナギ資源の現状と対策 立川賢一(流域総合研究会)	

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

群 落

- P1-001** 大山ブナ二次林における下層植生の空間分布 *廣部 宗, 坂本圭児 (岡大院・環境), 宮本 渉 (岡大・農), 近藤順治, 音田高志, 小笠真由美, 山田義裕, 門田有佳子 (岡大院・環境), 山中典和 (鳥大・乾地研)
- P1-002** 屋久島針広混交林の階層構造 *石井弘明, 牧田直樹 (神戸大・農), 高嶋敦史 (琉大・亜熱帯フィールド科学セ)・吉田茂次郎 (九大・農)
- P1-003** 本州中部のブナ林における NDVI の広域の変動と気象要因との関係 阿部 聖哉 (電中研・生物環境)
- P1-004** 屋久島照葉樹林稚樹層のシカによる組成変化 *新山馨 (森総研東北), 勝木俊雄 (森総研), 安部哲人 (森総研九州), 八木貴信 (森総研東北), 香山雅純 (森総研九州), 田中浩 (森総研九州)
- P1-005** Phytosociological study of deciduous *Quercus* forest and modeling the distribution of five main *Quercus* species under the influence of climatic change in the warm-temperate zone of China *Tang Qian, Fujiwara Kazue (横浜国大・植生研) You Haimei (徐州師範大学・中国)
- P1-006** 外来水生植物チクゴスズメノヒエの根圏環境 *永坂正夫 (金沢星稜大・人間科学)
- P1-007** 本州中部におけるヤエガワカンバの生育立地環境 黒田学, *清野達之, 上條隆志, 中村徹 (筑波大・生命環境)
- P1-008** 琵琶湖湖岸および流入河川における外来植物群落の比較生態 *村上雄秀 (IGES 国際生態学センター), 西川博章 (株式会社 ラーゴ)
- P1-009** 北海道中央部の天然林における林分構造の類型化と森林タイプの分類 *大野泰之 (北海道林試)
- P1-010** ボルネオ低地林の樹木多様性と群集構造に及ぼす伐採の影響 *今井伸夫 (京大院・農), 清野達之 (筑波大・生命環境), 相場慎一郎 (鹿児島大院・理工), 武生雅明 (東農大・森林), 北山兼弘 (京大院・農)
- P1-011** オーストラリア・タスマニア島とニュージーランド南島のナンキョクブナ林の植生比較 目黒伸一 (国際生態学センター)
- P1-012** モンゴルステップの冬営地周辺における灌木と草本の分布特性 *山田義裕 (岡大・環境学), Jambal Sergelenkhuu (岡大・環境学), 平田由貴 (岡大・農), Jamsran Undarmaa (モンゴル農大), 坂本圭児 (岡大・環境学), 吉川賢 (岡大・環境学)
- P1-013** 岩手県盛岡市日戸地区における草地植生の管理方法の違いが種組成におよぼす影響 島田直明 (岩手県大・総合政策)
- P1-014** 北海道北部稚内砂丘間湿地・湖沼群の植生の現状 *藤村善安 (北大・植物園), 水田裕希 (北大院・農), 富士田裕子 (北大・植物園)
- P1-015** 木曾山脈将棋頭山におけるハイマツ群落の分布を規定する要因の検討 *北野昌美 (横国大院・環情), 大野啓一 (横国大院・環情), 近藤博史 (横国大院・環情)
- P1-016** カラマツクサ林の林齢や密度が個体の直径・樹高関係に与える影響 *滝谷美香 (道林試道東)
- P1-017** モンゴル北部ヘンティ山地におけるカラマツ林の構造と立地環境 *助野実樹郎 (北大院・環境科学), 石川守 (北大・地球環境)
- P1-018** Forest structural pattern and human use of natural resources in Wochu watershed, Bhutan Kunzang Choden *, University of Tokyo Professor Masahiko Ohsawa, University of Tokyo
- P1-019** 中国黄土高原における禁牧処理に伴う 30 年の種

- 構成と種多様性の変遷 *安田泰輔, 中野隆志 (山梨県環境科学研究所), 陳俊, 呼天明, 程積民 (西北農林科技大学), 山村靖夫, 塩見正衛, 堀良通 (茨城大学・理)
- P1-020** 晩氷期の気候変動に伴う近畿地方中部の植生変化 百原 新* (千葉大・園芸), 三宅 尚 (高知大・理), 山本浩久 (岩出第二中), 沖津 進 (千葉大・園芸)
- P1-021#** 仙丈ヶ岳におけるニホンジカ食害エリアにおける植生復元 *彦坂遼, 渡辺修 (信州大農)
- P1-022#** 長野県上高地における沖積錘上に成立するトウヒ林の林分構造 *若松伸彦 (立正大・ORC)・金子泰久 (立正大・地球環境)・川西基博 (鹿児島大・教育)・米林伸 (立正大・地球環境)
- P1-023#** 雑草群落の種数と種構成の空間的不均一性 *佐々木彩, 樋渡達哉, 山村靖夫, 塩見正衛 (茨城大・理)
- P1-024#** 広葉樹二次林の環境と植生構造への地形の影響 *西野 翔 (茨城大・理), 山村 靖夫 (茨城大・理)
- P1-025#** 青木が原樹海と野尻草原のエコトーンにおけるマイクロスケールでの群集構造の解析 *中山智絵, 鈴木真理子, 堀良通 (茨城大・理), 安田泰輔, 中野隆志 (山梨県・環境科学研)
- P1-026#** 長野県南部新山川流域における水田雑草群落と立地環境条件との関係 *新谷大貴 (信大・農), 大窪久美子 (信大・農)
- P1-027#** 中国ホルチン沙地における、灌木・高木植栽区の下層植生の評価 宮森映理子, 宮坂隆文, 大黒俊哉, 武内和彦 (東大院・農), 趙翰林, 趙学勇 (寒区旱区環境工程研)
- P1-028#** シオジ北限域の微地形と植生の関係 *深町篤子 (東京農工大・農), 星野義延 (東京農工大・共生科学技術), 渡辺直明, 金子稔, 木下浩幸 (東京農工大・農学部 FS センター)
- P1-029#** 下部谷壁斜面における木障刈り後の植物個体群再生様式 *小泉恵佑 (明治大・農), 倉本宣 (明治大・農)
- P1-030#** イヌブナ林の成立・維持の環境要因 山本啓介 (千葉大・園芸)
- P1-031#** 南アルプス北岳におけるダケカンバ林の種組成および構造と成立要因 石田祐子* (東京農大・院・林学), 武生雅明, 中村幸人 (東京農大・地域環境)
- P1-032#** 林分構造がツル植物の分布に与える影響 - 地形及びよじ登り様式による違い - *楠本間太郎, 井上貴文 (九大院・生資), 榎木 勉 (九大・演習林)
- P1-033#** Responsiveness of Some Mangrove Communities after disturbance by Cyclone Nargis *Toe Toe Aung (Y.N.U), Maung Maung Than (DFID), Katsushihiro Ono (Y.N.U), Yukira Mochida (Y.N.U)
- P1-034#** 都市近郊雑木林の林床植生と林内環境の関係 *横山悠人 (明治大・農), 倉本宣 (明治大・農)
- P1-035#** 浸食作用の卓越する山地集水域における森林構造と地形の対応 *北川涼 酒井暁子 近藤博史 大野啓一 (横浜国立大学・院・環境情報)
- P1-036#** 中国内モンゴル自治区シリント草原における草原特性と地域利用方式による植生の相違 *李強 (横浜国大・院), 藤原一繪 (横浜国大・院)
- P1-037#** 都市域孤立林における低木種の分布を決める要因は何か? *伊藤千恵, 藤原一繪 (横浜国大・院・環境情報)
- P1-038#** 乗鞍山麓亜高山帯における深畔域の植生と地形 *近藤博史, 北川涼, 酒井暁子, 大野啓一 (横浜国立大・院・環境情報)
- P1-039#** Geographical changes in the effects of grazing pressure on vegetation structure in Mongolian Rangeland *Jambal Sergelenkhuu (Okayama University), Yoshihiro Yamada (Okayama University), Jamsran Undarmaa (Mongolian

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

State University of Agriculture), Keiji Sakamoto (Okayama University), Ken Yoshikawa (Okayama University)

- P1-040# 越後平野に残存する3湖沼の湖岸における植物分布を規定する要因** *張蒼徹(新潟大・農4年), 石田真也(新潟大院・自然科学), 高野瀬洋一郎(新潟大・超域研究機構), 紙谷智彦(新潟大院・自然科学)
- P1-041# 浜畔林構成樹の河川攪乱に対する依存性** *二本松裕太, 中静透(東北大・院・生命)
- P1-042# 多摩丘陵における里山林の管理と微地形が林床植生に及ぼす影響** *長尾圭祐(明治大・院・農), 倉本宣(明治・農)
- P1-043# 大興安嶺におけるモンゴリナラ萌芽林の林分構造解析** *志栄(横浜国大・院・環境情報), 藤原一繪(横浜国大・院・環境情報)
- P1-044# 韓国南部における寺院林の植生学的構造解析** *李晟齊, 大野啓一(横浜国大・環境情報), 安永熙, 金英花, Kyung-mee LEE(韓国中央大・植物應用), 宋鍾碩(韓国安東大・生命)
- P1-045# 北関東の丘陵域におけるフモトミズナラ林の林分構造** *須田大樹(埼玉県立自然の博物館), 星野義延(東京農工大・農)
- P1-046# 扇状地河川における微地形が植物分布に及ぼす影響** *齊藤瑛璃香(新潟大・院・自然研), 石田真也(新潟大・院・自然研), 高野瀬洋一郎(新潟大・超域研究機構), 紙谷智彦(新潟大・院・自然研)
- P1-047# 佐渡島大河内沢における土流跡地に更新した浜畔林構成種の定着条件** 川上祐佳*新潟大学農学部 榎田豊 新潟大学農学部 崎尾均 新潟大学農学部
- P1-048# 佐渡島小佐渡地域東部におけるナラ枯れ被害後の森林動態** *白井航来(新潟大・農), 金子洋平(新潟大・超域研究機構), 本間航介(新潟大・農)
- P1-049# 暖温带里山二次林にみられる多様な林分構造** *岡田知也, 中川弥智子(名大院・生命農), 西村尚之(名産大), 松下通也, 戸丸信弘(名大院・生命農)
- P1-050# 中国内モンゴル自治区ホルチン砂地の砂丘タイプによる植物群落分布と構成種の根系構造について** *鮑娜仁高娃(横浜国大・院・環境情報), 藤原一繪(横浜国大・院・環境情報)
- P1-051# 暖温带低地に分布するアカマツとヒメコマツの実生・稚樹定着ハビタットの比較** 井上太樹, 籠谷泰行, 浜端悦治(滋賀県大・環境)
- P1-052# シカ食害の有無による下層植生の種構成及び現存量の違い** *坂井百々子(京大院農), 福島慶太郎(京大フィールド研), 徳地直子(京大フィールド研)
- P1-053# 林冠構成種によって異なる展葉・落葉フェノロジーが林床の植物種組成に及ぼす影響** *大山拓郎, 斎藤時子, 紙谷智彦(新潟大・院・自然科学)

植物個体群

- P1-054 気候のランダム変動とトレンドのもとで生物の分布限界はどう動くか** 竹中明夫(国立環境研)
- P1-055 絶滅危惧種の垂下状コケ植物イトゴケの北限** 白崎仁*(新潟薬大・生物)
- P1-056 タイ半島部における *Acrostichum* 2種の種生態** *皆川礼子, 中村武久(東京農大), 松本定(科博・植物)
- P1-057 チマキザサ節の分布を規定する気候要因の解明と温暖化の影響評価への応用** *津山幾太郎(森林総研), 松井哲哉(森林総研・北海道), 堀川真弘(TOYOTA・バイオ緑化), 中尾勝洋(森林総研), 小南裕志(森林総研・関西), 田中信行(森林総研)

- P1-058 倒木上に更新したトドマツとエゾマツ実生・稚樹の生残に及ぼす効果~倒木の質、母樹の効果~** *後藤晋, 岡田桃子, 石塚航, 木村恵, 練春蘭, 梶幹男(東大院・農)
- P1-059 都内二次林における樹木の分布形態と生存率** *大野正彦(都健安研セ), 大橋毅(元都環科研), 菅邦子(元都環科研)
- P1-060 標高傾度に沿ったハクサンハタザオとイブキハタザオの葉の解剖学的・生化学的特性** *永野聡一郎(東北大・院・生命科学), 森長真一(東大・院・総合文化), 彦坂幸毅(東北大・院・生命科学)
- P1-061 クローナル植物におけるエピジェネティック変異** *荒木希和子, 工藤洋(京大・生態研)
- P1-062 フタバガキ科 *Shorea maxwelliana* の遺伝子流動の年次変動** *増田真佑(筑波大・生命環境), 谷尚樹(国際農林水産業研究セ), 大谷雅人, 上野真義(森林総研), Norwati Muhammad, Soon Leong Lee(マレーシア森林研), 津村義彦(森林総研)
- P1-063 栽培体系がカラスムギの個体群動態に及ぼす影響: 生命表反応テストによる解析** *浅井元朗(中央農研), 高田社則(北大・地球環境)
- P1-064 十勝平野分断林の木本種の分布に対する林縁効果と面積効果: 多方向の林縁を考慮した解析** *鈴木智之(首都大・理工), 富松裕(東北大・農), 大石善子, 紺野康夫(帯広畜産大・畜産)
- P1-065 東アジアにおけるハリギリの分断分布はどのように形成されたのか** *阪口翔太, 竹内やよい, 山崎理正(京大院・農), Ying-Xiong Qiu, Yihui Liu, Xin-shuai Qi (Zhejiang Univ.), Sea-Hyun Kim, Jingyu Han (KFRU), 井鷲裕司(京大院・農)
- P1-066 イタドリ地上茎および地下茎からの栄養繁殖能力の定量的評価~移入先と自然分布域での比較** 角田智詞, 可知直毅, *鈴木準一郎(首都大・理工・生命)
- P1-067 タデスミレの個体群動態におけるニホンジカ摂食の影響** *尾関雅章, 大塚孝一(長野環境保全研), 平尾章(信州大・山岳研)
- P1-068 標茶町天然記念物ベニバナヤマシャクヤクの生態** 標茶町教育委員会標茶町郷土館 *辻ねむ(標茶町郷土館)
- P1-069 亜寒帯林床草本における空間分布決定要因の種間比較** *饗庭正寛, 日野貴文, 日浦勉, 北大・苫小牧研究林
- P1-070 湿地性樹木であるシデコブシが形成する複幹樹形の構造と適応的意義** 細川果奈子, 森部しのか, 岡田篤史, *肥後陸輝(岐阜大・地域)
- P1-071 白山の高山帯に移植されたコマクサ (*Dicentra peregrina* (Rudolphi) Makino) の個体数の増加** *野上達也(石川県白山自然保護センター), 吉本敦子(石川県白山自然保護センター), 稲葉弘之(アルスコンサルティング(株)), 瀬川涼(環境省), 畑中康郎(聖心学園中等教育学校), 米山競一(石川県地域植物研究会)
- P1-072 鳥取砂丘における海浜植生の構造と近年の変動** 永松大(鳥取大・地域)
- P1-073 温帯性木本ツルにおけるシュートの形態的可塑性と登攀様式の関係** *西尾孝佳, 中村満理恵(宇都宮大・雑草セ)
- P1-074 pHの変化によるシャジクモの生長について** *劉顕傑, 浅枝隆 埼玉大学理工学研究科環境制御システム
- P1-075 三春ダム湖内におけるタチヤナギの形態的特性の分布とその形成要因について** *福山朝子, 浅枝隆(埼玉大院, 理工), 浅見和弘(応用地質(株)), 清憲三(いであ(株))
- P1-076 オオシラビソ孤立林分周辺における土壌表層の花粉組成** *池田重人, 岡本透, 志知幸治, 若松伸彦
- P1-077# 落葉広葉樹林におけるヤドリギのホスト選択性**

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

鍵本忠幸(岐阜大院・応用生物)*、加藤正吾、小見山章(岐阜大・応用生物)

- P1-078#** 気候変化が八甲田山のオオシラビソ分布に与える影響評価—湿原周辺はレフュージアになり得るか? * 嶋崎仁哉(東北大・生命), 中園悦子(森林総研), 津山幾太郎(森林総研), 中尾勝洋(森林総研), 木島真志(東北大・生命), 田中信行(森林総研), 中静透(東北大・生命)
- P1-079#** 生育地の地形がオキナワウラボシ類の遺伝構造におよぼす影響 * 川路まり(鹿大院・農), 兼子伸吾(京大院・農), 館野隆之輔(鹿大・農), 井鷲裕司(京大院・農), 米田健(鹿大・農)
- P1-080#** サイズ構造のある個体群の空間構造の創発について—トドマツ個体群を対象として * 中河嘉明(筑波大院), 横沢正幸(農環研), 原登志彦(北海道大)
- P1-081#** ホソムギの他種との種間競争は水分供給の時間的不均質性によって変化するか? * 萩原陽介, 可知直毅, 鈴木準一郎(首都大・理工)
- P1-082#** ブナ・オオシラビソ分布境界における両種の成長特性について—阿部ゆかり(東北大・生命科学)
- P1-083#** 光・水・栄養塩が空間的に不均質に分布する環境におけるクローナル植物 *Glechoma hederacea* の成長 * 張替鷹介, 可知直毅, 鈴木準一郎
- P1-084#** 不均質な栄養分布のコントラストとスケールがクローナル植物のジェネット間競争に及ぼす影響の解析 * 松嶋麻由子, 可知直毅, 鈴木準一郎(首都大・院・理工)
- P1-085#** 一回繁殖型植物オオバユリの集団維持に対する有性繁殖と栄養繁殖の役割 * 西澤美幸, 大原雅(北大・院・環境科学)
- P1-086#** オオバユリ個体群の遺伝構造の地理的変異 * 早船琢磨, 大原雅
- P1-087#** クローナル植物バイケイソウ個体群の遺伝的構造 * 草嶋乃美, 加藤優希, 大原雅(北大・院・環境科学)
- P1-088#** 植物の生育段階により栄養塩パッチの出現が根の反応と個体成長に及ぼす影響は異なるか? * 松井萌恵, 可知直毅, 鈴木準一郎(首都大・理工)
- P1-089#** 低地暖温帯林におけるモミ *Abies firma* の個体群の自然更新過程とその持続性の検証 * 沖 宗一郎, 山田 俊弘, 奥田 敏統(広島大, 院, 総科)
- P1-090#** マレーシア熱帯雨林におけるフタバガキ科 10 種の遺伝構造 * 原田剛, 名波哲, 伊東明, 山倉拓夫(大阪市大・院・理), Bibian Diway, Sylvester Tan(サラワク森林研究所)
- P1-091#** 根への攪乱と栄養塩濃度が、3種のウキクサの成長動態に及ぼす影響 * 鈴木乾也, 可知直毅, 鈴木準一郎(首都大・院・理工)
- P1-092#** 根が関与する自己・非自己認識が個体成長を介して競争に与える影響 * 水谷紘菜, 可知直毅, 鈴木準一郎(首都大・理工)
- P1-093#** マレーシア低地熱帯雨林におけるフタバガキ科樹木のすみわけ * 山田裕子, 山田俊弘, 奥田敏統(広島大・院・総科)
- P1-094#** 新潟県の風穴に分布する絶滅危惧種エゾヒョウタンボクの生育状況 * 指村奈穂子(東大・農・森園管理), 古本良(林木育種センター), 斎藤久夫(東蒲自然同好会), 中沢英正(津南町自然に親しむ会), 池田明彦(品川区役所)
- P1-095#** 標高が変わると死ぬ季節は変わるか?—標高分布の広いミヤマハタザオの場合— * 恩田義彦, 田中健太(筑波大・菅平セ)
- P1-096#** 林冠ギャップと土壌環境はマングローブ稚樹の成長と生存率に影響を与えるか?—オヒルギとヤエヤマヒルギを対象として— * 浦田悦子(横国大・院・環境情報),

藤原一繪(横国大・院・環境情報)

- P1-097#** 東京湾におけるアマモ種子分散過程の推定: 漂流ハガキと流動モデルによるアプローチ * 渡辺健太郎(千葉大・自然科学), Tanuspong POKAVANICH(東工大・情報理工), 八木宏(水産総合研), 灘岡和夫(東工大・情報理工), 仲岡雅裕(北大・厚岸臨海)
- P1-098#** モウソウチク・ハチクの現存量と地下茎切断が成長に与える影響 * 遠山 千景(名大・農), 中川 弥智子(名大院生命農)
- P1-099#** 南極の湖沼底に生育する蘚類の分類の再検討および遺伝的多様性について * 加藤健吾(総研大・極域科学), 伊村智, 神田啓史(極地研)
- P1-100#** 小櫃川河口干潟におけるハマツナの生育形態の可塑性と立地環境に関する考察 * 馬雁飛(横国大院・環境科学府), 大野啓一(横国大院・環境研)
- P1-101#** 共通資源競争下の一年生, 多年生植物の共存からみるトレードオフの役割 岩田 繁英(静岡大学)

植物生理生態

- P1-102** 夏季の乾燥が高CO₂下で栽培した冷温帯落葉樹の光合成特性に与える影響 * 北岡 哲, 飛田博順, 上村 章, 丸山 温, 宇都木 玄(森林総研北支)
- P1-103** 常緑広葉樹林実生の夏と冬の光環境変動に対する個葉と個体の反応 * 河原崎里子 12, 相川真一 1, 石田厚 1, 可知直毅 2, 田内裕之 1 (1 森林総研, 2 首都大)
- P1-104** 異なる光環境下に生育するトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツの成長特性と葉の老化 香山雅純(森林総研九州), 小林 真(北大・農), 崔 東壽(東京農工大・農), 高木健太郎(北大・北方生物圏セ), 小池孝良(北大・農)
- P1-105** コナラ稚樹における窒素の吸収時期による葉からの引き戻しの相違 * 上田実希(京大・フィ研), 水町衣里(京大・情報), 徳地直子(京大・フィ研)
- P1-106** 異なる気候帯における森林ギャップへの葉の応答 * 小野田 雄介(Macquarie Uni), Lora Richards (Uni Nevada Reno), Mark Westoby (Macquarie Uni)
- P1-107** 異なる地形に生育するヒノキの光合成 * 壁谷 大介(1), 韓 慶民(2), 千葉 幸弘(2) (1: 森林総研・木曾, 2: 森林総研)
- P1-108** 根を含む樹木個体呼吸—混合ベキ関数によるメタボリックスケーリング— 森茂太・西園朋広・石田厚(森林総研) 山路恵子(筑波大) 萩原秋男・諏訪鍊平・R.A.T.M. Hoque(琉球大) 大澤晃(京大)
- P1-109** 陽葉と陰葉における葉の通水特性の違い * 原山尚徳, 石田厚(森林総研)
- P1-110** 異なる土壌塩分条件がタマリスク苗木の成長に及ぼす影響 * 今田省吾(鳥取大・乾燥地研), 政二大志(三重大・生物資源), 岩永史子, 村田直樹(鳥取大・乾燥地研), 松尾奈緒子(三重大・生物資源), 山中央和(鳥取大・乾燥地研)
- P1-111** 樹幹形アロメトリーの長期変化、個体間変異とその要因 * 隅田明洋(北大・低温研), 宮浦富保(龍谷大・理工)
- P1-112** カンボジアの在来・外来樹種のガス交換特性の比較研究 * 宮沢良行, 立石麻紀子, 熊谷朝臣, 大槻恭一(九大演習林), 溝上展也(九大・農), Ma Vuthy, Sokh Heng (Forestry Administration of Cambodia)
- P1-113** ミヤコグサ実生の成長に対する根粒菌接種の効果は光強度と土壌窒素濃度により異なる * 中田望(首都大院・理工), 大曾根陽子(大妻女大・社), 可知直毅(首都大院・理工)
- P1-114** 直接観察法を用いた樹木葉における気孔開度分布様式の把握 * 鎌倉真依(奈良女大・共生センター), 高梨聡(森林総研), 小杉緑子(京大・農), 松本一穂(九大院・農)

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

- P1-115 エネルギー収支から見る稼ぐ葉のサイズと気温との関係** *岡島有規, 種子田春彦, 寺島一郎 (東大・院・理)
- P1-116 乾燥に対する樹木の水分通導性の変化~環孔材は散孔材よりも通水に有利なのか?~** *小笠 真由美, 三木直子, 廣部 宗, 坂本 圭児, 吉川 賢
- P1-117 モハベ砂漠に生育する植物のベタイン類生合成における種間差** *岩永史子, Ailijan Maimaiti, 今田省吾 (鳥大・乾燥地研), Kumd Acharya (DRD), 森 信寛, 山本福壽 (鳥大・農), 山中典和 (鳥大・乾燥地研)
- P1-118 木本植物三種の展葉期における葉の窒素獲得** 小山里奈 (京大・院・情報)
- P1-119 光合成窒素利用効率の種間差におけるルビスコと細胞壁の役割** *彦坂幸毅, 重野亜紀 (東北大・院・生命科学)
- P1-120 冬緑性草本ヒガンバナの光合成特性** *西谷里美 (日本医大・生物), 中村敏枝 (首都大・生命科学), 可知直毅 (首都大・生命科学)
- P1-121 茎への重量負荷は茎の成長に影響するか?** *長嶋寿江, 彦坂幸毅 (東北大・院・生命科学)
- P1-122 葉に対する茎の支持効率を高めるための協同パイプモデル** 顧令爽, *紺野康夫 帯畜大畜産生命
- P1-123 突発的な降雨に対する小笠原移入樹種の水利用特性** *矢崎 健一, 石田 厚
- P1-124 マングローブ実生の湛水ストレス耐性と生態的地位との関係** *渡辺信 (琉大熱生研西表), 江面浩 (筑波大遺伝子実験センター), 馬場繁幸 (琉大熱生研西表)
- P1-125 葉特性からみた湿原群集構造** *神山千穂, 片測正紀, 佐々木雄大, 嶋崎仁哉, 中静透, 彦坂幸毅 (東北大学・院・生命科学)
- P1-126 高CO₂下で生育させた落葉広葉樹の成熟葉は土壤乾燥ストレスを受けやすくなるか?—Imaging-PAMによる評価—** *飛田博順, 北岡哲, 上村章, 丸山温, 宇都木玄 (森林総研・北海道)
- P1-127 帯状伐採地に植栽された落葉広葉樹とヒノキの成長** 田中 格 (山梨県森林総研・富士吉田)
- P1-128 湿原性スゲ属植物の窒素同化酵素活性と窒素利用様式** *中村隆俊, 小泉優人, 齊藤卓 (東京農大・生物産業), 中村元香 (千葉大・理)
- P1-129 ブナ高木の樹冠内窒素分配:葉の窒素含量は光環境に合わせて最適分配されているのか?** *長田典之 (京大・フィールド研), 安村有子 (シュプリンガー・ジャパン), 彦坂幸毅 (東北大・生命), 石田厚 (森林総研)
- P1-130 広葉樹のシュート単位からみた光合成速度~シュート形態と生理機能は補完するのか?~** *吉村謙一 (神戸大自然科学)
- P1-131 都市生態系における植物の光合成と炭素安定同位体比** *半場祐子, 籠谷優一, 藤野貢祐, 牛島広貴, 風間貴仁 (京都工繊大)
- P1-132 荒川砂州の樹林化原因の解明** *渡部裕介 (埼玉大・理工), 浅枝
- P1-133 エゾノキヌナギのガス交換特性** *上村章, 宇都木玄, 飛田博順, 北岡哲, 丸山温 (森林総研北支)
- P1-134 Development of a functional-structural growth model of the plant grown in desertificated regions using L-system** Sasakawa H. (NIES), Yagasaki Y. (NIES, NIAES), Ito S. (NIES), Xu Z.Z. (NIES, IBCAS), Zou C.J. (NIES, ECNU), Chen L.J. (NIES, IAECAS), Zheng Y.R. (NIES, IBCAS), Tsuji W. (ALRC Tottori-U.), Shimizu H. (NIES)
- P1-135 Growth responses to soil water stress of some Poaceae species grown in desertificated grassland in North-East Asia.** *Ito S. (NIES), Zou C.J. (NIES, ECNU), Sasakawa H. (NIES), Xu Z.Z. (NIES, IBCAS), Chen L.J. (NIES, IAECAS), Zheng Y.R. (NIES, IBCAS), Jamsran U. (MSUA), Tsuji W. (ALRC Tottori-U.), Shimizu H. (NIES)
- P1-136 明所における落葉広葉樹頂部葉の水利用効率の樹高依存性** *宮田理恵, 久保拓弥, 甲山隆司 (北大・環境科学)
- P1-137 産地別ススキの土壌の化学的特性に対する生育反応** *森田沙綾香, 藤井義晴, 平館俊太郎 (農環研), 伊藤豊明 (東北大大学院農学研究科)
- P1-138 Early diagnosis of pine wilt disease with Agricultural Digital Camera** Kim, Y.S. (Sundo soft), Lee, W.K. (Korea Univ.), Jung, S.E. (Sundo soft), *Kwon, T.H. (Korea Univ.), Kim, J.B. (Korea Forest Research Ins.)
- P1-139 可視-近赤外線カメラを用いた落葉広葉樹林のフェノロジー観察** *中路達郎 (北大・北方生物圏FSC), 小熊宏之 (国環研), 田柳史織, 日浦 勉 (北大・北方生物圏FSC)
- P1-140# 植物の弱光環境下における最適物質分配 なぜ根の割合を少なくするのか?** *杉浦大輔, 館野正樹 (東大・院・理・日光植物園)
- P1-141# トレハロースの投与が樹木苗木の耐塩性に与える影響** *村田直樹1, 岩永史子2, 田中浄1, Ailijan Maimaitil, 山中典和2 (1鳥大院・農, 2鳥大・乾地研)
- P1-142# いろいろな「耐陰性」** *宮下彩奈, 館野正樹 (東大・理)
- P1-143# 林床から樹幹上におけるテイカカズラの葉の形態的变化** *近藤未紗 (岐阜大院・応用生物), 加藤正吾 (岐阜大・応用生物), 小見山章 (岐阜大・応用生物)
- P1-144# 葉の構造と蒸散メカニズム 表皮が無くてもしおれない葉** *澤上航一郎, 館野正樹 (東大・院・理・日光植物園)
- P1-145# 光合成・蒸散による二酸化炭素と水蒸気の炭素・酸素同位体分別の同時測定と新たな葉内水の酸素同位体比の非定常モデルの提案** *児玉直美 (Landcare Research), Jerome Ogee (EPHYSE, INRA), John E. Hunt (Landcare Research), Margaret M. Barbour (Landcare Research)
- P1-146# 落葉広葉樹2種の実生における成長・防御・貯蔵への炭素分配パターン** *今治安弥 (奈良県森技術セ), 清和研二 (東北大・院・農)
- P1-147# 富士山森林限界付近におけるタデ科植物の環境適応** *伊藤理恵, 増沢武弘 静岡大学大学院理学研究科
- P1-148# Comparative studies on C and N accumulation of soil, A₀-layer and biomass between subtropical forests growing in silicate and limestone habitats in the northern part of Okinawa Island** Wu, M.* (Univ.of the Ryukyus), S.M. Feroz (Khulna Univ.,Bangladesh), A. Hagihara (Univ.of the Ryukyus)
- P1-149# 植物の茎の伸長成長と力学的安定性** *渡利亮司, 長嶋寿江, 広瀬忠樹 (東京農大院)
- P1-150# 茨城県北部落葉広葉樹林に同所的に生育する3種のササの群落構造と光合成** *佐久川結喜, 青田崇志, 金子悠哉, 堀良道 (茨城大・理・生態)
- P1-151# 常緑広葉樹稚樹の季節・老化に伴ったクロロフィル含量・窒素含量の変化** *水崎大二郎, 本條毅, 梅木清 (千葉大園芸)
- P1-152# Litterfall dynamics in mangrove *Kandelia obovata* stands on Okinawa Island, over four years** Sahadev Sharma* (Univ. of the Ryukyus) Rafiqul A.T.M. Hoque (Univ. of the Ryukyus) Kangkuso Analuddin (Haluoleo University) Akio Hagihara (Univ. of the Ryukyus)
- P1-153# Temperature-dependence of the exponent of the power functional relationship between respiration and mass in *Kandelia obovata* forest trees** *Hoque A.T.M.R., Sharma S. (Univ. of Ryukyus), Suwa R., Shigeta M. (FFPRI) and

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

Hagihara A. (Univ. of Ryukyus)

P1-154# Seasonal changes in water-use properties associated with water supply from adventitious roots of *Sabina vulgaris* growing in semi-arid area *Lingli Yang, Naoko Miki, Yasushi Seno, Muneto Hirobe, Keiji Sakamoto (Okayama Uni.), Yuling Li (Agricultural Uni. of Heibei), Guosheng Zhang, Linhe Wang (Agricultural Uni. of Inner Mongolia), Ken Yoshikawa (Okayama Uni.)

P1-155# アカガシとウバメガシの乾燥ストレスに対する生理生態学的反応の比較 *小栗寛 (東大院・新領域), 石田厚 (森林総研), 福田健二 (東大院・新領域)

P1-156# マレーシア熱帯雨林の林冠部における異圧葉・等圧葉樹種の水利利用特性 *井上裕太 (愛媛大・連合農学), 田中憲蔵 (森林総研), 市栄智明 (高知大・農)

P1-157# *Populus* 属の耐塩性とベタイン類の役割 *道又静香, 毛恵平, 岡田憲和, 山中典和, 山本福壽 (鳥取大・農)

P1-158# 樹木の枝の形態と力学的特性の関係 *南野亮子, 館野正樹 (東大・院・理)

P1-159# タネツケバナ属における根の形態形成と環境適応 *坂根雅人 (京都大・SER), 深城英弘 (神戸大・理), 工藤洋 (京都大・SER)

P1-160# 水生植物の窒素獲得様式と根の呼吸特性 *中村元香 (千葉大・理), 中村隆俊 (東農大・生物産業), 土谷岳令 (千葉大・理)

P1-161# 更新初期段階におけるブナ属2種の春期未展葉型死亡に関する成長形質 *石塚航, 後藤晋, 梶幹男 (東大・演習林)

P1-162# マレーシア熱帯山地林における樹木の生育土壌環境と個葉特性 *塩寺さとみ (北海道大学), 北山兼弘 (京都大学農学研究科)

P1-163# Betaine Accumulation as an Osmoregulator in Plant Species Growing in XinJiang Region, China AILIJIAN MAIMAITI, 山中典和2, 山本福壽1, 森信寛1, QiMan YuNuSi3 (1鳥大院・農, 2鳥大・乾地研, 3新疆農大)

P1-164# 冠水と乾燥の繰り返しに対するネコヤナギとタチヤナギの反応の比較 *中井亜理沙, 万木豊, 木佐貴博光 (三重大院生資)

P1-165# An ecophysiological field study of *Abies sachalinensis* and *Picea glehnii* seedlings in Hokkaido. *Bontempo e Silva, E.A. (Hokkaido Univ.), Hara, T. (Hokkaido Univ.), Sumida, A. (Hokkaido Univ.), Ono, K. (Hokkaido Univ.)

P1-166# 非定常状態を考慮した葉内水の酸素安定同位体比の決定要因の解明 *大橋達矢 (三重大・生資), 松尾奈緒子 (三重大・生資)

P1-167# キクイモ、ハンノキ及びブナの葉の光一光合成曲線は相似形である *小山耕平, 菊沢喜八郎 (石川県立大)

P1-168# 葉内二酸化炭素拡散抵抗の制御メカニズム *藤野貢祐, 半場祐子 (京都工繊大院・生物資源フ)

P1-169# 個体密度の変化に対するテツカエデ稚樹の応答 - 形態的可塑性と生理的可塑性 - *齊藤わか, 吉田幸弘 (京大・農), 河村耕史 (名大・農), 北山兼弘 (京大・農), 武田博清 (同志社大・理工)

P1-170# Leaf water potential of two mangrove species *Bruguiera gymnorhiza* and *kandelia obovata* along salinity gradient Deshar R.* (Univ.of the Ryukyus), R. Suwa (Univ. of the Ryukyus), M. Wu (Univ. of the Ryukyus), A. Hagihara (Univ. of the Ryukyus)

P1-171# 気孔コンダクタンスの季節変化が葉組織中のセルロースの酸素安定同位体比に与える影響 *隠岐健児, 松尾奈緒子, 大橋達矢 (三重大・生物資源)

P1-172# 植物に有益となるアクアポリンの探索: ダイコン由来アクアポリンの場合 *大西祐作, 半場祐子 (京都工繊大院), 土平絢子, 前島正義 (名古屋大・生命農学研究科), 河津哲, 加藤直樹, 土居智仁 (王子製紙・森林資源研究所)

P1-173# 安定同位体比を用いた海浜植物の水利利用特性と耐塩性の評価 *原菜那 (三重大・生物資源), 松尾奈緒子 (三重大・生物資源), 小山里奈 (京大・情報), 徳地直子 (京大・フィールドセンター), 山中典和 (鳥取大・乾燥地研)

P1-174# ハリケーン・カトリーナの生態的後遺症に関する研究—冠水および傾斜がヌマスギ、ヌマミズキの生理・成長に及ぼす影響 *西牟田和沙, 岩永史子, 山本福壽 (鳥取大・農)

P1-175# 異なる土壌塩分条件がタマリスク苗木の塩腺からの分泌液の蒸発量に及ぼす影響 *政二大志, 松尾奈緒子 (三重大・生物資源), 今田省吾, 岩永史子, 村田直樹, 山中典和 (鳥取大・乾燥地研)

P1-176# コンパクトMRI位相法による樹木の通導経路の可視化 *野口雄二郎 (東大院新領域), 梅林利弘 (森林総研), 高橋由紀子 (東大院農学生命), 福田健二 (東大院新領域)

P1-177# 着生シダ植物ヤエヤマオオタニワタリの葉群動態 *篠原輝, 久保田康裕 (琉球大・理)

植物繁殖・植物生活史

P1-178 シオジの幹肥大生長は種子の豊凶や雌雄により異なるか? *崎尾均, 高橋もなみ (新潟大・農), 比嘉基紀 (森林総研), 川西基博 (鹿児島大・教)

P1-179 北海道北部におけるミズナラ堅果生産量の長期変動と堅果重の変異 *植村滋 (北大フィールド科学センター), 吉田俊也 (同), 石田亘生 (同), 早柏慎太郎 (同)

P1-180 雌雄同株樹木シデコブシにおける資源量に応じた性配分の差異 *鈴木節子 (森林総研), 戸丸信弘 (名大院生命農)

P1-181 奄美群島徳之島におけるオキナワウラジロガシとアマミアラカシの堅果生産量の3年間の変動 *平山大輔 (三重大・教育), 香山雅純 (森林総研・九州), 館野隆之輔, 川路まり, 北岡和彦, 米田健 (鹿児島大・農)

P1-182 ハイマツの結実変動 森広信子 (無)

P1-183 ブナの花芽形成決定への個体内資源量の関与 *宮崎祐子 (北大・創成), Benesh Joseph, 小林正樹, 清水健太郎 (チューリヒ大・理), 佐竹暁子 (北大・創成)

P1-184 雌雄異株カラスザンショウにおける繁殖投資パターン、葉フェノロジーの雌雄差とその関わり *松山周平 (大阪市大・理), 嵩元道徳 (京大フィールド研)

P1-185 バイケイソウの一斉開花現象と地理的な同調性 谷友和 (上越教育大)

P1-186 アオモリトドマツ雌花芽数の年次変動が動物による被食から受ける影響について 関剛 (森林総研・北海道)

P1-187 植物の繁殖に及ぼす二親性近親交配の影響: 推定方法と適用事例 *石田清 (弘前大・農), 平山貴美子 (京都府大・院・生命環境)

P1-188 オオヤマオダマキにおける花序内の花ごとの形質と自殖率の関係 板垣智之, 酒井聡樹 (東北大・院・生命)

P1-189 マスティングの規模が左右する種子生存の密度依存性の効果 竹内やよい (京大農)

P1-190 雌雄異株低木シロモジにおける前年の繁殖がその後の繁殖と生存に及ぼす影響 *松下通也, 中川弥智子, 戸丸信弘 (名大院・生命農)

P1-191 雌性両全異株性植物ナデシコ科 *Silene vulgaris* における性比が自殖率に与える影響—野外集団における

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

検証 *三宅(村山)恵子(新潟大学), Matthew S. Olson (University of Alaska Fairbanks, USA)

P1-192 兵庫県におけるコナラの豊凶特性—5年間の観測結果から *藤木大介, 坂田宏志, 横山真弓(兵庫県大・自然研)

P1-193 雌雄異株植物ヤチヤナギのオス化した小集団のクローン構造 *井上みずき(秋田県立大・生物資源), 石田清(弘前大・農)

P1-194 貧栄養条件下に成立する熱帯林における主要樹種の萌芽特性 *宮本和樹(森林総研四国), Reuben Nilus(サバ森林研究セ), 壁谷大介(森林総研), 伊藤武治(森林総研四国)

P1-195 アカマツ林に生育するツツジ科低木4種の樹形とシュート形態の比較 *城田徹央(信大・農), 岡野哲郎(信大・農)

P1-196 キンラン・ギンラン・ササバギンランの発生状況のちがい 寺井学, 大林組技術研究所

P1-197 タチスズシロソウの低温に対する開花反応性の集団間変異とその遺伝的背景 杉飯次郎, 工藤洋(京大生態研)

P1-198 融雪と植生フェノロジー観察におけるデジタルカメラの利用とネットワーク化 *井手玲子(国環研), 中路達郎(北大), 小熊宏之(国環研)

P1-199# 「東濃地域における光・水環境がシデコブシの生育に与える影響」 加藤杏奈(名大, 環境学)

P1-200# クサギ属植物における広域分布種と伊豆諸島準固有種の繁殖様式 水澤玲子(京大・農), 長谷川雅美(東邦大・理), 井鷲裕司(京大・農)

P1-201# 日本産エンレイソウ属植物の種間雑種形成における生殖隔離の非対称性 *前川諒, 大原雅(北大・院・環境科学)

P1-202# アカガシとイヌガシの分布上限域における結実量 *澤田佳美(東京農大・院・林学), 金田考示, 丸山久美, 武生雅明, 中村幸人(東京農大・地域環境), 吉田圭一郎(横浜国立大・教育人間科学), 磯谷達宏(国士館大学・文)

P1-203# 周辺環境の違いが東南アジア熱帯のバイオニア植物 *Dillenia suffruticosa* の繁殖成功に及ぼす影響 *徳本雄史, 松下通也, 中川弥智子(名大・生命農)

P1-204# 近畿地方内陸部タブノキ林の保全生態学的研究: 地理変異と繁殖特性 *渡部俊太郎(滋賀県立大・環境), 金子有子(琵琶湖環境科学研究センター), 前迫ゆり(大阪産大・人間環境), 野間直彦(滋賀県立大・環境)

P1-205# 雌雄異株の樹木アオモジの結実と種子散布における空間構造の影響 *鈴木嶋康子, 川口英之(島根大・生物資源)

P1-206# マタタビミタマバエのゴール形成がマタタビの繁殖へ与える影響 *中山晴夏(新潟大・農), 三宅(村山)恵子(新潟大・女性研究支援室), 三宅崇(新潟大・院自然科学), 楡井尊(埼玉自然博), 崎尾均(新潟大・農)

P1-207# 雌雄異株低木シロモジの生理的統合性における性差: 環状剥皮処理を用いた野外実験による検証 *五十君友宏(名大・農), 中川弥智子, 松下通也, 渡辺洋一(名大院・生命農)

P1-208# ミチタネツケバナの雄蕊数のゆらぎ: 地理的変異と遺伝構造の関係 *松橋彩衣子(東北大・生命), 工藤洋(京大・生態研), 酒井聡樹(東北大・生命)

P1-209# 無融合生殖を行う雑種性タンポポにおける遺伝的多様性が増大する仕組み *満行 知花(九大・理・生物), 矢原 徹一(九大・理・生物), 芝池 博幸(農環研・生物多様性), 保谷彰彦(東大・院) 広域システム)

P1-210# 同所的林床に生育するイワガラミ・ツルアジサイの分布と光環境 *森戸寛(岐阜大院・応用生物), 加藤正吾, 小見山章(岐阜大・応用生物)

P1-211# ハクサンハタザオのサイズ依存性開花 *長岡光洋, 工藤洋(京大・生態研)

P1-212# サトイモ科植物マムシグサの性転換の動態と繁殖との関係 *大松ちひろ, 大原雅(北大・院・環境科学院)

P1-213# 野外つる植物個体の成長特性 ~つる植物は成長が早い? *市橋隆自(九大・農・演習林), 館野正樹(東大・理・日光植物園)

P1-214# 佐渡島天然スギ林におけるスギの発芽、定着条件 *大野葵(新潟大院・自然科学), 金子洋平, 本間航介, 崎尾均(新潟大・農)

P1-215# 樹木の成り年の進化における制限要因の役割: 生産率・生存率と周期性・同調性 *白濱圭通, 福井真, 山内淳(京大・生態研センター)

送粉・種子散布

P1-216 タイ南部のフタバガキ林に生息するサイチョウ類が散布する果実の特性 *北村俊平(兵庫県立人と自然の博物館), Siriporn THONG-AREE(タイ王立森林局), Sitichai MADRSI(タイ王立森林局), Pilai POONSWAD(マヒドン大学・理)

P1-217 鳥散布型樹種の分布拡大および定着要因 *田中悠希(鳥取大・農), 佐野淳之(鳥取大・FSC)

P1-218 里山二次林における植栽イヌマキからの動物による侵入・定着 小南陽亮*, 福田悦士(静岡大・教育)

P1-219# 開花時期で異なる結実率が明らかにするアゲハチヨウ送粉効果 *坂本亮太, 川窪伸光(岐阜大学大学院 応用生物)

P1-220# デイゴの蜜分泌と送粉者の訪花時間—特にオリイオオコモリの利用について— *中本敦, 伊澤雅子(琉球大・理)

P1-221# 花色変化は何のシグナル? ~ハコネウツギ(変型型)とタニウツギ(不変型)における繁殖形質の比較~ *鈴木美季(筑波大・生物), 大橋一晴(筑波大・生命環境科学), 牧野崇司(筑波大・東北大)

P1-222# ツリフネソウ・キツリフネ間における繁殖干渉の検出 *徳田奈菜子(信大・理・生物), 市野隆雄(信大・理・生物)

P1-223# ホタルブクロの花における雄性期・雌性期の蜜分泌パターンとマルハナバチ類の訪花パターンの関係 *阿部航大(信大・理・生物), 市野隆雄(信大・理・生物)

P1-224# 送粉者の行動と開花フェノロジーから予測する植物群集内の花色構成: 既存データを用いた検証 *川口利奈(九大・理・生物科学)

P1-225# ササユリとジンリョウユリの訪花昆虫と花形質の比較 *横田静香, 矢原徹一(九大・理・生物)

P1-226# 昆虫体表付着花粉による秋田市近郊植物群集の訪花者ネットワーク *日下石碧, 井上みずき, 星崎和彦, 蒔田明史(秋田県立大・生物資源)

P1-227# ホオノキの送粉及び実生の父系解析で明らかになった有効花粉流動の年変動 *松木悠(京大院・農), 館野隆之輔(鹿児島大・農), 柴田鏡江(森林総研), 井鷲裕司(京大院・農)

P1-228# アゲハとスズメガによる花色・花香の選択: 花粉一粒PCRを用いた実測 *廣田峻, 新田梢(九州大・理), 陶山佳久(東北大・農), 川窪伸光(岐阜大・応用生物), 安元暁子(京大・生態研センター), チューリッヒ大・理), 矢原徹一(九州大・理)

P1-229# 熱帯と温帯におけるアカメガシワ属の送粉生態 *山崎絵理(生態研), 酒井章子(地球研)

P1-230# コロニーの今日の献立はどう決まる? ~マルハナバチが個体ごとに集める花粉に注目して~ *宮崎寧子, 徳永幸彦(筑波大・生命共存)

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 # : ポスター賞対象発表)

- P1-231#** 日本産スイカズラ属 (*Lonicera*) の送粉様式について 中路真嘉*, 菅原敬 (首都大・牧野標本館)
- P1-232#** First evidence of directed dispersal by carnivores; a case study on common palm civets in the Tabin Wildlife Reserve, Sabah, Malaysia *中島啓裕 (京大・理), Jumrafiha A. S. (サバ州野生動物局)
- P1-233#** ミズキの結実期個体差が果実食鳥類の訪問頻度に与える影響 *山崎 良啓 (京大院・農), 藤津 亜季子 (農工大・農), 直江 将司 (京大・生態研), 正木 隆 (森林総研), 井鷲 裕司 (京大院・農)
- P1-234#** 暖温带域におけるシロハラの子散布者としての働き *平田令子, 平井周作 (鹿大・院・農), 中川寛子, 畑 邦彦, 曾根晃一 (鹿大・農), 伊藤 哲 (宮大・農)
- P1-235#** 種子を落として帰巢するオオズアリによる種子散布 *大西義浩 (佐賀大・農), 鈴木信彦 (佐賀大・農)
- P1-236#** ツキノワグマによる種子散布距離に結実量の変動が及ぼす影響 *小池伸介 (東京農工大), 正木隆 (森林総研), 山崎晃司 (茨城自然博), 根本唯, 小坂井千夏, 中島亜美, 梶光一 (東京農工大)
- P1-237#** スギ人工林内で生育するマテバシイ稚樹はどこからやってきたのか? *中村麻美 (鹿大院 連農), 平田令子 (鹿大院 農), 井鷲裕司 (京大院 農), 畑邦彦 (鹿大 農), 曾根晃一 (鹿大 農)
- P1-238#** 個々の種子の形質が当年生実生の生存過程に与える影響 -コナラ種子における非破壊成分分析法を用いたアプローチ *高橋明子 (東大ア生セ), 柴田鏡江, 島田卓哉 (森林総研・東北)
- P1-239#** 異なる環境間での鳥類による種子散布特性の比較 *藤津亜季子 (農工大・農), 山崎良啓 (京大院・農), 直江将司 (京大・生態研), 正木隆 (森林総研), 小池伸介 (農工大・農)

菌類・微生物

- P1-240** 亜高山帯針葉樹林における落葉分解性大型菌類の種多様性と季節消長 *大園享司 (京大・生態研セ), 広瀬大 (日大・薬), 宮本敏澄 (北大・農)
- P1-241** Mycoloop as a new trophic pathway in aquatic ecosystems: a theoretical approach *Miki, T. (National Taiwan Univ.), Takimoto G., Kagami M. (Toho Univ.)
- P1-242** イソツツジ根系に生息する菌類の種多様性とその地域間比較 *広瀬大 (日大・薬)
- P1-243** 北極圏氷河後退地におけるキョクチャナギの菌根形成と菌根菌の多様性 *藤吉正明 (東海大・教養), 中坪孝之 (広島大・院・生物圏), 室田憲一 (東海大・教養), 吉竹晋平 (早稲田大・院・先進理工), 内田雅己 (極地研)
- P1-244** 北海道北部の湿原泥炭層における微生物群集構造解析 *秋山 克, 清水 了, 石島洋二 (幌延地圏環境研究所), 長沼 毅 (広島大・生物圏科学)
- P1-245** アオコの分布拡大に関する生態・分子系統地理学的研究 *中野伸一, 奥田昇, 天野一葉, 大林夏湖, 小林由紀, 田中拓弥, 程木義邦 (京大生態研), 渡邊信, 田辺雄彦 (筑波大生物学類), 近藤竜二, 廣石伸五, 高尾祥文, 片岡剛文 (福井県立大海洋生物資源)
- P1-246** 魚類養殖場由来の有機物が与える海底の微生物群集への影響 *國弘忠生 (愛媛大・CMES), 大森浩二 (愛媛大・CMES), 伊藤克敏 (愛媛大・南水研), 堤 裕昭 (熊本県大・環境共生)
- P1-247** 炭素源資化性から見た富士山火山荒原の土壌微生物群集 *吉竹晋平 (早稲田大・院・先進理工) 藤吉正明 (東海大・教養) 内田雅己 (極地研) 中坪孝之 (広島大・院・生物圏) 増沢武弘 (静岡大・理) 小泉博 (早稲田大・教育)
- P1-248** 野外で人為的に発生させたアオコの環境応答 *程木義邦, 天野一葉, 大林夏湖, 小林由紀, 田中拓弥, 奥田昇, 中野伸一 (京大生態研セ)
- P1-249** 貧栄養嫌気条件の微生物群集における電子の循環と再利用 大滝宏代, 春田伸 (首都大・生命), 花田智 (産総研, 首都大・生命), *松浦克美 (首都大・生命)
- P1-250** イモゾウムシに寄生する *Farinocystis* 様原虫へのUV照射による不活化の検証 *嶋田名利子, 熊野了州, 栗和田隆, 城本啓子, 原口大 (沖縄病害虫防除技術セ)
- P1-251#** 北極圏における黒紋病菌によるキョクチャナギの光合成活性への影響 *増本翔太 (総研大・極域), 内田雅己 (極地研), 伊村智 (極地研), 東條元昭 (大阪府大・生命環境), 井上武史 (総研大・極域), 神田啓史 (極地研)
- P1-252#** ヤブツバキ葉上リテイズマ科菌類にみられる個体群サイズの地理的変異 *松倉君予 (東邦大・理), 広瀬大 (日大・薬), 鏡味麻衣子 (東邦大・理), 大園享司 (京大・生態研)
- P1-253#** 縞枯林分におけるシラビソ・オオシラビソ林の外生菌根菌子実体相の解明 *寺田篤人 (東大院・新領域), 鶴川信 (森林総研), 福田健二 (東大院・新領域)
- P1-254#** 白神山地ブナ林の内生菌多様性 *成田真智子 (弘前大・農生), 杉山修一 (弘前大・農生), 齋藤宗勝 (盛岡大・短期大)
- P1-255#** 乾燥地で生育する塩生植物タマリスクのアーバスキュラー菌根共生 *谷口武士 (鳥大・乾燥地研), Kumud Acharya (DRI), 今田省吾 (鳥大・乾燥地研), 山中典和 (鳥大・乾燥地研)
- P1-256#** Seasonal variation of microbial biomass in a temperate forested wetland *Yoon, T.K., Son, Y., Heo, S.J., Noh, N.J., Seo, K.W., Lee, S.K., Lee, A.R., Park, Y.J., Jo, W., Yang, A., Chung, H. (Korea Univ.)
- P1-257#** 高度に酸化鉄を集積した積雪中のメタン酸化微生物 *吉井健太, 小島久弥, 福井学 (北大・低温研)
- P1-258#** 成層したダム湖における浮遊性メタン酸化細菌の群集構造 *堤正純 (北大・低温研), 小島久弥 (北大・低温研), 岩田智也 (山梨大・工学部), 福井学 (北大・低温研)
- P1-259#** オコタンベ湖に生息する大型糸状性細菌 *Thioplaca* の諸特性 *根本富美子, 小島久弥, 福井学 (北大・低温研)
- P1-260#** 淡水湖沼において環境要因が浮遊性細菌群集構造に及ぼす影響 *藤井正典, 小島久弥 (北大・低温研), 岩田智也 (山梨大・工), 占部城太郎 (東北大・生命), 福井学 (北大・低温研)
- P1-261#** 淡水湖沼における硫黄循環関連細菌の多様性解析 *吉川優紀, 小島久弥, 福井学 (北大・低温研)
- P1-262#** 北海道鶴川人工干潟における硫酸還元菌の群集構造 *松井崇人, 小島久弥, 福井学 (北大・低温研)

景観生態

- P1-263** 掛川市東山地区における茶草場の歴史的変遷 *岩崎亘典 (農環研), 楠本良延 (農環研), 平館俊太郎 (農環研), 稲垣栄洋 (静岡県農林技研), 山本勝利 (農環研)
- P1-264** 現長野県栄村で天保年間 (1830-1843) に発生したクスサン被害に関する古文書に見られた疑問点 *寺島宏貴 (東京大・総合文化), 柳澤誠 (中央大・文), 小山泰弘 (長野県林業総合セ), 岡田充弘 (長野県林業総合セ), 辻野亮, 湯本貴和 (地球研)
- P1-265** 湿地性植物の分布推定: 土壌条件は空間自己相関を説明するか? *石濱史子, 小熊宏之, 武田知巳, 竹中明夫 (国環研)

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

- P1-266** 瀬戸内海島嶼の景観構造に及ぼした架橋工事の影響について——瀬戸大橋と櫃石島と与島の場合 張可(横浜国立大学大学院・環境情報学部)
- P1-267** Urban landscape and its environmental reciprocal impacts in Hanoi *Nguyen Vu Giang, Nobukazu Nakagoshi (IDEC, Hiroshima Univ.)
- P1-268** 沿岸域の景観多様性が生物生産と食物網構造に及ぼす影響 *堀 正和(水研セ・瀬戸内海区), 田中義幸(横浜市大), 宮島利宏(東大・海洋研), 吉田吾郎, 浜口昌巳(水研セ・瀬戸内海区)
- P1-269** 竹林の拡大が農村景観に及ぼす影響 染矢貴(広島大・院・国際協力)
- P1-270** 丹沢大山地域におけるブナ林の時系列変化とその衰退パターンに関する研究 *鈴木透(酪農大), 山根正伸(神奈川保全セ), 笹川裕史(国環研)
- P1-271** 広島県北広島町八幡地区における草原利用の変遷 白川 勝信(高原の自然館)
- P1-272** ラジコンヘリによる高解像度リモートセンシングと湿地性草本植物の個体レベル種判別への適用 *小松宏之(国環研), 宇佐美昌樹((株)情報科学テクノシステム), 島崎彦人, 石濱史子(国環研)
- P1-273** 高分解能衛星画像を用いたアンコール遺跡の優占樹種判別 *富田瑞樹(東京情報大)・平吹喜彦(東北学院大)・荒木祐二(東大)・塚脇真二(金沢大)・ボラリー (APSARA)・パオ ハン (APSARA)
- P1-274** 航空機リモートセンシングによる河川の瀬淵分布推定 *島崎彦人, 福島路生(国環研)
- P1-275** 茶草場として成立する半自然草地の多様性 楠本良延(農環研), 稲垣栄洋(静岡県農林技研), 岩崎巨典(農環研), 平館俊太郎(農環研), 山本勝利(農環研)
- P1-276** 海岸クロマツ林の保全管理 藤原道郎(兵庫県大・緑環境/淡路景観), 三浦弘之(おきなわエコロジークラブ), 黒田有寿茂(兵庫県大・自然研/人と自然の博物館), 澤田佳宏(兵庫県大・緑環境/淡路景観), 大藪崇司(兵庫県大・緑環境/淡路景観), 山本聡(兵庫県大・緑環境/淡路景観)
- P1-277** 海岸クロマツ人工林における間伐率の違いが12年後の成長と下枝の枯れ上がり及び *鄭 克然 紙谷 智彦(新潟大 院 自然科学)
- P1-278** 宮島における人為攪乱後の森林再生パターンとコシダの関係 河口剛輝(広島大・総科), 山田俊弘, 奥田敏統(広島大・総科)
- P1-279** 草原景観は花粉分析で検出できるか—阿蘇地域における表層土壌中の花粉組成とその化石花粉組成への応用 *佐々木尚子(地球研), 河野樹一郎(産総研・地質情報), 河野耕三(綾町・企画財政課), 長谷義隆(御所浦白亜紀資料館), 宮縁育夫(熊本大・教育)
- P1-280** 花脊峠付近における微粒炭分析(2) 小椋純一(京都精華大・人文)
- P1-281** Monitoring spatial-temporal changes of thermal environment using Landsat images in Beijing Rong-Hua Wang, Kensuke Kawamura, Nobukazu Nakagoshi
- P1-282** 生物指標による都市河川のコリドーとしての機能性とその連続性の評価に向けた研究 *板川 暢:慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科, 一ノ瀬友博:慶應義塾大学環境情報学部
- P1-283** 首都大のイノシシはどこから来たのか? :多摩地域におけるイノシシの現状 *有馬貴之(首都大・環境), 野田江里(首都大・環境), 生島正照(首都大・環境), R. Eranga H. R.(首都大・環境), 白柳かさね(首都大・環境), 内藤慈弘(首都大・環境), 山菅香(首都大・環境), 中村亮二(首都大・理工), 沼田真也(首都大・環境)
- P1-284#** ササ刈り後の管理による牧草原植生再生に関する研究 *児玉卓也, 小林達明(千葉大・園芸)
- P1-285#** 多様性の高い農地ランドスケープは種子食動物による“雑草防除サービス”を安定的に高める *市原実(岐阜大院・連農, 静岡大・農), 丸山啓輔, 足立行徳, 山下雅幸, 澤田均(静岡大・農), 石田義樹, 稲垣栄洋(静岡農林研), 浅井元朗(中央農研)
- P1-286#** 異なる景観スケールにおける河川生態系の解析 *三浦佳林(横浜国大・院環境情報学部), 大野啓一(横浜国大・院環境情報研究), 渡邊浩一郎(帝京科学大)
- P1-287#** 長野県上伊那地方の立地環境が異なる水田地域における植物相の構造 *渡辺太一(信州大・農), 大窪久美子(信州大・農)
- P1-288#** 長野県伊那盆地における流域単位での水生植物の分布と立地環境条件との関係 *池田俊輔(信大院・農), 大窪久美子(信大・農)
- P1-289#** ハコネダケ群落の消長動態と生育形態の可塑性 *加藤正士(横国大・環情学府), 大野啓一(横国大・環情研究), 酒井暁子(横国大・環情研究), 李晟齊(横国大・環情学府), 張可(横国大・環情学府), 馬雁飛(横国大・環情学府)
- P1-290#** 長野県上伊那地方の立地環境が異なる水田地域におけるバッタ類群集の構造 *袖川巧, 大窪久美子(信大・農)
- P1-291#** 空中写真による景観スケールでのブナ樹冠の識別と種子生産量の推定 *小戸田紋郁(新潟大・農), 村上拓彦(新潟大・農), 紙谷智彦(新潟大院・自然科学)
- P1-292#** 北海道東部浦幌地域におけるヒグマの痕跡を用いた生息地利用解析 *中村秀次(日大・生物資源・森林動物), 小林喬子(東京農工大・院・連合農), 伊藤哲治(日大・生物資源・森林動物), 嶋崎暁啓(サロベツ・エコ・ネットワーク), 浦田剛(浦幌ヒグマ調査会), 佐藤喜和(日大・生物資源・森林動物), 佐藤伸彦(日本生態系協会)
- P1-293#** Impact of Land Use Change on Hydrology and Land Use Pattern in West Java Region Kaswanto (Hiroshima Univ.), Nakagoshi, N (Hiroshima University), Arifin, H.S. (Bogor Agric. Univ.)
- P1-294#** 胡楊林の林分構造を用いたオアシス植生の健全度の推定 門田有佳子, 吉川賢, 坂本圭児(岡大院・環境)
- P1-295#** 河川底生動物群集からみた河川景観の構造と機能—攪乱と季節変化に着目して— *末吉正尚(北大院農), 中村太士(北大院農)
- P1-296#** ナミビア半乾燥地域におけるヤギの日帰り放牧の季節による差異と植生との関係 *手代木功基(京都大・AA研), 齋藤仁(首都大・地理環境)
- P1-297#** コシアカツバメの巣の分布による広島大学東広島キャンパス周辺の環境評価 *亀岡大真(広島大・総合科), 中越信和(広島大・国際)
- P1-298#** Monitoring spatial-temporal changes of the thermal environment using Landsat images in Beijing Wang Rong Hua *Kensuke KAWAMURA, Nobukazu NAKAGOSHI Hiroshima University
- P1-299#** ニホンザルの生息適地推定 -1978年から2007年における29年間の変化- *望月翔太(新潟大学・院・自然科学), 村上拓彦(新潟大学・農)
- P1-300#** “モザイク構造”を指標とした里山地図の作成とその利用 *宮本 駿(徳島大・院・建設), 竹村 紫苑(徳島大・院・建設), 鎌田 磨人(徳島大・工)
- P1-301#** 溪畔景観における主要樹木の分布に生活史特性と種子散布制限はどのように影響するか? *田中裕志, 沖慎司, 関口和美(秋田県立大・生物資源), 柴田鏡江, 星野大介(森林総研東北), 星崎和彦(秋田県立大・生物資源)
- P1-302#** 日本産チョウ225種における生息分布の決定要

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

因 *山本沙代子(東北大・生命科学), 大野ゆかり(東北大・生命科学), 横山潤(山形大・理), 河田雅圭(東北大・生命科学)

P1-303# 鳥類の群集特性に注目した景観の評価 *今井はるか, 中静透

P1-304# 都市斜面とシダ植物の多様性 *浅原透, 小池文人(横浜国大院・環境情報)

遷移・更新

P1-305 秋川源流域ブナ沢における溪畔林の再生過程 李景仙(学芸大・地理), *池田史枝(横国大・情環), 池田明彦(品川区), 酒井昭(厚木清南高), 小泉武栄(学芸大・地理)

P1-306 西オーストラリア乾燥地域におけるユーカリの萌芽再生 *相川真一(森林総研), 高橋伸英(信州大), 江頭靖幸(阪大), 田内裕之(森林総研), 小島紀徳(成蹊大)

P1-307 ヒルギダマシ(*Avicennia marina*) 胎生芽の定着と分布域の拡大要因 *谷口真吾, 藤田ルツ, 福園幸太郎, 比嘉育子, 今西剛, 中須賀常雄(琉球大・農)

P1-308 カラマツ林跡地における植生回復の現状 *今博計, 真坂一彦, 鳥田宏行, 菅野正人(北海道林試)

P1-309 ニセアカシア林内における土壌シード・バンクの発達要因-林分構造と養蜂業の影響- *真坂一彦(北海道林試), 山田健四(北海道林試), 小山泰弘(長野県林業総合センター), 佐藤創(北海道林試), 今博計(北海道林試), 鳥田宏行(北海道林試)

P1-310 ヒバ前生稚樹密度がヒバ林択伐後の更新成否に与える影響 *榎間岳(森林総研東北), 太田敬之(森林総研), 杉田久志, 森澤猛, 八木橋勉(森林総研・東北)

P1-311 林内環境と施業履歴が竹林の林床植生に与える影響 *小谷二郎, 江崎功二郎, 八神徳彦(石川県林試)

P1-312 栗駒山におけるブナ自然林の20年間の動態 *原正利(千葉中央博), 平吹喜彦(東北学院大・教養), 竹原明秀(岩手大・人文社会), 富田瑞樹(東京情報大), 菅野洋(宮城環境保全研究所)

P1-313 人工林皆伐跡地に成立した若齢常緑広葉樹林における主要樹種の成長特性 *野口麻穂子, 奥田史郎(森林総研・四国)

P1-314 白神山地高倉森における森林群集の構造 *鳥丸猛(弘前大・農生), 赤田辰治(弘前大・遺伝子), 石田清(弘前大・農生), 松田修一(弘前大・遺伝子), 成田真智子(弘前大・農生), 牧田肇(白神マタギ舎), 檜垣大助(弘前大・農生)

P1-315 ヒノキ人工林内に天然更新した広葉樹の生産性と窒素利用 *榎木勉(九大・演習林), 池崎翔子(九大・生資), 宮沢良行(九大・演習林)

P1-316 森はよみがえったか? 御岳岩屑流後25年間の植生回復過程 *柴田鏡江, 西山嘉彦, 壁谷大介, 斎藤智之(森林総研), 中静透(東北大)

P1-317 ニッチの差異に基づく林木種遷移の解析 藤井新次郎* (九大院・生資)・久保田康裕(琉大・理)・榎木勉(九大・農)

P1-318 現地調査とリモートセンシングを合わせた三宅島2000年噴火の植生被害とその後の回復過程の把握 *宮本雅人(筑波大・生命環境), 上條隆志(筑波大・生命環境), 高橋俊守(宇都宮大・農学部)

P1-319 北海道中部の落葉広葉樹林における風倒5年後の更新状況 *飯田滋生(森林総研北支), 倉本恵生(森林総研北支)

P1-320 岩手県国見試験地におけるブナ択伐天然更新施業20年後の更新状況 *杉田久志, 八木橋勉, 榎間岳(森林総研東北), 高橋利彦(木工舎「ゆい」)

P1-321 高木樹種幼木の高標高側への侵入に与える森林帯

垂直分布構造の影響 *小出大, 塩野貴之, 持田幸良(横浜国大・環境情報)

P1-322 ナラ枯れによる兵庫県里山地域の林分構造の変化予測 *山瀬敬太郎, 伊東康人, 塩見晋一(兵庫農技総七)

P1-323 ミズナラ優占一斉林の樹幹淘汰期後半における10年間の動態 *持田幸良(横浜国大・教), 佐野哲也(森林総研), 船戸奏規, 安藤友里子(横浜国大・教)

P1-324 衰退林におけるミヤコザサの除去がトウヒ稚樹の生残と成長に及ぼす効果 *木佐貫博光, 工藤壮史, 福地涼, 中井亜理沙(三重大生資)

P1-325 マレー半島セマンコック丘陵林における *Shorea curtisii* の更新サイト *八木橋勉(森林総研東北), 大谷達也(国際農研セ), 谷尚樹(国際農研セ), Abd Rahman Kassim (FRIM), 松井哲哉(森林総研北海道), 中谷友樹(立命館大・地理), 田内裕之(森林総研)

P1-326 四国小田深山溪谷における林冠木の動態 愛媛大学農学部 *配川幸一, 神岡新也, 嶋村鉄也, 二宮生夫

P1-327 シカ生息地におけるスズタケ群落による埋土種子相の保護 *田代直明, 村田育恵, 井上幸子, 井上晋, 久保田勝義, 内海泰弘, 榎木勉(九大・演)

P1-328 アラスカ森林火災後5年間の林床植生変化 露崎史朗(北大・院地球環境)

P1-329 富士山大沢右岸におけるカラマツ年輪の安定同位体比変動に関して *小林卓也(電中研・生物), 梨本真(電中研・生物), 竹内亨(電中研・生物)

P1-330# ミズキ母樹下における自種の死亡と他種の定着 *上野真郷, 清和研二(東北大院・農)

P1-331# 極東ロシアの山火事跡地において炭が制御する実生の更新 *小林真(北大院農), 廣部宗(岡山大院環境), DeLuca TH (Bangor大), Bruanin SV, Malashko EV, Valentina FV (ロシア極東農業大), 橋床泰之, 小池孝良(北大院農)

P1-332# 照葉樹人工林の初期動態-樹種特性と個体密度の影響- *宮内大策(横国大・院・環境情報), 川原照彦(西日本技術開発(株)), 藤原一繪(横国大・院・環境情報)

P1-333# アズマネザサの優占した耕作放棄地における在来木本6種の定着阻害要因の検証 徳岡良則(農環研, 広大院・国際協力), 大東健太郎(農環研), 中越信和(広大院・国際協力)

P1-334# 山火事・山焼き跡地からの植生回復にニホンジカが及ぼす影響 奥田雅章(岩手大院・農)

P1-335# 里山林を構成する樹種における萌芽特性の比較 柴田嶺(東北大・理)

P1-336# 二次遷移初期林における現存量推定 ~相対成長式の改良と検証~ *安木奈津美(早稲田大・教育), 吉竹晋平(早稲田大・院・先進理工), 小泉博(早稲田大・教育)

P1-337# 落葉広葉樹林が隣接しているスギ再造林放棄地の更新 *五十嵐彬子, 紙谷智彦(新潟大院・自然科学)

P1-338# ササ一斉開花枯死後14年目のブナ稚樹の分布と成長と林内環境の不均一性について *佐藤朋華, 山月融心, 井上みずぎ, 星崎和彦, 阿部みどり, 蒔田明史(秋田県立大学)

P1-339# 暖温帯に成立するコナラ二次林における20年間の林分動態 村上順一(岡大院・環境)*西村尚之(名古屋産業大・環境情報ビジネス), 坂本圭児(岡大院・環境), 山本進一(名大院・生命農学)

P1-340# 冷温帯スギ・落葉広葉樹混交林におけるブナの更新サイト:光環境および外生菌根形成率との関係 *國永知裕(京都府大・院・生命環境), 平山貴美子(京都府大・院・生命環境), 寄元道徳(京大・フィールド研), 松田陽介(三重大・院・生物資源), 奥田賢(京大・フィールド研), 高原光(京都府大・院・生命環境)

ポスター発表 3月16日(火)10:00-17:15

(第2体育館 # : ポスター賞対象発表)

- P1-341# 佐渡島天然スギ林におけるサワグルミの更新特性**
* 中野陽介 (新潟大・農), 金子洋平 (新潟大・超域研究機構), 本間航介 (新潟大・農), 崎尾均 (新潟大・農)
- P1-342# シカ生息密度の異なる森林間での3年間の樹木個体群動態比較** * 幸田良介 (京大・生態研), 藤田昇 (京大・生態研)
- P1-343# 富士山南東斜面における植生遷移と地表徘徊性甲虫群集の関係** * 神保克明 (東大院・新領域), 久保田耕平 (東大院・農), ザール・キクビツェ (東大院・新領域)
- P1-344# 枯死時期と環境条件の違いが倒木上のエゾマツ・トドマツの稚樹密度に及ぼす効果** * 岡田桃子, 梶幹男 (東大・農)
- P1-345# 年輪解析にもとづく猿ヶ森ヒバ埋没林の更新様式と生育環境の復元** * 箱崎真隆 (東北大・院・生命科学), 大和田めぐみ (物材研), 吉田明弘, 星野安治, 大山幹成, 鈴木三男 (東北大学植物園)

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

動物と植物の相互関係

- P2-001** 放牧に伴う植物の種多様性と飼料価値の変動 - シミュレーションによる推定 - 吉原佑*, 岡田美弥(東北大・農)
- P2-002** アカネズミのミトコンドリア DNA ハプロタイプ の多様性が高い植生について 大塚裕貴, 白子智康, *南基泰, 上野薫(中部大・応用生物)
- P2-003** ミヤマガズミとコバノガズミにおける訪花昆虫の共有パターン *宇都宮 大輔, 笠木 哲也, 中村 浩二(金沢大)
- P2-004** 葉食性昆虫マイマイガの発育における緑化樹の餌としての適合性 *亀井幹夫(広島総研林技セ), 軸丸祥大(広島総研農技セ)
- P2-005** 東京都奥多摩において下層植生がなくなった森林にシカの食物資源は存在するか *及川真里亜, 梶光一(農工大・連大), 中村健一, 田村哲生(東京都農林総合研究センター), 新井一司(前 東京都農林総合研究センター)
- P2-006** アブラムシが誘導するサイズの母性効果が次世代の実生上のアブラムシのコロニー成長に影響する *片山昇, Alessandro Oliveira Silva, 大串隆之(京大・生態研セ)
- P2-007** 森林棲齧歯類 3 種におけるタンニン摂取量推定法の開発 - 糞中プロリン含有率を指標として - *鳥田卓哉(森林総研・東北), 西井絵里子(北大・環境科学院), 齊藤隆(北大・FSC)
- P2-008** アリ-アリ植物オオバギ共生系に共生カイガラムシは必要か? *半田千尋(京大院・人環), 市岡孝朗(京大院・人環)
- P2-009** 植食性昆虫の糞が土壤栄養塩動態に与える影響 加賀田秀樹(京大・生態学研究センター)
- P2-010** 植食者の違いがブタクサの分解過程に及ぼす影響 三浦和美, 大串隆之(京大生態研)
- P2-011** イヌヤマハッカ群(シソ科ヤマハッカ属)の花筒長変異と遺伝的分化 *堂園いくみ(神戸大・人間発達環境), 鈴木和雄(徳島大学)
- P2-012** 藻食性巻貝バテイラが褐藻類カジメの生長に与える影響 *吉見仁志(筑波大・下田臨海), 岩瀬嘉之(大日本塗料), 河津直行(河津建設), 土屋泰孝, 佐藤壽彦, 品川秀夫, 青木優和(筑波大・下田臨海)
- P2-013** 高 CO₂ と窒素付加環境で生育した落葉広葉樹個葉の被食防衛物質の局在 *日向潔美(北大院・農), 渡邊陽子(北大・北方生物園セ), 渡辺誠(北大院・農), 北岡哲・飛田博順・上村章・宇都木玄(森林総研・北海道支所), 小池孝良(北大院・農)
- P2-014** ツキノワグマによるクマ棚の形成 *高橋一秋(長野大・環境ツーリズム), 高橋香織(信州大・遺伝子), 柳貴洋(長野大・環境ツーリズム)
- P2-015** 広葉樹二次林における堅果資源量から見たツキノワグマ生息地評価 小野 晋((株)地域環境計画), 青井俊樹(岩手大・農)
- P2-016** 果実 14 種の結実量の時期・年次的変化とツキノワグマの採食行動の関係 *中島亜美(東京農工大・農), 小池伸介(東京農工大), 正木隆(森林総研), 山崎晃司(茨城県博), 梶光一(東京農工大)
- P2-017** アカメガシワにおける人為被食処理とアリ随伴による花外蜜分泌の誘導 *山尾 僚(鹿児島連大・農水園), 鈴木信彦(佐賀大学・農)
- P2-018** ヤクシカの採食が常緑低木ボチョウジの葉の動態に与える影響 *野邊麻梨子, 相場慎一郎(鹿児島大・院・理工)
- P2-019** 琉球列島におけるゲットウ(ショウガ科)の訪花動物相(予報) *小林 峻, 伊澤雅子, 傳田哲郎(琉球大・理)
- P2-020** コナガ幼虫食害植物に対する寄生蜂の誘引性: 生得的反応と学習の効果 *米谷衣代(ベルリン自由大), 上船雅義, 高林純示(京大・生態研)
- P2-021** アリ植物の共生アリにおけるホストレースの発見とその分布の地理的モザイク性 *片岡陽介(信大・理・生物), 乾陽子(大阪教大・教), 市岡孝朗(京大院・人環), 上田昇平(信大・理・生物), S. Quek (Harvard Univ.), 市野隆雄(信大・理・生物)
- P2-022** エゴノキ属 2 種の果実の形質とそれがヤマガラ果実利用に及ぼす影響 *舟橋美帆, 長瀬はなみ, 松下泰幸, 梶村恒(名大・生命農)
- P2-023** アワダチソウグンバイがセイタカアワダチソウのリターの初期分解に及ぼす影響 *鈴木智之, 安東義乃, 大串隆之(京大生態研)
- P2-024** 樹木葉から分泌される防御物質の季節変化~シラカンバとウダイカンバの比較~ *土岐理佳, 松木佐和子(岩手大・共生環境), 小藤田久義(岩手大・森林)
- P2-025** 2 つの階層スケールによる植生構造と鳥類との関係 ~階層線形モデル(HLM)による解析~ *渡邊謙二(横浜国大・院・環境情報), 持田幸良(横浜国大・院・環境情報)
- P2-026** インドネシア・南スラウェシ州におけるマングローブ植林がカニ群集に与える影響 *古川文美子(京大 AA), Ir.Yushinta Fujaya, M.Si (UNHAS), 岩田明久(京大 AA)
- P2-027** 細根と根渗出物の分布パターンに対するトビムシの応答 *藤井佐織, 山田明德(京大院・農), 福島慶太郎(京大・フィールド研), 齋藤星耕, 北山兼弘(京大院・農), 武田博清(同志社大・理工)
- P2-028** 異なる時間スケールにおけるシカ採食圧が植食性昆虫への間接効果のプロセスに与える影響 *高木 俊, 宮下直(東大・農・生物多様性)
- P2-029** 種子-葉利用型植食昆虫の豊凶による季節消長の変化 *藤田真梨子, 前藤 薫(神戸大・農), 松井 淳(奈教大・生物), 寺川真理(京大・理), 駒井古実(大芸大・環), 湯本貴和(地球研)
- P2-030** マレーシア・ボルネオ島の焼畑休閑林における排泄された種子と開空度との関係 *鴨井環(愛媛大), Oswald Braken (Sarawak Forestry Corporation), 酒井章子(地球研)
- P2-031** シロアリ卵に壊滅的被害を与える寄生菌の発見 *矢代敏久, 松浦健二(岡大院・環境・昆虫生態)
- P2-032** 土壤栄養塩の総量と分布様式により変化するマメコガネ幼虫がホソムギの成長に及ぼす影響 *角田智詞, 可知直毅, 鈴木準一郎(首都大・理工)
- P2-033** オオバギ属アリ植物上の植食者群集 *清水加耶(京大・人環), 市岡孝朗(京大・人環), 乾陽子(大教大・教養), 大久保忠浩(関大・一高)
- P2-034** 新潟市の海岸林に飛来する果実食鳥の食性 *金子尚樹(新潟大院・自然科学), 千野奈帆美, 南沙織(新潟大・農), 小松吉蔵, 千葉晃, 佐藤弘, 太刀川勝喜, 赤原清枝, 藤沢幹子, 市村靖子, 南雲照三, 沖野森生, 伊藤泰夫(にいがた野鳥の会), 中田誠(新潟大・自然科学系)
- P2-035** 食草・イヌガラシの形態に依存したモンシロチョウ属の産卵位置選択と産下卵の運命 *恩田裕太, 渡辺 守(筑波大・院・生命環境)
- P2-036** サンゴ群集の回復を小型海藻が妨げる可能性の検証 *玉井玲子(琉球大・院・理工), 酒井一彦(琉球大・熱生研)
- P2-037** スペシャルリスト植食性昆虫の多様化は寄主植物の影響を受けるのか? *加藤俊英(東大・院・総合文化), Arturo Bonet (Institute de Ecologia, Mexico), 神保宇嗣(東大・院・総合文化), 伊藤元己(東大・院・総合文化), 嶋田正和(東

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

大・院・総合文化)

P2-038# どんなお花が食べられる? - キク科植物の繁殖器官の被食に影響する要因 * 小黒 芳生, 酒井 聡樹 (東北大学・院・生命)

進 化

P2-039 チャバネアオカメムシにおける必須腸内共生細菌の多型 * 細川貴弘, 深津武馬 (産総研・ゲノムファクトリー)

P2-040 アオモンイトトンボにおける頻度依存的な体サイズ差をもたらす幼虫期の要因 * 澤田 浩司 (福岡県立福岡高校), 粕谷 英一 (九大・理・生物)

P2-041 九州産ヒメオサムシの体サイズにおける形質置換パターンの検出 * 奥崎穰 (京大・理), 曾田貞滋 (京大・理)

P2-042 飛翔筋2型を持つオオヒラタシテムシの系統地理パターン * 池田敏士 (京大・理), 曾田貞滋 (京大・理)

P2-043 テトラヒメナと大腸菌の人工共生系における個体群動態 * 末吉真人 (大阪大・工), 松本佑介 (大阪大・情), 森光太郎 (大阪大・情), 柏木明子 (弘前大・農生), 細田一史 (大阪大・情), 四方哲也 (大阪大・情)

P2-044 カエデ属ハナノキ節植物の比較系統地理: 隔離分布、気候変動、およびハビタットの違いが与えるインパクト * 佐伯いく代 (首都大・理), C.W. Dick, B.V. Barnes, (U. of Michigan), 村上哲明 (首都大・理)

P2-045 ヤスデ類交尾器における複雑な雌雄共進化パターン * 田辺 力 (熊本大・教育), 曾田貞滋 (京大院・理)

P2-046 複数領域配列による分子系統樹推定と分子進化モデルの選択 - 単一・比例・分離モデルを比較する 田辺晶史 (筑波大・院・生命環境)

P2-048 発生システムの適応進化を可能にする遺伝的基盤の実証 * 宇津野宏樹 (信州大・理), 浅見崇比呂 (信州大・理)

P2-049 カタツムリ (*Euhadra peliomphala*) のヘビ擬態 * 葛西直子, 長谷川雅美 (東邦大・理), 黒住耐二 (千葉県立中央大), 関啓一 (信州大)

P2-050 マイクロサテライトマーカーによる北海道のエンドウヒゲナガアブラムシ集団の遺伝的多様性 * 永井正生, 神戸崇, 秋元信一 (北大・院・農)

P2-051 はずれ値を考慮したペアワイズデータの解析法: Isolation-by-distance を例に * 小泉逸郎 (北大・創成), 池田隆美 (Lincoln Univ.)

P2-052 オオヤマレンゲ (*Magnolia sieboldii*) 亜種間に生じた浸透性交雑の可能性 * 菊地賢 (森林総合研究所)

P2-053# 同系交配は個体群レベルで細胞質不和合性の影響を弱める * 河崎祐樹 (名古屋大院・生命農), 伊藤浩史 (お茶の水大・アカプロ), 梶村恒 (名古屋大院・生命農)

P2-054# 宿主転換から生じるカースト進化: 兵隊アブラムシの進化的起源に関する仮説の検証 * 植松圭吾 (東大・総合文化), 秋元信一 (北大農), 深津武馬 (産総研), 柴尾晴信, 嶋田正和 (東大・総合文化)

P2-055# 2種類の大腸菌株による人工栄養共生系の実験進化 * 浅尾晃央 (大阪大・生命), 細田一史 (大阪大・情報), 森光太郎 (大阪大・生命), 柏木明子 (弘前大・農生), 山内義教 (大阪大・生命), 城口泰典 (大阪大・情報), 鈴木真吾 (大阪大・情報), 四方哲也 (大阪大・情報)

P2-056# 外来植物の、天敵に対する抵抗性の小進化的動態 * 深野祐也 (九大・理), 矢原徹一 (九大・理)

P2-057# フユシャク蛾の種分化と多様化: 冬の寒さが種分化を促す * 山本哲史 (京大理院), A.E.Beljaev (IBS Russia), 曾田貞滋 (京大理院)

P2-058# グッピー LWS 遺伝子から探る色覚の進化 * 手塚あゆみ (東北大・院・生命科学), 笠木聡 (東大・院・新領域), 河村正二 (東大・院・新領域), Cock van Oosterhout (University of Hull), 松島野枝 (東北大・院・生命科学), 河田雅圭 (東北大・院・生命科学)

P2-059# 林床性のエイザンスミレと草原性のヒゴスミレにおける雑種集団解析 遠山弘法 (九大・理・生物), 矢原徹一 (九大・理・生物)

P2-060# 大腸菌と細胞性粘菌による人工必須共生系の個体群動態 * 久保勲生 (大阪大・情報), 細田一史 (大阪大・情報), 木原久美子 (理研・ASI), 森光太郎 (大阪大・生命), 四方哲也 (大阪大・情報)

P2-061# マイクロチャンパーを用いたテトラヒメナ培養技術の構築と観察 * 松本佑介 (大阪大・情), 一ノ瀬純也 (JST-ERATO), 森光太郎 (大阪大・生), 鈴木弘明 (大阪大・情), 四方哲也 (大阪大・情)

P2-062# 藻類の適応トレードオフにみられる遺伝的変異 * 笠田 実 1, 吉田丈人 12 (1 東大院・広域システム 2 科学技術振興機構 さきがけ)

P2-063# 隠れた変異の蓄積と顕在化に与える環境変動の影響: 遺伝子制御ネットワークの個体ベースモデル * 岩寄航, 津田真樹, 河田雅圭 (東北大・生命)

P2-064# ヤマアカガエル集団間集団内での免疫関連遺伝子の多様性 * 高柳真世, 金成安慶, 松島野枝, 牟田達史, 河田雅圭 (東北大・院・生命科学)

P2-065# 無融合生殖種の遺伝的多様性獲得メカニズム: ニガナ地域集団内の遺伝構造から 中川さやか*, 伊藤元己 (東大院・総合文化・広域システム)

P2-066# タモロコ属魚類における栄養多型の地理的変異: 系統と生息環境の効果 * 中島哲郎 (京大生態研), 熊田裕喜, 小北智之 (福井県立大), 奥田昇 (京大生態研)

P2-067# メダカにおける実効性比の季節変化について * 牧田拓, 山平寿智 (新潟大・理)

P2-068# ショウジョウバエ産卵行動における Baldwin 効果のモデル解析 * 小林哲, 嶋田正和 (東大・院総合文化)

P2-069# 海のダニ (ウシオダニ類) の分子系統推定 * 目黒敏子 (日大・院・生物), 五箇公一 (国立環境研), 安倍弘 (日大・生物)

P2-070# メダカ属魚類の生殖隔離に対する地理的分布域と遺伝距離の影響 * 中田翼 (新潟大院・自然科学), 山平寿智 (新潟大・理), 佐藤正祐 (東山動物園・世界のメダカ館), 藤谷理映子 (東山動物園・世界のメダカ館)

P2-071# キスゲとハマカンゾウにおける花色の違いの遺伝的背景 * 新田梢 (九大・院理・生物), 坂口祐美 (九大・院・生物資源環境科学), 三島美佐子 (九大・博), 小関良宏 (農工大・工・生命工), 安元暁子 (京大/チューリッヒ大), 矢原徹一 (九大・院理・生物)

P2-072# 四国産オオオサムシ亜属の体サイズ分化による生殖隔離 土屋雄三* (京大・理), 曾田貞滋 (京大・理)

P2-073# 砂浜と磯に隔たりはあるのか? ~同所的な海岸生アオスゲ類の多様化~ * 大西亘 (九大・理), 矢原徹一 (九大・理)

P2-074# 可塑的防衛行動はいつも適応的か?: 野外観察と室内実験によるフサカ日周鉛直移動の検証 * 永野真理子 (東大・総合文化), 八木明彦 (愛工大), 吉田丈人 (東大・総合文化)

P2-075# 真社会性アブラムシの兵隊サイズにおける可塑性の検証とクローン間変異 * 幅 拓哉, 服部 充, 市野 隆雄 (信州大・理・生物)

P2-076# スミレ種間雑種 (ナガバノアケボノスミレ) 形成集団における交雑現象の解析 * 長野祐介 (信大・理), 平

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 冊:ポスター賞対象発表)

尾章(信大・山岳研), 市野隆雄(信大・理)

P2-077# 非対称な食物網は進化的にも安定か? 香川幸太郎*, 瀧本岳(東邦大・理・生物)

P2-078# 既発表データによる、日本の生物の地理的変異パターンのメタ解析 *飯田晋也(横国大・環情), 小池文人(横国大・環情), 平塚和之(横国大・環情)

種多様性

P2-079 日本の海岸と内陸性山地におけるアサツキ分類群の分布と系統 川瀬大樹 地球研, 林一彦 大阪学院, 佐藤謙北海学園, 堀井雄治郎 秋田県, 湯本貴和 地球研

P2-080 管理履歴の異なる二次草原における植物相の比較 佐久間智子(西中国山地自然史研究会)

P2-081 都心水辺緑地に生息する淡水魚の由来 - 遺伝的解析と保全への示唆 - 高村健二(国立環境研)

P2-082 クワガタムシ共生生物の多様性 -クワガタにまつわるエトセトラ- 岡部貴美子*, 神崎菜摘, 升屋勇人(森林総研)

P2-083 ボルネオ熱帯雨林の実生群集動態-ハビタットと同種密度効果の交互作用- *伊東明, 名波哲, 山倉拓夫(大阪市大・院・理), 大久保達弘(宇都宮大・農), Sylvester Tan (Sarawak Forestry Corporation)

P2-084 里山林縁部の草本植生と物理環境の関係 *小原亮平, 丑丸敦史, 植松裕太(神戸大, 発達)

P2-085 多様性よりも優占種の独自性が植物群集の安定性を規定する *佐々木雄大(東北大・院・生命), William Lauenroth (ワイオミング大)

P2-086 大スケールでの生物多様性の変化を2つの測定項目で明らかにする *小川みふゆ, 山浦悠一, 阿部真(森林総研), 新山馨, 杉田久志(森林総研東北), 田内裕之(森林総研), 飯田滋生(森林総研北海道), 勝木俊雄, 齊藤哲, 酒井武(森林総研), 星崎和彦(秋田県立大), 星野大介(森林総研東北), 滝久智, 岡部貴美子(森林総研)

P2-087 琉球諸島をモデルシステムとした蝶類群集の生態ニッチモデリング *久保田康裕(琉球大理), 村上正志(千葉大理), 平尾聡秀(北大低温研)

P2-088 高山湖沼の微生物群集の地理的変動に影響を及ぼす要因 *平尾聡秀, 藤井正典, 小島久弥, 福井学(北大・低温研)

P2-089 Beautiful name: 生物多様性の文化的サービスをGoogleで評価する 細将貴(東北大・院・生命科学), 田辺晶史(筑波大・院・生命環境科学)

P2-090 熱帯樹木の葉の機能的性質とその系統的制約 *黒川絃子, 片瀨正紀(東北大学・生命科学), 永益英敏(京大・博物館), 饗庭正寛(北大・フィールド科学), 中静透(東北大・生命科学)

P2-091 日本のミジンコ属(Daphnia)の分子系統: 外来種と複数の隠蔽種 *石田聖二(東北大・国際高等研機構), Derek J. Taylor (ニューヨーク州立大・生物), Katie S. Constanzo (ニューヨーク州立大・生物), 牧野渡(東北大・生命)

P2-092 琵琶湖産魚類の比較人口学解析 *田畑諒一(京大・理), 柿岡諒, 富永浩史, 小宮竹史, 渡辺勝敏(京大院・理)

P2-093 小笠原におけるダム湖湖底のユスリカ相の変化について 上野隆平, 佐竹潔, 野原精一(国立環境研)

P2-094 タマアジサイの葉の形態変異-箱根、房総、伊豆諸島において- *中村未来(明治大・院・農), 倉本宣(明治大・農)

P2-095 森林性ワラジムシ類 Burmoniscus 属の分子系統地理 *唐沢重考(福岡教育大学), 本多正尚(筑波大学)

P2-096# 共進化するメタ群集において移動分散が食物網構造に与える影響 *山口和香子(東北大・生命科学), 大野ゆかり(東北大・生命科学), 近藤倫生(龍谷大・理工), 河田雅圭(東北大・生命科学)

P2-097# 阿蘇地域の草原におけるハエ相 *鈴木浩史(東海大・院), 村田浩平(東海大・農), 村田達郎(東海大・農), 岩田真一郎(東海大・阿蘇教養)

P2-098# 四国におけるヤミサラグモ類の交尾器の多様性と分化プロセスの解明 *馬場友希(農環研), 井原庸(広島県環境保健協会), 吉武啓(農環研),

P2-099# 植生管理のあり方が都市域コナラ二次林の種多様性に与える影響 *吉田葵, 持田幸良(横国大・教育人間科学)

P2-100# 整備済み水田帯と未整備水田帯の水生昆虫相の比較 *富山暢平, 富川光, 鳥越兼治(広島大・院・教育)

P2-101# サラシナショウマにおける送粉エコタイプとDNA系統の対応関係 *楠目晴花, 長野祐介, 市野隆雄(信州大・理)

P2-102# 生育地の改変と人の好み地域植物相へ与える影響 帯広畜産大学・畜産生命*汐崎 正揮

P2-103# 水稲用箱施用農薬ベンフラカルブ施用水田と無施用水田における止水性水生昆虫の種多様性比較 渡部晃平(愛媛大・農)

P2-104# 里地地域間の土地利用履歴の違いが草地の種多様性に及ぼす影響 *河野円樹(自然環境研究センター), 河野耕三(綾町企画財政課), 大澤雅彦(日本自然保護協会)

P2-105# 種多様性と攪乱間に見られる単峰形パターンは何によってもたらされるのか? *森照貴(北大・環境科学), 齊藤隆(北大・FSC)

P2-106# スケールの階層性を考慮した局所草本群落の種多様性評価 相澤章仁

P2-107# 樹種多様性の標高・緯度勾配に差異をもたらす種子分散 *塩野貴之, 小出大, 持田幸良

P2-108# コイ科カマツカ隠蔽種群の二次的接触域における分布および交雑パターンモデリング *富永浩史, 渡辺勝敏(京大院・理)

P2-109# キノコ食ショウジョウバエの寄生蜂: 多様性と宿主選択 *粕谷菜月(首都大・理工), 三井偉由, 木村正人(北大院・地球環境), 青塚正志(首都大院・理工)

P2-110# 体炭酸化水素プロファイルとDNAによるクサアリ亜属の系統関係の検証 *遠藤真太郎(信州大院・総工・山岳), 市野隆雄(信州大・理)

P2-111# 系統と形質の分散から熱帯雨林の群集形成を理解する *片瀨正紀, 黒川絃子(東北大・生命), Sylvester Tan (FRC, Malaysia), 中静透(東北大・生命)

P2-112# 海草藻場における小型無脊椎動物群集の機能的冗長性: 種多様性と機能群多様性の関係 山田勝雅, 堀 正和(水研七・瀬戸内海区), 仲岡雅裕(北大・FSC), 浜口昌巳(水研七・瀬戸内海区)

P2-113# 植物形質の種内および種間変異からみた林床群集構造 *小嶋智巳, 彦坂幸毅(東北大・生命)

P2-114# 中山間地の耕作放棄棚田における林床植生の特徴と土壌水分・光環境との関係 *石塚俊也, 中田誠(新潟大・自), 金子洋平(新潟大・超研), 本間航介(新潟大・農)

P2-115# mtDNA と体表面炭酸化水素からみたシワクシケアリおよびその近縁群の分化パターン *松月哲哉, 野沢泰斗, 市野隆雄(信州大・理)

P2-116# 異なる食草への適応は遺伝的分化を促進するか? - AFLPを用いたキクピアオハムシの集団遺伝解析 *甲山哲生(北大・環境), 松本和馬(森林・昆虫), 片倉晴雄(北大・理)

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

数 理

- P2-117 家庭で変わる!子の育て方:遺伝的決定が親の投資戦略に与える影響 川津一隆(京大院・農・昆虫生態)
- P2-118 生態系の融合時に起こる現象の非対称性について *吉田勝彦(国立環境研・生物), 時田恵一郎(大阪大・サイバー)
- P2-119 最尤推定法に基づく進化動態の計算手法 *伊藤 洋(無所属)
- P2-120 首都圏交通ネットワーク上における感染症流行過程の解析 *八島健太(総研大 葉山), 佐々木顕(総研大 葉山, JST さきがけ)
- P2-121 環境依存の共生の進化 *福井眞, 山内淳(京大・生態研センター)
- P2-122 多次元尺度法と個体ベースモデルによるインフルエンザ抗原進化の予測 佐々木顕(総研大・葉山, JST さきがけ)
- P2-123 被食者-捕食者系における個体間の形質のばらつき進化 中道康文(九州大・理)
- P2-124 コンタクトプロセスを用いたクローナル植物における病原菌伝播モデル *酒井佑模(北大・環境), 高田壯則(北大・環境)
- P2-125 生息地制限とマルチレベル選択下でのグループ形成の進化 *西澤裕文, 高田壯則

動物群集

- P2-126 寄生者が改変する森林-河川生態系(予報) *佐藤拓哉(奈良大・共生セ), 徳地直子(京大・フィールドセンター), 鎌内宏光(北大・フィールドセンター), 渡辺勝敏(京大院・理), 堀井裕一(近大院・環境), 長谷川 孝, 上西久哉, 平井岳志, 細見純嗣, 中川智之, 松葉輝信(京大・フィールドセンター)
- P2-127 摂食者群集のかく乱による栄養段階間転換効率の変化 *真野浩行(環境研・環境リスク), 田中嘉成(環境研・環境リスク)
- P2-128 フクロウ類の巣に共生する鱗翅目昆虫相 *上田恵介(立教大学・理), 那須義次(大阪府病害虫防除所), 村濱史郎(株式会社野生生物保全研究所), 松室裕之, 高木昌興(大阪市立大学大学院理学研究科), 広渡俊哉(大阪府立大学生命環境科学研究科), 吉安裕(京都府立大学生命環境科学研究科)
- P2-129 四万十川流域における過去20年間の陸生鳥類群集とその生息環境の変化 佐藤重穂(森林総研四国)
- P2-130 北海道千歳川支流ママチ川における魚類相と環境要因の関係 *山崎千登勢(北大・環境科学院), 長谷川功(さけますセンター), 齊藤隆(北大・北方生物圏フィールド科学センター)
- P2-131 水田における栽培管理の違いが昆虫類・クモ類の生息に及ぼす影響 *浜崎健児, 田中幸一, 中谷至伸, 吉武啓, 田端純(農環研)
- P2-132 里山林を伴った大学キャンパスにおける生態系(7)野鳥類の環境別群集構造 *桜谷保之, 鳥居憲親, 桑原崇, 鈴木賀与, 寺田早百合, 杉田麻衣, 平野綾香, 錦一郎(近畿大・農・環境管理)
- P2-133 Plant genotypic effects on community structure of insect herbivores on tall goldenrods in the introduced habitat and original habitat. Y. Ando(生態研), S. Utsumi(生態研), J. Itami(ミネソタ大), T.P. Craig(ミネソタ大), T. Ohgushi(生態研)
- P2-134 水田生態系における陸生節足動物の遮断効果 *鶴田哲也, 山口元吉(中央水研), 竹田直樹(東海大), 安房田智司,

井口恵一朗(中央水研)

- P2-135 イヌガラシにやって来た昆虫類の種組成 *堀 翔(筑波大・生物), 渡辺 守(筑波大・生物)
- P2-136 冷温帯のスギ人工林における地表徘徊性昆虫の種組成 *高橋弘明, 渡辺 守(筑波大・生物)
- P2-137 食性指標としてのアミノ酸窒素安定同位体比の利用:土壌食物網研究への適用にむけて *長谷川尚志(京大・理), 力石嘉人, 小川奈々子, 大河内直彦(JAMSTEC), 陀安一郎(京大・理)
- P2-138 鳥類のラインセンサスにおける調査回数と種数について 玉田克巳(道環境研)
- P2-139 干潟の底生生物群集における多様性の広域パターン:モニタリングサイト1000沿岸域調査 *熊谷直喜(日本国際湿地保全連合), 脇山成二(環境省・生物多様性セ), 木村妙子(三重大・生物資源), 古賀庸憲(和歌山大・教育), 浜口昌巳(瀬戸内水研), 逸見泰久(熊本大・沿岸域セ), 風呂田利夫(東邦大・理), 鈴木孝男(東北大院・生命科学)
- P2-140 捕食者による被食者群集多様性への影響:メタ解析による生態系タイプ間比較 *片野泉, Helmut Hillebrand, 土居秀幸(University Oldenburg)
- P2-141 長伐期施業が甲虫多様性に与える影響 大澤正嗣(山梨森研)
- P2-142 異なる農法の水田における中干し後の水生動物群集 向井康夫(京大・地環)
- P2-143 河床礫の岩種と表面粗さに着目した水生昆虫の生息場環境 *矢島良紀, 小林草平, 赤松史一, 三輪準二(土木研)
- P2-144 支流域における魚類の群集集合 *大平充(明治大・農), 西田一也(東京農工大・連農), 満尾世志人(東京農工大・連農), 角田裕志(東京農工大・連農), 土井真樹絵(東京農工大・農), 千賀裕太郎(東京農工大・農)
- P2-145 農法の違いが水田節足動物群集に及ぼす影響 3. 二毛作と一毛作の比較 *森本信生, 西城 洋(農研機構・中央農研)
- P2-146 農法の違いが水田節足動物群集に及ぼす影響 4. 環境保全型と慣行型の比較 *西城洋(農研機構・中央農研), 森本信生
- P2-147 河川下流部における瀬淵と底生動物生息環境の空間分布 *小林草平, 赤松史一, 矢島良紀, 中西哲, 三輪準二(土研), 天野邦彦(国総研)
- P2-148 西表島に生息する小型ゲンゴロウ類-各種の湿地環境別における生息状況一 *唐真盛人(東海大院・人間環境), 水谷晃, 崎原健(東海大・沖セ), 北野忠(東海大・教養), 河野裕美(東海大・沖セ)
- P2-149 西表島近世網取集落跡におけるオカヤドカリ類の宿貝利用と分布特性 *丹尾岳斗(東海大・水産), 小菅丈治(国際マングローブ生態系協会), 河野裕美(東海大・沖セ)
- P2-150# 異地性腐食連鎖と自生性生食連鎖が形成する樹上食物網 $\Delta^{14}\text{C}$ によるクモの機能群間の利用工サ資源比較 *原口 岳(京大・生態研), 内田 昌男(国環研), 柴田 康行(国環研), 陀安 一郎(京大・生態研)
- P2-151# 魚にとって堰ってなに!? 今井千博(京都学園大・バイオ)
- P2-152# 水田で採食するチュウサギの機能反応を介した食物種間の相互作用 *片山直樹(東大・農), 天野達也(農環研), 宮下直(東大・農)
- P2-153# 森林生態系からの窒素溶脱量増加および光環境の変化に伴う河川底生生物群集の応答 ~大規模野外実験による検証~ 太田民久*北大苫小牧研究林
- P2-154# 農業用水路におけるタナゴ類の移動:在来種と外来種の種間比較 諸澤崇裕(筑波大・生命環境)

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 # : ポスター賞対象発表)

- P2-155# シカ食害が溪流内環境および水生節足動物群集に与える影響** * 境 優, 夏原由博, 今西亜友美 (京都大・地球環境)
- P2-156# 乗鞍岳におけるハネカクシ科昆虫群集の標高傾度に沿った種構成の変化と季節的発消長** * 浅木宏寛 (信大・院・地球生物圏科学), 市野隆雄 (信大・理・生物)
- P2-157# 海溝周辺域におけるソコムジンコ類群集の空間変異** * 北橋倫 (熊本大・院), 嶋永元裕 (熊本大・沿岸域セ)
- P2-158# 湿原コスリカ群集の年変動は空間スケールによって変化する** * 富樫博幸, 鈴木孝男, 占部城太郎 (東北大・生命科学)
- P2-159# 潮間帯岩礁域における藻類食魚の水平分布** * 村瀬敦宣, 須之部友基 (海洋大・館山ス)
- P2-160# スギ人工林におけるクモ相** * 小栗大樹 名大院生命科学 肘井直樹 名大院生命科学
- P2-161# 水田における水生昆虫群集の動態と動物プランクトン群集との関係** * 中西康介, 田和康太, 村上大介, 虎谷尚紀, 沢田裕一 (滋賀県大・環境科学)
- P2-162# 河川中上流域の魚類の空間ニッチ重複パターン** * 中川 光, 渡辺勝敏 (京大院・理)
- P2-163# エネルギー輸送を考慮した食物網モデルの構築** * 長田穰, 宮下直 (東大・農・生物多様性)
- P2-164# 花崗岩溪流における底生動物群集の特性** * 山中信彦, 加賀谷隆 (東大院・農学生命科学)
- P2-165# 都市近郊林の蝶類に林分レベルの要因が及ぼす影響** * 曾我昌史 (東京農工大), 小池伸介 (東京農工大)
- P2-166# ニホンジカの高密度化に伴う植生の改変が鳥類群集に与える影響** * 奥田圭 (宇都宮大・院・農), 小金澤正昭 (宇都宮大・演習林)
- P2-167# アリー効果とケンミジンコの定着成功率: 実験による解析** * 石井恵一郎, 牧野渡, 占部城太郎 (東北大・生命)
- P2-168# アンコウとその被食者の間に見られる左右性の影響** * 八杉公基, 堀道雄 (京大院・理)
- P2-169# プランクトン遺骸で復元する溜め池の近過去生物群集: 山形県畑谷大沼の例** * 粟野将, 槻木(加)玲美, 牧野渡, 石田聖二, 松島野枝, 河田雅圭 (東北大・生命), 小田寛貴 (名大・年代測定センター), 占部城太郎 (東北大・生命)
- P2-170# ため池群における魚類群集の入れ子分布とその促進要因** * 満尾世志人, 角田裕志 (農工大・農), 土井真樹絵, 大平充 (農工大院・農), 千賀裕太郎 (農工大・農)
- P2-171# 微小陸貝における特異な分散様式の可能性 ~ 鳥による捕食からの生還 ~** * 和田慎一郎 (東北大・生命科学), 川上和人 (森林総研), 千葉聡 (東北大・生命科学)
- P2-172# 里山の竹林における蚊の多種共存機構** 宮代尚法 (金沢大・自然科学), 都野展子 (金沢大・自然科学)
- P2-173# 同所的に出現するミジンコ2種のクローン動態** * 阿部周, 石田聖二, 松島野枝, 牧野渡, 河田雅圭, 占部城太郎 (東北大・生命)
- P2-174 河川水を用いたオオミジンコの繁殖影響に関する研究** * 多田満 (国環研・生物), 小神野豊 (国環研・リスク), 酒井学 (横浜市環境研), 石母田誠 (信州大・工), 宮原裕一 (信州大・山岳科学)
- P2-175 コイ科魚類オイカワにおける雄の性的形質と雄性ホルモンの関係** * 高橋大輔 (長野大・環ツ), 三浦さおり (OIST)
- P2-176 カナヘビ属(トカゲ亜目)の生殖の地理的変異(種を区別せずに分析する)** 竹中踐 (東海大・生物理工)
- P2-177 GISを利用したタンチョウの営巣環境解析** * 正富欣之 (北大院・農), 正富宏之 (タン保研)
- P2-178 ヨツボシモンシデムシの給餌行動** * 岸田竜, 鈴木信彦 佐賀大 農学部
- P2-179 日本に自生しないブナ科2種 (*Quercus laurifolia*, *Q. robur*) におけるカシノナガキクイムシの繁殖成功率** * 伊東康人 (兵庫農技総セ), 飯塚弘明, 山崎理正 (京大院・農)
- P2-180 *Quercus laurifolia*, *Q. robur* において繁殖したカシノナガキクイムシの性比** * 山崎理正, 飯塚弘明 (京大院・農), 伊東康人 (兵庫農技総セ)
- P2-181 ネズミ螺旋線虫の成体性比** * 向坂幸雄, 岩村幸雄 (茨城県立医療大)
- P2-182 寄生バチ *Melittobia* における雌の交尾回数とクラッチサイズ** * 安部 淳 (静岡大・農), 上村佳孝 (慶応大・生物)
- P2-183# 飼い慣らされたアリモドキムシにメス殺しが現れた? - 超高密度環境で生じた致死的な操作形質 -** * 城本啓子, 熊野了州, 栗和田隆 (琉球産経), 原口大 (沖縄防技セ)
- P2-184# 最小イカ: ヒメイカの世界では小さいオスが”密かに”もてる ~ 精子排除による Cryptic Female Choice ~** * 佐藤成祥 (北大院・環境), 春日井隆 (名古屋港水族館), 宗原弘幸 (北大・FSC)
- P2-185# 北欧産ヨウジウオ科魚類2種の卵巣構造と卵生産様式: 配偶パターンおよび性役割との関係について** * 曾我部篤 (広島大・院・生物圏), Ingrid Ahnesjö (Uppsala Univ.)
- P2-186# 「大卵少産」ではなく「小卵+栄養卵」が進化した要因** * 鈴木紀之, 川津一隆, 西田隆義 (京大院・昆虫生態), 大澤直哉 (京大院・森林生態)
- P2-187# Laying of surplus eggs in the great tit (*Parus major*) and its ecological significance** * 油田照秋 (北大・環境科学院), 齊藤隆 (北大 FSC)
- P2-188# 希少淡水魚ゼニタナゴの繁殖生態と生活史** * 松井亜希子 (宇都宮大院教育), 北村淳一 (東邦大理), 上田高嘉 (宇都宮大教育)
- P2-189# 同所的なカワトンボ属近縁種におけるメスの産卵場所選択: 日照環境か? 同種オスの存在か?** * 鮫島由佳, 椿宜高 (京大・生態学研究センター)
- P2-190# 基質産卵魚のハゼ科魚類, イサザには最適保護卵数が存在するか?** * Myint Omar, 幸田正典 (大阪市立大学理院)
- P2-191# 千葉県館山湾におけるベラ科魚類の群れ産卵—潮汐周期との関連性の有無—** 渡井幹雄 * 須之部友基 (海洋大・館山ス)
- P2-192# ベニハゼの双方向性転換と生活史** * 澤田紘太 (総研大・葉山), 中嶋康裕 (日大・経済)
- P2-193 Non Timber Forest Product Utilization by Local People in The National Park Gunung Gede Pangrango, West Java, Indonesia** Rizki Amelgia (IDEC, Hiroshima University), Toshiaki Kondo (IDEC, Hiroshima University), Nobukazu NAKAGOSHI (IDEC, Hiroshima University)
- P2-194 クマノミ類はなぜ一夫一妻で雌性先熟なのか? シェルター空間の制約と体長差の原理** * 服部昭尚 (滋賀大・教育・理数情報)
- P2-195 マルハナバチ類の野生巣における繁殖スケジュールと性比** * 井上真紀 (環境研), 横山潤 (山形大・理), 土田浩治 (岐阜大・応用生物)
- P2-196 シロアリ卵の揮発性フェロモン Part 2 - 卵がワーカーを呼び寄せる -** * 横井智之, 日室千尋, 松浦健二 (岡大院・環境・昆虫生態)

動物繁殖・社会生態

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 # : ポスター賞対象発表)

- P2-197# 雌雄の遺伝的交流を伴わないウメマツアリ *Vollenhovia emeryi* の繁殖様式-女王生産における有性・無性生殖について-** *岡本美里, 大河原恭祐 (金沢大・自然研)
- P2-198# シロアリ類におけるコロニーの発達に伴う給餌システムの変化と繁殖上の分業** *嶋田敬介, 前川清人 (富山大院・理工)
- P2-199# シダクロスズメバチのCHC組成による巣仲間認識** *佐賀達矢, 土田浩治 (岐阜大院・応用生物・昆虫)
- P2-200# 社会性昆虫シロアリの概日行動リズム** *測側太郎 1, 松原健太 2, 松浦健二 2, 宮竹貴久 1 (1 岡山大院・環境・進化生態, 2 岡山大院・環境・昆虫生態)
- P2-201# 社会性寄生蜂におけるカースト構成の量的遺伝学的解析** *渡辺賢太, 西出雄大, 岩淵喜久男 (東京農工大・農)
- P2-202# ヤマトシロアリ属の王位と女王位の継承システム** *中野裕子 (岡大・院環境・昆虫生態), 松浦健二 (岡大・院環境・昆虫生態)
- P2-203# シロアリ卵の揮発性フェロモン Part 1 -卵への定位と認識のメカニズム-** *日室千尋, 横井智之, 松浦健二 (岡大院・環境・昆虫生態)
- P2-204# ヤマトシロアリにおける幼若ホルモンを介した兵隊カースト分化の調節** *渡邊大 (富山大院・理工), 後藤寛貴 (北大院・地球環境), 三浦徹 (北大院・地球環境), 前川清人 (富山大院・理工)
- P2-205# シロアリの女王フェロモンの特定** *山本結花, 日室千尋, 横井智之, 松浦健二 (岡大院・環境・昆虫生態)
- P2-206# シロアリの卵認識における下唇鬚と触角の役割** *内藤龍太, 松浦健二 (岡大院・環境・昆虫生態)
- P2-207# オオシロアリの触角におけるカースト特異的発現遺伝子** 北大・環境
- P2-208# シロアリ生殖虫のワーカー誘導に対する有性・単為生殖で生まれた個体の感受性** *滋田友恒, 北出理 (茨城大・理)
- 動物個体群**
- P2-209 カラフトマスの周期的な個体数変動** *森田健太郎・森田晶子・福若雅章・永沢亨 (水総研)
- P2-210 糞DNAから個体識別したタヌキ・アナグマの生息分布** *松木吏弓, 竹内亨, 阿部聖哉, 梨本真 (電中研・生物)
- P2-211 apparent competitionを利用した天敵の維持と害虫の個体数制御** *今藤夏子 (国環研・生物), 伊藤洋 (東大・総合文化)
- P2-212 農地景観におけるマルハナバチの個体群動態: トラップ調査とDNA分析から推定したコロニーの密度と成長** 筑波沙彩, 後北英実, 紺野康夫 (帯広畜産大), *永光輝義 (森林総研)
- P2-213 イネシンガレセンチュウ個体群の年次変動** *星野滋 (広島総研農技セ), 富樫一巳 (東京大学・農)
- P2-214 隠蔽種の共存・非共存と繁殖干渉** 牧野渡 (東北大・生命)
- P2-215 自らの卵捕食がカワバタモロコ個体群動態に及ぼす影響** 田中哲夫*(人と自然博), 藤田茂宏(北摂オーデイオ), 谷本卓弥(伊丹北高), 山科ゆみ子(ホトケドジョウを守る会), 三浦康弘(藤井寺工高)
- P2-216 植生指標を用いたエゾシカ生息密度の評価手法** *宇野裕之, 釣賀一二三, 石田千晶(道環境研) 宮木雅美(酪農学園大・環境)
- P2-217 クロヒカゲとヒカゲチョウの棲み分け機構: 配偶縄張での繁殖干渉に注目して** 井出純哉 (京大・理)
- P2-218 海岸クロマツ林-山地照葉樹林におけるアナグマの生息環境** *竹内亨, 松木吏弓, 阿部聖哉, 梨本真 (電中研・生物)
- P2-219# 侵入タイミングが定着の成否を決める** *山道真人 (総研大・生命共生体進化学), 吉田丈人 (東大・総合文化, JST さきがけ), 佐々木顕 (総研大・生命共生体進化学, JST さきがけ)
- P2-220# 多型頻度の緯度クライン: 夏への適応と隠蔽度** *鶴井香織 (京大院・農・昆虫生態), 本間淳 (京大院・理・動物行動), 西田隆義 (京大院・農・昆虫生態)
- P2-221# ため池間におけるカワバタモロコの遺伝的背景と形態変異** 鈴木規慈*, 畠山絵美 (三重大院・生資), 渡辺勝敏, 柿岡諒 (京大院・理), 原田泰志 (三重大院・生資), 前畑改善 (琵琶博)
- P2-222# モデル生態系における体サイズを考慮した個体群動態: 捕食における空間の効果** *中桐者之 (兵庫県立大・環境人間)
- P2-223# 農業用ため池における在来淡水魚類の空間分布** *宮崎佑介 (東大院・農), 角谷拓 (国環研), 鷲谷いづみ (東大院・農)
- P2-224# 可塑性か、遺伝か? イタチハギマメゾウムシにおける体サイズの緯度クライン** *定清奨, 石原道博 (大阪府大・院・理)
- P2-225# ナゴヤダルマガエルの生態** *内藤梨沙, 夏原由博, 森本幸裕 (京大・地球環)
- P2-226# 真社会性アブラムシにおける兵隊の「質」- 防衛形態形質サイズと攻撃性 -** *服部充 (信大・理・生), 岸田治 (北大・フィールド科学センター), 市野隆雄 (信大・理・生)
- P2-227# 有性, 無性の実験個体群の動態: フナ類の有性, 無性の共存研究 III** 箱山洋 (中央水研), *児玉紗希江 (中央水研), 岡本千晶 (中央水研), 原田祐子 (中央水研), 小関右介 (長野水試), 松本光正 (中央水研)
- P2-228# アメンボ類の個体数変動と環境利用** *杉尾文明, 桜谷保之 (近畿・農・院)
- P2-229# 表流水が枯渇する河川におけるヒナイドジョウの個体群維持機構: 避難場所としての河床間隙域の重要性** *川西亮太, 井上幹生, 三宅洋 (愛媛大・院・理工)
- P2-230# 絶滅危惧種ヒヌマイトンボ個体群の年変動: 既存生息地と創出地** *寺本悠子, 渡辺守 (筑波大・院・生命環境)
- P2-231# アカネズミ個体群内のハプロタイプ組成は季節的に変化するか?** *高野雄太, 井上みずき, 星崎和彦 (秋田県立大生物資源)
- P2-232# 首都圏に分布する日本産ヒキガエルの遺伝的多様性** *長谷和子 (東大院・総合文化), 二河成男 (放大学院・教養), 嶋田正和 (東大院・総合文化)
- P2-233# 局所スケールと地域スケールにおけるエゾヤチネズミ *Myodes rufocanus* 個体群の空間的遺伝構造の違い** *銭谷純平 (北大・環境科学院), 齊藤隆 (北大FSC), 石橋靖幸 (森林総研・北海道), Anna Pauline de Guia (フィリピン大学), 河合久仁子 (北大FSC), 大西尚樹 (森林総研・東北)
- P2-234# 冷温帯林の異なる林分における野ネズミ3種の個体群変動** *松本幸二 (新潟大学 自然科学研究科), 箕口秀夫 (新潟大学 自然科学系)
- P2-235# カワウとサギと釣り人の分布変化~アユをねらう三者の相互作用~** *熊田那央, 有馬智子, 藤岡正博 (筑波大・生命環境), 本山裕樹 (NPO 法人バードリサーチ)
- P2-236# 動物プランクトンの対捕食戦略: 誘導防御と消化耐性** *坂本正樹 (国環研・リスクC), 永田貴丸, 花里孝幸 (信

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

州大・山総研), 田中嘉成(国環研・リスクC)

- P2-237# 競争と協力のコンフリクトが決める生物の空間分布パターン〜トビケラの採餌分布を例として** *加藤聡史, 近藤倫生(龍谷大学), 土居秀幸, 片野泉(オルデンブルク大学)
- P2-238# 栃木県におけるイノシシの分布拡大** 1) 橋本 友里恵*, 2) 小金沢 正昭 1) 宇都宮大院農, 2) 宇都宮大
- P2-239# mtDNA 解析を用いた北海道東部におけるヒグマの遺伝的構造** *伊藤哲治(日大・生物資源・森林動物), 中山秀次(日大・生物資源・森林動物), 小林喬子(東農工大・院・連合農), 佐藤喜和(日大・生物資源・森林動物), 間野勉(北海道環境研)
- P2-240# 植生データを用いた森林棲コウモリ類の生息適地予測〜栃木・茨城における試み〜** *渡邊真澄(東京農工大・農), 津山幾太郎(森林総合研究所), 安井さち子(つくば市並木), 上條隆志, 吉倉智子(筑波大学・院・生命環境), 松井哲哉(森総研・北海道), 丹羽忠邦(茨城県), 梶光一(東京農工大・農)
- P2-241# 移入マツの結実量に影響されるアカゲラの繁殖個体群動態** *森 さやか(東大・農・生物多様性/日本野鳥の会), 北村 亘, 樋口 広芳(東大・農・生物多様性)
- P2-242# キイロシヨウジョウバクにおける発育期間に関する選抜実験とゲノムワイドスクリーニング** *寺村皓平(岡山大・院環境), 岡田泰和(岡山大・異分野融合コア), 高橋一男(岡山大・異分野融合コア), 宮竹貴久(岡山大・院環境)
- P2-243# エゾシカの個体数増加とヒグマによるエゾシカ新生子の捕食** *小林喬子(東京農工大・連合農), 佐藤喜和(日大・生物資源), 梶光一(東京農工大・農)
- P2-244# 小規模分断林におけるエゾリス (*Sciurus vulgaris orientis*) の分布: 生息地の面積が重要か質が重要か?** 館絢花(北大・環境), 齊藤隆(北大・環境)
- P2-245# 冷温帯のスギ人工林におけるオオヒラタシデムシの個体群動態** *滝若菜, 渡辺 守(筑波大・院・生命環境)
- P2-246# 近接水系に生息するカワネズミ *Chimarroale platycephala* の mtDNA *Cytb* 領域からみた遺伝的多様性** *藤本竜輔, 岡孝夫, 天野卓, 小川博, 安藤元一(東農大)
- P2-247# エゾシカ個体群の分布拡大に伴う最近 15 年間の遺伝的構成の変化** *竹川聡美(北大・環境科学院), 永田純子(森林総合研究所), 増田隆一(北大・理学研究院), 宇野裕之(道環境科学研究センター), 齊藤隆(北大 FSC)
- P2-248# セックス アンド ザ シャーレ: マメゾウムシの種間競争と繁殖干渉** *京極大助, 西田隆義(京大・農・昆虫生態)
- P2-249# オオヒラタシデムシの飛翔筋 2 型: 隣接した局所個体群間における大きな種内変異** *白石恭輔, 廣田忠雄(山形大・院・理工)
- P2-250# ツキノワグマによる春期樹皮剥ぎ発生要因の解明** *中山直紀(宇都宮大・院・農), 小金澤正昭(宇都宮大・演習林)
- P2-251# 栃木県茂木町の水田と畑地におけるイノシシ被害地点と周辺環境特性** *野元加奈(宇都宮大・院・農), 高橋俊守(宇都宮大・農・里山科学センター)
- P2-252# コバネナガカメムシの個体群間にみられる形質変異と地理的な遺伝構造の違いとの関連** *嘉田修平(京大院・農・昆虫生態), 兼子伸吾(京大院・農・森林生物), 井鷲裕司(京大院・農・森林生物), 藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)
- P2-253# 愛知県弥勒山における *Apodemus* 属 2 種のミトコンドリアハプロタイプの多様性について** *白子智康, 大塚裕貴, 南基泰, 上野薫(中部大・応用生物)
- P2-254# ミナミアオカメムシの飛翔能力が分布拡大に与える影響** *守屋伸生, 藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)
- P2-255# ウシガエルのメタ個体群構造を介した在来種への**

トップダウン効果 *武田勇人, 宮下直(東大・農・生物多様性)

- P2-256# 野生生物の最小存続可能個体数と絶滅: クマを参考にした個体群モデル** *由田太一, 中桐齊之, 田中裕美(兵庫県立大・環境人間), 向坂幸雄(茨城県医療大)
- P2-257# シカ密度と農業被害程度の関係の経年変化とその要因** *岸本康誉(兵庫県森林動物研究セ), 藤木大介, 坂田宏志(兵庫県立大)
- P2-258# 北海道マイマイガのミトコンドリア DNA ハプロタイプとその混成状況及び性表現** *倉沢美穂, 山口博史, 塚越英晴, 時下進一, 東浦康友(東京薬大・生命)

行 動

- P2-259 オスの配偶者選択における種内・種間変異: ホンヤドカリ属 3 種を対象に** *和田 哲, 竹下文雄, 安良城佑生(北大院・水産)
- P2-260 石川県白山地域におけるニホンザル群れの長距離季節移動の 3 年** *上馬康生, 山田孝樹, 増田美咲(石川県白山自然保護センター)
- P2-261 闘魚の形態的左右非対称性に対応した威嚇誇示** *竹内勇一(京大・理), 堀道雄(京大・理), Omar Myint(大阪市大・理), 幸田正典(大阪市大・理)
- P2-262 ヨモギホンヤドカリにおける右蹠脚の性的二型と武器としての機能** *安田千晶, 鈴木祐太郎, 和田哲(北大・水産)
- P2-263 ヨモギホンヤドカリではメスの産卵までの日数がオス間競争に影響を与える** *鈴木祐太郎(北大・水産), 竹下文雄, 和田哲(北大院・水産)
- P2-264 協同繁殖社会における経済学: ミーアキャットの毛づくろいは社会関係を反映する** 杵掛展之(総研大・葉山, JST さきがけ)
- P2-265 交尾栓のサイズをめぐる性的対立** 高見泰興(神戸大・人間発達環境)
- P2-266 遺伝子座内性的対立は誇張形質の性的二型だけでは解消しない** *原野智広(九大院・理・生態科学), 岡田賢祐(University of Exeter, 岡山大院・環境・進化生態), 中山慧, 宮竹貴久(岡山大院・環境・進化生態)
- P2-267 死にまねの生態学的意義と生体アミンの役割** *宮竹貴久(岡山大院環境), 佐々木謙(金沢工大), 西 優輔(岡山県農総セ)
- P2-268 アジアイトトンボにおける雄の副生殖器の精子置換能力: 卵擬態** *田島裕介, 渡辺 守(筑波大・院・生命環境)
- P2-269 目立つべきか? 不味くあるべきか? 局所的捕食圧が促進する警告色の多様性機構** *持田浩治(京大・理・動物), 北田稔(長大院・生産), 池田光彦(長大院・生産), 高谷智裕(長大・水産), 荒川修(長大・水産)
- P2-270 アミアリの物件選び** 斎藤昌志* 廣田忠雄(山形大・理・生物)
- P2-271 クモの造網行動における、複雑な行動のコストと対捕食者防御** *中田兼介(東京経済大), 輪湖千春, 森貴久(帝京科学大・アニマルサイエンス)
- P2-272 飛ぶ鳥が飛び立つ時一角度解析** *島谷健一郎(統数研), 依田憲(名古屋大), 佐藤克文, 塩見こずえ(東大海洋研), 清水邦夫(慶応大)
- P2-273 イモゾウムシの交尾行動に関する至近要因** *熊野了州, 栗和田隆, 城本啓子(琉球産経(株)/沖縄病害虫防技セ), 小濱継夫(沖縄農研セ), 原口大, 安田慶次(沖縄病害虫防技セ)
- P2-274 ヒナに擬態して雌をさそうツバメの雄** *長谷川 克(筑波大・生命環境), 渡辺 守(筑波大・生命環境), 中村雅彦(上教大・生物)

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

- P2-275** トゲワレカラの親子関係:子供が母親に乗っているのはどんな時? *原田彩知子, 田中萌, 竹下文雄, 和田哲
- P2-276** タガメの雌は卵塊を保護する雄を選択するか? 門司麻衣子(京大・理)
- P2-277** 疑ベイツ擬態はどのようなときに生じるのか? 鳥類捕食者を使った検証 *本間 淳(京大・理・動物行動), Johanna Mappes (University of Jyväskylä)
- P2-278** リュウキュウアユのなわばりの安定性に対する評価 *安房田智司, 鶴田哲也, 阿部信一郎, 玉置泰司, 井口恵一郎(中央水研)
- P2-279** 群れと群れの間での闘争の非対称消耗戦ゲーム:誰が立ち上がるべきか? 上原隆司, *加藤直子, 瀧川裕貴(総研大・葉山), 佐々木顕(総研大・葉山/JST さきがけ)
- P2-280** トキの餌探索パターンとハビタット利用の季節変化 *遠藤千尋(新潟大・自然), 永田尚志(新潟大・超域)
- P2-281** イヌビワコバチにおける産卵した花のうからの脱出 木下智章(佐賀大・農)
- P2-282** トゲゴミグモの網構造と採餌効率の関係 *近藤昇平(琉球大・農), 辻和希(琉球大・農), 立田晴記(琉球大・農)
- P2-283** 活動量と擬死行動の遺伝相関 *中山慧, 宮竹貴久(岡山大・環境学)
- P2-284** GPS 首輪を用いたニホンツキノワグマの食性解析ークマの捕食による行動変化事例 *後藤優介(立山カルデラ博), 有本勲(農工大・農), 古林賢恒(農工大・農)
- P2-285#** Levy walk における最適なパラメーター *堀部直人, 池上高志, 嶋田正和
- P2-286#** くさい蛙の真相〜ツチガエルの分泌物はシマヘビからの捕食回避に効果的〜 *吉村友里(九大・理・生態), 粕谷英一(九大・理・生態)
- P2-287#** メダカナガカメムシの交尾行動 *洲崎雄, 宮竹貴久(岡大院・環境・進化)
- P2-288#** 可携型トビケラの巣材選好性の“地質的”変異 *岡野淳一(東北大・東北ア研), 菊地永祐(東北大・東北ア研)
- P2-289#** 水田周辺の環境が鳥類の出現に及ぼす影響 *高橋藍子, (京都学園大・バイオ環境)
- P2-290#** 卵寄生リスクに応じた産卵場所の決定は子の生存率を高めるか? *平山寛之, 粕谷英一(九大・理・生態)
- P2-291#** アズキゾウムシのメスの再交尾変異とオス由来成分に対する感受性の変化 *山根隆史(中央農研・北陸研究センター), 宮竹貴久(岡山大学・環境学研究科)
- P2-292#** オンブバッタのフンけり行動:フンが排泄者や同種他個体、捕食者に与える影響 *田中陽介(九大・システム生命), 粕谷英一(九大・理)
- P2-293#** 雄も雌を選ぶ:アオモンイトトンボの色彩の個体内変異と個体間変異 *高橋佑磨, 渡辺 守(筑波大・院・生命環境)
- P2-294#** 東南アジア熱帯雨林における *Hospitalitermes umbrinus* の採餌行動 *三巻和晃, 竹松葉子(山口大・農)
- P2-295#** クロヒカゲの縄張り争いには体サイズと飛翔筋の発達が重要である 竹内剛(広大・生物圏科学)
- P2-296#** ニホンツキノワグマの採食・移動・休息時間の評価手法 *有本勲(農工大・連合農学), 後藤優介(立山カルデラ砂防博物館), 永井知佳, 古林賢恒(ライチョウ保護研究会), 梶光一(農工大)
- P2-297#** 種内コミュニケーションに音声を利用しないマダスカルのトカゲ類2種による鳥類警戒声の盗聴 *伊藤亮(京大・動物行動), 森哲(京大・動物行動)
- P2-298#** 雌の多回交尾に対抗したナミアゲハの雄の精子注入戦略 *佐々木那由太・渡辺 守(筑波大・院・生命環境)
- P2-299#** 塩分に対応する幼生(両生類)の孵化行動可塑性 原村隆司, 京大・理・動物行動
- P2-300#** ベイトトラップを用いたヒメボタル幼虫の移動分散距離の推定 *梯公平(東大・農・生圏システム), 倉西良一(千葉中央博物館), 鎌田直人(東大・農・演習林)
- P2-301#** スナクダヤドムシの造巣行動における巣材選好性 *阿久津崇, 青木優和(筑波大・下田臨海)
- P2-302#** ツバメの繁殖場所選択とその繁殖成功への影響評価 *内山康彦(東大・農), 藤田剛(東大・農), 北村亘(東大・農), 樋口広芳(東大・農)
- P2-303#** 雄のメートガード努力の諸事情 ~恋も浮気もお天気次第?~ *松田亜希子, 北村亘, 山口典之, 樋口広芳(東大・農・生物多様性科学)
- P2-304#** フタモンアシナガバチにおける居候一他巣に移動するワーカーの特徴ー *山下大輔(九大・理), 粕谷英一(九大・理)
- P2-305#** 捕食者種によるスクミリンゴガイの逃避行動の違い *上島慧里子, 遊佐陽一, 奈良女大・理
- P2-306#** キビタキの渡来における理想専制分布 *岡久 雄二(農工大), 森本 元(立教大), 高木 憲太郎(パードリサーチ), 大久 保香苗(東農大)
- P2-307#** 日本の寒冷地のタヌキは冬のエネルギー消費をどう抑えているか? *關義和(農工大・連合農学), 小金澤正昭(宇大・演習林)
- P2-308#** フタモンアシナガバチ創設メスにおける他巣のメスに対する巣防衛:幼虫消失の認識 古市生(九大・理)
- P2-309#** 寄生蜂 *H. prosopidis* における宿主探索行動の解析 *阿部真人, 嶋田正和(東大院・広域システム)
- P2-310#** カメフジツボの付着パターンはウミガメ類の回遊行動の差を反映するか? *林 亮太(千葉大・自然科学), 山口 幸(海洋開発研究機構)
- P2-311#** GPS 首輪を用いたニホンジカの行動解析 *竹田千尋(農工大・農), 梶光一(農工大・農), 田村哲生(東京農総研), 伊吾田宏正(酪大・環境), 吉田剛司(酪大・環境), 高橋裕史(森林総研), 土屋誠一郎(酪大・酪農)
- P2-312#** *Amata* 属の配偶行動の解析 ~視覚刺激の重要性~ *近藤勇介(岐阜大・昆虫生態学研), 中秀司(鳥取大・害虫制御学研), 土田浩治(岐阜大・昆虫生態学研)
- P2-313#** 貝に卵をあずける魚, ヒガイ類における超高速の産卵行動 *小宮竹史(京都大・院理・動物生態), 森阪匡通(京都大・野生動物)
- P2-314#** ヨツボシモンシデムシに見られる幼虫の非同調な孵化とブルードの年齢構成 *高田守(農工大・農), 佐藤俊幸(農工大・獣), 普後一(農工大・農)
- P2-315#** 屋久島の照葉樹林における鳥類の排泄物の遺伝解析を用いた食性解析 *寺川眞理(京大・理), 梶田 学(無所属), 阿形清和(京大・理)
- P2-316#** 風の流れとオオミズナギドリ移動 *山口まどか(名大院・環境), 綿貫豊(北大院・水産), 山本麻希(長岡技大・生物), 依田憲(名大院・環境)
- P2-317#** 振動を介したカブトムシ幼虫の集合性 *小島涉(東大・農学生命), 高梨琢磨(森林総研), 中野亮(理研 BSI), 石川幸男(東大・農学生命)
- P2-318#** 泊まり場を変え単独で眠るテングザル:洪水期になにが? *松田一希(京大霊長研), Augustine Tuuga (Sabah Wildlife Dept.), 東正剛(北大院・地環研)
- P2-319#** バイオロギング手法による潜水性海鳥の摂餌生態

ポスター発表 3月17日(水)10:00-17:15

(第2体育館 # : ポスター賞対象発表)

*小暮潔央(東京大学海洋研究所), 佐藤克文(東京大学海洋研究所)

P2-320# さぎ食堂：誰が為に親は吐く *益子美由希, 徳永幸彦(筑波大・生命共存)

P2-321# 精子置換による配偶者選択への影響 *住友宏幸(山形大・院・理工), 廣田忠雄(山形大・院・理工)

P2-322# アミメアリにおける複数クローンコロニーの誕生の要因？ 限られた巣場所がコロニー融合を促進するのか *佐藤 翔(山形大院・理工・生物), 佐藤俊幸(東京農工大・農・動物行動), 廣田 忠雄(山形大・理・生物)

P2-323# アミメアリの闘争行動 *齊藤真志(山大院・理工), 廣田忠雄(山大院・理工)

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

動物生活史

- P3-001** イシダタミガイの年輪分析による年齢査定とサイズ頻度分布 橋野智子(鹿児島大・理),*富山清升(鹿児島大・理)
- P3-002** 無顎類カワヤツメ陸封集団における生活史可塑性の検証 *山崎裕治,長井輝美(富山大・院理工),稲葉修(南相馬市博)
- P3-003** エゾサンショウウオ幼生における共食いと集団の年齢構成の関係について *道前洋史(北里大・薬)
- P3-004** 潮間帯上部に生息する巻貝の生息環境と殻色多様性に関する研究 *河合溪(鹿児島大・多研セ),森脇広,永迫俊郎(鹿児島大・法文),奥野充(福岡大・理),R. Crocombe (USP), G. McCormack (Cook NTH), G. Cowan, P.T. Maoate (Cook Gov.)
- P3-005** 潜葉虫ネズミモチクロホソガの葉内における潜葉部位の季節変化 綾部慈子
- P3-006** コホート解析によるモクズガニの自然個体群での寿命の推定 小林 哲(佐賀大・農)
- P3-007** オキナワオオミズスマシの飼育・繁殖から見た生活史 *野本康太,奥山清市(伊丹市昆虫館)
- P3-008** Heat Shock Proteinによる寿命と産卵数のトレードオフ *岡田泰和,寺村皓平,高橋一男
- P3-009** 神奈川県愛川町におけるイトアメンボの活動期及び越冬期の分布状況 *松村和音(東海大院・人間環境),松澤貴之(東海大・教養),大木悦子(あいかわ自然ネットワーク),田島文忠(シャープゲンゴロウモドキ保全研),北野忠(東海大・教養)
- P3-010** Life histories of endangered marine insects *Halobates matsumurai* and *Asclepios shiranui* (Hemiptera:Gerridae) *Ikawa, T. (Morioka College), Nozoe, Y. (Kujukushima Aquarium), Yamashita, N., Ohnoki, S. (Morioka College), Nishimura, N., Yusa, K., Komaba, M. (Kujukushima Aquarium), Hoshizaki, S. (Univ. Tokyo), Kawakubo, A. (Kujukushima Aquarium)
- P3-011** 子育てするクワガタムシ? -チビクワガタの集団生活における幼虫への作用- *森英章(自然研),千葉聡(東北大・生命科学)
- P3-012** 水田棲両生類の越冬場所探索の試み *島田知彦,今村彰生,大西信弘(京都学園大・バイオ環境)
- P3-013** 琵琶湖周辺の水田地帯に遡上する魚類の日周変化 *金尾滋史(多賀町博/滋賀県大院・環境),舟尾俊範,田和康太(滋賀県大院・環境),前畑政善(琵琶湖博),沢田裕一(滋賀県大・環境)
- P3-014** 農地および庭園におけるアズマモグラの空間利用と活動様式 森田光一・大野浩史(富山大・理)・河合幸樹(富山大院・教育)・吉村一輝(富山大・教育)・横畑泰志(富山大院・理工)
- P3-015** 自動録音装置を使った谷戸田におけるカエル類の音声モニタリング *戸金大(明治大・院・農),福山欣司(慶應大・生物),今津健志(東邦大・理),倉本宣(明治大・農)
- P3-016** メダカの子魚の伸長パターンへの水温環境の影響とその緯度間変異 *三宅崇,山平寿智(新潟大・院自然科学)
- P3-017** 秋から初冬にかけてのエゾヤチネズミの体液性免疫反応:齢および繁殖状態の違い 楠本華織(佐賀大院・農)
- P3-018** スズメによるガの成虫捕食にみられる雌雄差 櫻井麗賀(京大・理)
- P3-019#** クワガタムシは材食性?それとも菌食性? 棚橋薫彦,松下範久,久保田耕平,富樫一巳(東大院農)
- P3-020#** メダカにおける遊泳能力の緯度間変異に関する研究 *鈴木雄也,三宅崇,山平寿智(新潟大・院・自然科学)
- P3-021#** メダカの成長速度の緯度間変異における種内および種間パターンについて *阿部真和,山平寿智(新潟大・院・自然科学)
- P3-022#** 鳥類において紫外線は特別チャンネルか?:社会寄生者の例から 田中啓太(理研 BSI/学振 PD),森本元(立教大院・理・生命理学),上田 恵介(立教大・理・生命理学)
- P3-023#** 2種のカマキリ間におけるハリガネムシ寄生率はなぜ違うのか ~モデルと実験からの推察~ *福井 亮,大串 隆之(京大生態学研究センター)
- P3-024#** ヤマネによる2タイプの巣箱の利用比較 *玉木恵理香(筑波大・生物資源),杉山昌典(筑波大・農林技術センター),門脇正史(筑波大・生命環境)
- P3-025#** 愛知県におけるニホンアカガエル成体の食性の生息環境による違い *水野雄介,近藤慶一,橋本啓史,新妻靖章(名城大・農),大畑孝二((財)日本野鳥の会・サンクチュアリ室)
- P3-026#** キアゲハの温度反応に見られる表現型可塑性の地理的変異 *加藤秀之,川喜多愛,石原道博(大阪府立大学院・理)
- P3-027#** 里山林のギャップ内を主たる生活の場とするノシメトンボの採餌活性と餌獲得量 *加藤賢太,渡辺 守(筑波大・生物)
- P3-028#** シャープマメゾウムシの世代間にみられる卵サイズ変異 *川本さつき,石原道博(大阪府大・理)
- P3-029#** 深海ハコエビに付着するヒメエボシの生活史と宿主上での分布 *山口幸(海洋研究開発機構),金子篤史(沖縄美ら海水族館)
- P3-030#** 三陸沿岸に來遊するアカウミガメ *Caretta caretta* の摂餌選択に関する研究 *詫間峻一(東大・海洋研),Christopher D. Marshall(テキサス A&M 大),植崎友子,佐藤克文(東大・海洋研)
- P3-031#** 環境温度と同居個体の存在がヒメネズミの日内睡眠に及ぼす影響 *大久保慶信(宮崎大学・院・農工),高橋俊浩(宮崎大学・農),森田哲夫(宮崎大学・農)
- P3-032#** 個体発生に伴い現れる栄養多型:方向づけへ遡る *桑野真也(北大・水産科学院),西村欣也(北大・水産科学研究院)
- P3-033#** 高山林にて地上営巣する鳥の繁殖失敗原因:テンによるルリビタキ巢への高い捕食圧 *森本元(立教大・理)・田中啓太(理研 BSI/学振)・佐久間文男・矢野晴隆(株式会社元)・上田恵介(立教大・理)
- P3-034#** マダガスカル西部乾燥林におけるカメレオンの生活史特性 *高橋洋生(自然研),森哲(京都大・理),長谷川雅美(東邦大・理)
- P3-035#** *Daphnia* (ミジンコ)における休眠卵生産量の種内変異 *野村篤之,占部城太郎(東北大・生命)
- P3-036#** 初期生活史の異なるクサフグとトラフグにおける紫外線耐性の個体発生と種差 *福西悠一,益田玲爾,山下洋(京大・フィールド研)

保 全

- P3-037** 小笠原諸島固有のヤシ科植物オガサワラビロウには2つの隠蔽種が含まれる? ~遺伝構造の解析および形態データによる検証~ *大谷雅人(森林総研),谷尚樹(国際農林水産セ),吉丸博志(森林総研)
- P3-038** 日本全国の自然集団におけるススキの遺伝的変異:葉緑体 DNA から見いだされた2系統の存在 下野嘉子(農

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

環研), 黒川俊二(中央農研), 西田智子(農環研)

P3-039 mtDNA 配列にもとづくオガサワラオオコウモリ (*Pteropus pselaphon*) の集団構造と遺伝的多様性の解明 *岡田あゆみ(北里大・獣医), 稲葉慎(小笠原自然文化研究所), 鈴木創(小笠原自然文化研究所), 鈴木直子(小笠原自然文化研究所), 進藤順治(北里大・獣医)

P3-040 シラタマホシクサが存続するのはどのような湿地? 愛知県における自生地の環境 *富田啓介(名古屋大・GCOE), 藤原直子(豊橋市自然史博物館)

P3-041 高山における絶滅危惧植物の全個体ジェノタイプニングに基づく保全策の構築 - ヤクシマリンドウを例に *阿部晴恵(東北大学), 手塚賢至(屋久島生物多様性保全協議会), 荒田洋一(屋久島まるごと保全協会), 斎藤俊浩(屋久島生物多様性保全協議会), 手塚田津子(屋久島生物多様性保全協議会), 陶山佳久(東北大学)

P3-042 トドマツ人工林における下層植生の多様性 *明石信廣, 雲野明, 八坂通泰(北海道林試)

P3-043 東南アジア熱帯における林業活動が多孔菌類の多様性に及ぼす影響 山下 聡(京大)・服部 力(森林総研)・吉村 剛(京大)

P3-044 沖縄やんばるの林道からの距離に伴うトビムシ群集の変化 *長谷川元洋(森林総研 木曾), 佐々木健志(琉球大), 佐藤大樹(森林総研 九州), 阿部真(森林総研)

P3-045 オオルリシジミの生息地における牧野管理が草原性チョウ相に及ぼす影響 *村田浩平(東海大・農), 松浦朝奈(東海大・農)

P3-046 葉緑体 DNA 情報を利用した日光白根山シラネアオイ個体群特定マーカーの開発 *墨谷祐子(栃林セ), 上野晴子(栃県東環森), 天谷正行(栃農試), 崎尾均(新潟大・農)

P3-047 野外展示のための刈り取り管理と草原性植物の開花状況との関係 *井上雅仁(三瓶自然館), 高橋佳孝, 堤道生(近中四農研センター)

P3-048 サギソウ個体群における集団サイズと種子生産 増田理子(名工大・社会学), *高井美紀(名工大・都市社会)

P3-050 エコロードにおける動物移動施設の効果・検証 *園田陽一, 武田ゆうこ, 松江正彦(国土交通省国総研)

P3-051 イヌワシ営巣地の改良事例とその効果 前田 琢(岩手県環保研センター)

P3-052 千葉市におけるニホンリス避難場所としてのゴルフ場の評価 *松山奈央(東京農工大・院・農), 梶光一(東京農工大・農)

P3-053 広域評価にむけた生物多様性指標の検討: ため池生態系を事例に *角谷拓(国環研), 赤坂宗光(国環研), 青木典司(神戸市), 樋口伸介(神戸大), 高村典子(国環研)

P3-054 九州のニホンモモンガとヤマメ: 自動撮影カメラによる調査から *安田雅俊(森林総研九州), 大野愛子(熊本県立大), 井上昭夫(熊本県立大)

P3-055 大阪府におけるコガタブチサンショウウオの分布と mtDNA に基づく遺伝的多様性の解析 *秋田耕佑, 平井規央, 石井 実(大阪府大院・生環・昆虫)

P3-056 絶滅危惧沈水植物ガシヤモクの保全に向けた北九州市での取り組み *真鍋徹(北九州自歴博), 須田隆一, 中村朋史(福岡県保環研), 清水敬司(ガシヤモク再生の会), 大野睦子(北九州市), 佐藤尚之, 森下正人, 原口公子(北九州市環境科学研究所), 野尻まちこ, 山口新一(北九州市環境局)・井中卓生(市丸小学校)

P3-057 トキの餌環境としての水田の評価: 佐渡島の水田におけるカエル類の密度決定要因 *小林頼太, 吉尾政信, 加藤典之, 宮下直(東大・農・生物多様性)

P3-058 獣害問題において地域住民の対策意欲・被害認識

に影響を与える社会的要因 *鈴木克哉(兵庫県立大)

P3-059 南アルプス 北岳で始まったモニタリング 1000 *名取俊樹(国環研 生物)

P3-060 糞 DNA を用いたケラマジカの起源と遺伝的多様性の解析 *山城明日香(徳島大・院・先端技術)・山城考(徳島大・院・ソシオアーツアンドサイエンス)・鎌田磨人(徳島大・院・ソシオテクノサイエンス)・遠藤晃(佐賀大・院・農)

P3-061 中部大学「あいち森と緑づくりモデル事業」の概要と活用法 *加藤聡美, 鈴木悠介, 愛知真木子, 南基泰, 上野薫(中部大学) 那須守, 小田原卓郎, 米村惣太郎, 横田樹広(清水建設) 鈴木金幸, 田中綾子(愛知県)

P3-062 野外で巣立ちしたコウノトリの父性解析 *内藤和明, 大迫義人(兵庫県立大・自然研), 西海功(科博)

P3-063 遺伝的解析に基づく徳島県剣山系へのニホンジカの移動経路の解明 山城明日香(徳島大・院・先端技術), 山城考(徳島大・院・総科), 森一生(徳島県西部総合県民局), *鎌田磨人(徳島大・工)

P3-064 薩南諸島から九州南部における干潟腹足類ウミナナ類の地理的分布 *山本智子, 菅原啓文, 山本耕聖, 峰山真実(鹿児島大・水産), 上村了美(国技政策総研), 浜口昌巳(瀬戸内海水研)

P3-065 霧ヶ峰高原における外来植物の刈り取り処理と在来群落復元の可能性 *大窪久美子, 玉垣政博(信州大・農)

P3-066 カワラノギクにおける植栽個体群の増加は生態学的研究を不可能にするか *倉本宣(明大・農), 芦澤和也(明大・院・農), 岡田久子(明大・農)

P3-067 長野県における草原性チョウ類の分布記録と草原的土地利用 須賀 丈(長野県環境保全研)

P3-068 農村の生物多様性管理~行政研究機関はいかに取り組むべきか~ *村上裕(愛媛中局産振課), 畑中満政(愛媛衛環研), 好岡江里子(愛媛衛環研)

P3-069 形質ベースアプローチによる霞ヶ浦の湖岸植生変化の分析 西廣淳(東大・農)

P3-070 農業水路における両側回遊種ミゾレヌマエビの生息場所利用 *中田和義(土木研), 傳田正利(土木研), 天野邦彦(国総研), 三輪準二(土木研), 浜野龍夫(徳島大)

P3-071 韓国慶尚南道海岸におけるユーラシアカワウソ *Lutra lutra* 生息状況の 1982 - 2009 年における変化 安藤 元一(東農大), 韓 ソンヨン(韓国カワウソ研究センター), 佐々木 浩(筑紫女学園大), *金 ヒョンジン(東農大), 小川 博(東農大)

P3-072 カラ類の営巣場所選択に関するエゾシカの影響 *齊藤隆(北大 FSC), 油田照秋(北大環境科学院), 日野貴文(北大環境科学院), 揚妻直樹(北大 FSC), 日浦勉(北大 FSC)

P3-073 二次草地の復元にあたって草原性植物の導入はどのように図るべきか 山田晋(東京大・農)

P3-074 保全・生態情報を用いたバッタ目昆虫の絶滅リスク評価 *井村 治(畜草研), 市川顕彦(日本直翅類学会)

P3-075 放棄水田から再生する水湿植物 *北川久美子(信州大院・工), 島野光司(信州大・理)

P3-076 森林の植物の種数は絶滅危惧植物の出現頻度の指標となるか? 八坂通泰(道立林試)

P3-077 遡上サケによる河川上流域への養分運搬量の年変動と河畔における産卵後サケ死体(ホッチャレ)の滞留構造 *長坂晶子, 長坂有, 小野寺賢介(北海道林試)

P3-078 シカの採食によって破壊された知床岬の海岸草原における防鹿柵を用いた回復試験の経過 *石川幸男(専修大道短大・みどりの総合科学), 佐藤謙(北海学園大・工), 青井俊樹(岩手大・農), 村上智子(村山ギソー), 内田暁友(知床博物館), 宮木雅美(酪農学園大・環境システム)

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

- P3-079** 堰の高さと直下水深が回遊魚各種の遡上に与える影響 *鹿野雄一, 山下奉海, 島谷幸宏 (九大工)
- P3-080** コビキタスジェノタイプングによる絶滅危惧植物ヤチシャジンの保全 *大竹邦暁 (中電技術コン), 兼子伸吾 (京大院・農), 増本育子 (中電技術コン), 井鷲裕司 (京大院・農)
- P3-081** 放野された傷病タヌキの定着過程 *安藤元一 (東農大), 加藤千晴 (神奈川県自然環境保全センター), 難波海南子, 林亜希子, 松平恵理, 八木仁美, 坂本真希, 小川博 (東農大)
- P3-082** 絶滅危惧植物センリゴマの全残存集団を対象とした網羅的遺伝解析 *兼子伸吾 (京大院・農), 大庭俊司 (磐田農高), 井鷲裕司 (京大院・農)
- P3-083** 絶滅危惧植物が多く出現した環境保全型農法水田の一事例 -1年目有機農法水田と慣行型水田の比較- *長船裕紀 (地域環境計画), 山崎瞬
- P3-084** 北上山地におけるツキノワグマの行動と人間活動 池谷和信 (国立民族学博物館)
- P3-085** タイ北部の山間地域における森林の分布と住民活動 増野高司 (国立民族学博物館)
- P3-086** ミトコンドリア DNA 塩基配列データに基づく千曲川水系のカジカ大卵型の遺伝的集団構造 *藁田孝晴 (千葉科学大・危機管理), 武島弘彦 (東大・海洋研), 鶴田哲也 (中央水研), 河村功一 (三重大学・生物資源), 井口恵一朗 (中央水研)
- P3-087** 狩猟情報から個体数の年変動を推定する *高橋紀夫 (遠洋水研)
- P3-088** 北海道勇払地方における安平川河道閉鎖後の残存フェン群落の種組成と分布パターンの変化 *矢部和夫 札幌市立大, 永美暢久 北大農学院, 中村太士 北大農学院
- P3-089** 忌避条件付け放獣後のツキノワグマの移動ルートと環境選択 *横山真弓, 森光由樹, 関香菜子 (兵庫県立大), 斎田栄里奈 (森林動物研究センター)
- P3-090** 沖縄ヤンバルの部分伐採と植生 一育成天然林施業と林道敷設 *阿部真, 田内裕之 (森林総研), 佐藤大樹, 小高信彦 (森林総研九州)
- P3-091** 絶滅が危惧される塩生湿性植物オオクグとシオクグの遺伝的多様性の比較 *大林夏湖, 程木義邦 (京大生態研セ), 國井秀伸 (鳥根大汽水域研セ)
- P3-092** 群集修復の目標にあわせたサンゴ移植種選定の重要性 *向 草世香 (JST さきがけ・長大・琉大), 巖佐庸 (九大)
- P3-093** サロベツ湿原におけるモウセンゴケ属2種の生態比較 ~繁殖様式、実生定着について~ *保実 有里, 露崎 史朗 (北大・環境)
- P3-094** 火入れ草原における刈取り管理が草原植生および草原性植物の開花に及ぼす影響 太田陽子 (NPO 法人 緑と水の連絡会議)
- P3-095** 多摩丘陵に残る里山黒川における自然資源の利用法の変化 *野呂恵子, 大平充, 甲野涼, 橋本美和, 倉本宣 (明大・農)
- P3-096** 地形改変を受けたスキー場ゲレンデにおける草原生植物の分布 *澤田佳宏 (兵庫県大・緑環境/淡路景観), 田村和也 (里と水辺研究所), 松村俊和 (神戸大・人間発達), 藤原道郎 (兵庫県大・緑環境/淡路景観)
- P3-097** 野生絶滅種コシガヤホシクサの野生復帰に向けた保全生態学的研究 *小幡智子 (筑波大・生物資源), 田中法生 (科博・植物園), 石川恵子 (日本園芸生産研), 宮本太 (東農大・農), 永田翔 (科博・植物園), 上條隆志 (筑波大・生命環境)
- P3-098** ゴルフ場からの流出水の化学的特徴 *布目祐二, 竹中千里 (名大院生命農)
- P3-099** ウグイにおける卵のふ化率と環境要因の影響 *小関右介, 茂木昌行, 小川滋 (長野水試)
- P3-100** 伊豆諸島における希少維管束着生植物の生育状況 *上條隆志 (筑波大), 八木正則 (新島高校), 日野正幸, 廣瀬節良 (御蔵島), 仲山真希 (環境省), 平田晶子 (森林総研), 林勇希, 小関里奈, 藤井沙耶花, 小粥隆弘, 川越みなみ (朝日航洋)
- P3-101** 種内多様性からみた里山パッチ構造の保全的機能 -シナイモツゴ生息地を例に- *小西 繭 (信州大・SVBL), 古賀和人 (長野市博), 田崎伸一 (エコシス), 井口恵一朗 (中央水研), 高田啓介 (信州大・理)
- P3-102** 農地基盤整備予定地での生物多様性調査と保全策の模索 今村彰生*, 岡本奈保子, 金城優華, 田谷以生, 湯浅千裕, 大西信弘 (京都学園大バイオ環境)
- P3-103** 大ヶヶ原ドライブウェイ沿道のニホンジカ *高橋裕史, 日野輝明 (森林総研関西)
- P3-104** コウノトリ採餌適地モデルによる湿地環境の評価 *竹下邦明 (復建調査設計株式会社), 三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館), 若宮慎二 (復建調査設計株式会社), 神谷毅 (国土交通省豊岡河川国道事務所), 日下慎二 (国土交通省豊岡河川国道事務所)
- P3-105** Vulnerability Assessment of Forest Fire danger to Climate Change *Kwak, H. (Korea Univ.), Lee, W.K. (Korea Univ.), Lee, S.Y. (Kangwon Univ.), Won, M.S. (KFRI), Koo, K.S. (KFRI), Lee, B. (KFRI), Lee, M.B. (KFRI)
- P3-106** 北淡路棚田地帯の放棄農地における和牛放牧による畦畔草原保全の可能性 *中川瑠美 (淡路景観), 澤田佳宏 (兵庫県大・緑環境/淡路景観), 藤原道郎 (兵庫県大・緑環境/淡路景観), 山本聡 (兵庫県大・緑環境/淡路景観), 大藪崇司 (兵庫県大・緑環境/淡路景観)
- P3-107#** イヌワシの餌場はどこに作ると効果的か? 餌動物ノウサギの密度分布の視点から *石間妙子, 関島恒夫 (新潟大・自然科学)
- P3-108#** 放棄後10年以内のアカマツ林型採草地における草原性植物の再生可能性 *小柳知代 (東大院農), 楠本良延 (農環研), 北川淑子 (東大院農), 大久保悟 (東大院農), 山本勝利 (農環研), 武内和彦 (東大院農)
- P3-109#** 土地利用を考慮したアカガシ生育域の気候変化に伴う影響予測 ~照葉樹林は、温暖化により分布拡大するか? 中尾勝洋 (森林総研), 松井哲哉 (森林総研・北海道), 堀川真弘 (TOYOTA・バイオ緑化), 津山幾太郎 (森林総研), 田中信行 (森林総研)
- P3-110#** 小笠原産固有種オオハマギキョウの網羅的遺伝解析 *須貝杏子, 加藤朗子, 村上哲明, 加藤英寿 (首都大・牧野標本館)
- P3-111#** 土岐川・庄内川流域圏における里地里山指標種ハルリンドウのハビタット広域評価 *味岡ゆい, 愛知真木子, 上野薫, 寺井久慈, 南基泰 (中部大院・応生), 小田原卓郎, 横田樹広, 那須守, 米村惣太郎 (清水建設(株)・技術研)
- P3-112#** 千葉県柏市こんぶくろ池周辺における希少草本類の生育環境特性と保全に関する研究 *白川一代 (東大院・新領域), 福田健二 (東大院・新領域)
- P3-113#** 絶滅危惧植物ハナシノブ個体群の生態特性が繁殖成功と遺伝的多様性に与える影響 *横川昌史 (京大院・農), 安部哲人 (森林総研九州), 井鷲裕司 (京大院・農)
- P3-114#** 野辺山高原における希少種および外来植物の分布と立地環境条件との関係 *宮原有加, 大窪久美子 (信大・農)
- P3-115#** 生物多様性指標種候補ヤリタナゴの分布を規定する要因 *照井慧 (東大・農), 松崎慎一郎 (東大・地球観測データ統融合), 児玉晃治 (福井県海浜自然セ), 多田雅充 (福井県海浜自然セ), 鷲谷いづみ (東大・農)
- P3-116#** 佐渡復元棚田ビオトープに出現する絶滅危惧植物とその生育環境 *成田智紀, 中田誠 (新潟大・自), 本間航介 (新

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

潟大・農)

- P3-117# 保全上重要性の高い湖岸湿原における Facilitator としてのカモノハシ WANG Zhe (東大・院・農・保全生態)
- P3-118# 絶滅危惧種タチスミレの生育環境特性 *澤田みつ子(筑波大・院・生命環境), 小幡和男(茨城県自然博物館), 上條隆志(筑波大・院・生命環境), 中村徹(筑波大・院・生命環境)
- P3-119# 絶滅危惧昆虫オオムラサキ幼虫の生息環境とその特性 *前田浩志, 桜谷保之(近畿大・農・院)
- P3-120# 暖温帯のオオミズゴケはどのように光合成生産を行っているのか? *福田栄二(広島大・総合科学), 佐々木晶子(広島大・院・生物圏), 中坪孝之(広島大・院・生物圏)
- P3-121# 都市域の蝶類相の変化とその生態的要因~世田谷区、杉並区、練馬区を例に~ *前角達彦(東大・農), 須田真一(東大院・農), 角谷拓(国環研), 鷲谷いづみ(東大院・農)
- P3-122# 阪神地域におけるトノサマガエルの分布と遺伝的多様性 *道本久美子, 辻真理奈, 高見泰興, 丑丸敦史(神戸大・発達)
- P3-123# ブナの集団内遺伝的多様性の低下が不健全堅果生産性に及ぼす効果 花岡創(岐阜大・応生), 小谷二郎(石川林試), 向井謙(岐阜大・応生)
- P3-124# カジカにとって湧水は大事なのか:都留市戸沢川におけるカジカの分布と河川環境との関係 *荒木友子, 中林拓人, 堀綾乃, 堀江祐香, 岡田淳, 甲斐美帆, 小林由季, 永坂優真(都留文科大学), 一柳英隆(ダム水源環境整備センター)
- P3-125# ニホンカナヘビの生息地としての棚田景観の評価 *土金慧子, 宮下直(東大・農)
- P3-126# 都留市鹿留川におけるカワラナデシコの個体群構造と繁殖特性 *近藤美幸, 居積真由美, 山口紗絵子, 坂田有紀子(都留文科大学初等教育学科)
- P3-127# マイクロサテライト DNA 解析による希少種イトウの遺伝的構造 *北西滋(立命館大), 江戸謙顕(文化庁), 秋葉健司(HuchoWorks), 大光明宏武(イトウ生態保全ネット), 野本和宏(北大・環境科学), 小泉逸郎(北大・地球環境), 東正剛(北大・地球環境)
- P3-128# 長野県伊那盆地の水田地域に生息する絶滅危惧種ダルマガエルの食性に関する保全生態学的研究 *木田耕一(信州大・農), 大窪久美子(信州大・農), 四方圭一郎(飯田市美博)
- P3-129# 切株から推定するスラムの違法伐採嗜好性-枝先に行かぬば塾柿は食えず!?- *古川拓哉, 藤原一繪(横国大・環境), S. Kiboi, P.B.C. Mutiso (Univ. of Nairobi)
- P3-130# 東京湾における水路内の小さな干潟に生息する希少ベントス *柚原剛(東邦大院・理), 多留聖典(東邦大・東京湾生態系研究セ), 風呂田利夫(東邦大院・理)
- P3-131# 日本に生育する絶滅危惧種トキワマンサクの全野生個体解析による多様性評価 *水谷未耶(京大・農), 兼子伸吾(京大院・農), 井鷲裕司(京大院・農)
- P3-132# 滋賀県におけるハナズミの生息地評価 *松浦宜弘, 高柳敦(京大院農), 柴田昌三(京大フィールド研)
- P3-133# 千葉県北総地域におけるヘイケボタル生息適地の推定 *柿本恵里那(東邦大院・理), 桑波田和子(八千代市はたの里づくり実行委員会), 美濃和直子(佐倉里山クラブ), 長谷川雅美(東邦大・理)
- P3-134# 奥能登のゲンゴロウ類の季節消長とハビタット利用の実態 *野村進也(愛媛大院・農), 赤石大輔(NPO おらっちゃん), 小路晋作(金沢大・地連セ), 日鷹一雅(愛媛大・農)
- P3-135# マイクロサテライトマーカーを用いた落葉低木ユキナギの遺伝的構造 *芦澤和也(明治大・院・農), 木村恵, 練春蘭(東大・ア生セ), 倉本宣(明治大・農)
- P3-136# どのような二枚貝が好きか?:アメリカザリガニによる淡水二枚貝の捕食選択実験 *久米学(土木研自然共生センター), 根岸淳二郎(北大院地球環境科学研究院), 佐川志朗, 真田誠至, 宮下哲也, 上野公彦, 相川隆生, 萱場祐一(土木研自然共生センター)
- P3-137# 絶滅危惧植物マメナシにおける自殖、近交・外交弱勢の評価 加藤珠理(森林総研), 今井淳, 西岡理絵, 向井謙(岐阜大・応用生物)
- P3-138# 絶滅危惧種コアジサシの効率的な保全への提案:白い地面による誘引の効果 *佐々木太毅(明大・農・応用植物生態), 清水真理子(東邦大・理・生物), 北村亘(東大・農・生物多様性), 増田直也(NPO法人リトルターン・プロジェクト), 瀧本岳(東邦大・理・生物), 倉本宣(明大・農・応用植物生態)
- P3-139# 忌避条件付けの有無によって、ツキノワグマの人為的環境利用に違いがあるか? *関香葉子(兵庫県立大学大学院), 横山真弓, 森光由樹, 室山泰之(兵庫県立大学/兵庫県森林動物研究センター), 斎田栄里奈(兵庫県森林動物研究センター)
- P3-140# 絶滅危惧種ジングウツツジの遺伝的多様性と遺伝的構造 *渡辺洋一, 戸丸信弘(名大院生命農)
- P3-141# 海洋酸性化がサンゴの石灰化に与える影響-精密pCO₂制御装置を用いた近未来予測- *大木駿(琉大・理工), 井口亮(琉大・熱生研), 井上麻夕里(東大・海洋研), 小崎沙織(東大・海洋研), 中村崇(九大・理), 鈴木淳(産総研), 酒井一彦(琉大・熱生研)
- P3-142# 小笠原諸島に生息する絶滅危惧種アカガシラカラスバトの集団間における遺伝的差異 *安藤温子(京大院・農), 兼子伸吾(京大院・農), 鈴木創(小笠原自然文化研究所), 堀越和夫(小笠原自然文化研究所), 高野肇(森林総合研究所), 関伸一(森林総合研究所), 小川裕子(多摩動物公園), 井鷲裕司(京大院・農)
- P3-143# ファイトレメディエーションに利用可能なコケ植物の探索 *鈴木悠介(名大・農), 竹中千里(名大院・生命農), 坪田博美(広大院・理)
- P3-144# 火入れ地における希少植物の生育環境 *増井太樹(鳥取大・院・農), 佐野淳之(鳥取大・農・FSC)
- P3-145# ナラ枯れ病の拡大を抑える植生分布 今廣佐和子(東北大・生命)
- P3-146# 里地里山における土地利用のモザイク性と生物分布との関係:福井県の市民参加型調査データを用いた検証 *今井淳一(東大・農), 角谷拓(国環研), 水谷瑞希(福井県), 平山亜希子(福井県), 松村俊幸(福井県), 鷲谷いづみ(東大・農)
- P3-147# サンバの生息地における止まり木の重要性 *河村詞朗(岩大院・農), 東淳樹(岩大・農), 糸川拓真, 金子絵里, 河端有里子(岩大院・農), 大島和峰(元岩大院・農), 津田健伍(元岩大・農)
- P3-148# 水路改修工事がスジシマドジョウ小型種東海型の生息状況に与える影響の予測 *佐藤達也(三重大院生資), 田中綾子(岐阜大地域), 石崎大介(三重大院生資), 小原大昇(三重大院生資), 向井貴彦(岐阜大地域), 淀太我(三重大院生資)
- P3-149# サンバの育雛期間における給餌エネルギー量の推定 *糸川拓真(岩大院・農), 東淳樹, 出口善隆(岩大・農), 河端有里子(岩大院・農)
- P3-150# 春季と秋季におけるオオサンショウウオの終夜行動の差異-効果的な調査の時間帯- *田口勇輝(京大院・地球環境/兵庫県大・自然環境), 栃本武良(日本ハンザキ研), 夏原由博(京大院・地球環境)
- P3-151# 竹林ではなぜ林床植生が衰退するのか。 *久家光晴(九大院・システム生命), 矢原徹一(九大院・システム生命), 大槻恭一(九大・福岡演習林), 池松伸也(九大院・工学)

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2 体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

P3-152# 兵庫県豊岡市円山川中下流域に生息するコウノトリの採食生態 武田 広子 (東邦大院・地理生態)

P3-153# 植物の多様性からみた亀岡市の水田の石組畦と盛土畦の保全上の意義 岡本奈保子, 今村彰生 (京都学園大学バイオ環境)

P3-154# 市民協働による生物多様性 GIS づくりの実践
* 永野昌博, 三上光一 (十日町市里山科学館キョロロ)

P3-155# 住民参加型 Web-GIS を活用した地域環境データベースの実践開発 * 三上光一, 永野昌博 (十日町市立里山科学館)

生態系管理

P3-156 気候変動と人間活動が森林の攪乱体制に与える影響の評価 森 章 (横浜国大・環境情報)

P3-157 PALSAR 衛星データを用いた大雪山五色ヶ原ササ進入域における地表面特性の抽出 * 星野弘方 (酪農学園大・環境), 工藤岳 (北大・大学院地球環境), 金子正美 (酪農学園大・環境), 矢吹哲夫 (酪農学園大・環境)

P3-158 間伐が人工林の林床植生と昆虫に及ぼす影響 * 滝久智 (森林総研), 井上大成 (森林総研多摩), 田中浩 (森林総研九州), 横原寛 (森林総研), 末吉昌宏 (森林総研九州), 磯野昌弘 (森林総研東北), 岡部貴美子 (森林総研)

P3-159 エンレイソウ属を利用したエゾシカ採食圧の指標化 * 稲富佳洋 (北海道環境研), 宇野裕之 (北海道環境研), 高嶋八千代, 鬼丸和幸 (美幌博物館), 車田利夫 (北海道環境研)

P3-160 ニホンジカの剥皮による天然落葉広葉樹林の衰退～四国南西部・三本杭での3年間の調査結果から～
* 奥村栄朗, 奥田史郎, 伊藤武治 (森林総研・四国), 酒井敦 (国際農研センター)

P3-161 琵琶湖における埋土種子の分布とその分布を規定する要因 * 今西亜友美 (京大・フィールド研), 小田龍聖 (京大院・農), 今西純一 (京大院・地環), 中園孝介 (水資源機構), 吉田和男 (BYQ), 夏原由博, 森本幸裕 (京大院・地環)

P3-162 ナラ枯れは江戸時代にも起きていた!? 井田秀行 (信州大・教・志賀自然教育研)・高橋勸 (飯山市・五束神社)

P3-163 トキ野生復帰における自然再生: 生物量と種多様性を高める水田管理と環境要因 * 大石麻美, 武山智博, 関島恒夫 (新潟大・院・自然科学)

P3-164 エビモ (*Potamogeton crispus*) を用いた農薬曝露実験のためのバイオアッセイ系確立に関する研究 * 細木大輔, 池田浩明 (独) 農業環境技術研究所

P3-165 溪畔域のスギ人工林における間伐後の植生回復とシカの影響 * 川西基博 (鹿児島大・教育), 崎尾 均 (新潟大・農), 米林 伸 (立正大・地球環境)

P3-166 内部サイズを考慮した樹洞密度推定 小野寺賢介 (北海道林試)

P3-167 Soil characteristics of mature Korean pine (*Pinus koraiensis*) forests in Korea *Jo, W. (Korea Univ.), Son, Y. (Korea Univ.), Bae, S.W. (Korea Forest Research Institute), Hwang, J.H. (Korea Forest Research Institute), Lee, S.T. (Korea Forest Research Institute), Seo, K.W. (Korea Univ.), Noh, N.J. (Korea Univ.), Lee, S.K. (Korea Univ.), Yoon, T.K. (Korea Univ.)

P3-168 Carbon storage in *Populus tomentiglandulosa* of central korea *Park, Y.J., Son, Y., Seo, K.W., Noh, N.J., Lee, S.K., Yoon, T.K., Lee, A.R., Jo, W., Yang, A. (Korea Univ.), Lee, K.H., Son, Y.M., Kim, R.H. (Korea Forest Research Institute)

P3-169 栃木県佐野市における約60年間の景観構造の変

化: イノシシによる農業被害との関係 大橋春香*, 斎藤正恵, 桑原孝史, 弘重 穰 (農工大・フロンティア農), 小池伸介, 星野義延, 梶 光一 (農工大・農)

P3-170 異なる遊牧システムの境界の位置は何で決まるのか * 岡安智生, * 大黒俊哉, ** ウンダルマ・ジャムサラン, * 武内和彦 * 東大・農 * モンゴル国立農業大学

P3-171 東南アジア熱帯雨林における林冠木の健全度評価
* 濱田肇次, 米田健 (鹿大農), 奥田敏統 (広大院・総合)

P3-172 地理情報システムを用いた国土スケールでの里地・里山の生態系サービス評価 * 大黒俊哉 (東大・農), 角媛梅 (東大・農, 雲南師範大), 井上雅文・李召羅 (東大・アジア生物資源環境研究センター)

P3-173 釧路湿原における土砂の混入が土壌酵素活性に及ぼす影響 * 広木幹也 (国立環境研), 千賀有希子 (立正大), 野原精一 (国立環境研)

P3-174 湿地化した休耕田に成立する植物群落の特異性
* 高野瀬洋一郎 (新潟大・超越研究機構), 石田真也 (新潟大院・自然科学), 紙谷智彦 (新潟大院・自然科学)

P3-175 牧場からの距離がニホンジカによる樹木の樹皮剥ぎ発生に与える影響 * 飯島勇人, 小林慶子, 長池卓男 (山梨県森林研)

P3-176 ブナーウラジロモミ林の動態に及ぼすニホンジカ剥皮の影響 * 長池卓男, 飯島勇人, 小林慶子 (山梨県森林研), 高橋一秋 (長野大)

P3-177 森林景観における野生生物への食物資源供給機能の定量化 田中浩*, 柴田銃江, 新山馨 (森林総研), 長池卓男 (山梨県森林総研), 石田敏, 中静透 (東北大生命科学)

P3-178 国道51号線沿いにおける遺伝子組換えセイヨウアブラナの逸出状況 - 2009年度までの調査結果報告 - * 西沢 徹, 中嶋信美, 玉置雅紀, 青野光子, 久保明弘, 佐治 光 (国立環境研)

P3-179 Assessing ecosystem services and land use changes of Satoyama landscape *Jiao, Y. (The Univ. Tokyo, Yunnan Normal Univ.), Okuro, T., Takeuchi, K. (The Univ. Tokyo)

P3-180 アユ, オイカワの餌資源としての河床付着膜に対する選択性 * 皆川朋子, 萱場祐一 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)

P3-181 農業被害の軽減による、農村景観の保全 * 山崎互 (広島大・院・国際協力), 渡辺麻気 (広島大・総科), 大丸秀士 (広島市安佐動物公園), 中越信和 (広島大・院・国際協力)

P3-182 人工干潟の生物分布特性は、どのように自然状態に近づくか? その1: シオマネキの場合 * 大田直友 (阿南高専・建設システム工), 河井崇 (阿南高専・地域連携テクノセ)

P3-183 人工干潟の生物分布特性は、どのように自然状態に近づくか? その2: フトヘナタリの場合 * 河井崇 (阿南高専・地域連携テクノセ), 大田直友 (阿南高専・建設システム工)

P3-184 草地と林地における環境指標としてのチョウとオサムシ相 山下英恵*, 桐谷圭治, 富樫一巳

P3-185 モンゴルの植物生態系と遊牧パターンの相互作用 - モデルシミュレーションによる検討 * 長谷川成明 (地球研), 石井励一郎 (JAMSTEC), 山村則男 (地球研)

P3-186 砂州上の植生の窒素源における安定同位体 N15 の役割 * 小田切宗一郎, 浅枝隆, 内田哲夫

P3-187 ベトナム・カンザーマングローブ生物圏保全地域における生物多様性の復元 * 石原修一 (帝京大高), 藤本潔 (南山大), Vien Ngoc Nam (Nong Lam Univ.)・Le Van Sinh (The People Committee of Can Gio District)・Huynh Duc Hoan (Can Gio Mangrove Protection Forest Management Board), Dieu Thi Bich Hai (Hong Bang Univ.)

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 # : ポスター賞対象発表)

- P3-188 シカの影響下で衰退した林床植生及び土壌機能の修復可能性—暖温帯広葉樹二次林における野外実験—** 鈴木牧*, 池田裕行, 軽込勉, 藤平晃司, 三次充和, 塚越剛史, 廣嶋卓也, 山田利博 (東大演習林)
- P3-189 森林生態系サービスの発生・消費ネットワークの解明: 矢作川流域圏におけるケーススタディ** *大場真, 村上正吾, 王勤学 (国環研)
- P3-190 The relationship between the air pollutants and tree-rings and NDVI** *Park, S. (Korea Univ.) Lee, W.K. (Korea Univ.), Yoo, Seongjin (Korea Univ.)
- P3-191 Data preparation for applying Japan MIP's carbon flux model to Korea ecosystem** *Yoo, S. (Korea Univ.), Lee, W.K. (Korea Univ.), Son, Y. (Korea Univ.)
- P3-192 Estimation of Forest Biomass using KOMPSAT-2 Imagery in ChangBai mountain Area** Guishan Cui(KOREA UNIV), Woo-Kyun Lee (KOREA UNIV), Sora Kim (KOREA UNIV)
- P3-193 シカ頭数管理を目的とした日本におけるオオカミ再導入可能地域選定** *江頭孝, 町村尚, 松井孝典 (阪大・工)
- P3-194 竹炭を用いた屋上、壁面緑化とCO₂固定、排出削減** *中根周歩, 皮玲, 金行悦子 (広島大院生物圏科学)
- P3-195 グリーンタイド出現以降、谷津干潟で何が起きているのか?** *矢部徹, 石井裕一, 玉置雅紀, 林誠二, 野原精一, 中嶋信美 (国環研), 中村雅子 (鳥取大院・連合農), 立本英機 (千葉大)
- P3-196# カワウコロニーはため池を過栄養にしたか?** *中村雅子 (鳥取大院・連合農), 矢部徹 (国立環境研究所), 石井裕一 (国立環境研究所), 木戸健一朗 (鳥取大院・連合農), 相崎守弘 (鳥根大・生物資源)
- P3-197# モンゴル国における森林限界の分布とその変動要因の推定** *津久浦朱美 (酪農学園大・環境), 星野弘方 (酪農学園大・環境), 杉本敦子 (北大・大学院地球), 嶋田義仁 (名古屋大・文)
- P3-198# モンゴルにおける牧民知識と生態学的知見の統合による放牧地管理** *柿沼薫 (東大・農), 佐々木雄大 (東北大・理), 岡安智生 (東大・農), ジャムスランウンダルマー (モンゴル農大), 大黒俊哉, 武内和彦 (東大・農)
- P3-199# 石西礫湖における枝状ミドリイシ群集の回復阻害要因の検討** *鈴木豪, 新垣誠司, 名波敦, 下田徹, 林原毅, 與世田兼三 (西水研・石垣)
- P3-200# 雪の上の移動野生動物の自動検出アルゴリズムのための単木抽出アルゴリズム** *大石優 (筑波大), 松永恒雄 (国環研)
- P3-201# 異なる解析対象範囲を用いた野生動物の分布拡大要因の推定** *奥村忠誠 (東大・院・農学生命科学), 清水庸 (東大・院・農学生命科学), 大政謙次 (東大・院・農学生命科学)
- P3-202# 里山の保全対策—大型肉食獣の匂いによる、獣害(主にニホンザルによる害)の軽減—** *渡辺麻気 (広島大・総科), 山崎互 (広島大・院・国際協力), 大丸英士 (広島市安佐動物公園), 中越信和 (広島大・院・国際協力)
- P3-203# 「百選」を素材とした自然と人間の持続可能な関わり方のデザインルールの分析** *池野優子 (阪大・工), 松井孝典 (阪大・工), 町村尚 (阪大・工), 盛岡通 (関大・工)
- P3-204# 埋土種子除去法による植生回復比較** 塚田隆明, 長瀬卓也, 水野雄介* (名古屋工業大学・社会学)
- P3-205# Comparison of forest soil carbon models and their applicability in Korea : A Review** *Yi, K., Lee, A.R., Son, Y. (Korea Univ.)
- P3-206# Effect of thinning intensities on soil carbon storage in *Pinus densiflora* stands, Gangwon Province, Korea** *Yang, A.R., Son, Y., Noh, N.J., Lee, S.K., Jo, W.Y. (Korea Univ.), Kim, C. (Jinju Nat'l Univ.), Bae, S.W., Hwang, J.H., Lee, S.T. (Korea Forest Research Institute),
- P3-207# 安定同位体を用いたヒグマの食性分析** *松林順, 森本淳子 (北大院農), 間野勉 (道環境研), 南川雅男 (北大地環研), 中村太士 (北大院農)
- P3-208# 人工林における風倒木伐採施業の有無が哺乳類の生息地利用に与える影響** *難波海南子 (北大・苫小牧研究林), 揚妻直樹 (北大・和歌山研究林)
- P3-209# Physiochemical characteristics of soil in pure and mixed pine-oak forests in Korea** *Lee, S.K. (Korea Univ.), 'Son, Y. (Korea Univ.), 'Noh, N.J. (Korea Univ.), 'Yang, A.R. (Korea Univ.), 'Jo, W. (Korea Univ.)
- P3-210# 森林動態シミュレーションによる持続的な伐採法の提案** *安田哲 (北大・環境科学)・吉田俊也 (北大・研究林)・宮久史 (北大・農院)
- P3-211# 休耕田の湿地化により出現した植物と埋土種子との対応関係** *齋藤友恵 (新潟大院・自然科学), 久原泰雅 ((財)新潟県都市緑花センター), 石田真也 (新潟大院・自然科学), 高野瀬洋一郎 (新潟大・超域研究機構), 紙谷智彦 (新潟大院・自然科学)
- P3-212# 調整池に繁茂する外来スライムのソウギョによる抑制** *宮野晃寿 (筑波大・生物資源), 藤岡正博, 遠藤好和, 佐藤美穂 (筑波大・農林技術センター)
- P3-213# 山梨県における狩猟者の意識と人口動態からみた農業加害種の捕獲数増加要因** *竹田直人 (農工大・院), 梶光一 (農工大), 小俣謙 (山梨県), 本田剛 (山梨総農試)
- P3-214# 栃木県におけるシカの分布と狩猟者の意識・行動・努力量からみた個体数管理対策の検討** *戸田春那 (農工大・院), 梶光一 (農工大), 丸山哲也 (栃木県), 谷澤 (栃木県猟友会)
- P3-215# 日本産ミミズ類における体内銅濃度の比較** *野崎真奈, 藤井芳一, 岡田浩明 (農環研)
- P3-216# 銅に対するサクラミミズ (*Eisenia japonica*) の感受性—野外土壌と OECD 人工土壌との比較—** *藤井芳一, 野崎真奈, 岡田浩明 (農環研), 金子信博 (横浜国大)
- P3-217# 房総半島におけるイノシシによる水稻被害発生要因: 環境と対策の影響** *斎藤昌幸 (中央農研 / 横浜国大)・百瀬浩 (中央農研)・三平東作 (千葉農総研)
- P3-218# 奥多摩地域における嗜好性樹種の樹皮剥ぎからみたニホンジカの生息状況の把握** 上山真平 (農工大・農), 梶光一 (農工大・農)
- P3-219# 水棲カメ類は侵入種アメリカザリガニの管理に有効か?** *千谷久子 (東大院・新領域), 西川潮 (新潟大・超域), 高村典子 (国環研・リスク), 山室真澄 (東大院・新領域)
- P3-220# 治山ダムによって土砂送流が抑制された溪流の植生分布 ~ AKAYA プロジェクト治山ダム撤去対象地・茂倉沢の事例 ~** *林雄太, 吉川正人 (東京農工大・院・農), 藤田卓 (日本自然保護協会)
- P3-221# Predicting vegetation distribution using thermal gradient indices and drought index** *Choi, S. (Korea Univ.), Lee, W.K. (Korea Univ.), Kim, S.R. (Korea Univ.)
- P3-222# 都市の自然(水循環)再生としての竹炭を用いた屋上緑化の効果** *皮玲, 中根周歩 (広島大院生物圏科学)
- 外 来 種**
- P3-223 河川の植物相の帰化率は何によって決まるか?** 橋本佳延, 兵庫県立人と自然の博物館
- P3-224 タイワンハブ対策の現状と課題** 寺田考紀 (沖縄県衛生環境研究所)
- P3-225 小笠原諸島に侵入した外来木本種モクマオウのり**

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

ターの分解過程 畑憲治(首都大院・理工・生命)・宗芳光(小笠原亜熱帯農七)・加藤英寿(首都大院・理工・生命)・可知直毅(首都大院・理工・生命)

P3-226 ハイパースペクトルリモートセンシングを用いた侵略的外来種セイタカアワダチソウの分布推定 石井潤, 鷺谷いづみ(東京大・農)

P3-227 侵入地および原産地におけるセイヨウミヤコグサの遺伝的および形質的分化 三村真紀子(九大・理), 原登志彦(北大・低温研), 五箇公一(国環研)

P3-228 木更津市の谷津田地域に侵入したタイワンシジミの分布 *湯谷賢太郎(木更津高専・環都), 竹内敦(木更津高専・環都)

P3-230 釧路地方・白糠恋問海岸砂丘上の海浜植物群落と外来種の駆除実践活動 水嶋太郎, 神田房行, 佐野友亮(北海道教育大学・釧路), 正垣喜美子(NPO 法人ネイティブくしろ)

P3-231 沖縄島におけるダンゴムシ類の分布 *高橋祐衣(岡大院・環境), 宮竹貴久(岡大院・環境)

P3-232 ニセアカシア種子の埋土期間と発芽能力 *山田健四, 真坂一彦(北海道林試)

P3-233 捕食性の外来動物が島の陸産貝類相に及ぼす影響 *杉浦真治(森林総合研究所)

P3-234 ハリケーン・カトリーナの生態的後遺症に関する研究 (I) 被災地の植生回復地域における高分解能衛星画像を用いた侵入樹種分布の推定 吉田美幸, 長澤良太, 竹内貴裕(鳥取大・農), Saunders Lyndsay, Kirk Burton, Reza Pezeshki (Memphis 大・生物), 岩永史子,*山本福壽(鳥取大・農)

P3-235 淡水性カメ類の被食被害:房総半島における発生事例 *小賀野大一(市原高校), 小林頼太(東大・農), 小菅康弘(カメネットワーク), 篠原栄里子(千葉県自然保護課), 長谷川雅美(東邦大・理)

P3-236 国立環境研究所侵入生物データベースの機能強化とその応用への展望 *岡本 卓, 五箇公一(国立環境研)

P3-237 熱帯外来樹種 *Calliandra calothyrsus* が侵入したハリムン・サラック山国立公園の自然植生再生実験 *福田拓也(鹿大理工学), 鈴木英治(鹿大理工学), Ekawati D. (ハリムン国立公園)

P3-238 外来魚と在来魚の共存とため池の環境条件の関係 *角田裕志, 満尾世志人, 土井真樹絵(農工大・院), 大平充(明大・農), 千賀裕太郎(農工大・院)

P3-239 琉球列島におけるカエルツボカビの分布実態とその感染力 *富永篤, 五箇公一, 鈴木一隆(国立環境研), 田向健一(田園調布動物病院), 宇根有美(麻布大・獣医・病理)

P3-240 海岸砂丘草原におけるセイヨウオオマルハナバチと在来マルハナバチの訪花パターン *西川洋子, 島村崇志(北海道環境研)

P3-241 河川環境と淡水性在来・外来ウズムシ類の分布の関係 - 淀川水系における市民参加型調査の結果から - 岡出朋子, 石田 惣*, 中条武司(大阪市立自然史博), 中口 譲(近畿大), 淀川水系調査グループ「プロジェクト Y」プラナリア班, 同水質班

P3-242 沖縄島ヤンバル地域の林道における外来アリ類と甘露排出者の共生関係 *田中宏卓, 大西一志, 立田晴記, 辻和希(琉大・農・昆虫)

P3-243 帰化植物イヌケホシダの分布拡大と普通種化, その生育地の特性 *村上健太郎(きしわだ自然資料館), 堀川真弘(森林総研), 森本幸裕(京都市大・地球環), 松井理恵((株)パシフィックコンサルタンツ)

P3-244 ヤンバルの林道における外来アリの分布 *大西一志, 諏訪部真友子, 菊地友則, 久保田康裕, 辻和希

P3-245# ニセアカシア河畔林における伐採後の復元過程

*黒河内寛之, 當山啓介, 宝月岱造(東大院農)

P3-246# 矢田川子どもの水辺ワンドビオトープの再生状況 - 外来種排除の効果はいかに - 伊藤弓恵, 長瀬拓也, 徳永百代, 増田理子(名工大・社会工学)

P3-247# 琵琶湖・淀川水系における腹口吸虫の拡大予測と魚病阻止に関する研究 *馬場孝, 浦部美佐子(滋賀県立大・院・環境科学)

P3-248# 外来生物タイワンリスの剥皮特性 - 神奈川県における事例 - *藤本理子, 藤原一繪(横国大・院・環境情報)

P3-249# ヒラタクワガタにおける地域間雑種の形成と大顎の形状 *所論史(茨城大・院・教育), 五箇公一(国立環境研), 立田晴記(琉球大・農), 鈴木一隆(国立環境研), 山根爽一(茨城大・教育)

P3-250# 外来草本オオアワダチソウのリター分解は在来イネ科草本より速い *斎藤達也, 露崎史朗(北大・環境)

P3-251# 霧ヶ峰高原における外来植物の分布状況 - 特にヒメジョオン類とマツヨイグサ類について - *玉垣政博(信州大・農), 大窪久美子(信州大・農)

P3-252# 外来生物マングースは希少鳥類の分布に影響を与えているか? *南木大祐, 久保田康裕

P3-253# 水草タイプによるアメリカザリガニからヤゴへの捕食圧軽減効果 佐藤允昭(東京大・農)

P3-254# 複数外来捕食者存在下における mesopredator release の可能性の検討: 桶ヶ谷沼の事例 *三宅もえ, 宮下 直(東大院・農)

P3-255# 南極観測事業における外来生物持ち込みの特徴とその危険性 *辻本恵(総研大・極域), 伊村智, 神田啓史(極地研)

P3-256# 鎌倉市の都市緑地におけるアライグマと他中型食肉目との競合 *岩下明生, 小林大輔, 安藤元一, 小川 博, 天野 卓(東農大院・農・野生動物)

P3-257# 外来ヒキガエルの捕食圧によるクロオオアリ島嶼個体群の崩壊 *竹田祐輝(東邦大・理), 長谷川雅美

P3-258# 外来植物マルバフジバカマ (*Eupatorium rugosum*) の管理時期の検討 - 地上部刈取りによる地上・地下部の資源配分に注目して - *降幡和弘, 藤原一繪(横国大・院・環境情報)

P3-259# 特定外来生物アルゼンチンアリの防除リスク *諸岡史哉(茨城大学・教育), 五箇公一(国立環境研究所), 山根爽一(茨城大学・教育)

P3-260# 外来種ハリネズミのミトコンドリア DNA 多型解析 *岡孝夫, 長谷川洋子, 鉄谷龍之, 安藤元一(東農大), 石井信夫(東京女子大), 小川博, 天野卓(東農大)

P3-261# 緑化植物コマツナギの在来系統と外来系統の比較生態学的研究 *太田尾朋子 千葉大学園芸学研究所 再生生態学研究室

P3-262# 山梨県甲府盆地における外来樹木ニワウルシ (*Ailanthus altissima*) の分布状況 *中馬美咲, 井出雄二, 斎藤陽子(東大・農), 内山憲太郎(森林総研)

P3-263# 北海道における外来両生類トノサマガエルの分布変遷 *高井孝太郎, 岩熊敏夫, 東正剛

P3-264# 外来種ハリネズミの捕獲効率 *鉄谷龍之, 笠貫ゆりあ, 安藤元一(東農大), 石井信夫(東京女子大), 小川博, 天野卓(東農大)

P3-265# 手賀沼流域におけるナガエツルノゲイトウの10年間の分布拡大と灌漑水路の関係 *齋藤康宏, 富田瑞樹(東京情報大), 林紀男(千葉中央博), 原慶太郎(東京情報大)

P3-266# ニワウルシの根萌芽を主体とした個体群動態に関する考察 *竹内史郎(日本大・森林資源), 永井牧子(日本大・

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ:ポスター賞対象発表)

森林資源), 鈴木圭 (日本大・森林資源)

P3-267# 神奈川県湘南海岸における外来草本オオフタバムグラの定着状況と適応戦略 *工藤裕章 (東海大・院・人間環境), 田中千恵, 内田晴久, 藤吉正明 (東海大・教養)

P3-268# アリの巨大コロニーが世界を乗っ取る!? *砂村栄力, 鈴木俊 (東大・応用昆虫), 坂本洋典 (北大・地球環境), 西末浩司, 寺山守, 田付貞洋 (東大・応用昆虫)

P3-269# アルゼンチンアリの生態研究 *西村晃治, 嶋田正和 (東大院・総合文化)

物質生産・物質循環

P3-270 台風攪乱後のササ群落が森林生態系炭素循環に果たす役割 *宇都木玄 (森総研北), 北岡哲 (森総研北), 飛田博順 (森総研北), 阪田匡 (森総研北), 北村兼三 (森総研), 上村章 (森総研北), 山野井克己 (森総研北), 渡辺力 (北大・低温)

P3-271 土砂流亡に伴う農地からの窒素・リン流出ポテンシャルと河川水質への影響評価 *三島慎一郎, 神山和則 (農環研)

P3-272 樹木伐採が森林土壌のCO₂フラックスに与える影響 *谷貝勇樹 (名大院・生命農), 仁科一哉, 竹中千里 (名大院・生命農)

P3-273 森林の成立にともなう植物-土壌-渓流水間での窒素動態の変化とそのメカニズム *福島慶太郎, 徳地直子 (京大フィールド研), 館野隆之輔 (鹿児島大・農), 勝山正則 (京大院・農)

P3-274 ヒノキ林における葉窒素濃度と幹成長速度の関係 稲垣善之 (森林総研), 中西麻美 (京大), 深田英久 (高知森林技セ), 奥田史郎, 宮本和樹 (森林総研四国), 橋本徹, 三浦覚, 金子真司 (森林総研)

P3-275 奈良県春日山照葉樹林における風倒木の分解 米田健 (鹿児島大・農)

P3-276 野外加温操作実験による農耕地土壌の有機物分解に及ぼす温暖化影響の解明 *岸本(莫)文紅 (農環研), 米村正一郎 (農環研), 和頼朗太 (農環研), 近藤美由紀 (国環研), 上村真由子 (日大・生物), 白戸康人 (農環研)

P3-277 山岳域の冷温帯常緑針葉樹林におけるCO₂フラックスの環境応答 *斎藤琢, 玉川一郎, 村岡裕由 (岐阜大・流域圏), 李娜研 (韓国・国立公園), 八代裕一郎 (岐阜大・流域圏), 小泉博 (早稲田大・教育)

P3-278 インドネシア西ジャワのCitarum集水域内のSi動態へのダム養魚の影響 *増永二之 (島大・生物資源), Husnain (Indonesia, SRI), 若月利之 (近大・農)

P3-279 ヒノキ林における伐採後の繁殖分配に窒素資源が及ぼす影響 *中西麻美 (京大・フィールド研), 稲垣善之 (森林総研), 柴田昌三 (京大・フィールド研), 大澤直哉 (京大・農), 深田英久 (高知森林技セ)

P3-280 落葉広葉樹二次林(高山サイト)における大型木質リター(CWD)の動態 *大塚俊之 (岐阜大・流圏セ), 廣田充 (筑波大・生命環境), 志津庸子, 八代裕一郎, 八木周一 (岐阜大・流圏セ)

P3-281 Seasonal variation in the discharge of nitrate from forested ecosystem: Biological or hydrological? *Ohte, N. (Univ. Tokyo), Tokuchi, N. (Kyoto Univ.), Fujimoto, M. (Kyoto Univ.)

P3-282 The Effects of Millipedes (*Harpaghe haydeniana*) on Microbial Decomposition Processes of Douglas-fir (*Pinus pseudotsuga*) Needles *Suzuki, Y., Prescott, C.E. (Univ. British Columbia)

P3-283 アカマツ林における大型 AOCC システムを用いた

土壌呼吸の多点連続測定 *後藤誠二郎, 梁乃申 (国立環境研究所)

P3-284 Effect of pine wilt disease on soil CO₂ efflux of red pine stands in southern Korea *Kim, Choonsig (Jinju Nat. Univ.), Jeong, Jaeyeob (Jinju Nat. Univ.), Lee, Kwang-Soo (Southern For. Res. Inst.)

P3-285 ミミズ導入が農地の小型節足動物相と窒素無機化に与える影響 *甘楽法, 金子信博, 三浦季子, 荒井見和 (横浜国大院・環境情報), 小松崎将一 (茨城大・農)

P3-286 道東の天然林およびカラマツ人工林で斜面方位が土壌特性とリターフォール量に与える影響 *菱 拓雄 (九大北演), 前田由香 (九大生資), 田代直明 (九大北演)

P3-287 都市に隣接する多摩丘陵の森林土壌におけるCO₂, CH₄, N₂Oフラックスの空間変動 1. 異なる2時期の空間変動の特徴 木村園子ドロテア (農工大・農), 岸本(莫)文紅 (農環研), 関川清広 (玉川大学・農), 米村正一郎 (農環研), 大浦典子 (農環研), 須藤重人 (農環研), 早川敦 (秋田県大・生資料)

P3-288 植物体中ケイ素濃度の遷移系列による変化 *保原達 (酪農大), 太田明日香 (山形大), 大園享司 (京大生環研)

P3-289 都市に隣接する多摩丘陵の森林土壌におけるCO₂, CH₄, N₂Oフラックスの空間変動 2. 地形・樹種・土壌因子が及ぼす影響 *大浦典子 (農環研), 岸本(莫)文紅 (農環研), 木村園子ドロテア (農工大・農), 米村正一郎 (農環研)

P3-290 メコンデルタマングローブ林における窒素固定機能 *井上智美 (国環研), 浅野哲美 (アクトマン), 安西康晴, 野原精一 (国環研)

P3-291 冷温帯落葉広葉樹林における林冠木と林床植生の個葉光合成特性の季節性と年変動 *野田響 (岐大・流域圏セ), 村岡裕由 (岐大・流域圏セ)

P3-292 竹林における物質動態 *梅村光俊, 竹中千里 (名大院・生命農)

P3-293 窒素無機化のホットスポットとしてのヒトツモンミミズとキジャヤステの糞の比較 *京島達也, 川口達也, 藤巻玲路, 仁科一哉, 金子信博 (横浜国大, 環境情報)

P3-294 桐生水文試験地ヒノキ林における土壌面CO₂fluxの時空間変動とその制御要因 *兼光修平 (京大院農), 小杉緑子 (京大院農), 牧田直樹 (神大院農), 檀浦正子 (京大院農), 金澤瑛 (京大院農), 大久保晋治郎 (北農研), 松本一穂 (九大院農)

P3-295 葉群画像モニタリングによる半自然スキ草原のLAI動態 *関川清広 (玉川大), 和泉潤 (玉川大), 中川奈未子 (関東国際高校), 三上寛了 (筑波大), 奈佐原顕郎 (筑波大)

P3-296 2009年の紅葉・落葉はなぜ早かったのか -- 衛星・地上同時観測と検証 *奈佐原顕郎 (筑波大), 本岡毅 (筑波大), 永井信 (JAMSTEC), 村岡裕由 (岐阜大)

P3-297# 富士山における植物の生育への栄養塩制限と標高の関係 *後藤友紀, 本間彩織, 山村靖夫 (茨城大・理), 中野隆志 (山梨県・環境科学研)

P3-298# 集水域における森林タイプが溶存有機炭素濃度に影響するのか? *阿部将己, 藤原一繪 (横国大・院・環境情報)

P3-299# 樹木細根における現存量・形態特性・窒素含有量の垂直分布~根直径2mm以下の詳細な分類から見えてきたもの~ *牧田直樹 (神戸大・農), 平野恭弘, 溝口岳男, 小南裕志, 深山貴文 (森林総研・関西), 石井弘明, 金澤洋一 (神戸大・農)

P3-300# モンゴル半乾燥ステップのGPPに対するC3・C4植物の寄与一実測とモデル推定一 *浦野忠朗 (筑波大・生命環境), 翰子茂 (法政大・社会), 杉田倫明 (筑波大・生命環境), 及川武久 (筑波大・生命環境), 廣田充 (筑波大・生命環境)

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 # : ポスター賞対象発表)

- P3-301# 乾燥程度の異なるモンゴル草原生態系において放牧による被食が土壤化学性の空間的不均質性に与える影響** *近藤順治, 廣部宗 (岡大院・環境), Enkhbaatar Altangerel (モンゴル・地理生態研), Amartuvshin Narantsetseg (モンゴル・植物研), 藤田昇 (京大・生態研), 坂本圭児, 吉川賢 (岡大院・環境)
- P3-302# 火入れ地における炭素の蓄積過程と分布様式** *米川修平 (鳥取大・農), 佐野淳之 (鳥取大・農・FSC)
- P3-303# 暖温带高層湿原のミズゴケ属およびミツガシワの分解に生息場所が及ぼす影響** *加藤義和 (東京大・総合文化), 嶋村鉄也 (愛媛大・農), 堀道雄 (京大・理), 竹門康弘 (京大・工)
- P3-304# *Acacia mangium* 植林地土壌における亜酸化窒素フラックス空間構造の季節変動要因** *根田遼太 (京大・農), 太田誠一 (京大・農), 石塚成宏 (森林総研), Joko Heriyanto (PT. MHP), Agus Wicaksono (PT. MHP)
- P3-305# Contribution of litter and coarse woody debris to carbon and nitrogen cycles in *Pinus densiflora* forests** *Noh, N.J., Son, Y., Lee, S.K., Yoon, T.K., Lee, A.R., Seo, K.W. (Korea Univ.), Kim, C. (Jinju Nat'l Univ.), Bae, S.W. (KFRI)
- P3-306# 冷温带放牧草原における土壌呼吸に対するリター呼吸量の寄与率とその変動** *井上智晴 (早稲田大・院・先進理工), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P3-307# 森林土壌における窒素動態—¹⁵Nを用いた窒素形態変化総速度の測定—** 米田聡美 (京大院・農), 徳地直子 (京大・フィールド研), 大手信人 (東大院・農), 勝山正則 (京大院・農), 白井伸章 (京大院・農)
- P3-308# 日本の森林土壌の炭素循環における溶存有機炭素の役割** *藤井一至 (京大院・地球環境), 早川智恵 (京大院・農), Patrick van Hees (Orebro大), 舟川晋也 (京大院・地球環境), 小崎隆 (首都大院・都市環境)
- P3-309# 熱帯降雨林における根からの有機酸放出量の規定要因** *青木麻耶 (京大・農), 藤井一至 (京大院・地球環境), 北山兼弘 (京大・農)
- P3-310# 安定同位体比を用いた半乾燥地植物の窒素利用形態の解明** *清水美智子 (京大・農), 稲垣規一, 大手信人 (東大・農), 徳地直子 (京大・フィールド研), 三木直子, 吉川賢 (岡大院・環境), 張国盛, 王林和 (内蒙古農業大)
- P3-311# 石鎚山における標高別の炭素と窒素の動態** *中森千尋, 嶋村鉄也, 二宮生夫 (愛媛大・農)
- P3-312# 炭素・窒素安定同位体比分析を用いた瀬戸内海海域における食物網構造の解明** *松元一将, 柴田淳也 (愛媛大・沿岸研セ), 曾我部篤 (広島大・生物圏科学), 浜岡秀樹, 南口哲也, 磯中竜一, 國弘忠生, 大西秀次郎, 大森浩二 (愛媛大・沿岸研セ)
- P3-313# 二次遷移の進行が黒ボク土腐植物質の諸特性に及ぼす影響** *飯村康夫 (神戸大農学研究科), 廣田充 (筑波大生命環境), 田村憲司 (筑波大生命環境), 東照雄 (筑波大生命環境), 米林甲陽 (石川県大環境科学), 藤嶽暢英 (神戸大農学研究科)
- P3-314# 泥炭採掘跡地におけるリター分解** *竹内史子, 大瀧みちる, 露崎史朗 (北大・環境)
- P3-315# 冷温带シバ草原における温暖化操作実験—特に土壌圏への影響について—** *田部井望 (早稲田大・教育), 関根有哉, 吉竹晋平 (早稲田大・院・先進理工), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P3-316# 熱帯林土壌のCNP量と貯留メカニズム—異なる土壌粒径画分の分解特性の比較—** *喜多智, 今井伸夫, 北山兼弘 (京大・農)
- P3-317# ミクロMRIによる森林土壌構造の観察** *友常満利, 吉竹晋平, 関根有哉 (早稲田大・院・先進理工), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P3-318# 放牧シバ草原における牛糞の分解過程とCO₂放出** *五月女皓海 (早稲田大・院・先進理工), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P3-319# 河口干潟における物質循環に対するスナガニ類の影響: 夏季と冬季の比較から** *中尾拓貴, 佐々木晶子 (広島大・院・生物圏), 吉竹晋平 (早稲田大・院・先進理工), 中坪孝之 (広島大・院・生物圏)
- P3-320# 北方落葉樹林における斜面方位と樹木の窒素利用の関係** *前田由香 (九大生資), 菱拓雄, 田代直明, 久米篤 (九大北演)
- P3-321# 丹沢山地における表土流失と窒素負荷が土壌生物活性及び窒素流亡に与える影響—マイクロコズムを用いた生態影響評価—** *和田徳之, 金子信博 (横浜国大院・環境情報)
- P3-322# 低投入・不耕起農地におけるミミズがリン循環に果たす役割** *三浦季子, 金子信博 (横国大院・環境情報), 小松崎将一 (茨大・農)
- P3-323# 釧路湿原泥炭土壌の脱窒に溶存有機物質が与える影響** *千賀有希子 (立正大地球), 広木幹也 (国立環境研), 中村洋介, 渡来靖, 渡辺泰徳 (立正大地球), 照井滋晴 (NPO, PEG), 野原精一 (国立環境研)
- P3-324# 魚眼デジタルカメラ画像による草原のLAI推定** 中川奈未子 (関東国際高等学校), 三上寛了 (筑波大・院・生命環境), 和泉潤, 関川清広 (玉川大・農), 奈佐原顕郎 (筑波大・農林工学)
- P3-325# 熱帯土壌における長期不耕起栽培による炭素隔離能力の評価—Rothamsted Carbon modelを用いて—** *仁科一哉 (横国大環境情報), Muhajir Utomo (University of Lampung), 藤江幸一, 金子信博 (横国大環境情報)
- P3-326# 管理放棄されたカラマツ林における炭素動態の解明** *尾崎正紘, 酒井翔平 (早稲田大・院・先進理工), 成宮大貴, 守屋康子 (早稲田大・教育), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P3-327# スギ幼齢林と壮齢林における生態系純生産量および炭素分配様式の比較** 八代裕一郎, 志津庸子, 曾出信宏, 大塚俊之 (岐阜大・流域圏), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P3-328# キシャヤステとミドリバヤステの食性の違いと糞の化学性への影響** *岩島範子 (鳥根大・生資), 金子信博 (横国大・環境情報), 若月利之 (近大・農), 増永二之 (鳥根大・生資)
- P3-329# 林分発達初期段階の天然更新林とスギ人工林における6年間の土壌呼吸速度の比較** *志津庸子, 八代裕一郎, 曾出信宏 (岐阜大学), 上田聡嗣, 小泉博 (早稲田大学), 大塚俊之 (岐阜大学)
- P3-330# 自然土壌/人工土壌の混合比とミミズによる窒素無機化速度との関係** *川口達也 (横浜国大), 藤井芳一 (横浜国大・農環研), 金子信博 (横浜国大)
- P3-331# 熱帯山地林における鳥類によるリンの運搬** *藤田素子 (京大・東南ア研), 宇野裕美 (京大・理), 北山兼弘 (京大・農)
- P3-332# 多時期データの利用による北海道東部の土地被覆分類** *田中真哉・高橋興明 (森林総研)・齋藤英樹 (森林総研・九州)・粟屋善雄 (岐阜大・流科セ)・平田泰雅・家原敏郎・松本光朗 (森林総研)・酒井徹 (地球研)
- P3-333 森林環境教育に向けた堅果落下量調査法** *伊東宏樹, 森広信子 (森林総研・多摩)
- P3-334 大学と地域連携による里山の生態系保全に向けた環境教育の取り組み** *赤石大輔 (NPO おらっちゃん), 中村浩二 (金沢大・環日本海セ)
- P3-335 文系大学における生態学教育—京都外国語大学の**

生態学教育・普及

ポスター発表 3月18日(木)10:00-17:15

(第2体育館 Ⅱ：ポスター賞対象発表)

事例一 畑田彩 (京都外国語大学)

- P3-336 市民中心の湿原再生の取り組み -内海谷湿原7年間の歩み-** *片岡博行 (津黒いきもの), 西本孝 (岡山県自然保護セ), 森生枝 (岡山県自然保護セ), 波田善夫 (岡理大・総情)
- P3-337 行政支援によるため池-里山複合生態系保全に関する住民意識の改革. 2** *東 敬義 (三重県埋蔵文化財センター), 阿藤正樹 (三重県津農林水産商工環境事務所)
- P3-338 行政支援によるため池-里山複合生態系保全に関する住民意識の改革. 1** *阿藤正樹 (三重県津農林水産商工環境事務所), 東 敬義 (三重県埋蔵文化財センター)
- P3-339 参加型地域評価法による生態系サービス評価の試み -北海道鶴居村における事例** *庄山紀久子, Ademola Braimoh (北大・サス研), Suneetha M. Subramanian (UNU-IAS)
- P3-340 農村地域の若い担い手を対象とした生態教育の実践 ~「能登里山マイスター」養成プログラム『水田生物調査実習』** *伊藤浩二, 小路晋作, 宇都宮大輔, 北野慎一, 小柴有理江, 川島平一 (金沢大・地域連携推進セ), 中村浩二 (金沢大・環日本海域環境研究セ)
- P3-341 栃木県の里山における鳥獣害と大学と自治体の連携による人材養成の取り組み** *高橋俊守 (宇都宮大・里山セ), 伊藤愛 (宇都宮大・里山セ), 丸山哲也 (栃木県), 小金澤正昭 (宇都宮大・演習林)

高校生ポスター発表 3月17日(水)13:00-15:30

(第2体育館 # : ポスター賞対象発表)

高校生ポスター

- P2-HS01#** 宮城島におけるオカガニの繁殖生態の研究 * 田港貴之, 伊良皆隆希, 比屋根功将 (沖縄県立那覇高校)
- P2-HS02#** 六甲山におけるキノコの長期観測データを用いた出現種数の推定および気象要因との対応分析 * 森田綾子, 大西里佳 (兵庫県立御影高校)
- P2-HS03#** 岐阜県に生息するカスミサンショウウオの保護活動とシトクローム b 遺伝子による遺伝的多様性の解析 * 小嶋一輝, 岩田亜美, 小泉奈奈, 菅野一輝, 武藤悠介, 青山葉奈 (岐阜高校), 井川雄太 (岐山高校)
- P2-HS04#** コンクリートの川にホタルを増やそう〜池尻川ホタル再生計画〜 * 野澤真崇, 坊沙織, 和田彬宏, 室怒 W 隆春, 大森聖和子, 瀬戸山知晴 (兵庫県立有馬高校)
- P2-HS05#** 生物多様性保全の場としての学校ビオトープの可能性―船橋芝山高校の「里山生態園『芝山湿地』」 * 田中信, * 丸山裕輝, 小林篤史 (千葉県立船橋芝山高校)
- P2-HS06#** 里山生態園「芝山湿地」における里山生物の復活―ニホンアカガエルとヘイケボタルについて― * 陸芳樹, * 信長謙太, 西平拓実 (千葉県立船橋芝山高校)
- P2-HS07#** 岐阜市に生息するカワニナの生息環境と遺伝的多様性 * 川島生, 田中啓介, 土井和彦, 長井祐太, 平野恵理 (岐阜県立岐山高校)
- P2-HS08#** カワニナの移動と分布における特徴 * 長井祐太, 川島生, 田中啓介, 土井和彦, 平野恵理 (岐阜県立岐山高校)
- P2-HS09#** 尾瀬のニホンジカ調査 谷島由季乃 (群馬県立尾瀬高校)
- P2-HS10#** 武尊山のヤマネ調査 星野祐太 (群馬県立尾瀬高校)
- P2-HS11#** 武尊山の温室効果ガス調査 富沢香菜 (群馬県立尾瀬高校)
- P2-HS12#** 武尊山の野鳥調査 今井元海 (群馬県立尾瀬高校)
- P2-HS13#** ムササビの成長と樹上生活への適応の研究 山田萌 (都立武蔵高校)
- P2-HS14#** 見沼たんぼのタンポポ * 樋口和, * 中嶋諒太, 栗林依未, 松澤清乃, 水島夕貴, 天野亜耶, 高橋尚也, 小山竜也 (浦和学院高校)
- P2-HS15#** 土の中の植物たち ―渡良瀬遊水地の土壌シードバンク調査― * 堀内勇寿, 青木亮, 稲葉千迪, 大場未来, 横地真紀 (栃木県立小山西高校)
- P2-HS16#** クヌギ林における土の深さと土壌生物の分布 * 今井創, 中村鋼太, 杉井智裕, 高田陽 (私立武蔵高校)
- P2-HS17#** 都立翔陽高校 (東京都八王子市) のアナグマの生態について 米持萌 (都立翔陽高校)
- P2-HS18#** 伊豆大島の二つのタイプの草地における生態系ピラミッド 前田夏希 (都立国分寺高校)
- P2-HS19#** 季節変化にともなうアカネ類 (トンボ目) の体温調節 澤本世絵羅 (私立十文字高校)
- P2-HS20#** クローバーの発芽に及ぼす外的要因 * 岩崎智子, 神寶理恵, 原明友香 (岡山県立岡山一宮高校)
- P2-HS21#** 生物実習で森と川を考える * 石原陽子, 大田圭祐, 船田菜緒 (墨田川高校), 佐藤舜明 (江北高校)
- P2-HS22#** サンゴと共生生物”褐虫藻”の研究 * 高橋東子, 青木あかり, 小西由香理 (法政大学女子高校)
- P2-HS23#** 共存する植物がイヌタヌキモ *Utricularia australis* の生育に与える影響 * 桑原早紀, 中村智子, 松原生実, 渡邊翔 (香川県立三本松高校)

- P2-HS24#** 付着珪藻からわかる水質 * 眞貴子, 坂井はな (岡山県立岡山一宮高校)
- P2-HS25#** 森を測る ―冷温帯広葉樹林における森と炭素の深い関係― * 池田智代子 (早稲田実業高等部), 鈴木あすみ (神奈川県立小田原高校), 南部豪 (開智中学), 星野萌絵 (早稲田実業高等部)
- P2-HS26#** 「ヒナイシドジョウ」と「愛媛大学附属高校」はじめました * 山田裕貴, 石丸真也, 城下雄亮, 道内真輝, 瀧山勇平, 川中寅生 (愛媛大附属高校)
- P2-HS27#** グッピー (*Poecilia reticulata*) の遺伝に関する一知見 紅林堯樹 (成蹊高校)
- P2-HS28#** 八丈島産ニホンイモリ (*Cynops pyrrhogaster*) の形態特徴に関して 鈴木創大 (成蹊高校)
- P2-HS29#** グッピー (*Poecilia reticulata*) における個体成長とストレスの因果関係 桑祐子 (成蹊高校)

自由集会 3月15日 15:00-17:00 会場 D会場

W01 MAFES 土壌腐植とは何だろうか？

企画責任者：大塚，廣田

森林は吸収した二酸化炭素をバイオマスプール（幹成長）として主に蓄積するので、成長の速い若い森林の方が炭素シンクとして有効であるとみなされてきた。しかし近年になって、成熟林でもかなりの二酸化炭素を吸収していることが示唆されるようになり（例えば Luysaert et al. 2008, Nature 455）、枯死木（CWD）や土壌有機物（SOM）などの非生物的炭素プールに多くの炭素が蓄積されるという実証的なデータが増えつつある。今後の森林生態系の炭素循環研究の中では、CWD や SOM などの非生物的炭素プールの動態の解明が最も重要であるが、そこに係わる生物群の働きやネクロマスの化学的性質など、まだまだ分からないことが多い。今回の MAFES では、腐植物質の動態解明に挑む土壌化学分野のトップレベルの二人の研究者に、生物地球化学的なプロセスと深く関与する腐植物質について基礎から最先端まで初心者にも分かりやすく解説していただく。川東さんには、土壌有機物・溶存有機物・腐植物質の3者の関係や組成、非腐植物質も含めたそれらの炭素の循環への関わり、その中での収着や安定性などの作用にかかわる話を、藤嶽さんには植物遺体から腐植物質が形成され、腐植化の進行と分解という変遷過程をたどる道筋を化学構造の変遷から話をしていただく。この自由集会において、生態系生態学と土壌化学を繋ぐ、新たな物質循環研究の方向性を模索したい。

土壌腐植は炭素動態にいかに関わるのか

川東正幸（日大生物資源科学部講師）

土壌腐植の生成・分解過程はどこまで理解できるのか

藤嶽暢英（神大大学院農学研究科准教授）

自由集会 3月15日 15:00-17:00 会場 F会場

W02 第1原理から理解する個体群動態モデル

企画責任者：佐藤一憲（静岡大学）、穴澤正宏（東北工業大学）

個体群の動態を微分方程式や差分方程式のような数理モデルで考えるときに、通常、個体群レベルで現象論的に表現することが多い。そのとき、個体群を構成しているのは多数の個体であり、各々の個体の生死のふるまい方の違いが、全体としての個体群を特徴付けているという事実は無視されている。現代の生態学の知見は、進化する生態学や行動生態学がそうであるように、個体を単位として考えることなしには得られない。この自由集会では、このような視点に立って、いわゆる「第1原理」から個体群動態モデルを導出する数理的方法や、そのような方法と密接に関連しそうな実証研究を紹介していただく。この「第1原理」は、理論的に興味深いというだけではなく、理論と実証の間の自然な橋渡しがおこなわれる可能性を与えるという意味でも、極めて重要であると考えられる。

趣旨説明：個体群動態の第1原理

佐藤一憲（静岡大学）

Royama の理論を応用した時間離散型捕食者 -- 被食者系の数理モデリング

瀬野裕美（広島大学）

Site-based モデルで理解する個体群モデルの背景

穴澤正宏（東北工業大学）

マメゾウムシ個体群の種間競争モデリング

石井弓美子（東京大学）

「第1原理」と適応進化モデル

江副日出夫（大阪府立大学）

自由集会 3月15日 15:00-17:00 会場 G会場

W03 生物多様性が「雇用」を「創出」する？—田舎の山里海で暮らしを立てる若者大集合

企画責任者：赤石大輔（NPO おらっちゃん）、西脇亜也（宮崎大・農）

趣旨：オーバードクター問題にとどまらず、若者の就職難は社会問題であり、まことの自然再生に関わる仕事となれば尚更である。しかし、生物多様性は社会において重要なキーワードとなりつつあり、来年の COP10 で日本からは satoyama initiative を提言する。

生物多様性の hotspot は農山漁村であり、satoyama initiative の具現は、生物多様性と村々の暮らしを結ぶための社会教育を中心に据えた雇用創出が不可欠である。この集会では、生物多様性を学び、地方の山里海でがんばる若者が集合し、

人と自然の結びつきの持続性に向けての日々の仕事ぶり・技能を紹介してもらおう。

政変後の「コンクリートより人」は、生物多様性で暮らしを立てようとする際に、うまく機能するだろうか？津々浦々の先行事例を紹介しながら、交流・議論を深めたい。

司会：赤石大輔（NPO おらっちゃん）

コメンテーター：

西脇亜也（宮崎大・農）

圓谷浩之（農水省・官房環境バイオマス政策課）

赤間 哲（三井物産・CSR 推進部）他。

生態学者が地域再生にどうにかかわるのか？奥能登の里山における取り組み。

* 宇都宮大輔・小路晋作・伊藤浩二（金沢大・地域連携セ）・赤石 大輔（NPO おらっちゃん）

石鎚山麓で取り組む「自然を知る・暮らしに活かす」

山本貴仁（石鎚ふれあいの里）

表浜は里海か？「集落崩壊からの脱却」

田中雄二（NPO 法人表浜ネットワーク）

ど田舎流の里山保全ー地域づくり、ICT、ビジネスとの融合ー

永野昌博（里山科学館キョロロ）

とりあえずは飢えない農山村「で、どうすんの!？」

猪谷信忠（広島せら夢公園）他。

自由集会 3月15日 15:00-17:00 会場 H会場

W04 データ解析で出会う統計的問題：「X の誤差」も統計モデル化

企画責任者：粕谷英一（九州大・理）、久保拓弥（北海道大・地球環境）

今回は説明変数のさまざまな「誤差」について検討したい。たとえば直線回帰 $Y = a + bX$ では「Y の誤差は等分散正規分布」といった仮定をする。しかしながら、「X の誤差」について考慮されることはあまり多くはない。生態学の回帰分析では、X も観測値であるために測定誤差がある場合が多い。また、X が何かの推定値であるときには X の推定誤差を考慮しなければならない。たとえば「X の誤差」によって傾き b が「ゆるく」なるように推定されることがある。また「X の誤差」を無視するだけでなく、「X が原因、Y が結果」といえないような状況であっても簡単な線形モデルが適用されることがあり（例：アロメトリー解析）、統計モデルとしてわかりやすすくない。

この自由集会では、これらの問題の影響と解決策を具体的に議論したい。最初に粕谷が「X の誤差」を無視したときに生じる推定結果の偏りについて紹介する。次に伊東がベイズモデルによる推定の偏りの補正を検討し、最後に久保がベイズ統計モデルによって「X の誤差」を明示的に組みこんだ統計モデルの作りかた、あるいは「何でもアロメトリー」にしないための「X と Y の誤差を同時に考える」統計モデリングの例を紹介したい。

そこにもここにもある”誤差のある X”：X と Y の関係は偏って推定される

粕谷英一（九州大・理）

ベイズは「X の誤差」を解決できるか？

伊東宏樹（森林総研多摩）

アロメトリーじゃない統計モデル：X と Y への資源分割

久保拓弥（北海道大・地球環境）

自由集会 3月15日 15:00-17:00 会場 I会場

W05 森林の CO2 交換量と森林の炭素蓄積はどのようにつながるのか

企画責任者：小南裕志

現在、森林の CO2 吸収量測定のために気象観測タワーを用いた CO2 フラックス観測が世界各地で行われている。これと並行してチャンバー法を用いた土壌呼吸等の交換表面の CO2 交換量の観測も数多く行われている。また収穫試験地に代表されるような森林への樹体成長調査や大規模な土壌炭素調査による炭素蓄積調査も行われている。今後、これらの複数の手法の相互の補完による精度向上の検討や、環境因子と生物間の相互作用の定量化が必要である。京都府南部、木津川市の落葉広葉樹二次林（山城試験地）では 1999 年から気象観測タワーを用いた CO2 交換量の測定が行われている。これと並行して 1994 年から 5 年ごとの毎木ー枯死木調査を行いさらに葉、枝から細根にいたるまでの植物の生産量、

CO₂ 交換量や、枯死木から葉リター、枯死根にいたるまでの土壌圏有機物の収支や CO₂ 放出量の観測を行ってきた。さらに分解モデルと年輪解析を組み合わせた森林の長期炭素蓄積速度推定にも取り組んでいる。本自由集会では、これらの知見をもちいてそれぞれの手法の問題点と相互補完の可能性について議論、検討を行いたい。

タワーフラックスによる NEE 推定の問題点と展望

小南裕志（森林総合研究所・関西）

土壌炭素収支における根系の役割の評価、およびその手法開発

牧田直樹（神戸大学・自然科学）

土壌炭素収支におけるさまざまな分解プロセスの定量化

安宅未央子（京都大学・農）

森林の炭素蓄積速度の長期推定の必要性とその手法

上村真由子（日本大学・生物資源）

自由集会 3月15日 15:00-17:00 会場 J会場

W06 保全事業がすすむ小笠原で研究者が直面する予想外の課題

企画責任者：可知直毅（首都大院・理工・生命）、堀越和夫（小笠原自然文化研）

日本政府は2010年2月にユネスコに対して、小笠原諸島を我が国で4番目の世界自然遺産候補地として推薦した。小笠原は世界遺産級の自然をもちながら、同時に多くの外来種問題をかかえており、保全事業、自然再生の最前線ともなっている。この自由集会では、単なる事例紹介にとどまらず「順応的」保全にむけて「保全事業の結果新たに生じた展開（＝強弱やスピードが予想と異なる生物間相互作用）をいかにモニタリングし、次の保全事業にフィードバックするのか」を考える。これこそが現在研究者に求められている課題であり責任であろう。

コメンテーター：伊藤秀三（日本ガラパゴスの会会長）他

※ Springer 社から発行されたばかりの小笠原の外来種とその対策に関する英文単行本「Restoring the Oceanic Island Ecosystem: Impact and Management of Invasive Alien Species in the Bonin Islands」も紹介します。

根絶後の予想外の回復：ノヤギ・ネズミ根絶後は海鳥の天下か？

*川上 和人（森林総研）、鈴木 創（小笠原自然文化研）、堀越和夫（小笠原自然文化研）

根絶後の予想外の外来種影響：ノヤギ根絶後はギンネムの天下か？

畑 憲治（首都大院・理工・生命）

研究者の社会的責任パート2：研究者が自ら示す保全時代の環境配慮

鈴木 創（小笠原自然文化研）、佐々木 哲朗（小笠原自然文化研）、堀越 和夫（小笠原自然文化研）

自由集会 3月15日 15:00-17:00 会場 K会場

W07 化学物質の生態影響パート4：さまざまな生態リスク評価手法を比較する

企画責任者：池田浩明（農環研）

化学物質の生態リスクを適切に管理するには、そのリスクの適切な評価が必須である。しかし、リスク管理においては化学物質－生態系という関係だけの評価では不十分である。なぜなら農業生態系において、化学農薬による生態リスクを減らすためにその使用を控えれば、雑草や病害虫に対する代替防除手段が必要となるが、そこにも別の生態リスクが存在する。たとえば、除草剤耐性や病虫害耐性の遺伝子組換え（GM）作物の導入や、総合的防除（IPM）を目指して栽培体系を変更した場合、化学農薬によるリスクは低減する一方で、代替防除手段・資材による別のリスクも生じる。さらに、栽培体系の大規模な変更は、農業経営や食糧生産の持続性、地球温暖化への影響もともなう。このように農業生態系全体を考えた場合、時空間的規模の異なる要素間の相互関係も考慮しなければならない。そこで本自由集会では、農業生態系に注目し、農薬やGM作物、雑草による生態リスクを扱う研究者に各分野の事前、事後評価さらに順応的管理の考え方について講演いただく。そしてさまざまな要素間の「つながり」を意識した、農業生態系におけるリスク評価のあり方について総合討論を行う。

コメンテーター：澤田 均（静岡大・農）

趣旨説明：農業生態系のリスク管理は、農業全体のあり方の中で議論すべし

永井孝志（農環研）

遺伝子組換え作物の生態リスク評価
水口亜樹（農環研）

農薬の生態リスク評価
永井孝志（農環研）

農地雑草の総合的防除：防除の多様性がリスクを分散する
浅井元朗（中央農研）

自由集会 3月15日 17:00-19:00 会場 A会場

W08 フラックス研究の中の植物生理生態学～他分野との連携の現状と今後の展望～

企画責任者：宮沢良行（九大・演習林）、野田響（岐阜大学流域圏セ）、宮崎祐子（北大・創成）

植物生理生態学は特に個葉から植物個体レベルの生態学的現象に注目し、その生理学的なメカニズムの解明を目的に発展してきた。一方、より大きな空間スケールでは、生態系と大気中のガス・熱交換（フラックス）の長期観測が様々な生態系において行われてきた。扱うスケールや手法は異なる両分野ではあるが、ガス・熱交換は生理生態学的なプロセスそのものであるなど、共通点は多い。植物生理生態学的な視点は、気象要因とフラックスとの関係について、定量的かつメカニスティックに理解することに大いに貢献するだろう。

こうした中、近年の気候変動に対する、ガス・熱フラックスの応答について、精度の高い将来・広域予測が求められている。これら物理・生理・生態学的な仕組みが介在するプロセスに対し、フラックス研究は様々な計測手法や予測モデルを発達させてきた。このことは、フラックス研究において生理生態学者の参入が期待され、また相互協力できる環境が整備されてきたことを意味している。

しかし学問の背景の違いもあり、連携により得られる学問的なメリットが見えにくいため、連携に二の足を踏んでいる生理生態学者も多いのではないだろうか。

そこで本集会では、気象学の野外計測およびモデル解析に携わってきた専門家二名と、気象研究との連携に参入した生理生態学者の講演を企画した。最前線のフラックス研究の事例を通じて、相互連携の機運を高める場としたい。

個葉から地球までをつなぐ陸域炭素循環研究：その1 ～タワーフラックス観測ネットワークを利用した統合解析～
平田竜一（北大院農）

個葉から地球までをつなぐ陸域炭素循環研究：その2 ～衛星観測とモデルを組み合わせた広域解析～
佐々井崇博（名古屋大学大学院環境学）

個葉から地球までをつなぐ陸域炭素循環研究：その3 ～森林 CO₂ フラックスの季節・年変動の生理生態学的解釈～
野田響（岐阜大学流域圏セ）

自由集会 3月15日 17:00-19:00 会場 F会場

W10 ブラックカーボンの生態学 - そのブラックボックスへ迫る -

企画責任者：小林真（北大院農）

Q 生態系で、どれだけの Black Carbon (BC) がどのような役割を果たしているか

BC は、有機態炭素が燃焼してできる黒色化合物の総称である。BC は、木炭、スス、エアロゾルなどと名前を変え、形を変え、土壌、森林、大気、海洋など様々な生態系に存在する。

BC は、炭素を主な材料とし、さらに微生物による分解への抵抗性が高いため、生態系における炭素貯留に重要な役割を果たしているとされる。また、BC のもつ黒色、高い C/N 比、多孔質な構造などの特徴は、大気や地表面における熱収支、土壌中の養分循環など様々な生態系プロセスに影響する。しかし、このような BC の多様かつ重要な役割にも関わらず、研究が盛んになってからの日が浅いため "Black Carbon" という単語自体に馴染みのない方も多い。

本集会では、大気・陸域生態系に存在する様々な BC について、近年の研究をレビューした上で最新の研究成果を紹介する。広く BC という物質の重要性、厄介さを認識して頂くとともに、様々な分野の研究者との議論を通して、現時点での BC 研究の問題や新たな研究の方向性を探りたい。

集会の詳細 <http://www40.atwiki.jp/blackcarbon/pages/1.html>

趣旨説明
小林真（北大院農）

Black Carbon 分析法
平館俊太郎（農環研）

土壌中における Black Carbon：炭は土壌炭素を増やしたか？

平館俊太郎（農環研）

土壌-植物系における Black Carbon：多様な炭が樹木へ与える影響

小林真，小池孝良（北大院農）

エアロゾル・堆積物中の Black Carbon の炭素同位体組成：soot-BC and/or GBC?

熊田英峰（東京薬大生命）

炭素循環モデルにおける Black Carbon：火災の発生とエミッションに関する広域モデル推定

伊藤昭彦（国環研），加藤悦史（海洋研究開発機構）

自由集会 3月15日 17:00-19:00 会場 G会場

W11 モウソウチク林研究の現状と課題

企画責任者：福島慶太郎（京大フィールド研）

現在里山では竹林が放棄されることによって、竹林が拡大し、広葉樹二次林や人工林に侵入していることが、問題視されている。森林や里山の生態系サービスが重要視され始めてきた近年、竹林の拡大が森林の生物多様性や生態系機能の低下を引き起こすことが指摘されてはいるものの、これまで実証的な研究が十分行われてきたとは言いがたい。

西日本を中心に、北海道を除いてほぼ全国に分布するモウソウチク林も、分布の拡大が見られる代表格である。モウソウチクは17世紀に中国から導入されたタケで、日本に存在するタケ類の中でも最大である。稈長が高く、長い地下茎をもつ単軸型であるため森林へと侵入しやすい性質を有するが、ではモウソウチクからなる生態系とは一体どのような特徴を持っているのだろうか。モウソウチク林の拡大が生態系機能を脅かすものであるか否かを考える前に、そもそもモウソウチクの生態や、モウソウチク林生態系の特徴を整理する必要がある。

そこで本集会では、モウソウチク林を材料にさまざまな視点から調査を行っている研究者から最新の知見を紹介していただき、モウソウチク林研究の現状を整理する。その上で、さらなるモウソウチク林の理解に向けた今後の研究の方向性について議論したい。

司会：福島慶太郎（京大フィールド研）

コメンテータ：日浦勉（北大苫小牧研究林）

竹研究の視点

* 鳥居厚志（森林総研）

モウソウチクのクローン構造から考えるタケの開花の意義

* 小田崇（京大院・農），福島慶太郎（京大フィールド研），兼子伸吾，井鷲裕司（京大院・農）

モウソウチク林の水・物質循環

* 智和正明，大槻恭一（九大演習林）

天王山におけるモウソウチクの侵入に伴う窒素循環の変化

* 臼井伸章（京大院・農），小川遼（日本工営株式会社），徳地直子，福島慶太郎（京大フィールド研）

自由集会 3月15日 17:00-19:00 会場 H会場

W12 シロアリの生態学-カースト分化と共生システムをめぐって-

企画責任者：前川 清人（富山大院・理工），北出 理（茨城大・理）

社会性昆虫であるシロアリは、多数の個体が集合してコロニーを形成し、その中に役割の異なる階級（カースト）がみられる。また、各個体の消化管内には多数の微生物が共生しており、コロニー全体として見ると非常に複雑な生態系が構築されている。したがって、統率のとれた社会を維持するためには、個体発生に伴うカーストの分化や、個体と微生物との共生システムを制御する機構が重要であると考えられる。近年、一部の種を中心として、兵蟻（ソルジャー）や職蟻（ワーカー）分化に関わる遺伝的な影響や生理的な変化について理解が進むと同時に、ゲノムレベルでの解析が強力に推し進められたことにより、複雑な内部共生系の機能や微生物間の相互作用が明らかにされつつある。

本集会では、新たな展開を迎えつつあるシロアリのカースト分化と微生物との共生システムに関する最新の研究状況について講演して頂き、社会性昆虫における生態学的研究の展望を議論したい。

カースト分化における遺伝的影響と生殖虫の効果

北出理（茨城大・理）

オオシロアリにおけるケミカルコミュニケーションと兵隊特異的リポカリン SOL1 の遺伝子重複
三浦徹（北大院・地球環境）

ヤマトシロアリのカースト分化に影響する生理的な変化
前川清人（富山大院・理工）

ゲノムから解き明かすシロアリ腸内共生系の機能と進化
本郷裕一（東工大・生命理工）

コメント
松本忠夫（放送大・教養）

自由集会 3月15日 17:00-19:00 会場 I会場
W13 生態学における FOSS4G 利用 ～ QGIS を使った生態学研究の紹介～
企画責任者：岩崎亘典（農環研）

デスクトップ GIS であるの Quantum GIS (QGIS) は, FOSS4G (Free and OpenSource Software for Geospatial) の一つであり, 使いやすいインターフェイスとプラグインによる機能拡張が特徴である。さらに, 有志の手でマニュアルや GUI の日本語化が行われており, 利用環境が整えられつつある。本自由集会では, QGIS の概要と日本語化プロジェクトについて紹介するとともに, 実際 QGIS を使った研究事例を紹介することにより, 生態学における GIS の利用拡大に貢献することを目的とする。

なお, 発表の要旨と資料は以下のアドレスで公開する。

<http://www.osgeo.jp/> イベント /osgeojp が後援するイベント /foss4g-in-esj57/

自由な空間情報利用のためのツール QGIS と日本語化プロジェクトの紹介
嘉山陽一（朝日航洋）

アメリカセンダングサの分布ポテンシャルの解析
大東健太郎（農環研）

QGIS を使った茶草場の歴史的変遷の定量的評価
岩崎亘典（農環研）ほか4名

関東地方における特定外来生物カワヒバリガイの分布状況の把握とデータの共有 ～ Mac ユーザーの GIS 初心者が QGIS で分布データを管理するに至るまでの道のり
伊藤健二（農環研）

組み合わせて作るオープンソース GIS 環境－鮭科生息地解析を例として
今木洋大（NOAA）

自由集会 3月15日 17:00-19:00 会場 J会場
W14 みずたまり生態学
企画責任者：都野展子（金沢大学自然科学研究科）

みずたまりに関係あることを話してもらい集会です。

みずたまりの定義：サイズはいつでも 1年に何度か（1回でも OK）乾燥 が入ること。いろいろな、まとまりなき水溜りの生態に多様な博物学の面白さと一般性のある生態学的特質を発見し楽しもうという試み。

果実序内のファイトテルマータで繁殖する送粉共生者
高野（竹中）宏平（長崎大・熱帯医学研）

日本北アルプスの水溜り
前田由香（九州大・生物資源環境科学府）

サバンナに生きるボウフラ
石田幸恵*, 都野展子（金沢大・自然科学研究科）

見えない水たまり：人家に飛来したマラリア媒介蚊の成虫の分布から幼虫の発生源の位置を推定する
砂原俊彦（長崎大・熱帯医学研）

自由集会 3月15日 17:00-19:00 会場 K会場

W15 高塩分環境における植物の水利用

企画責任者：松尾奈緒子（三重大・生物資源）、三木直子（岡山大・環境）

現在、多くの乾燥地域において土壌塩類集積が進行し、原植生の変化や生態系の劣化を引き起こしている。すなわち、乾燥地の植物にとって乾燥ストレスだけでなく、塩分ストレスへの適応がその生存や分布を決める重要な条件となっている。さらに、塩分ストレスのひとつ吸水阻害への植物の適応のいくつかは、例えば浸透調節や蒸散抑制など乾燥ストレスへの適応と似ている。

そこで、本自由集会では砂漠や海岸などに生きる塩生植物の生理学的・生態学的特性について研究を行っている研究者らが話題提供を行い、高塩分環境における植物の水利用について、植物の分布、形態、生理機能の面から考えたい。

コーディネータ：

松尾奈緒子（三重大・生物資源）、三木直子（岡山大・環境）

コメンテータ：

山本福壽（鳥取大・農）

塩生植物の耐塩メカニズムとその利用

山中典和（鳥取大・乾燥地研）

アメリカ・ネバダ州に侵入した塩生植物タマリスクの塩蓄積と塩排出

今田省吾（鳥取大・乾燥地研）

中央アジア・キジルクム砂漠における土壌塩分増加がタマリスクの水利用効率におよぼす影響

松尾奈緒子（三重大・生物資源）

海水の冠水頻度がヒルギダマシ（*Avicennia marina*）の塩腺から分泌される塩類の組成と量の変動に及ぼす影響

谷口真吾（琉球大・農）

生物多様性関連集会 3月15日 15:00-17:00 会場 B会場

特定外来生物の分布状況 2010

企画責任者：小池文人

2010年には外来生物法の運用が開始してから5年が経過し、また生物多様性条約のCOP10が名古屋で開かれる年に当たります。

外来生物の現在の分布拡大状況を知ることで、未分布地への持ち込みを避けたり、予想される被害に対して事前に準備することが可能となり、また情報そのものは人々への注意喚起になります。

そのため外来生物の中でも最も重要な特定外来生物の分布拡大の現況を確認し、何をすれば分布状況を効率的に把握し、拡大を抑えることができるのか、アイデアを出し合うような集会を企画したいと思います。

プログラム

1. 特定外来生物の分布の把握状況と最近の分布拡大

- ・植物（角野康郎，神戸大）
- ・鳥類（予定）
- ・哺乳類（常田邦彦，自然研）
- ・カミツキガメ（小林頼太，東京大）
- ・魚類（中井克樹，琵琶湖博）
- ・シグナルザリガニ（西川潮，国環研）
- ・セイヨウオオマルハナバチ（横山潤，山形大）
- ・セアカゴケグモ，アルゼンチンアリなど（五箇公一，国環研）
- ・カワヒバリガイ（伊藤健二，農環研）
- ・分布情報の収集と公開について（環境省，予定）

2. 総合討論

主催：外来生物分布拡大予報研究会，横浜国大 GCOE「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」 共催：生物多様性 JAPAN

生物多様性関連集会 3月19日 13:00-16:00 会場 K会場
生物多様性の損失を止める方法はあるのか?—COP10を契機に考える新たな政策の可能性—
企画責任者:宮崎 正浩 (跡見学園女子大学)

1. 開催の趣旨

生物多様性条約 (CBD) の第 10 回締約国会議 (COP10) が 2010 年 10 月に名古屋で開催される。その主要議題の一つが 2010 年以降の中長期目標である。COP10 の議長である日本は、危機的な状況にある世界の生物多様性の保全のために有効な政策について合意ができるよう、その議論をリードすることが期待されている。そのためには、日本から意欲的な提案を行うことが不可欠である。

本シンポジウムは、国際環境 NGO FoE Japan と地球環境パートナーシッププラザ (GEIC) が共同で設置した「生物多様性保全に関する政策研究会」の検討結果を基に、広く一般の市民、NGO/NPO、研究者、企業、行政などの参加者によって、生物多様性の損失を止めるための新たな政策について議論し、その結果を「政策提言」として国内外に発信することを目的としている。

2. 主催:国際環境 NGO FoE Japan、地球環境パートナーシッププラザ (GEIC)、生物多様性条約市民ネットワーク、地球・人間環境フォーラム

3. 後援:日本生態学会

4. 参加費:無料 (本シンポジウムのみに参加される方は日本生態学会大会の参加登録は必要ありません)

5. 内容

基調講演:生物多様性保全のためのミティゲーションの課題:矢原徹一 (九州大学)

パネルディスカッション

(1) 生物多様性の保全 (ノーネットロス政策を中心に)

宮崎正浩 (跡見学園女子大学)、田中章 (東京都市大学) 他

(2) 生物多様性の構成要素の持続可能な利用 (原材料調達における配慮を中心に)

坂本有希 (地球・人間環境フォーラム)、足立直樹 (株式会社レスポンスアビリティ) 他

生物多様性関連集会 3月20日 10:00-12:00 会場 弥生講堂 (東大・弥生キャンパス)

保全生態学研究会サテライトワークショップ:保全生態学の技法

企画責任者:鷺谷いつみ (東大・生圏)、宮下直 (東大・生圏)、西廣淳 (東大・生圏)、角谷拓 (国環研)

生物多様性の保全と生態系の健全性の維持は人類社会の持続性の確保にとって不可欠であることが国際的に広く認識され、国内においても 2007 年 11 月に閣議決定された第三次生物多様性国家戦略には「生物多様性総合評価」の実施が盛り込まれた。生物多様性総合評価では、日本国内における生物多様性の現状の科学的な評価に加え、有効な生物多様性評価手法の開発を通じて技術面での国際的な貢献が期待されている。

生物多様性・生態系の評価を適切かつ効果的に行うためには、目的に適った新しい調査・分析・予測手法が必要となる。保全生態学を中心とする野生生物を対象とする諸分野では、そのような手法が近年目ざましく発展している。また科学的分析に基礎をおく保全の実践でも、新しい取り組みが進められている。しかし、それらは英語の原著論文として紹介されているものがほとんどであり、そのことが保全生態学の現場でこれらの手法を活用する際の敷居を高くしている一因になっている。本集会では、生物多様性の保全と生態系の健全性の維持にとって意味のある最新の研究手法 (分析手法から実践手法まで) を紹介する。

2010 年が国際生物多様性年であることに鑑み、生物多様性保全と持続可能な利用のための科学を目指す保全生態学研究会の 15 年の活動を記念するものとしても開催する。また講演内容は若手研究者が中心となって執筆した「保全生態学の技法」(東京大学出版会から 2010 年 3 月発行予定) の内容の一部を紹介するものである。

広域スケールにおける生物の空間分布解析法

角谷拓 (国環研)

生物個体数の指標化法

天野達也 (農環研)

侵略的外来種の効果的な駆除・研究手法

西原昇吾 (東大)

安定同位体を用いた食物網構造と栄養段階の評価法

松崎慎一郎 (東大)

環境保全型水田における天敵類の役割の評価法

高田まゆら (帯畜大)

ハイパースペクトルリモートセンシングを用いた植生評価法

* 石井潤、清水庸 (東大)

参加登録者一覧

発表	懇	名	前	所 属	発表	懇	名	前	所 属
P1-306		相川	真一	森林総研	T25-6		飯泉	仁之直	農業環境技術研究所
T13-2		相木	寛史	日本大学生物資源科学部	P1-319		飯田	滋生	森林総研北支
P2-106		相澤	章仁	千葉大院・自然科学	J2-09	○	飯田	知彦	広島県教育委員会
P1-069		饗庭	正寛	北大・苫小牧研究林	P2-078		飯田	晋也	横国大・環境
		青木	あかり	法政大学女子高校	P3-313	○	飯村	康夫	神戸大学農学研究科
P3-309		青木	麻耶	京大農	P1-337		五十嵐	彬子	新潟大学大学院
		青木	亮	栃木県立小山西高等学校	P3-010		井川	輝美	盛岡大学・文学部
		青山	菜奈	岐阜県立岐阜高校			井口	恵一朗	中央水研
P3-334		赤石	大輔	NPO おらっちゃ	S09-6	○	井口	亮	琉球大学瀬底研究施設
T29-3	○	赤坂	卓美	北大院・農	P1-076		池田	重人	森林総合研究所
T29-4	○	赤坂	宗光	国立環境研究所	P2-HS25		池田	智代子	早稲田実業高等部
P3-042	○	明石	信廣	北海道林試	S11-1	○	池田	透	北大・文・地域システム
K2-08		赤松	史一	土木研究所	E2-05		池田	浩明	農業環境技術研
P3-055		秋田	耕佑	大阪府大学院・生環・昆虫	P2-042	○	池田	紘士	京大院・理・動物生態
P1-244		秋山	克	幌延地圏環境研究所	P1-305		池田	史枝	横浜国立大学
		秋山	吉寛	水研セ水産工学研究所	P3-203	○	池野	優子	大阪大学大学院
P2-301	○	阿久津	崇	筑波大・生物	P3-084	○	池谷	和信	国立民族学博物館
S13-7		浅井	孝司	文部科学省大臣官房			伊澤	雅子	琉球大学理学部
P1-063		浅井	元朗	中央農業総合研究センター	P2-167	○	石井	恵一郎	東北大・生命
P2-055		浅尾	晃央	大阪大・バイオ情報	P3-226		石井	潤	東京大学農学生命科学
P2-156	○	浅木	宏覚	信大・院・地球生物圏科学	T30-4		石井	伸昌	放医研・環境グループ
P1-304		浅原	透	横浜国大院・環境情報	P1-002		石井	弘明	神戸大・農
P3-111		味岡	ゆい	中部大院・応生	G2-05	○	石井	励一郎	海洋研究開発機構
P3-135		芦澤	和也	明治大・院・農	H1-06	○	石川	麻乃	北海道大学・環境科学院
S10-2		足立	直樹	株)レスポンスアビリティ	T01-4	○	石川	尚人	京大生態研
F2-09	○	安立	美奈子	国立環境研究所	I2-09	○	石川	由希	北大・環境科学
P3-338		阿藤	正樹	三重県津農林水産商工環境	P3-078		石川	幸男	専修大学北海道短期大学
		穴澤	正宏	東北工大・工・環境情報		○	石川	真一	群馬大学社会情報学部
P1-223	○	阿部	航大	信州大学・理・生物	G1-08	○	石崎	智美	北大・院・環境科学
P2-182	○	安部	淳	静岡大・農	P1-187	○	石田	清	弘前大・農
P3-090		阿部	真	森林総合研究所	J1-06		石田	健	東京大学
P1-003	○	阿部	聖哉	電力中央研究所	S19-2		石田	敏	東北大学大学院
T13-1	○	阿部	司	岡山大自然科学牛窓臨海	E2-04	○	石田	真也	新潟大院・自然科学
S11-7	○	安部	哲人	森林総研九州	P2-091	○	石田	聖二	東北大学国際高等研機構
G1-02		阿部	友幸	北海道立林業試験場	T09-1	○	石田	惣	大阪市立自然史博物館
P3-041	○	阿部	晴恵	東北大学	P3-241		石田	祐子	東京農大・院・林学
P2-173		阿部	周	東北大・生命	P1-031		石田	祐子	山梨大学
P3-021		阿部	真和	新潟大学大学院	T17-2		石平	博	新潟大学大学院
P3-298		阿部	将己	横国大・院・環境情報	P2-114		石塚	俊也	東大・演習林
P2-309	○	阿部	真人	東京大学大学院総合文化	P1-161	○	石塚	航	森林総合研究所北海道支所
S11-6		安部	倉完	京大・理			石橋	靖幸	国立環境研
P1-082		阿部	ゆかり	東北大・生命科学	P1-265	○	石濱	史子	帝京大学高校
		天野	亜耶	浦和学院高校	P3-187	○	石原	修一	自然環境研究センター
E2-01	○	天野	達也	農業環境技術研究所	G2-06	○	石原	正恵	大阪府大院・理
	○	天野	一葉	京大生態研センター		○	石原	道博	都立墨田川高等学校
P3-005		綾部	慈子	名古屋大学	P2-HS21		石原	陽子	新潟大・自然科学
S09-4		新垣	誠司	琉球大学理工学研究科	P3-107	○	石間	妙子	愛媛大附属高校
P1-061	○	荒木	希和子	京大・生態研			石丸	真也	農工大・植生管理学研究室
P3-124		荒木	友子	都留文科大学初等教育学科	F1-08		泉	団	海洋研究開発機構
G1-06		荒木	悟	島根大・汽水域研セ	T25-4		伊勢	武史	株式会社地域環境計画
P2-296		有本	勲	農工大・連合農学	T29-5	○	伊勢	紀	名大・農
P2-278	○	安房田	智司	中央水研	P1-207		五十君	友宏	北大・地球環境
P2-169		粟野	将	東北大・生命	G1-05	○	井田	崇	信州大・志賀自然教育研
T02-5		安藤	誠也	奈良教育大学	P3-162		井田	秀行	東北大・院・生命
P3-081		安藤	元一	東農大・農・野生動物	P1-188		板垣	智之	慶應義塾大学大学院
P2-133		安東	義乃	京大生態研	P1-282	○	板川	暢	せら夢公園自然観察園
P3-142	○	安藤	温子	京都大学大学院農学研究科			猪谷	信忠	都立国分寺高校
P3-175		飯島	勇人	山梨県森林総合研究所			市石	博	

発表	懇	名	前	所 属	発表	懇	名	前	所 属			
K2-10	○	市	栄	智明					横浜国立大学			
S18-1	○	市	岡	孝朗					東北大・院・生命科学			
P1-213	○	市	橋	隆自	P2-063	○	岩	崎	雄一			
P1-285		市	原	実	P3-256	○	岩	下	明生			
P2-217		井	出	純哉	P3-328		岩	島	範子			
P1-198		井	手	玲子			岩	田	亜美			
T15-4					P1-101	○	岩	田	繁英			
T25-2	○	伊	藤	昭彦			○	岩	田	隆太郎		
G2-02					T04-3		岩	田	智也			
P2-083		伊	東	明	P1-117		岩	永	史子			
	○	伊	藤	健二	P2-260		上	馬	康生			
G2-12	○	伊	藤	公一	P2-305		上	島	慧里子			
P3-340	○	伊	藤	浩二	T06-3	○	上	田	昇平			
P2-239	○	伊	藤	哲治	P1-105		上	田	実希			
P3-333	○	伊	東	宏樹	P2-128	○	上	田	恵介			
P2-119	○	伊	藤	洋			○	上	野	篤史		
T24-1	○	伊	藤	元己					上	野	薫	
P2-179		伊	東	康人	S06-6				上	野	玄太	
P3-246		伊	藤	弓恵	P1-330	○	上	野	真郷			
P1-147		伊	藤	理恵	P2-093		上	野	隆平			
P2-297	○	伊	藤	亮					上	原	翔太	
P1-037	○	伊	藤	千恵	P2-054	○	植	松	圭吾			
S10-3		伊	藤	俊哉	P1-179		植	村	滋			
P3-149	○	糸	川	拓真	P1-133		上	村	章			
P3-274	○	稲	垣	善之	P3-218	○	上	山	真平			
P3-159	○	稲	富	佳洋	T08-4				潮	雅之		
		稲	葉	千迪	G2-09							
P1-051	○	井	上	太樹	G1-05				丑	丸	敦史	
P3-306	○	井	上	智晴					臼	井	伸章	
P3-290		井	上	智美	H2-04	○	内	井	喜美子			
T18-4					E1-06	○	内	田	哲夫			
P2-195		井	上	真紀	P2-302	○	内	山	康彦			
P1-156		井	上	裕太	P3-270		宇	都	木	玄		
P3-047	○	井	上	雅仁	P2-048	○	宇	津	野	宏樹		
P1-193	○	井	上	みづき	P2-003		宇	都	宮	大輔		
		井	原	庸	T06-2	○	内	海	俊介			
P3-146	○	今	井	淳一	G2-07		宇	野	裕美			
P2-HS16		今	井	創	P2-216	○	宇	野	裕之			
P2-151	○	今	井	千博	K2-03		生	方	正俊			
T10-3		今	井	伸夫					梅	田	真郷	
P1-010					P3-292				梅	村	光俊	
P1-303		今	井	はるか	P1-096	○	浦	田	悦子			
P2-HS12		今	井	元海	P3-300	○	浦	野	忠朗			
		今	井	葉子	P3-193				江	頭	孝	
T26-1	○	今	木	洋大					○	江	副	日出夫
P1-146	○	今	治	安弥	T26-4				江	戸	謙顕	
P1-110		今	田	省吾					榎	木	英介	
		今	田	美穂	P1-315				榎	木	勉	
P3-161		今	西	亜友美	T24-5				海	老	原	淳
P3-145		今	廣	佐和子	P2-110	○	遠	藤	真太郎			
P3-102		今	村	彰生	P2-280		遠	藤	千尋			
P3-074		井	村	治	P2-005	○	及	川	真里亜			
G2-02	○	伊	村	智	P1-288		御	池	俊輔			
		伊	良	皆	T02-2	○	大	野	朋子			
T03-3		入	江	貴博	P3-163		大	石	麻美			
I1-01		岩	井	紀子	P3-200		大	石	優			
T06-1		巖	圭	介	D1-07	○	大	泉	嶺			
H1-01	○	巖	佐	庸	P3-289		大	浦	典子			
		岩	崎	敬二	S01-4		大	河	原	恭祐		
T28-3		岩	崎	貴也	P3-141	○	大	木	駿			
P2-HS20		岩	崎	智子	T23-3	○	大	串	隆之			
P1-263	○	岩	崎	亘典	P3-065		大	窪	久美子			

発表	懇	名 前	所 属	発表	懇	名 前	所 属
P3-031		大久保 慶信	宮崎大学・院・農工	P3-235		小賀野 大一	市原高等学校
P3-172		大黒 俊哉	東京大学大学院	P2-306	○	岡久 雄二	東京農工大学
T29-2	○	大澤 剛士	神戸大・院	P2-082		岡部 貴美子	森林総合研究所
P2-141		大澤 正嗣	山梨県森林総合研究所	T18-2		岡本 卓	国立環境研
S13-5		大澤 雅彦	日本自然保護協会	P3-236		岡本 卓	国立環境研
T27-5		大住 克博	森林総研関西	J2-11		岡本 千晶	中央水産研究所
P1-240		大園 享司	京大・生態研センター	P3-153		岡本 奈保子	京都学園大学バイオ環境
		太田 晶子	岐阜県立岐山高校	P2-197		岡本 美里	金沢大自然研生態学
P2-153	○	太田 民久	北大・苫小牧研究林	P3-170		岡安 智生	東大・農
P3-182	○	大田 直友	阿南高専・建設システム工	P2-086		小川 みふゆ	森林総研・昆虫
T05-3		太田 寛行	茨城大学農学部	P1-171		隠岐 健児	三重大・生物資源
P3-094	○	太田 陽子	NPO 緑と水の連絡会議	P1-089		沖 宗一郎	広島大, 院, 総科
P3-261		太田尾 朋子	千葉大学園芸学研究所	C2-07	○	沖津 進	千葉大・院・園芸
P3-080	○	大竹 邦暁	中電技術コンサルタント	P2-041	○	奥崎 稜	京大・理・動物生態
		大田 圭祐	都立墨田川高等学校	P2-166	○	奥田 圭	宇都宮大・院・農
P3-037		大谷 雅人	森林総研	J2-01	○	奥田 武弘	東北水研・八戸
		大塚 一紀	浦和学院高校		○	奥田 昇	京大生態研センター
		大塚 泰介	琵琶湖博物館	P1-334		奥田 雅章	森林保全生態学
P3-280		大塚 俊之	岐阜大学	C2-03		奥田 将己	新領域融合研究センター
		大塚 裕貴	中部大学応用生物学部	P1-272	○	小熊 宏之	国立環境研究所
T07-2		大槻 久	JST、東工大・社会理工	P3-160	○	奥村 栄朗	森林総合研究所・四国支所
T28-2	○	大西 尚樹	森林総研・東北	P3-201	○	奥村 忠誠	東大・院・農学生命科学
P3-244	○	大西 一志	琉大農昆虫	P1-280		小椋 純一	京都精華大学人文学部
P1-172		大西 祐作	京都工繊大院	P1-155	○	小栗 寛	東京大学大学院新領域
P1-235	○	大西 義浩	佐賀大学農学部	P2-160	○	小栗 大樹	名古屋大学農学部
		大西 里佳	兵庫県立御影高校	P2-038		小黒 芳生	東北大学・院・生命
P2-073	○	大西 亘	九大院・理・生態科学	F2-02		小此木 宏明	東大院・新領域
		大野 啓一	横国大大学院環境情報	S12-3	○	長 雄一	北海道環境科学研究
		大野 啓一	千葉県立中央博物館	P3-326		尾崎 正紘	早稲田大・院・先進理工
P1-214	○	大野 葵	新潟大学院 自然科学	H2-10	○	尾崎 研一	森林総合研究所
P1-009		大野 泰之	北海道立林業試験場	P1-129	○	長田 典之	京都大・フィールド研
D2-03	○	大野(鈴木) ゆかり	东北大・生命科学	P2-163	○	長田 稜	東大・農・生物多様性
P1-059		大野 正彦	都健康安全研究センター	P3-083	○	長船 裕紀	(株) 地域環境計画
P3-189	○	大場 真	国環研アジア自然共生G	P1-067		尾関 雅章	長野県環境保全研究所
		大場 未来	栃木県立小山西高等学校			小田 崇	京都大学院農学研究科
K1-12		大橋 伸太	京大院・農	K2-04	○	小野 清美	北大・低温研
P1-166		大橋 達矢	三重大学 生物資源学部	P2-015		小野 晋	株式会社 地域環境計画
P3-169	○	大橋 春香	農工大・フロンティア農	P1-106	○	小野田 雄介	Macquarie University
S18-4		大橋 瑞江	兵庫県立大学	P3-166		小野寺 賢介	北海道林試
P3-091	○	大林 夏湖	京大生態研セ	P3-097		小幡 智子	筑波大学生物資源学類
K2-01		大原 一晃	京都大学農学部	P2-084		小原 亮平	神戸大・人間発達環境
S07-1		大原 利真	国立環境研究所		○	小山 未奈	東京農業大学林学専攻
P2-144		大平 充	明治大学農学部	P2-035	○	恩田 裕太	筑波大・院・生命環境
P1-212	○	大松 ちひろ	北大・院・環境科学院	P1-095	○	恩田 義彦	筑波大・菅平セ
		大森 聖和子	兵庫県立有馬高校	D2-05		皆藤 千穂	奈良女大院・人間文化
H1-03	○	大森 亮介	九州大学システム生命	T23-4		加賀田 秀樹	京大・生態学研究センター
P1-053	○	大山 拓郎	新潟大・院・自然科学	P2-009			
J1-12		大脇 淳	森の学校キョロロ	T30-1	○	鏡味 麻衣子	東邦大学理学部
I1-07	○	岡 奈理子	財) 山階鳥類研究所	P2-077	○	香川 幸太郎	東邦大・理・生物
P3-260		岡 孝夫	東農大	P3-198	○	柿沼 薫	東大・農・緑地創成
P1-116		小笠 真由美	岡大院・環境	P3-133	○	柿本 恵里那	東邦大院・理
		岡崎 愛	都立翔陽高校	P1-077	○	鍵本 忠幸	岐阜大院・応用生物
		岡崎 弘幸	中央大学附属高校	P2-300	○	梯 公平	東大院・農学生命科学
P1-115	○	岡島 有規	東大・院・理	S12-2	○	梯 正之	広島大学大学院
D2-04		岡嶋 亮子	東北大学生命科学研究科	P2-049	○	葛西 直子	東邦大院・理・生物
P1-049		岡田 知也	名大院・生命農	P2-062		笠田 実	東京大学広域システム
P3-344	○	岡田 桃子	東京大学農学部演習林	J1-09	○	笠原 里恵	東京大学緑地植物実験所
P3-008	○	岡田 泰和	岡山大学 異分野コア	D2-01	○	鹿嶋 一孝	北大・環境科学院
K2-06	○	岡田 憲和	鳥取大学農学研究科	I2-01	○	柏田 百代	早稲田大学人間科学研究科
P3-039		岡田 あゆみ	北里大学獣医学部	D1-12	○	粕谷 英一	九大・理・生物
P2-288		岡野 淳一	東北大学東北アジア研	P2-109	○	粕谷 菜月	首都大・理工

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P2-252	○ 嘉田 修平	京大院・農・昆虫生態	P1-224	○ 川口 利奈	九大・理・生物科学
P3-336	○ 片岡 博行	津黒いきものふれあいの里	T05-4	川越 みなみ	朝日航洋
P2-021	○ 片岡 陽介	信大・理・生物	P2-053	河崎 祐樹	名古屋大院 生命農
P2-140	片野 泉	University Oldenburg	P1-079	川路 まり	鹿大院・農
P2-111	片瀨 正紀	東北大・生命	P2-HS07	川島 生	岐阜県立岐山高校
P2-152	○ 片山 直樹	東大・農	P2-079	川瀬 大樹	総合地球環境学研究所
T06-4	○ 片山 昇	京大・生態研センター	T31-2	○ 川津 一隆	京大院・農・昆虫生態
P2-006	○ 可知 直毅	首都大・理工・生命	P2-117	川名 国男	パードライブ・アジア
F1-04	加藤 顕	千葉大学 園芸学研究科	11-06	川中 寅生	愛媛大附属高校
P1-199	加藤 杏奈	名古屋大学環境学研究科	P3-165	○ 川西 基博	鹿児島大・教育
T25-5	加藤 悦史	JAMSTEC	P2-229	○ 川西 亮太	愛媛大・院・理工
T05-6	加藤 和弘	東大農・緑地植物実験所	T27-2	河野 樹一郎	産業技術総合研究所
P1-099	加藤 健吾	総研大・極域科学	P2-104	○ 河野 円樹	自然環境研究センター
S04-3	加藤 憲二	静岡大学	S12-1	○ 川端 善一郎	総合地球環境学研究所
P3-027	○ 加藤 賢太	筑波大・生物	P3-147	○ 河村 詞朗	岩手大学院農学研究科
P2-237	加藤 聡史	龍谷大 共同研究センター	H1-10	○ 河村 正二	東京大学・新領域
P3-061	加藤 聡美	中部大学応用生物学部	P3-028	○ 川本 さつき	大阪府大・理
P2-037	○ 加藤 俊英	東大・院・総合文化	P1-103	河原崎 里子	森林総合研究所森林植生
P2-279	加藤 直子	総研大・先端科学研究所	G2-05	○ 菊沢 喜八郎	石川県大
P3-026	○ 加藤 秀之	大阪府大・院・理	○ 菊地 永祐	○ 菊地 賢	東北大東北アジア研
P1-289	○ 加藤 真	京大・地球環境	P2-052	木佐貫 博光	森林総合研究所
P3-303	加藤 義和	横浜国大環境情報学府	P1-324	岸田 竜	三重大院生資
T11-4	加藤 珠理	東京大学・総合文化	P2-178	○ 岸田 竜	佐賀大 農学部
P3-137	角谷 拓	森林総合研究所	S08-3	岸本 圭子	総合地球環境学研究所
P3-053	金井 賢一	国立環境研究所	G1-01	岸本 光樹	愛媛大・院・森林生物
T13-5	○ 金尾 滋史	大島高校	P2-257	○ 岸本 年郎	自然環境研究センター
P3-013	金指 努	多賀町立博/滋賀県立大院	P3-276	○ 岸本 康誉	兵庫県森林動物研究セ
G2-08	○ 兼子 伸吾	名大・生命農学	T10-4	○ 喜多 智	農環研
P3-082	金子 尚樹	京大院・農	P3-316	○ 喜多 智	京大・農
P2-034	○ 金子 信博	新潟大学大学院	S07-2	北尾 光俊	森林総合研究所
S05-6	○ 金子 有子	横浜国大環境情報	P1-102	北岡 哲	森林総研北支
P3-294	兼光 修平	琵琶湖環境科学研究セ	P3-075	北川 久美子	信州大院・工
P3-079	○ 鹿野 雄一	京大院農	P1-035	北川 涼	横浜国立大学大学院
P1-107	壁谷 大介	九大工	P3-128	木田 耕一	信州大学農学部森林科学科
P1-114	鎌倉 真依	森林総研・木曾	○ 北出 理	茨城大学理学部	
T20-5	○ 鎌田 磨人	奈良女大・共生センター	P3-127	北西 滋	立命館大学生命科学部
P3-063	上條 隆志	徳島大学工学部	E2-08	北野 聡	長野県環境保全研
T11-2	○ 神山 千穂	筑波大・生命環境	S14-3	北野 潤	東北大学生命科学
P1-125	○ 亀井 幹夫	東北大学・院・生命科学	P1-015	北野 忠	東海大学教養学部
P2-004	○ 亀岡 大真	広島総研林技セ	P2-157	北野 昌美	横浜国立大学大学院環境
F2-01	○ 亀田 佳代子	広島大学総合科学部	P1-216	○ 北村 俊平	熊本大院・自然科学
P2-030	○ 鴨井 環	滋賀県立琵琶湖博物館	T10-1	北山 兼弘	兵庫県立人と自然の博物館
P1-104	○ 香山 雅純	愛媛大学	P2-281	○ 木下 智章	京大・農・森林生態
P2-095	唐沢 重考	森林総合研究所九州支所	P3-071	金 ヒョンジン	佐賀大・農
E1-08	○ 河井 崇	福岡教育大学	G1-09	木村 一也	東京農業大学大学院
P3-183	○ 河合 洋人	神奈川県立博物館	P3-287	○ 木村 園子ドロテア	金沢大学
T02-7	○ 河合 祐介	阿南高専・地域連携テクノ	12-04	○ 木村 幹子	農工大
S15-5	川合 由加	岐阜大流研センター	P2-248	○ 京極 大助	北大・FSC
P3-004	河合 溪	兵庫県立御影高等学校	P3-293	京島 達也	京大・農・昆虫生態
P1-047	○ 川上 祐佳	北大・院・環境科学院	桐谷 圭治	○ 桐谷 圭治	横浜国大環境情報学府
T14-3	○ 川北 篤	鹿児島大学多島研	P2-HS06	陸 芳樹	伊東市
P1-278	○ 河口 剛輝	森林総合研究所	P1-087	○ 草嶋 乃美	千葉県立船橋芝山高校
P3-330	川口 達也	新潟大学農学部	P2-101	○ 楠目 晴花	北大・院・環境科学
S17-3	○ 河口 洋一	京大・院・人環	P3-017	楠本 華織	信州大・理・生物
		徳島大学・工学部	P1-032	○ 楠本 聞太郎	佐賀大院・農
			P1-275	○ 楠本 良延	九大院・生資
			P2-264	○ 沓掛 展之	農業環境技術研究所
			S15-4	工藤 岳	総研大・葉山
					北大地球環境

発表	懇名	前	所属	発表	懇名	前	所属
S15-1	○	工藤 洋	京大・生態研	P3-297		後藤 友紀	茨城大学大学院
P3-267		工藤 裕章	東海大・院・人間環境	P1-291	○	小戸田 紋郁	新潟大学
P1-340		國永 知裕	京都府立大・院・生命環境	P3-101	○	小西 蘭	SVBL
P1-246	○	國弘 忠生	愛媛大・CMES			小西 由香理	法政大学女子高校
P2-060	○	久保 勲生	阪大・情報	H1-09	○	小沼 順二	京都大学理学部動物生態
		久保 拓弥	北大・地球環境			小林 篤史	千葉県立船橋芝山高校
J2-07	○	久保田 耕平	東大・農	P3-006	○	小林 哲	佐賀大学
T31-3	○	久保田 涉誠	北大・院・環境科学	P2-068	○	小林 哲	東大・院総合文化
P2-087		久保田 康裕	琉球大学理学部	K1-01	○	小林 悟志	新領域融合研究センター
P2-139		熊谷 直喜	日本国際湿地保全連合	P2-019		小林 峻	琉球大学理学部
	○	熊田 英峰	東京薬科大学	T17-1		小林 草平	土木研究所
P2-235	○	熊田 那央	筑波大学生命環境科学	P2-147			
P2-273	○	熊野 了州	琉球産経(株)	T02-4	○	小林 剛	香川大学農学部
S07-7	○	久米 篤	九大北海道演習林	H2-03	○	小林 弘幸	横浜国大・院・環境情報
P3-136		久米 学	土木研自然共生センター	P1-331	○	小林 真	北大院農
P3-151	○	久家 光晴	九大院システム生命科学	S15-2	○	小林 正樹	チューリヒ大・理
P2-258	○	倉沢 美穂	東京薬大・生命	D2-02		小林 豊	京大・生態研
P3-066	○	倉本 宣	明治大学農学部	F1-03	○	小林 慶子	横国大・環境/山梨森林研
		栗林 依未	浦和学院高校	P3-057	○	小林 頼太	東大・農・生物多様性
		栗谷 さと子	信州大・理	P1-135		小林 (伊藤) 祥子	国立環境研究所
P2-HS27		紅林 堯樹	成蹊高校	P2-243	○	小林 喬子	東京農工大・連合農
	○	黒江 美紗子	東大・農・生物多様性	P1-329		小林 卓也	電中研・生物環境領域
P2-090	○	黒川 紘子	東北大・生命科学	C1-07		小原 由起	東京農工大学農学部
P3-245		黒河内 寛之	東大院農	I2-05		小平 真佐夫	(財)知床財団
P2-HS29		桑 祐子	成蹊高校	T22-4		小松崎 将一	茨城大学農学部
P3-032	○	桑野 真也	北大・水産科学院	P1-218		小南 陽亮	静岡大学教育学部
P2-HS23		桑原 早紀	香川県立三本松高校			小南 裕志	森林総合研究所関西支所
		顧 令爽	帯広畜産大学畜産生命科学	P2-313	○	小宮 竹史	京都大・院理・動物生態
F2-03	○	小池 文人	横浜国立大	I1-11		小宮山 英重	野生鮭研
P1-236	○	小池 伸介	東京農工大	P3-108	○	小柳 知代	東大院農
T26-2	○	小泉 逸郎	北大・創成	C2-10		小山 明日香	北大・環境科学院
P2-051				P1-167	○	小山 耕平	石川県立大
P1-029		小泉 恵佑	明治大学農学部	P1-118		小山 里奈	京大・院・情報
	○	小泉 沙奈恵	日本大学森林動物学研究室			小山 竜也	浦和学院高校
P1-321		小出 大	横浜国大・環境情報	P1-308	○	今 博計	北海道林試
S02-3		香坂 玲	名古屋市立大学 経済	P3-304		根田 遼太	京都大学農学研究科
	○	幸田 正典	大阪市立大学理学研究科	P3-301		近藤 順治	岡山大
P1-342	○	幸田 良介	京大・生態研	P2-282		近藤 昇平	琉球大・農
T01-1		河内 香織	埼玉大学 理工学研究科	P2-211	○	今藤 夏子	国立環境研・生物領域
T15-2	○	甲山 隆司	北海道大学・地球環境	P1-038		近藤 博史	横浜国立大学大学院
P2-116	○	甲山 哲生	北大・環境	P1-143		近藤 未紗	岐阜大院・応用生物
G1-11	○	郡 麻里	首都大・理工・生命(客員)	T04-4			
T18-5		五箇 公一	国立環境研究所	T23-1	○	近藤 倫生	龍谷大, JST
H2-05				J1-05			
I2-11	○	古賀 庸憲	和歌山大・教育・生物	P3-126		近藤 美幸	都留文科大学初等教育学科
I2-03	○	小北 智之	福井県立大・海洋	F2-08		近藤 美由紀	国立環境研究所
P2-319		小暮 潔央	東京大学海洋研究所	P2-312		近藤 勇介	岐阜大・昆虫生態学研
T08-1		木暮 一啓	東大海洋研	F1-12	○	近藤 慶一	名城大学
P2-HS03		小嶋 一輝	岐阜県立岐阜高校	D1-11	○	今野 建志郎	横国大・環境
P2-113		小嶋 智巳	東北大・院・生命	K2-05	○	今野 浩太郎	農業生物資源研究所
T30-2		小島 久弥	北大	P1-122		紺野 康夫	帯広畜産大畜産生命科学
P2-317		小島 涉	東大・農学生命	P2-146	○	西城 洋	中央農業総合研究センター
P3-099		小関 右介	長野水試	P1-046	○	齊藤 瑛璃香	新潟大学・院・自然研
P3-186		小田切 宗一郎	埼玉大学応用生態研究室	P3-072	○	齊藤 隆	北大 FSC
P1-311		小谷 二郎	石川県林業試験場	K2-09	○	齋藤 隆実	東大・院・理・生物科学
P2-227		児玉 紗希江	中央水産研究所	P3-250		齋藤 達也	北海道大学環境科学院
P1-284		児玉 卓也	千葉大学大学院	P3-211		齋藤 友恵	新潟大院・自然科学
P1-145	○	児玉 直美	Landcare Research	H2-07		齋藤 裕美	東海大 生物理工
P1-058		後藤 晋	東大院・農	P2-323		齋藤 真志	山形大・院・理工
P3-283	○	後藤 誠二郎	国立環境研究所	P3-217	○	齋藤 昌幸	中央農研/横浜国大
P2-284	○	後藤 優介	立山カルデラ砂防博物館	P3-265		齋藤 康宏	東京情報大学
				P1-169	○	齋藤 わか	京大農・森林生態

発表	懇名	前	所属	発表	懇名	前	所属
P3-277		齋藤 琢	岐阜大・流域圏	T22-5		澤登 早苗	恵泉女学園大学
P2-044	○	佐伯 いく代	首都大・理	P2-HS19		澤本 世絵羅	私立十文字高校
P2-199	○	佐賀 達矢	岐阜大学院応用生物科学	P1-043		志 栄	横浜国大・院・環境情報
	○	酒井 暁子	横浜国大環境情報	P2-102		汐崎 正揮	帯畜大・畜産生命
S09-1		酒井 一彦	琉球大・熱生研	P1-162	○	塩寺 さとみ	北海道大学
G1-04	○	酒井 聡樹	東北大生命科学	P2-107		塩野 貴之	横浜国大・院・環境情報
S15-6		酒井 章子	総合地球環境学研究所	G2-04	○	塩見 正衛	茨城大学
		坂井 はな	岡山県立岡山一宮高校	T07-1	○	重定 南奈子	同志社大学 文化情報学部
P2-155		境 優	京都大学(地球環境)	P2-208	○	滋田 友恒	茨城大 院 理工学研究科
P1-052		坂井 百々子	京都大学大学院農学研究科	P3-329		志津 庸子	岐阜大学・連農
P2-124	○	酒井 佑禎	北海道大学環境科学院	G2-03		篠崎 鉄哉	東北大・院・理・地学
		酒井 翔平	早稲田大・院・先進理工	P1-177		篠原 輝	琉球大学理工学研究科
P1-065	○	阪口 翔太	京大院・農	G2-06	○	柴田 淳也	愛媛大沿岸研センター
S16-4		坂根 勇	社) 農村環境整備センター	P1-316		柴田 銃江	森林総研東北
P1-159	○	坂根 雅人	京都大学理学研究科	P1-335		柴田 嶺	東北大理学部
T17-4		坂巻 隆史	琉球大学・亜熱帯島嶼科学	F1-11		渋谷 園実	東京大学大学院
P2-236	○	坂本 正樹	国立環境研究所・リスクC	P1-274		島崎 彦人	国環研
	○	坂本 裕紀	東北大・生命科学	P1-078		嶋崎 仁哉	東北大学 生命科学研究科
P1-219	○	坂本 亮太	岐阜大学 応用生物		○	島田 和則	森林総合研究所
P1-178	○	崎尾 均	新潟大・農・FC佐渡	P2-198	○	嶋田 敬介	富山大院・理工
P2-181	○	向坂 幸雄	茨城県立医療大・人間科学	P2-007	○	島田 卓哉	森林総研・東北
P1-150		佐久川 結喜	茨城大学大学院	P3-012	○	島田 知彦	京都学園大・バイオ環境
P2-080	○	佐久間 智子	西中国山地自然史研究会	P1-013		島田 直明	岩手県立大学総合政策学部
P3-018		櫻井 麗賀	京大院・理・動物行動	P1-250		嶋田 名利子	沖縄病害虫防衛技術セ
P2-132		桜谷 保之	近畿大・農・環境生態学	S03-1	○	嶋田 正和	東大・総合文化・広域
		佐々井 崇博	名古屋大学大学院環境学	P2-272	○	島谷 健一郎	統計数理研究所
P1-134		笹川 裕史	国立環境研究所	P2-033		清水 加耶	京大人環
T17-5	○	佐々木 晶子	広島大・院・生物圏	S14-1	○	清水 健太郎	チューリヒ大・理
P2-122	○	佐々木 顕	総研大・葉山			清水 英幸	国立環境研究所
P1-023		佐々木 彩	茨城大学大学院			清水 真理子	東邦大学理学部生物学科
P3-138		佐々木 太毅	明大・農・応用植物生態	P3-310	○	清水 美智子	京大院農・地域環境
P1-279		佐々木 尚子	総合地球環境学研究所	I2-07	○	下地 博之	琉球大学 農学部
P2-298	○	佐々木 那由太	筑波大・院・生命環境	P3-038	○	下野 嘉子	農環研
P2-085	○	佐々木 雄大	東北大・院・生命	J2-02	○	姜 兆文	野生動物保護管理事務所
P1-094		指村 奈穂子	東大・農・森園管理	E2-02		小路 敦	(独) 農研機構・北農研
P2-224	○	定清 奨	大阪府大・院・理	P3-339		庄山 紀久子	北海道大学
T07-3	○	佐竹 暁子	北大・創成	S11-4		白井 啓	野生動物保護管理事務所
G1-03				P1-048	○	白井 航来	新潟大・農
T21-2		佐藤 一憲	静岡大学工学部	I1-08	○	白井 正樹	長岡技大・生物
D1-03				P2-249		白石 恭輔	山形大・院・理工
T12-3	○	佐藤 克文	東大海洋研			白石 直樹	都立墨田川高等学校
P2-129		佐藤 重穂	森林総研四国	P3-112	○	白川 一代	東大院・新領域
		佐藤 舜明	都立江北高校	P1-271	○	白川 勝信	高原の自然館
P2-322		佐藤 翔	山形大院 理工 生物	J1-02	○	白川 北斗	北海道大学水産科学院
P2-126	○	佐藤 拓哉	奈良女・共セ	P2-253		白子 智康	中部大学
P3-148	○	佐藤 達也	三重大院生資	P1-055	○	白崎 仁	新潟薬大・生物
P1-338		佐藤 朋華	秋田県立大学院・生物資源	P1-215	○	白濱 圭通	京大・生態研センター
		佐藤 尚衛	成蹊高校	S03-2	○	城川 祐香	東大院・総合文化研究科
P2-184	○	佐藤 成祥	北海道大学環境科学院			城下 雄亮	愛媛大附属高校
T25-1	○	佐藤 永	名古屋大学環境学研究科	P1-195		城田 徹央	信大・農
P3-253		佐藤 允昭	東京大・農・生物多様性	P2-183	○	城本 啓子	琉球産経(株)
		佐野 郷美	千葉県立船橋芝山高校		○	神保 宇嗣	東大・院・総合文化
T27-4	○	佐野 淳之	鳥取大学農学部 FSC		○	神保 理恵	岡山県立岡山一宮高等学校
S08-2	○	鮫島 弘光	京大農森林生態	P1-343	○	神保 克明	東大院新領域
P2-189	○	鮫島 由佳	京大・生態学研究センター	P1-026		新谷 大貴	信州大学農学部森林科学科
P1-144	○	澤上 航一郎	東大・院・理・日光植物園	P1-295	○	末吉 正尚	北大農学院環境資源学専攻
P2-040	○	澤田 浩司	福岡県立福岡高校	J1-11		末吉 昌宏	森林総合研究所九州支所
P2-192	○	澤田 紘太	総研大・葉山	P2-043		末吉 真人	大阪大学工学部応用自然科
P3-096	○	澤田 佳宏	兵庫県大緑環境/淡路景観	P3-110	○	須貝 杏子	首都大・牧野標本館
P1-202		澤田 佳美	東京農大・院・林学	P3-067		須賀 丈	長野県環境保全研究所
P3-118	○	澤田 みつ子	筑波大・院・生命環境			杉井 智裕	私立武蔵高校

発表	懇名	前	所属	発表	懇名	前	所属
P3-233		杉浦 真治	森林総合研究所	P3-263	○	高井 孝太郎	北大環境科学院
P1-140	○	杉浦 大輔	東大・院・理・日光植物園	S16-5	○	高川 晋一	(財)日本自然保護協会
P2-228	○	杉尾 文明	近畿大学大学院農学研究所			高木 憲太郎	NPO 法人バードリサーチ
P1-197		杉阪 次郎	京大・生態研	P2-028	○	高木 俊	東大・農・生物多様性
P1-320	○	杉田 久志	森林総研東北			高木 雅紀	岐阜県立岐阜高等学校
S10-4		杉本 信幸	味の素環境経営推進部	K1-04	○	高倉 耕一	大阪市環科研
P1-017		助野 実樹郎	北大院・環境科学	D1-10	○	高科 直	立正大学地球環境科学部
G1-10	○	洲崎 燈子	豊田市矢作川研究所	P2-314		高田 守	農工大院・農
P2-287	○	洲崎 雄	岡大院・環境・進化			高田 陽	私立武蔵高校
		鈴木 あすみ	神奈川県立小田原高校	D1-06	○	高田 壮則	北大・地球環境
S11-2		鈴木 和男	田辺市自然公園センター			高梨 聡	森林総研・気象
P3-058	○	鈴木 克哉	兵庫県立大	P2-231	○	高野 雄太	秋田県立大 生物資源
P1-091	○	鈴木 乾也	首都大・院・理工	G1-07	○	高野 (竹中) 宏平	長崎大・熱研
D1-01	○	鈴木 健大	東京大学総合文化研究科	P3-174	○	高野瀬 洋一郎	新潟大学超域研究機構
P3-199		鈴木 豪	西海区水産研究所・石垣	P2-289	○	高橋 藍子	京都学園大学バイオ環境
P1-064	○	鈴木 智之	首都大・理工	P1-238	○	高橋 明子	東大ア生セ
T02-1		鈴木 重雄	立命館大・文	P2-014	○	高橋 一秋	長野大・環境ツーリズム
P1-066	○	鈴木 準一郎	首都大・理工・生命	P2-175	○	高橋 大輔	長野大学環境ツーリズム
P1-180		鈴木 節子	森林総合研究所	D1-02	○	高橋 大輔	京大・生態研センター
P2-HS28		鈴木 創大	成蹊高校	P2-HS22		高橋 東子	法政大学女子高校
P1-270		鈴木 透	酪農学園大学	T05-2			
P2-Q23		鈴木 智之	京大生態研	P3-341		高橋 俊守	宇都宮大里山科学センター
P2-221	○	鈴木 規慈	三重大院生物資源			高橋 尚也	浦和学院高校
P2-186	○	鈴木 紀之	京大院・農・昆虫生態	P3-087		高橋 紀夫	遠洋水研
P2-097		鈴木 浩史	東海大・院	P2-136		高橋 弘明	筑波大学
P3-188	○	鈴木 牧	東大演習林	P3-034		高橋 洋生	自然環境研究センター
	○	鈴木 まほろ	岩手県立博物館	E2-03		高橋 まゆみ	北海道大学農学院
P1-221	○	鈴木 美季	筑波大・生物	P3-231		高橋 祐衣	岡山大学大学院
P3-143		鈴木 悠介	名大・農	P2-293	○	高橋 佑磨	筑波大・院・生命環境
P2-263		鈴木 祐太郎	北海道大学水産学部	H1-12	○	高橋 一男	岡大・RCIS
P3-Q20		鈴木 雄也	新潟大・院・自然科学	P3-103		高橋 裕史	森林総研関西
P3-282		鈴木 依子	Univ. British Columbia	T27-1	○	高原 光	京都府大生命環境
C1-06		鈴木 和次郎	森林総研	P2-265	○	高見 泰興	神戸大・人間発達環境
E1-11		鈴木 孝男	東北大院・生命科学	P2-081	○	高村 健二	国立環境研究所
S10-1		鈴木 涉	環境省自然環境局			高村 典子	国立環境研究所
P1-205		鈴木 康子	島根大院生物資源科学	P2-064		高柳 真世	東北大学生命科学研究科
P1-045		須田 大樹	埼玉県立自然の博物館			滝 朋子	香川県立三本松高校
H2-01	○	須島 充昭	東大総合文化	P3-158	○	滝 久智	森林総研
P3-268		砂村 栄力	東大・応用昆虫	P2-245	○	滝 若菜	筑波大・院・生命環境
P1-111	○	隅田 明洋	北大・低温研	T23-5	○	瀧本 岳	東邦大・理・生物
P2-321		住友 宏幸	山形大学院理工学研究科	T21-1			
P3-046		墨谷 祐子	栃木県林業センター	P1-016		滝谷 美香	道林試道東
T15-3						瀧山 勇平	愛媛大附属高校
P1-007	○	清野 達之	筑波大・生命環境	P3-150	○	田口 勇輝	京大院地環・兵庫県大
P1-186	○	関 剛	森林総研北海道	P3-030		詫間 峻一	東京大学海洋研究所
P2-307		関 義和	農工大・院・連合農学	P1-189		竹内 やよい	京大農学研究科
P3-139		関 香菜子	兵庫県立大学大学院	F2-07		武内 章記	国立環境研究所
P3-295	○	関川 清広	玉川大学農学部	K2-07	○	竹内 貴裕	鳥取大学院 農学部
S17-6		関島 恒夫	新潟大学・院・自然研	P2-295	○	竹内 剛	広大・生物圏科学
D1-09	○	瀬戸 繭美	国立環境研環境リスクセ	P2-218		竹内 亨	(財)電力中央研究所
		瀬戸山 知晴	兵庫県立有馬高校	P3-266		竹内 史郎	日本大学
P2-233	○	銭谷 純平	北海道大学環境科学院	P3-314		竹内 史子	北大・環境科学院
P3-323		千賀 有希子	立正大学地球	P2-261	○	竹内 勇一	京大理学研究科動物生態
P3-318		五月女 皓海	早稲田大・院・先進理工	P2-247		竹川 聡美	北海道大学 環境科学院
P2-165	○	曾我 昌史	東京農工大	P3-104		竹下 邦明	復建調査設計株式会社
P2-185	○	曾我部 篤	広島大・院・生物圏			武田 智子	技術部
H1-11		曾田 貞滋	京大・理	P3-213	○	竹田 直人	東京農工大学大学院
P1-290		袖川 巧	信州大学農学部森林科学科	P2-255		武田 勇人	東大・農・生物多様性
P3-050		園田 陽一	国土交通省国総研	P3-152		武田 広子	東邦大院・地理生態
P1-269		染矢 貴	広島大学国際協力研究科	P3-257	○	竹田 祐輝	東邦大学大学院理学研究課
P1-005		湯 茜	横浜国大・植生研	P2-311	○	竹田 千尋	東京農工大

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
T11-3	○ 武智 怜奈	首都大院・理工・生命	P1-068	○ 辻 ねむ	標茶町郷土館
P1-054	○ 竹中 明夫	国立環境研	J1-03	辻野 昌広	北大・環境科学院
P2-176	○ 竹中 踐	東海大・生物理工	P1-264	辻野 亮	地球研
I2-08	○ 竹松 葉子	山口大学農学部		○ 辻村 東國	山形大学理学部
F1-06	○ 竹村 紫苑	徳島大・院・建設	P3-255	○ 辻本 恵	総研大・極域
S17-4	武山 智博	新潟大・院・自然科学	T27-3	○ 津田 智	岐阜大学流域圏センター
P2-268	○ 田島 裕介	筑波大・院・生命環境	S14-4	津田 雅孝	東北大・院生命科学
P1-327	田代 直明	九大演習林	T28-5	○ 津田 吉晃	ウブサラ大学 EBC
T13-3	○ 田代 優秋	徳島大院・工	J2-04	○ 津田 みどり	九大院・農
P2-174	多田 満	国立環境研究所	P3-125	○ 土金 慧子	東大・農
D1-05	○ 立木 佑弥	九州大学システム生命科学	T31-5	○ 土松 隆志	東大・広域システム
J2-12	○ 立川 賢一	流域総合研究会		○ 土屋 香織	首都大
E1-01	○ 立澤 史郎	北大院・文・地域	P2-072	○ 土屋 雄三	京都大学理学部
P2-244	館 絢花	北大環境科学院	P1-258	堤 正純	北海道大学低温科学研究所
	田中 啓介	岐阜県立岐山高校	P3-285	甘楽 法	横浜国立大学環境情報学府
P3-022	○ 田中 啓太	理研 BSI/ 学振 PD		都野 展子	金沢大学
	田中 憲蔵	森林総研	P2-032	○ 角田 智詞	首都大学東京理工学研究科
S14-6	○ 田中 健太	筑波大・菅平セ	P3-238	角田 裕志	東京農工大学大学院
S16-3	田中 幸一	農環研		津吹 卓	私立十文字高校
P2-HS05	田中 信	千葉県立船橋芝山高校	T11-5	津村 義彦	森林総研
P1-127	田中 格	山梨県森林総研	P1-057	津山 幾太郎	森林総研
P2-215	田中 哲夫	人と自然博	P1-328	露崎 史朗	北大・院地球環境
	田中 伸彦	森林総合研究所	P2-220	○ 鶴井 香織	京大院・農・昆虫生態
	田中 信行	森林総研	P2-134	○ 鶴田 哲也	中央水研
P1-301	田中 裕志	秋田県立大(生物資源)	P1-277	○ 鄭 克然	新潟大 院 自然科学
P3-242	○ 田中 宏卓	琉球大学農学部	P1-296	手代木 功基	京大院・AA 研
P1-217	○ 田中 悠希	鳥取大・農	P2-058	○ 手塚 あゆみ	東北大・院・生命科学
D1-04	田中 嘉成	国立環境研究所	P3-264	○ 鉄谷 龍之	東農大
P3-332	田中 真哉	森林総合研究所	P1-196	寺井 学	大林組技術研究所
S18-8	田中 洋	京都大・院・人環	P2-315	○ 寺川 眞理	京大・理
P3-177	田中 浩	(独)森林総合研究所		寺島 宏貴	東京大学大学院
P2-292	○ 田中 陽介	九大・システム生命	P1-253	○ 寺田 篤人	東大院・新領域
P3-019	棚橋 薫彦	東大院農・森林科学	P3-224	寺田 考紀	沖縄県衛生環境研究所
P2-046	○ 田辺 晶史	筑波大・院・生命環境	P2-242	○ 寺村 皓平	岡山大学 進化生態学
P2-045	田辺 力	熊本大学教育学部	P2-230	○ 寺本 悠子	筑波大・院・生命環境
P1-185	谷 友和	上越教育大	P3-115	○ 照井 慧	東大農学生命科学研究科
T01-3	谷尾 陽一	京大農		土井 和彦	岐阜県立岐山高校
P1-307	谷口 真吾	琉球大学農学部		土居 恭子	兵庫県立有馬高校
P1-255	谷口 武士	鳥大・乾燥地研	T16-3	○ 土居 秀幸	University Oldenburg
T02-6	谷崎 ゆふ	福岡県森技センター	K1-10	東郷 真波	京大院 農学研究科
K1-11	○ 田嶋 あずさ	北大・低温研	T14-1		
P2-092	○ 田畑 諒一	京都大学理学部	T14-2	○ 東樹 宏和	産総研
P3-315	田部井 望	早稲田大・教育	T23-2		
P2-036	玉井 玲子	琉球大・院・理工	P2-011	堂園 いくみ	神戸大・人間発達環境
P3-251	玉垣 政博	信州大学農学部森林科学科		東馬 加奈	私立武蔵高校
E1-10	玉置 昭夫	長崎大学水産学部	P2-148	唐真 盛人	東海大学院人間環境学
P3-024	玉木 恵理香	筑波大学生物資源学類	P2-100	當山 暢平	広島大・院・教育
P2-138	○ 玉田 克巳	道環境研	P1-098	○ 遠山 千景	名大・農
P2-HS01	田港 貴之	沖縄県立那覇高校	P2-059	遠山 弘法	九大・理・生物
	田村 淳	神奈川県自然環境保全 C	P2-158	富樫 博幸	東北大・院・生命科学
S04-6	○ 陀安 一郎	京大・生態研センター	P3-015	戸金 大	明治大・院・農学
C1-04	○ 唐 艶鴻	国立環境研究所	P2-024	土岐 理佳	岩手大院・農・共生環境
P3-219	千谷 久子	東大院新領域自然環境学	P1-333	徳岡 良則	農業環境技術研究所
T14-5	○ 千葉 聡	東北大学生命科学	P1-222	○ 徳田 奈菜子	信州大学・理・生物
C2-08	千葉 幸弘	森林総研	P1-203	○ 徳本 雄史	名大・生命農
P3-262	○ 中馬 美咲	東京大学大学院・農	T18-1	所 諭史	茨城大学・院・教育
P1-266	張 可	横浜国立大学大学院	P3-249		
	智和 正明	九州大学大学院農学研究科	P3-214	○ 戸田 春那	東京農工大学大学院
P3-197	津久浦 朱美	酪農学園大・環境	H2-12	○ 戸田 光彦	自然環境研究センター
S05-3	柘植 隆宏	甲南大学経済学部	S01-3	○ 土畑 重人	東京大学・院総合文化
S01-5	○ 辻 和希	琉球大学農学部	P1-126	飛田 博順	森林総研・北海道
			P2-HS11	富沢 香菜	群馬県立尾瀬高校

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P3-040	○ 富田 啓介	名古屋大・GCOE	P2-161	○ 中西 康介	滋賀県大・環境科学
C2-09	富田 美紀	静岡大学・理・院	P3-194	○ 中根 周歩	広島大院生物圏科学
P1-273	富田 瑞樹	東京情報大	P1-245	○ 中野 伸一	京大生態研
T13-6	○ 富田 涼都	東京大学	P1-060	○ 永野 聡一郎	東北大・院・生命科学
T18-3	富永 篤	国立環境研	H2-02	中野 大助	電力中央研究所
P3-239				中野 隆志	山梨県環境科学研究所
T28-1	○ 富永 浩史	京大院・理	P2-202	○ 中野 裕子	岡山大学院 昆虫生態
P2-108			P3-154	永野 昌博	十日町里山科学館キョロコ
T21-3	○ 富松 裕	東北大学・生命科学	P2-074	○ 永野 真理子	東京大学総合文化研究科
D2-07			P2-076	○ 長野 祐介	信大・理・生物
P3-001	富山 清升	鹿児島大学・理・地球環境	P1-341	○ 中野 陽介	新潟大・農
P3-317	○ 友常 満利	早稲田大・院・先進理工	S07-3	永淵 修	滋賀県立大学
	鳥居 厚志	森林総研	P1-072	○ 永松 大	鳥取大・地域・地域環境
S02-2	鳥居 敏男	環境省自然環境計画課	F1-09	中丸 麻由子	東工大・院・社会理工
P1-314	○ 鳥丸 猛	弘前大学農学生命科学部	P2-123	○ 中道 康文	九州大学理学研究院
P2-225	内藤 梨沙	京大地球環境学	P2-212	○ 永光 輝義	森林総研
P2-206	○ 内藤 龍太	岡大院・環境・昆虫生態		中村 鋼太	私立武蔵高校
P3-062	内藤 和明	兵庫県立大・自然研	S09-2	○ 中村 崇	九州大学天草臨海実験所
G1-10	直江 将司	京大・生態研	P1-128	中村 隆俊	東京農大 生物産業
P1-164	中井 亜理沙	三重大院生資	P1-292	○ 中村 秀次	日本大学 大学院
S11-5	○ 中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館	P3-196	中村 雅子	鳥取大院・連合農
S06-2	永井 孝志	農業環境技術研究所	P1-237	○ 中村 麻美	鹿児島大学大学院
P2-050	永井 正生	北大・院・農	P2-094	中村 未来	明治大学大学院農学研究科
P2-HS08	長井 祐太	岐阜県立岐山高校	P1-160	中村 元香	千葉大・院・理
P3-176	長池 卓男	山梨県森林研		中村 幸人	東京農業大学地域環境科学
P1-042	長尾 圭祐	明治大・院・農	P1-220	中本 敦	琉球大・理
P3-319	○ 中尾 拓貴	広島大生物圏	P3-311	中森 千尋	愛媛大・院・森林
	○ 仲岡 雅裕	北大フィールド科学	P1-025	中山 智絵	茨城大学大学院
P1-211	○ 長岡 光洋	京大・生態研	P2-250	中山 直紀	宇都宮大学 農学研究科
P3-109	中尾 勝洋	森林総合研究所	I1-09	中山 文仁	自然環境研究センター
P2-065	○ 中川 さやか	東大・院・総合文化・広域	P2-283	中山 慧	岡大院・環境学
P3-324	中川 奈未子	関東国際高等学校	T31-4	○ 中山 新一朗	東大 院 理
P2-162	○ 中川 光	京大院・理	P1-206	中山 晴夏	新潟大・農
S15-3	中川 博視	石川県立大学	P3-296	奈佐原 顕郎	筑波大学
S19-3	○ 中川 弥智子	名古屋大学	S12-5	○ 那須 正夫	大阪大学薬学研究科
P1-080	中河 嘉明	筑波大学大学院	T20-1	夏原 由博	京都大学
P3-106	中川 瑠美	兵庫県立淡路景観園芸学校	T20-2		
P2-222	中桐 斉之	兵庫県立大・環境人間	P3-086	○ 棗田 孝晴	千葉科学大危機管理
	○ 中越 信和	広島大・院・国際協力	P3-059	名取 俊樹	国立環境研
P3-077	長坂 晶子	北海道林試	P3-116	成田 智紀	新潟大学大学院
P1-006	永坂 正夫	金沢星稜大・人間科学	P1-254	○ 成田 真智子	弘前大学農学生命科学部
T06-5	○ 仲澤 剛史	京都大・生態研セ	P3-252	南木 大祐	琉球大学理工学研究科
J1-04			P3-208	○ 難波 海南子	北大 環境科学院
S02-1	○ 中静 透	東北大学		南部 豪	開智中学
P1-139	○ 中路 達郎	北海道大学	T12-1	新妻 靖章	名城大学農学部
P1-231	○ 中路 真嘉	首都大学東京 牧野標本館	P1-004	○ 新山 馨	森林総合研究所東北支所
P2-016	中島 亜美	東京農工大・農	P2-149	丹尾 岳斗	東海大学水産
P2-066	○ 中島 哲郎	京大生態学研究センター	T24-3	○ 西海 功	国立科学博物館・動物
P1-121	長嶋 寿江	東北大・院・生命科学	P1-073	西尾 孝佳	宇都宮大・雑草セ
S09-5	中島 祐一	琉球大・熱生研	S05-2	○ 西川 潮	新潟大・超域
P1-232	○ 中島 啓裕	京都大学理学研究科	P3-240	西川 洋子	北海道環境研
	中嶋 諒太	浦和学院高校	P3-178	西沢 徹	(独) 国立環境研究所
P2-271	○ 中田 兼介	東京経済大学	S04-2	○ 西澤 智康	茨城大・農
P1-113	中田 望	首都大学東京大学院・理工	P2-125	○ 西澤 裕文	北海道大学環境科学院
T28-4	長太 伸章	京都大・理・動物生態		西澤 洋子	法政大学女子高校
S17-5	○ 永田 尚志	新潟大・超域	P1-085	西澤 美幸	北大・院・環境科学
P3-070	中田 和義	(独) 土木研究所	T21-4	○ 西嶋 翔太	東大・農・生物多様性
P2-070	中田 翼	新潟大院・自然科学	J1-01	○ 西田 隆義	京大農昆虫生態
	永津 雅人	自然環境研究センター	P1-120	西谷 里美	日本医大 生物
	○ 中坪 孝之	広島大・院・生物圏	P3-325	仁科 一哉	横国大環境情報
P3-279	中西 麻美	京大フィールド研	P1-024	西野 翔	茨城大学 大学院
E1-09	中西 亜耶	東邦大院・理・地理生態			

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
	西平 拓実	千葉県立船橋芝山高校	P3-123	○ 花岡 創	岐阜大・応生
	西平 直美	岡山コケの会	P3-247	馬場 孝	滋賀県立大・院・環境科学
P3-069	○ 西廣 淳	東大・農学生命科学	P2-075	○ 幅 拓哉	信州大・理・生物
T04-1	西部 裕一郎	東大・海洋研	P2-098	馬場 友希	農環研
P1-174	○ 西牟田 和沙	鳥取大・農	P2-HS24	眞 貴子	岡山県立岡山一宮高校
S14-5	○ 西村 欣也	北海道大学	P2-131	浜崎 健児	農業環境技術研究所
P3-269	○ 西村 晃治	東大院・総合文化	T08-3	浜崎 恒二	東京大学海洋研究所
	○ 西村 智紀	静岡大学理学部生物科学科	P3-171	濱田 肇次	鹿児島大学農学研究科
	西村 尚之	名古屋産業大		早崎 博之	都立江北高校
G2-11	○ 西本 孝	岡山県自然保護センター	S06-1	○ 林 岳彦	国立環境研究所
	○ 西脇 亜也	宮崎大学農学部	P3-220	林 雄太	東京農工大院・農
P1-226	○ 日下石 碧	秋田県立大・生物資源	P2-207	林 良信	北大・環境
P2-071	○ 新田 梢	九大・院理・生物	P2-310	○ 林 亮太	千葉大・自然科学
S05-4	○ 二宮 咲子	東京大学大学院博士課程	P1-086	早船 琢磨	北大・院・環境科学
P1-041	二本松 裕太	東北大・院・生命		原 明友香	岡山県立岡山一宮高校
I2-02	入村 信博	千葉県立磯辺高校	P1-173	○ 原 菜那	三重大学生物資源学部
P3-098	布目 祐二	名大院生命農	P1-312	原 正利	千葉県立中央博物館
P1-283	○ 沼田 真也	首都大学東京 都市環境	P2-150	○ 原口 岳	京大生態研センター
E2-07	根岸 淳二郎	北大 院 地球環境		原口 真	インターリスク総研環境部
P1-259	根本 富美子	北海道大学・低温研		○ 原田 敦子	横浜国立大学
	野内 仁輝	岡山県立岡山一宮高校	P2-275	原田 彩知子	北海道大学水産科学院
P1-071	野上 達也	白山自然保護センター	P1-090	○ 原田 剛	大阪市立大学大学院
P1-313	野口 麻穂子	森林総研・四国	T31-1		
P1-176	野口 雄二郎	東大院新領域	P2-266	○ 原野 智広	九大院・理・生態科学
P3-215	野崎 真奈	農環研	P2-299	○ 原村 隆司	京大・理・動物行動
P2-HS04	野澤 眞崇	兵庫県立有馬高校	P1-109	原山 尚徳	森林総研
P3-291	○ 野田 響	岐阜大学流域圏七	P1-040	張替 徹	新潟大学農学部4年
	信長 謙太	千葉県立船橋芝山高校	P1-083	○ 張替 鷹介	首都大・理工
P2-018	野邊 麻梨子	鹿児島大学理工学研究科	P2-008	○ 半田 千尋	京大院・人環
E1-03	○ 野間 直彦	滋賀県立大・環境	P1-131	○ 半場 祐子	京大工織大
P3-035	野村 篤之	東北大・生命	S08-1	○ 半谷 吾郎	京都大学霊長類研究所
P3-134	野村 進也	愛媛大学大学院農学研究科	P3-222	○ 皮 玲	広島大学院生物圏科学
K2-02	○ 野村 尚史	科博・植物園		日浦 勉	北大苫小牧研究林
P2-251	野元 加奈	宇都宮大・院・農	P3-337	東 敬義	三重県埋蔵文化財センター
P3-007	野本 康太	伊丹市昆虫館	J2-06	○ 東浦 康友	東京薬大・生命
P3-095	野呂 恵子	明治大学農学部		東出 駿	都立江北高校
P1-326	配川 幸一	愛媛大学農学部	T05-1	樋口 広芳	東京大・農・生物多様性
S13-6	羽伊佐 幸宏	環境省自然環境局	P2-HS14	樋口 和	浦和学院高校
P1-081	萩原 陽介	首都大・院・理工	P1-119	彦坂 幸毅	東北大・院・生命科学
P1-345	○ 箱崎 真隆	東北大・院・生命科学	P1-021	彦坂 遼	信州大学 農学部
T12-5			P1-070	肥後 睦輝	岐阜大学地域科学部
J2-10	○ 箱山 洋	中央水研 / 東京海洋大	P3-286	菱 拓雄	九大演習林
T25-3	○ 羽島 知洋	海洋研究開発機構	T10-5	日高 周	京大・生態学研究センター
	橋本 徹	農林水産技術会議事務局	S16-7		
P2-238	○ 橋本 友里恵	宇都宮大院農	T20-4	○ 日鷹 一雅	愛媛大学・農・農山漁村
P3-223	○ 橋本 佳延	兵庫県立人と自然の博物館	T22-6		
	橋本 瑠美子	栃木県立小山西高等学校	P1-310	櫃間 岳	森林総研東北
P2-232	○ 長谷 和子	東大・院・総合文化	P2-013	日向 潔美	北海道大学大学院農学院
	○ 長谷川 雅美	東邦大	T12-2	日野 輝明	森林総研関西
H2-06	○ 長谷川 功	さけますセンター	P2-203	○ 日室 千尋	岡大院・環境・昆虫生態
P3-185	○ 長谷川 成明	地球研		比屋根 功将	沖縄県立那覇高校
P2-137	長谷川 尚志	京大・理	G2-04	○ 兵藤 不二夫	岡山大・RCIS
P2-274	○ 長谷川 克	筑波大・生命環境	H1-08	○ 平尾 章	信州大・山岳研
P3-044	長谷川 元洋	森林総研 木曾	P2-088	平尾 聡秀	北大・低温研
P3-225	○ 畑 憲治	首都大院・理工・生命		平田 竜一	北大院農
T26-3	畠山 武道	上智大学地球環境学研究科	P1-234	平田 令子	鹿児島大・院・農
P3-335	畑田 彩	京都外国語大学		平舘 俊太郎	農業環境技術研究所
I2-06	蜂谷 菜保子	北海道大学環境科学院		平野 恵理	岐阜県立岐山高校
P2-194	○ 服部 昭尚	滋賀大・教育・理教情報	T19-3	平野 高司	北大農
F1-02	服部 千代子	横国大院環情学府博士後期	F1-01	平吹 喜彦	東北学院大・教養
P2-226	○ 服部 充	信州大学・理・生物	P1-181	○ 平山 大輔	三重大・教育
			P2-290	○ 平山 寛之	九大・理・生態

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P3-173	○ 広木 幹也	国立環境研	P2-HS10	星野 祐太	群馬県立尾瀬高校
P1-242	○ 広瀬 大	日本大学薬学部	P2-089	○ 細 将貴	東北大・院・生命科学
K1-08	○ 廣瀬 忠樹	東京農業大学	P2-039	○ 細川 貴弘	産総研
P1-228	○ 廣田 峻	九大・システム生命	P3-164	○ 細木 大輔	(独) 農業環境技術研究所
P2-270	○ 廣田 忠雄	山形大・理・生物	S03-3	○ 細田 一史	阪大院・情報科学研究科
G2-01	○ 廣田 充	筑波大学・生命環境	P1-248	○ 程木 義邦	京大生態研セ
F1-07	○ 弘中 豊	日大院生物資源科学研究科	P3-288	○ 保原 達	酪農大
P1-001	○ 廣部 宗	岡大院・環境	P3-093	○ 保要 有里	北海道大・環境科学院
S06-4	○ 深澤 圭太	自然環境研究センター	P2-135	○ 堀 翔	筑波大・生物
P2-056	○ 深野 祐也	九大・理・生態	P1-268	○ 堀 正和	水産総合研究センター
P1-028	○ 深町 篤子	東京農工大学 農学府	堀 良通	茨城大学理学部生態研	
S09-7	○ 深見 裕伸	京都大・フィールド研	P2-HS15	堀内 勇寿	栃木県立小山西高校
J2-05	○ 深谷 肇一	北海道大学環境科学院	堀越 和夫	小笠原自然文化研究所	
P2-121	○ 福井 眞	京大生態研センター	P2-285	堀部 直人	東大・総合文化
P3-023	○ 福井 堯	京大生態学研究センター	S13-3	○ 洪 善基	韓国木浦大・島嶼文化
T01-2	○ 福島 慶太郎	京大フィールド研	F2-05	○ 本庄 三恵	総合地球環境学研究所
P3-273	○ 福島 路生	国立環境研	P2-277	○ 本間 淳	京大・理・動物行動
F1-05	○ 福田 栄二	広島大・総合科学	P1-100	○ 馬 雁飛	横国大院環境学府博士前期
P3-120	○ 福田 拓也	鹿児島大理工学研究科	前川 清人	富山大院・理工	
P3-237	○ 福田 悠一	京都大学舞鶴水産実験所	P1-201	○ 前川 諒	北大・院・環境科学
P3-036	○ 福西 悠一	京大生態研センター	G1-08	○ 前迫 ゆり	大阪産大・院・人間環境
T04-2	○ 福森 香代子	埼玉大学理工学研究科	P3-121	○ 前角 達彦	東大・農
P1-075	○ 福山 朝子	京大院地球環境	P3-119	○ 前田 浩志	近畿大・農・院
P3-308	○ 藤井 一至	京都大学大学院農学研究科	P3-051	○ 前田 琢	岩手県環保研センター
P2-027	○ 藤井 佐織	九州大学大学院・生物資源	P2-HS18	○ 前田 夏希	都立国分寺高校
P1-317	○ 藤井 新次郎	北海道大学低温科学研究所	P3-320	○ 前田 由香	九大院生物資源環境科学府
P1-260	○ 藤井 正典	農環研	T20-3	○ 前畑 政善	琵琶湖博物館
P3-216	○ 藤井 芳一	筑波大学生命環境・農技セ	P2-067	○ 牧田 拓	新潟大学理学部
T12-4	○ 藤岡 正博	兵庫県大・自然研	P3-299	○ 牧田 直樹	神戸大学農学研究科
P1-192	○ 藤田 愛	(独) 農業生物資源研究所	G1-03	○ 牧野 能士	東北大学
J2-08	○ 藤田 薫	東邦大・地理生態	P2-214	○ 牧野 渡	東北大 生命科学
C2-01	○ 富士田 裕子	北大・FSC・植物園	T05-5	○ 禎原 寛	森林総合研究所
P2-029	○ 藤田 真梨子	神戸大・農・昆虫	P1-309	○ 真坂 一彦	北海道林試
P3-331	○ 藤田 素子	京大・東南アジア研	S19-1	○ 正木 隆	森林総合研究所
P1-239	○ 藤津 亜季子	東京農工大・農学部	S12-4	○ 真砂 佳史	東北大学大学院工学研究科
P1-168	○ 藤沼 潤一	北大・環境科学院	P2-177	○ 正富 欣之	北大院・農
P1-276	○ 藤原 道郎	京都工繊大院・生物資源フ	P1-175	○ 政二 大志	三重大学生物資源学部
S04-7	○ 藤巻 玲路	兵庫県大緑環境/淡路景観	P2-320	○ 益子 美由希	筑波大・生命共存
P1-014	○ 藤村 善安	横浜国大	P3-144	○ 増井 太樹	鳥取大・院・農
P3-248	○ 藤本 理子	北大 FSC 植物園	S13-2	○ 増沢 武弘	静岡大・理
H2-08	○ 藤本 泰文	横浜国立大学植生学研究室	P1-062	○ 増田 真佑	筑波大・生命環境
P2-246	○ 藤本 竜輔	伊豆沼財団	P3-048	○ 増田 理子	名古屋工業大学・しくみ
P1-243	○ 藤吉 正明	東農大	P3-278	○ 増永 二之	島大 生物資源
P2-200	○ 湊側 太郎	東海大学教養学部	P3-085	○ 増野 高司	国立民族学博物館
P2-022	○ 船田 菜緒	岡山大院・環・進化生態	P1-251	○ 増本 翔太	総研大 極域科学専攻
P3-258	○ 降幡 和弘	都立墨田川高等学校	P2-188	○ 松井 亜希子	宇都宮大学院教育学研究科
P2-308	○ 古市 生	名大・生命農	○ 松井 一彰	近畿大・理工	
P3-129	○ 古川 拓哉	横国大・院・環境情報	P1-262	○ 松井 崇人	北海道大学低温科学研究所
P2-026	○ 古川 文美子	九州大学理学部	P1-088	○ 松井 萌恵	首都大・理工
T03-1	○ 別所 和博	横国大・院・環情	P1-249	○ 松浦 克美	首都大・生命
P1-050	○ 鮑 娜仁高娃	京大 ASAFAS	S01-2	○ 松浦 健二	岡山大学・院・環境
S08-4	○ 保坂 哲朗	九州大学システム生命	松浦 俊也	森林総合研究所	
I2-10	○ 星 真大	横浜国大・院・環境情報	P3-132	○ 松浦 宜弘	京都大学大学院農学研究科
G2-10	○ 星野 亜季	兵庫県立有馬高校	松尾 奈緒子	三重大生物資源	
P2-213	○ 星野 滋	京大院 農学	P1-227	○ 松木 悠	京大・農
P3-157	○ 星野 仏方	茨城大・理工・生物	P2-210	○ 松木 吏弓	電力中央研究所 生物
	○ 星野 萌絵	東大・院・農	P1-252	○ 松倉 君予	東邦大・理
		広島総研農技セ	E2-09	○ 松崎 慎一郎	東京大学 データ統融合
		酪農学園大学・環境	松澤 清乃	浦和学院高校	
		早稲田実業高等部	P1-190	○ 松下 通也	名大院・生命農
			P1-084	○ 松嶋 麻由子	首都大・院・理工

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P2-303	○ 松田 亜希子	東大・農・生物多様性科学	T22-2	宮浦 理恵	東京農業大学
P2-318	松田 一希	京都大学霊長類研究所	P3-016	○ 三宅 崇	新潟大・院自然科学
	松井 孝夫	群馬県立尾瀬高校	P3-254	三宅 もえ	東大院・農・多様性
S13-1	○ 松田 裕之	横浜国大環境情報	P1-191	三宅 (村山) 恵子	新潟大学女性研究者支援室
P2-115	○ 松月 哲哉	信州大学理学部生物科学科		○ 宮崎 正浩	跡見学園女子大学
T11-1	Matthew C. Brandley	イエール大学	T02-3		
P1-208	松橋 彩衣子	東北大・院・生命科学	P1-183	○ 宮崎 祐子	北大・創成
P3-207	松林 順	北大農学部	P2-223	宮崎 佑介	東大院・農・保全生態
C1-11	松原 豊	信州大理学部物質循環学科	P1-230	○ 宮崎 寧子	筑波大・生命共存
P3-009	松村 和音	東海大学大学院	P1-112	宮沢 良行	九大演習林
T16-4	松本 一穂	九州大学	S17-2	○ 宮下 直	東大・農
P3-312	松元 一将	愛媛大・沿岸研セ	P1-142	○ 宮下 彩奈	東大・院・理
P2-234	○ 松本 幸二	新潟大学 自然科学研究科	P2-172	○ 宮代 尚法	金沢大・自然科学
P2-061	松本 佑介	大阪大学情報科学研究科	P2-267	○ 宮竹 貴久	岡山大院環境
	松本 浩司	愛媛大附属高校	P1-136	宮田 理恵	北大・環境科学院
P1-184	松山 周平	大阪市大・理	P3-212	○ 宮野 晃寿	筑波大学生物資源学類
P3-052	松山 奈央	東京農工大・院・農	P3-114	宮原 有加	信州大学農学部森林科学科
P3-056	○ 真鍋 徹	北九州自・歴博	T10-6		
P2-127	○ 真野 浩行	環境研・環境リスク	P1-194	宮本 和樹	森林総研四国
	丸山裕輝	千葉県立船橋芝山高校	P1-300	○ 宮本 駿	徳島大・院・建設
I1-05	三浦 彩	宮城教育大学大学院	P1-318	宮本 雅人	筑波大・生命環境
T24-2	三浦 一芸	近中四農研	F2-06	宮本 康	鳥取衛環研
P2-010	三浦 和美	京大生態研		宮本 麻子	(独) 森林総研
P1-286	三浦 佳林	横浜国大・院環境情報学府	P1-027	宮森 映理子	東京大学・院・農
S03-4	三浦 徹	北大・地球環境		三輪 隆	竹中工務店技術研究所
P3-322	三浦 季子	横浜国大院 環境情報学府		向井 宏	京都大学フィールド研
P3-155	三上 光一	長野大学	P2-142	○ 向井 康夫	京都大学 地球環境学堂
	三木 直子	岡大院環境	P3-092	向 草世香	JST さきがけ
C1-09	右田 千春	森林総研		○ 村岡 裕由	岐阜大・流域圏セ
T22-3				○ 村上 興正	京都精華大学
P3-271	○ 三島 慎一郎	(独) 農業環境技術研究所	P1-339	村上 順一	岡山大院・環境
P1-151	○ 水崎 大二郎	千葉大学園芸学研究所		村上 比奈子	新潟大学院
P1-200	水澤 玲子	京大・農・森林生物	P3-068	村上 裕	愛媛中局産振課
P3-230	水嶋 太郎	北海道教育大学・釧路	S04-4	村上 正志	千葉大学理学研究科
	水島 夕貴	浦和学院高校	P1-008	村上 雄秀	国際生態学センター
P1-092	○ 水谷 紘菜	首都大・院・理工	P3-243	村上 健太郎	きしわだ自然資料館
P3-131	○ 水谷 未耶	京大農	P2-159	村瀬 敦宣	海洋大・館山ス
H1-02	○ 水野 晃子	総研大・葉山	T30-3	○ 村瀬 潤	名古屋大 院生命農学
I1-10	○ 水野 聖子	岡大・MP	P3-045	村田 浩平	東海大・農
P3-204	水野 雄介	名古屋工業大学	P1-141	村田 直樹	鳥取大学大学院
P3-025	○ 水野 雄介	名城大・農		室崎 隆春	兵庫県立有馬高校
I1-04	○ 三田 岳	日本大学	P1-011	目黒 伸一	国際生態学センター
S17-1	三谷 泰浩	九州大学大学院工学研究院	P2-069	目黒 紘子	日本大学大学院・生物
	道内 真輝	愛媛大附属高校	H1-04	○ 舞木 昭彦	九大理
P3-003	○ 道前 洋史	北里大学薬学部	P2-276	○ 門司 麻衣子	京大 理 動物行動
P1-157	道又 静香	鳥取大院・農	P2-269	○ 持田 浩治	京大・理・動物
P3-122	道本 久美子	神戸大学発達科学部	F2-10	持田 誠	北海道大学総合博物館
P2-170	満尾 世志人	農工大・農	P1-323	持田 幸良	横浜国大教育人間科学部
E1-05	三橋 弘宗	兵庫県立大学・自然研	E1-07	望月 成	東海大・院・理工
P2-294	○ 三巻 和晃	山口大学 農学研究科	P1-299	○ 望月 翔太	新潟大学・院・自然科学
P1-209	○ 満行 知花	九州大学・理・生物	T16-2	本岡 毅	筑波大・生命環境
P3-180	皆川 朋子	(独) 土木研究所 共生セ	P1-020	○ 百原 新	千葉大院・園芸学研究所
P1-056	皆川 礼子	東京農業大学	P2-241	森 さやか	東京大学・農・生物多様性
E1-04	○ 湊 秋作	やまねミュージアム	T01-5		
P2-002	南 基泰	中部大学応用生物学部	P2-105	○ 森 照貴	北大・環境科学
P1-158	○ 南野 亮子	東大・院・理・日光植物園	P3-011	森 英章	自然環境研究センター
S12-6	○ 源 利文	地球研		森 貴久	帝京科学大学
S16-6				森 章	横浜国大・環境情報
T22-1	○ 嶺田 拓也	農研機構・農工研	P3-156	森井 悠太	東北大学大学院
P3-227	三村 真紀子	九大・理・生物	H2-11	○ 森 生枝	岡山県自然保護センター
P1-332	○ 宮内 大策	横国大・院・環境情報		盛口 満	沖縄大学人文学部

発表	懇	名	前	所 属	発表	懇	名	前	所 属
I1-12		森	匡通	京大・野生動物研究セ	P2-304	○	山	大輔	九州大学理学
P1-108		森	茂太	森林総合研究所	P3-184		山	英恵	東大院・農学生命
P2-HS02		森	綾子	兵庫県立御影高校	P3-060		山	明日香	徳島大学先端技術教育部
P2-209		森	健太郎	北海道区水産研究所	P1-322		山	敬太郎	兵庫農技総セ
P1-137		森	沙綾香	農環研	K1-02	○	山	俊弘	広島大総科
P1-210	○	森	寛	岐阜大院・応用生物	P2-112	○	山	勝雅	水産総合研究センター
S14-2	○	森	真一	東大・総合文化	S18-5		山	明德	京都大学農学研究科
		森	真理	九州保健福祉大学	P3-232		山	健四	北海道林試
P1-182		森	広信子	無	P3-073		山	晋	東京大学・農
P3-033	○	森	元	立教大学・理学部	S11-3	○	山	文雄	森林総合研究所関西支所
E1-02	○	森	淳子	北大院農	P2-HS13		山	萌	都立武蔵高校
P2-145	○	森	信生	農研機構・中央農研	P1-093	○	山	裕子	広島大学大学院
P2-254	○	守	伸生	京大院・農・昆虫生態	P1-012	○	山	義裕	岡山大学環境学研究科
T13-4		守	拓弥	農村環境整備センター	P2-HS26		山	裕貴	愛媛大附属高校
P3-259		諸	岡史哉	茨城大学教育学部	P2-164	○	山	信彦	東大院・農学生命科学
P2-154	○	諸	崇裕	筑波大・院・生命環境	E2-10	○	山	裕樹	龍谷大学理工学部
P1-294	○	門	有佳子	岡大院・環境	S18-7		山	根正気	鹿児島大学理学部
H1-07		八	尾泉	北大・農	P2-291	○	山	根隆史	中央農研北陸研究センター
P3-272		谷	貝勇樹	名大院生命農	S09-3		山	野博哉	環境研・地球環境センター
P1-325		八	木橋勉	森林総研東北	T03-2	○	山	平寿智	新潟大学理学部
P3-076		八	坂通泰	道立林試	P2-219	○	山	道真人	総研大・生命共生体進化学
P1-123		矢	崎健一	森林総研	S06-3		山	村光司	農環研
P2-120	○	八	島健太	総研大 葉山	J2-03	○	山	村則男	総合地球環境学研究所
P2-HS09		谷	島由季乃	群馬県立尾瀬高校			山	本佳代子	東農大・野生動物
P2-143		矢	島良紀	土木研究所	P1-030		山	本啓介	千葉大、園芸
P2-031	○	矢	代敏久	岡大院・環境・昆虫生態	P2-057	○	山	本哲史	京大・理・院
P3-327		八	代裕一郎	岐阜大・流域圏	P1-302	○	山	本沙代子	東北大・院・生命科学
		安	井さち子	つくば市並木	S16-2	○	山	本勝利	農業環境技術研究所
P1-336	○	安	木奈津美	早稲田大・教育	P3-064	○	山	本智子	鹿児島大・水産
P2-168	○	八	杉公基	京都大学大学院理学研究科	T08-2	○	山	本啓之	海洋研究開発機構
P3-210		安	田哲	北大環境科学院	P3-234	○	山	本福寿	鳥取大学農学部
P1-019		安	田泰輔	山梨県環境科学研究所			山	本麻希	長岡技術科学大学生物系
P2-262		安	田千晶	北海道大学水産学部	P2-205	○	山	本結花	岡大院・環境・昆虫生態
P3-054	○	安	田雅俊	森林総研九州支所	P1-154		楊	霊麗	岡大院環境
	○	安	元暁子	京大・生態研センター	P2-187		油	田照秋	北海道大学環境科学院
D1-08	○	谷	内茂雄	京大生態研	P3-228	○	湯	谷賢太郎	木更津高専・環境都市
F2-04		谷	地俊二	横浜国大・院・環境情報	P3-130		袖	原剛	東邦大学大学院理学研究科
S02-4	○	矢	原徹一	九大理生物	K1-09		弓	山大輔	京都大学農学部
		矢	部慎也	都立江北高校		○	湯	本貴和	総合地球環境学研究所
P3-195		矢	部徹	(独) 国立環境研究所	P2-196	○	横	井智之	岡大院・環境・昆虫生態
P3-088		矢	部和夫	札幌市立大学デザイン学部	P3-113	○	横	井昌史	京都大院・農
J1-10	○	山	浦悠一	森林総研・昆虫	P1-225	○	横	田静香	九大・理・生物
P2-017	○	山	尾僚	鹿児島大学連合大学院			横	地真紀	栃木県立小山西高等学校
T15-1		山	形与志樹	国立環境研究所	P3-014	○	横	畑泰志	富山大院・理工
		山	川大輝	都立江北高校	S06-5		横	溝裕行	国立環境研究所
F2-11	○	山	岸洋貴	十日町里山科学館キョロロ	P3-089		横	山真弓	兵庫県立大学
T29-1	○	山	北剛久	千葉大・理	P1-034		横	山悠人	明治大学農学部
P3-029	○	山	口幸	海洋研究開発機構	P1-257		吉	井健太	北大 低温科学研究所
		山	口晴代	筑波大院・生命環境	H2-09		吉	岡明良	東大・農学生命
S07-5		山	口真弘	東京農工大学	P1-261		吉	川優紀	北海道大学 低温研
P2-316		山	口まどか	名大院・環境			吉	崎えり奈	東大院・農
T14-4	○	山	口和香子	東北大学生命科学研究科	P2-099		吉	田葵	横国大 教育人間科学部
P2-096		山	崎絵理	京大生態研	P2-118		吉	田勝彦	国立環境研・生物
P1-229		山	崎仁也	沖縄県立那覇高校	P2-256		由	田太一	兵庫県立大学
	○	山	崎千登勢	北大・環境科学院		○	吉	田智弘	東京農工大・農
P2-180	○	山	崎理正	京大院・農	P1-247	○	吉	竹晋平	早稲田大・院・先進理工
P3-002	○	山	崎裕治	富山大学			吉	田洋	山梨県環境科学研究所
P1-233	○	山	崎良啓	京大院・農	T09-2		吉	富友恭	東京学芸大学
P3-181	○	山	崎互	広島大・院・国際協力	P2-001		吉	原佑	東北大学農学研究科
P3-043	○	山	下聡	京都大学地球環境学	T24-4	○	吉	丸博志	森林総合研究所
					P2-012	○	吉	見仁志	筑波大・下田臨海

発表	懇 名 前	所 属	発表	懇 名 前	所 属
H1-05	○ 吉村 仁	静岡大学創造院	E2-06	HYUN-AH CHOI	KOREA UNIVERSITY
P2-286	○ 吉村 友里	九大 理 生 態 研	P3-179	JIAO Yuanmei	The University of Tokyo
P1-130	吉村 謙一	神戸大自然科学	T19-2	Joon Kim	Yonsei University
T17-3	吉村 千洋	東京工業大学	S18-2	Jouni Kilpelainen	METLA
G1-01	吉村 真由美	森林総合研究所 関西支所	F1-10	Karuniawan Puji Wicaksono	hiroshima university
P3-302	○ 米川 修平	金沢大大学院自然科学	P1-293	Kaswanto	Hiroshima University
S05-1	米倉 竜次	森林生態系管理学研究室	D2-09	○ KATSURA Hidemitsu	東京農工大学
J1-07	米崎 史郎	岐阜県河川環境研究所	P3-205	Koong Yi	Korea University
P3-275	米田 健	水研七遠洋水研	P1-018	Kunzang Choden	University of Tokyo
P3-307	米田 聡美	鹿児島大学	P1-138	Kwon, Tae-Hyub	Korea University
P2-HS17	米持 萌	京大院・農	D2-08	○ Lee, C. S.	SWU.
P2-020	○ 米谷 衣代	都立翔陽高校	S18-9	Martin Schuetz	WSL
P1-044	李 晟齊	Free University Berlin	K1-07	Md. Harun Or Rashid	Saitama University
P1-036	李 強	横国大大学院環境情報学府	P2-190	○ Myint Omar	大阪市立大学理学研究科
T19-1	梁 乃申	横浜国立大学環境情報学府	P3-305	NamJin Noh	Korea University
P1-074	劉 顕傑	国立環境研究所	P1-267	Nguyen Vu Giang	Hiroshima University
T10-2	和穎 朗太	国立環境研究所	P3-281	Nobuhito Ohte	Univ. Tokyo
P1-022	若松 伸彦	埼玉大学理工学研究科	K1-05	Onno Muller	Hokkaido University
	○ 鷺谷 いづみ	農業環境技術研究所	F2-12	○ Paul Ofei-Manu	Independent Researcher
	和田 彬宏	東京農大・地域環境	S18-6	Pekka Niemela	University of Turku
P2-259	和田 哲	兵庫県立有馬高校	S13-4	Qunli HAN	UNESCO Tehran
P2-171	○ 和田 慎一郎	北大院・水産	P1-170	Rashila Deshar	University of the Ryukyus
P3-321	和田 徳之	東北大生命科学研究科	S08-5	○ Rhett D Harrison	Chinese Academy Science
P2-191	○ 渡井 幹雄	横浜国立大学大学院	P2-193	rizki amelgia	Hiroshima University
I1-03	和田 恵次	海洋大・館山ス	K1-03	○ Ruliyana Susanti	Fac. Sci. Kagoshima Univ.
	○ 渡邊 絵里子	奈良女子大学	P1-152	Sahadev Sharma	University of the Ryukyus
P2-025	○ 渡邊 謙二	宇都宮大・農	P1-039	Sergelenkhuu Jambal	Okayama University
P2-201	○ 渡辺 賢太	横浜国大・院・環境情報	P3-209	○ SueKyoung Lee	Korea Univ.
P1-097	○ 渡辺 健太郎	東京農工大・農	P3-221	Sungho Choi	Korea Univ.
S07-4	渡辺 幸一	千葉大・院・自然科学	P3-190	Sunmin Park	Korea Univ.
P2-103	渡部 晃平	富山県立大学工学部	S04-1	○ Susilo FX	University of Lampung
P1-204	渡部 俊太郎	愛媛大学農学部農学研究科	P1-256	Tae Kyung Yoon	Korea Univ.
P1-124	○ 渡辺 信	滋賀県立大院・環境科学	P1-241	○ Takeshi MIKI	National Taiwan Univ.
I1-02	○ 渡辺 伸一	琉大熱生研西表	S18-3	Timo Domisch	METLA
	○ 渡辺 園子	福山大学生命工学部	P1-033	Toe Toe Aung	Yokohama Nat. University
P2-204	○ 渡邊 大	広島大・院・国際協力	P1-298	Wang Rong Hua	IDEC Hiroshima University
P1-287	渡辺 太一	富山大院・理工	P1-281	○ WANG Rong-Hua	Hiroshima University
P3-202	○ 渡辺 麻気	信州大学農学部森林科学科	P3-117	WANG Zhe	東大・院・農・保全生態
S07-6	渡辺 誠	広島大・総科	S04-5	○ Wardle David	Swedish Univ. Agr. Sci.
	○ 渡辺 守	北大院農	○ Wong Siew Te	○ Wong Siew Te	Bornean SunBear Cons Cen
P1-132	渡部 裕介	筑波大学生物科学系	P3-167	Wooyong Jo	Korea university
P3-140	渡辺 洋一	埼玉大学理工学研究科	P1-148	WU, MIN	University of the Ryukyus
T16-1	渡辺 隆一	名大院生命農	S16-1	Ybele Hoogeveen	European Env. Agency
P2-240	渡邊 眞澄	信州大学教育学部	P3-191	YOO SEONGJIN	Korea Univ.
J1-08	○ 綿貫 豊	東京農工大学・農	P3-168	Young Jun Park	Korea University
S05-5	○ 亘 悠哉	北大水産			(2009年12月16日登録分まで)
P1-149	渡利 亮司	学振特別研究員 森林総研			
P1-163	AILIJIANG MAIMAITI	東京農大院			
D2-06	Andreas Langner	鳥取大学大学院			
P3-206	A-Ram Yang	Kyoto University			
K1-06	Chompika Ellawala Kankanange	Korea University			
P3-284	Choonsig Kim	Saitama University			
C1-02	Christopher Yanto Barsulo	Jinju Nat. Univ.			
P3-192	GUI GUI SHAN	Kanazawa University			
T21-5	○ Doug Armstrong	KOREA UNIV.			
P1-165	○ Edgard A. Bortempo e Silva	Massey University			
S01-1	○ Edward L. Vargo	Hokkaido University			
T19-4	Guirui Yu	NC State Univ.			
P3-105	Hanbin Kwak	IGSNRR, CAS			
P1-153	Hoque A. T. M. Rafiqul	Korea University			
		Univ. of the Ryukyus			

本大会は、下記の企業・団体の皆様から、協賛・広告・展示の御協力をいただきました。ここにお名前を掲載し、御礼を申し上げます（敬称略、五十音順）。

協 賛

積水ハウス株式会社

日本コカ・コーラ株式会社

広 告

株式会社 東京化学同人

株式会社 文一総合出版

株式会社 みすず書房

株式会社 昭和堂

株式会社 地人書館

共立出版株式会社

久保川イーハトーブ自然再生研究所

積水ハウス株式会社

ナモト貿易株式会社

メイワフォーシス株式会社

有限会社 麻里府商事

Wiley-Blackwell

展 示

一般社団法人 京都大学学術出版会

株式会社 海游舎

株式会社 古今書院

株式会社 裳華房

株式会社 地人書館

株式会社 ニホンミック

株式会社 文一総合出版

株式会社 みすず書房

共立出版株式会社

サイエンス・アイ

財団法人 東京大学出版会

財団法人 放送大学教育振興会

シーシーエス株式会社

シュプリンガー・ジャパン株式会社

築地書館株式会社

東海大学出版会

ナモト貿易株式会社

BIZWORKS 株式会社

フジプランニング株式会社

メイワフォーシス株式会社

有限会社 さくま書店

有限会社 麻里府商事

Wiley-Blackwell

第 57 回日本生態学会全国大会 プログラムの変更と訂正

2010 年 1 月 9 日作成
日本生態学会大会企画委員会

本表に掲載された訂正は大会の公式記録として残ります。掲載されるのは、次の3つの場合のみです。

1. 講演タイトルの訂正(途中で切れてしまった場合など、講演内容が分からないほどの大きな誤りがあるものに限る)
2. 著者の追加や削除
3. 著者の氏名の誤りの訂正

タイトルの誤字・脱字, 字句の修正, 著者の所属の抜け・誤りなどの訂正は, 掲載いたしておりません。

シンポジウム

著者の追加・訂正

S08-2 Seasonal dynamics of terrestrial mammals in Deramakot and Tangkulap Forest Reserves, Borneo

(誤) SAMEJIMA, Hiromitsu (Kyoto Univ)

(正) *Hiromitsu SAMEJIMA, Kanehiro KITAYAMA (Kyoto Univ)

企画集会

著者の追加・訂正

T05-2 空から見た噴火影響と陸上生態系の回復

(誤) 高橋俊守(宇都宮大・里山科学センター)

(正) 高橋俊守(宇都宮大・里山科学センター), 加藤和弘(東京大・緑地植物実験所)

T20-4 滋賀県における水田水生昆虫普通種の分布状況とその成因

(誤) 日鷹一雅(愛媛大・農)・向井宏(京大)・中西康介(滋賀県立大)・本林隆(農工大)・横山(大阪府大)

(正) 日鷹一雅(愛媛大・農)・向井康夫(京大)・中西康介(滋賀県立大)・本林隆(農工大)・横山大輔(大阪府大)

T29-4 ため池の水生植物の消失と市街化・護岸率の関係: 形質に注目して

(誤) *赤坂宗光(国環研), 樋口伸介(神戸大院・理), 三橋弘宗(兵庫県博)

(正) *赤坂宗光(国環研), 樋口伸介(神戸大院・理), 三橋弘宗(兵庫県博), 角野康郎(神戸大院・理)

一般講演

著者の追加・訂正

P1-090 マレーシア熱帯雨林におけるフタバガキ科 10 種の遺伝構造

(誤) *原田剛, 名波哲, 伊東明, 山倉拓夫(大阪市大・院・理), Bibian Diway, Sylvester Tan(サラワク森林研究所)

(正) *原田剛, 名波哲, 伊東明, 山倉拓夫(大阪市大・院・理), Bibian Michael Diway, Sylvester Tan(サラワク森林研究所)

P1-107 異なる地形に生育するヒノキの光合成

(誤) *壁谷大介(1), 韓慶民(2), 千葉幸弘(2)(1: 森林総研・木曾, 2: 森林総研)

(正) *壁谷大介(1), 韓慶民(2), 千葉幸弘(2), 溝口岳男(3)(1: 森林総研・木曾, 2: 森林総研, 3: 森林総研・関西)

P1-152 Litterfall dynamics in mangrove *Kandelia obovata* stands on Okinawa Island, over four years

(誤) Sahadev Sharma*(Univ. of the Ryukyus) Rafiqul A.T.M. Hoque (Univ. of the Ryukyus) Kangkuso Analuddin (Haluoleo University), Akio Hagihara (Univ. of the Ryukyus)

(正) Sahadev Sharma*(Univ. of the Ryukyus), A.T.M. Rafiqul Hoque (Univ. of the Ryukyus), Kangkuso Analuddin (Haluoleo University), Akio Hagihara (Univ. of the Ryukyus)

P1-154 Seasonal changes in water-use properties associated with water supply from adventitious roots of *Sabina vulgaris* growing in semi-arid area

(誤) *Lingli Yang, Naoko Miki, Yasushi Seno, Muneto Hirobe, Keiji Sakamoto (Okayama Uni.), Yuling Li (Agricultural Uni. of Heibei), Guosheng Zhang, Linhe Wang (Agricultural Uni. of Inner Mongolia), Ken Yoshikawa (Okayama Uni.)

(正) *Lingli Yang, Naoko Miki, Yasushi Seno, Muneto Hirobe, Keiji Sakamoto (Okayama Uni.), Norikazu Yamanaka (Tottori Uni.), Yuling Li (Agricultural Uni. of Heibei), Guosheng Zhang, Linhe Wang (Agricultural Uni. of Inner Mongolia), Ken Yoshikawa (Okayama Uni.)

P1-207 雌雄異株低木シロモジの生理的統合性における性差: 環状剥皮処理を用いた野外実験による検証

(誤) *五十君友宏(名大・農), 中川弥智子, 松下通也, 渡辺洋一(名大院・生命農)

(正) *五十君友宏(名大・農), 松下通也, 渡辺洋一, 中川弥智子(名大院・生命農)

P1-266 瀬戸内海島嶼の景観構造に及ぼした架橋工事の影響について—瀬戸大橋と櫃石島と与島の場合

(誤) 張可(横浜国立大学大学院・環境情報学府)

(正) *張可(横浜国立大学大学院・環境情報学府), 大野啓一(横浜国立大学大学院・環境情報研究院)

P1-335 里山林を構成する樹種における萌芽特性の比較

(誤) 柴田嶺(東北大・理)

(正) *柴田嶺(東北大・理), 柴田銃江(森林総研東北), 田中浩(森林総研九州), 中静透(東北大・生命)

P2-014 ツキノワグマによるクマ棚の形成

(誤) *高橋一秋(長野大・環境ツーリズム), 高橋香織(信州大・遺伝子), 柳貴洋(長野大・環境ツーリズム)

(正) *高橋一秋(長野大・環境ツーリズム), 高橋香織(信州大・遺伝子), 柳貴洋, 美齊津裕太(長野大・環境ツーリズム)

P2-049 カタツムリ(*Euhadra peliomphala*)のヘビ擬態

(誤) *葛西直子, 長谷川雅美(東邦大・理), 黒住耐二(千葉県立中央博), 関啓一(信州大)

(正) *葛西直子(東邦大・理), 関啓一(信州大), 長谷川雅美(東邦大・理)

P2-102 生育地の改変と人の好み地域植物相へ与える影響

(誤) 帯広畜産大学・畜産生命 *汐崎 正揮

(正) (帯広畜産大学・畜産生命) *汐崎正揮, 宍戸里絵, 紺野康夫

P2-207 オオシロアリの触角におけるカースト特異的発現遺伝子

(誤) 北大・環境

(正) *林良信, 石川由希, 宮川仁, 三浦徹(北大・環境)

P2-239 mtDNA 解析を用いた北海道東部におけるヒグマの遺伝的構造

(誤) *伊藤哲治(日大・生物資源・森林動物), 中山秀次(日大・生物資源・森林動物), 小林喬子(東農工大・院・連合農), 佐藤喜和(日大・生物資源・森林動物), 間野勉(北海道環境研)

(正) *伊藤哲治(日大・生物資源・森林動物), 中村秀次(日大・生物資源・森林動物), 小林喬子(東農工大・院・連合農), 間野勉(北海道環境研), 佐藤喜和(日大・生物資源・森林動物)

P2-319 バイオロギング手法による潜水性海鳥の摂餌生態

(誤) *小暮潔央(東京大学海洋研究所), 佐藤克文(東京大学海洋研究所)

(正) *小暮潔央, 佐藤克文(東大・海洋研), Francis Daunt (Center of Ecology & Hydrology, Edinburgh), 綿貫豊(北大・水産), 坂本健太郎(北大・獣医), 山本蒼士(総研大), 高橋晃周(極地研)

P3-057 トキの餌環境としての水田の評価: 佐渡島の水田におけるカエル類の密度決定要因

(誤) *小林頼太, 吉尾政信, 加藤典之, 宮下直(東大・農・生物多様性)

(正) *小林頼太, 吉尾政信, 加藤倫之, 宮下直(東大・農・生物多様性)

P3-112 千葉県柏市こんぶくろ池周辺における希少草本類の生育環境特性と保全に関する研究

(誤) *白川一代(東大院・新領域), 福田健二(東大院・新領域)

(正) *白川一代(東大院・新領域), 小此木宏明(東大院・新領域), 福田健二(東大院・新領域)

P3-117 保全上重要性の高い湖岸湿原における Facilitator としてのカモノハシ

(誤) WANG Zhe(東大・院・農・保全生態)

(正) *WANG Zhe, 西廣淳, 鷺谷いづみ(東大・院・農・保全生態)

P3-202 里山の保全対策—大型肉食獣の匂いによる、獣害(主にニホンザルによる害)の軽減—

(誤) *渡辺麻気(広島大・総科), 山崎互(広島大・院・国際協力), 大丸英士(広島市安佐動物公園), 中越信和(広島大・院・国際協力)

(正) *渡辺麻気(広島大・総科), 山崎互(広島大・院・国際協力), 大丸秀士(広島市安佐動物公園), 中越信和(広島大・院・国際協力)

P3-253 水草タイプによるアメリカザリガニからヤゴへの捕食圧軽減効果

(誤) 佐藤允昭(東京大・農)

(正) *佐藤允昭, 宮下直(東大・農・生物多様性)

P3-256 鎌倉市の都市緑地におけるアライグマと他中型食肉目との競合

(誤) *岩下明生, 小林大輔, 安藤元一, 小川 博, 天野 卓(東農大院・農・野生動物)

(正) *岩下明生, 小林大輔, 天野 卓, 小川 博, 安藤元一(東農大)

P3-269 アルゼンチンアリの生態研究

(誤) *西村晃治, 嶋田正和(東大院・総合文化)

(正) *西村晃治(東大), 土畑重人(東大), 中丸麻由子(東工大), 嶋田正和(東大)

P3-272 樹木伐採が森林土壌の CO₂ フラックスに与える影響

(誤) *谷貝勇樹(名大院・生命農), 仁科一哉, 竹中千里(名大院・生命農)

(正) *谷貝勇樹, 竹中千里(名大院・生命農)

P3-287 都市に隣接する多摩丘陵の森林土壌における CO₂, CH₄, N₂O フラックスの空間変動 1. 異なる 2 時期の空間変動の特徴

(誤) 木村園子ドロテア(農工大・農), 岸本(莫)文紅(農環研), 関川清広(玉川大学・農), 米村正一郎(農環研), 大浦典子(農環研), 須藤重人(農環研), 早川敦(秋田県大・生資科)

(正) *木村園子ドロテア(農工大・農), 岸本(莫)文紅(農環研), 関川清広(玉川大学・農), 米村正一郎(農環研), 大浦典子(農環研), 須藤重人(農環研), 早川敦(秋田県大・生資科), 原宏(農工大・農)

P3-289 都市に隣接する多摩丘陵の森林土壌における CO₂, CH₄, N₂O フラックスの空間変動 2. 地形・樹種・土壌因子が及ぼす影響

(誤) *大浦典子(農環研), 岸本(莫)文紅(農環研), 木村園子ドロテア(農工大・農), 米村正一郎(農環研)

(正) *大浦典子(農環研), 岸本(莫)文紅(農環研), 木村園子ドロテア(農工大・農), 米村正一郎(農環研), 原宏(農工大・農)

日本生態学会 大会企画委員会 (○は部会長)

委員長 : 宮竹貴久 (岡山大)

副委員長 : 大手信人 (東大)

大会運営部会 : ○市岡孝朗 (京大)、竹中明夫 (国立環境研)、鈴木まほろ (岩手県博)、嶋田正和 (東大)、難波利幸 (大阪府大)、牧陽之助 (岩手大)、齊藤隆 (北大)、畑田彩 (京大)、長谷川成明 (地球研)

広報部会 : ○可知直毅 (首都大東京)、嶋田正和 (東大)、宮竹貴久 (岡山大)

発表編成部会 : ○鏡味麻衣子 (東邦大)、久保拓弥 (北大)、吉田丈人 (東大)、永田尚志 (新潟大)、池田浩明 (農環研)、柴田銃江 (森林総研)、松政正俊 (岩手医大)、廣部宗 (岡山大)

シンポジウム部会 : ○榎木勉 (九大)、隅田明洋 (北大)、巖佐庸 (九大)、島田卓哉 (森林総研)、田村典子 (森林総研)、大手信人 (東大)、富松裕 (東北大)、古賀庸憲 (和歌山大)、松浦健二 (岡山大)、黒田啓行 (遠洋水産研)、島野光司 (信州大)、谷内茂雄 (京大生態研セ)、吉田圭一郎 (横浜国立大)、半場祐子 (京都工繊大)、森田健太郎 (水産総合研)、保原達 (酪農学園大)

ポスター部会 : ○津田みどり (九大)、工藤岳 (北大)、清水孝昭 (愛媛県中予水試)、関川清広 (玉川大)、及川真平 (京都工繊大)、松木佐和子 (岩手大)、関剛 (森林総研)、中野大助 (電力中央研)

高校生ポスター発表部会 : ○嶋田正和 (東大)、山村靖男 (茨城大)、広瀬祐司 (茨木高校)、中井咲織 (立命館宇治)、久保田康裕 (琉球大)、浅見崇比呂 (信州大)

日本生態学会 第57回大会実行委員会

大会会長 : 鷺谷いづみ (東大院・農学生命)

大会実行委員長 : 嶋田正和 (東大院・総合文化)

大会実行委員長補佐 : 吉田丈人 (東大院・総合文化)

大会プログラム (案内・見取り図・注意事項など) : 森長真一 (東大院・総合文化)

講演会場 : 吉田丈人、森長真一

ポスター会場 : 柴尾晴信 (東大院・総合文化)

大会会計 : 宮下直 (東大院・農学生命)

公開講演会 (ポスター・講演本編集など) : 西廣淳 (東大院・農学生命)、嶋田正和、宮下直

懇親会・昼食手配 : 伊藤元己 (東大院・総合文化)

託児室 : 石濱史子 (国立環境研)

渉外 : 可知直毅 (首都大院・理工)、林文男 (首都大院・理工)

広報 : 可知直毅、宮竹貴久 (岡山大院・環境)、嶋田正和

大会業務委託 : (株)コンベンションアカデミア

表紙デザイン : (株)クバプロ

第57回日本生態学会大会プログラム

2010年1月29日発行

編集・発行 日本生態学会大会企画委員会
〒603-8148
京都市北区小山西花池町1-8 日本生態学会内
TEL&FAX: 075-384-0250
e-mail: office@mail.esj.ne.jp <http://www.esj.ne.jp/>

印刷・製本 (株)土倉事務所
〒603-8148
京都市北区小山西花池町1-8
TEL: 075-451-4844

第58回日本生態学会（2011年3月 札幌）のご案内

2011年の第58回日本生態学会大会は、札幌市の札幌コンベンションセンターを会場にして開催されることになりました。2004年8月に釧路市で開催された第51回大会以来の北海道開催となります。北海道ではしばしば夏季に大会を開催してまいりましたが、第58回大会は例年のスケジュールを重視して3月開催としました。まだ雪が残り、天候が不安定な季節ですので、旅行日程は十分余裕をもって計画くださるようお願い致します。

札幌市での開催は14年ぶりとなります。この間に日本生態学会は大きく発展し、大会の規模も2000名を超えるほどになりました。このため、今回の会場には北海道大学のキャンパスではなく、国際会議場として定評のある札幌コンベンションセンターを選びました。札幌コンベンションセンター (<http://www.sora-scc.jp>) は札幌の中心・地下鉄大通り駅から地下鉄東西線で6分ほどの東札幌駅にあり、宿舎との連絡にはとても便利です。また、4000名規模の会議にも対応できる会場を借り切するため、大会をゆったりと楽しんでいただけるものと思います。

北海道といえば「食」。皆様のご期待に応えられるよう、懇親会などでは北海道の食材（できればエゾシカも！）を提供できるよう準備を進めています。

大会実行委員会一同、大会企画委員会と力を合わせて、充実した大会になるよう準備にあたっています。

どうか皆様、ふるってご参加下さい。ご来札を心よりお待ちしております。

大会会長 原 登志彦
大会実行委員長 齊藤 隆

大会日程：2011年3月8日(火)～12日(土)

会場：札幌コンベンションセンター

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

大会ページ：<http://www.esj.ne.jp/meeting/58/>

問い合わせ：上記ページの問い合わせフォームからお願いします。

